紙のプロレス
RADICAL
No.7
マット界に激震走る!
A大塚、衝撃発表!!
読者が書き倒す『10.11』!
その後の『高田vsヒクソン戦』
鮮烈ロング・インタビュー
田村潔司
絶好調! 殺戮連載!!
前田日明のメガバトル人生相談
垣原賢人/冨宅飛駈
長州引退にいま何思う 木村健悟
独占告白! みちプロ経営危機の真実
ザ・グレート・サスケ
混迷期のいまこそ考えろ!
『女子プロレスとは何か!?』
アジャ・コング
ジャガー横田
RADICAL初登場!
冬木弘道
MEN'Sテイオー
モハメド・ヨネ
a sword of dis-obedience
反骨の剣
紙のプロレス RADICAL 1998 No.7
反骨の剣を研げ!!
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社
定価:本体648円+税

Kiyoshi Tamura

a sword of dis-obedience

「反骨の剣」――!!

前田日明が新日本プロレスのレスラーを相手にキック攻撃を繰り出す度に、当時の実況アナウンサーである古舘伊知朗はこう叫んだ。

前田の反骨心が宿った"蹴撃"は際限なく見るもののヴォルテージを上げ、一撃の度に観客の細胞に"Uの理念"を植え付けていった。

第1次UWFが解散し、前田をはじめとするU勢が古巣のリングに活路を見出そうとしていた、昭和60年頃の話である。

そういえば、田村潔司の最近のたたずまいを見ていると、この「反骨の剣」という言葉が思い起こされる。

広辞苑の『反骨』の項目には、『容易に人に従わない気骨。権力に抵抗する気骨』とある。

田村潔司が、何に対して「反骨の剣」をふるおうとしているのか――。

剣のふるいどころは、比較的無口な田村からは言語化されていないし、ファンの目の前にも立ち現れていない。

ただ、田村潔司が、ひと昔前のプロレスラーが背負ってきた「鎧」を脱ぎ捨て、研ぎ澄まされた「剣」を持った、新しい"プロ"レスラー像を構築しようとしていることだけは確かなのである!

反骨の剣

Kiyoshi Tamura

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

of dis-obedience

Kiyoshi Tamura
69年12月17日岡山県生まれ。空手、相撲経験を経て第2次UWFに入門。89年5月にデビュー。同年10月の前田日明戦では右眼窩底骨折で長期欠場に追い込まれる。第2次UWF解散後は、UWFインターナショナルに旗揚げから参戦。しかし、新日本プロレスとの対抗戦に突入したのをきっかけにして、96年にリングスに移籍。Uインター時代には「高田さん、ボクと真剣勝負してください!」、リングスに上がってからは「リングスを乗っ取る!」など、鮮烈で物騒でセンセーショナルな発言も多いが、97年にはアマチュア対象のジム「U-FILE CAMP」を開くなど総合格闘技の底辺拡大を見据えた地道な活動も忘れない。180cm／87kg

田村潔司

a sword

──田村さんは、はたして怒りっぽいのか、それとも怒りっぽくないのか、どっちなんですか。
田村　うーん……**フツー**だと思いますけどね。
──なんとなく、毎日同じトーンで生きてる人じゃないな、という気はするんですけどね。
田村　うーん……**フツー**ですね。
──自分の性格を自分で分析すると、どういうふうになるんですかね。
田村　うーん……**フツー**だと思いますけどね。
──あの、禅問答じゃないんですから（笑）。
田村　ただ、例えば高校生が夜とかに煙草吸ってるじゃないですか。携帯電話持ちながら。
──高校生!?　なんだなんだ。
田村　フツーじゃない大人は、それを見てみぬふりをするじゃないですか。でも、**大人は注意する権利があるんで**、そういうのは自分はちゃんと注意しますけどね。「なんで吸ってんの？」って。
──そこで「うるせえな！」って言われたらどうするんですか？

田村　**しめしめって思って（笑）。**
──じゃあ、結構狙ってるんですか？
田村　いやいや、狙ってないです。大人は注意する権利はありますからね。**「ま、ここじゃなんだから警察行ってもいいよ」**って言うと、シュンとなって「すいません」ってなりますから。
──あ、警察に連れていく方に持っていくんですね。
田村　そういうふうになれば。
──じゃあ、例えばその高校生が「おまえ、ふざけんなよ！」ってエリ首掴んできたら、どうなっちゃうんですかね。田村潔司という男は。
田村　いやッ、**警察行くと思いますよ。**
──ガクッ。やっぱり警察行くんですか（笑）。田村さんって、もしキレちゃた場合、何かフツーの人じゃ手が届かないキレ方しちゃいそうなイメージがあるんですよ。
田村　でも、そんなにキレるってことはないですけどね。だから、注意することはあっても、**ブチ切れる**ことはもうないですよね。
──もうないってことは、昔はけっこうあったんですか？
田村　いや、昔も……ないですないです。
──何かを隠し持ってるというか秘めてる雰囲気があるんですよ、田村潔司という男は。何がそう感じさせるのかっていうのが前からの関心事だったんですけど。
田村　**あんまりしゃべらないからじゃないですか？**
──はあ。で、今日はですね、田村潔司の「プロ観」をパッと聞いてみたいんですけど。
田村　（声を出さずに笑う）。
──いや、笑わないでくださいよ（笑）。
田村　いやッ、大丈夫ですよ、大丈夫です（といって声を出さずに笑う）。
──ダハハハ。続けますよ。で、UWF以降の選手は古典的なギミックとかハッタリとかコワモテといった、昔ながらの"プロレスラーとしての鎧"を、どんどん脱いでいって、"技術という剣"を携えるレスラーが多くなってきましたよね。
田村　ああ、そうですね。
──田村選手はその代表格だと思うんですよ。で、並のレスラーや格闘家は"技術という剣"を持つことに必死になると、それだけにとどまっちゃって、今度はプロとしての光を失っちゃうんですよね。勝負論だけに埋没しちゃって、なかなか見てる人を満足させるレベルまで行くことができない。だけど田村選手は"技術という剣"を持ってもプロとしての光を失わない。両輪を見事に転がしてるわけですよ。それがなんでなのか探ってみようというのが、今日のテーマなんです。
田村　ああ、そうですか。

僕はちょっと名前があって、ちょっと強いだけ 名前がなくても強い人はいますから

――まあ、しゃべってくれたらいいだけなんですけどね（笑）。いったい田村潔司という男が、何を考えているのかっていう尻尾をちょっとでも掴まえられればいいなぁなんて。

田村　あ、でも、それは簡単に言ったら、**それが僕の目指すスタイルですね！　だから、初めて来た人が見ても、玄人の人が見ても、「凄い！」って言われる試合ですか？**わかりやすく言えば、初めて見にきた人が、厳密な寝技の攻防なんかわかんないじゃないですか。だから、ローをいい音させて蹴るとかしたら、「凄い！」ってなりますよね、単純に。例え相手が利いてないとしても。あとは寝技だったら、**腕十字の入り方とか切り方、膝十字の入り方、**ま、いろいろですけど、そういうのを見てもらえる試合をやりたいと思うんで。

――それはもう、つねづね田村さんが言ってることですよね。

田村　そうですね、はい。

――ところで昨日の辰吉（丈一郎）の世界戦って見ました？

田村　うーん、6か7ラウンドぐらいからですね。

――じゃあ、一番いいところからですね。しかし凄い盛り上がりでしたよね。辰吉が「不利だ不利だ」と言われる中で、最終的に勝ったと。辰吉というのは、見事に辰吉流の『プロ観』を持ってる人だと思うんですよ。

田村　（うなずく）。

――見事なプロ観を持った辰吉が見事に勝つと、あれだけ冬の時代だと言われたボクシング界が、それによって一気に盛り返す気運が出てきたわけですよね。「なんでプロレス界はこうならないんだろう」と、見てて単純に思ったんですけど。

a sword of dis-obedience

田村　でも、**高田vsヒクソンの時に、高田さんが勝てばああいうふうになってましたよね。**

――そうですよね。だから、高田さんが負けたからどうこうじゃなくて、あそこで勝ってれば凄い盛り上がりの局面を迎えてたと思うんですよ。

田村　うん、そうですね。

――例えば、田村さんの中では、別に相手がヒクソンじゃなくてもいいけど、「その相手に勝って盛り上がるんなら、勝っちまおうか」みたいな思いはないんですかね。

田村　いやッ、**凄いありますよ！**めちゃめちゃ！　うーん、でもね、それが凄い難しいんですよね。そっちに行っちゃうと、そういう目で見られちゃいますから。

――ただ、ファンからしたら田村選手が"最後の砦"みたいな雰囲気もあるじゃないですか。

田村　いやッ、そんなことないんじゃないですか？

――前田さんはともかくですよ。

田村　うーん……でも、**僕はちょっと名前があって、ちょっと強いだけであって、僕より名前がなくても強い人がいっぱいいますから。**

――ゲ！　それはまた驚きの発言ですね！

田村　**名前があってちょっと強い人だったら、僕が最後の砦だとは思う**んですけど、名前がなくても強い人はいっぱいいますよね。

――はっはー。あ、そうだ。『週プロ』のインタビューで「サンボかなんかの練習に行くと、60キロぐらいの選手に極められてしまうこともある」みたいなこと言ってましたよね。これって、いままでのプロレス界、格闘技界の中では出てきずらかった発言ですよね。例えば昔の空手家にしてもプロレスラーにしても「自分たちが最強である」という打ち出し方をしてきたと。だから、田村さんのあの発言を見て「確実に新しい時代に変わってるんだなあ」っていう気がしたんですよ。

田村　あ、そうですかねえ。

――実際にサンボの練習に行って、60キロぐらいの人に極められちゃうと、単純に「あー、極められちゃった」って思うものなんですか？　それとも、「極められちゃマズイだろ、俺」みたいに感じるものなんですか。

田村　だから、**その人に対して信頼があるから**ですよね。だから、ハズそうと思えば無理にやればハズせるんですけど……。

――ああ、なるほど。

田村　別に極められたから、それですべて終わりじゃないですからね。じゃあ今日は一本取られたけど、取られたことによって、自分が**学習すること**ってあるじゃないですか。今度、取られないようにという。

――まあ、その場では練習なわけですからね。

田村　**技が入っちゃえば、僕はすぐ諦めますね。**練習の中ではですよ。そこで無理にハズしても、自分が怪我する場合があるし、逆に僕の下の選手とやって、その下の選手が自信がつくかもしれないじゃないですか。これはだから、**うまい具合にわざと**っていうか。取っても取られても、お互いにとってプラスになればいいんじゃないですかね。

――わざと取らせていい人といけない人がいるわけですね。

田村　**取られたことが、すべて僕のものになってますからね。**サンボのアキレス腱の取り方って、また独特なんですよ。だから、それを取られることによって、アキレス腱に対する防御の学習ができるわけですから。

――じゃあ、練習上ではプロもアマもない、という感じなんですかね。

田村　練習においてはプロもアマもない、とは思うんですけどね。でも、**僕もプロとしてのプライドって凄いあるから。**

――ないわけないですよね、田村さんが（笑）。

田村　だから自分が認めた人には、頭下げますよね。年下でも、体重がない人でも。

――逆に言えば、プロでも自分の認められない人には、頭を下げたくないということですね。

田村　**それはもちろん！　頭なんか下げないですよ。**

――そこら辺が、『赤いパンツの頑固者』といわれる所以なんですかね（笑）。

田村　いやッ、でも、**フツー**だと思いますけどね。

――またフツーだ（笑）。自分では頑固者だとは思ってないんですか？

田村　頑固だとは思うんですけど。掌を返すのが嫌なんですよ。調子良くできないタイプっていうんですか。

──凄く芯が太いなって感じはしますけどね。それがリング上から伝わってくるんですよ。ところで、ぶっちゃけた話をしちゃいますけど、僕、以前は田村選手を見てて「つまんないな」って思ってたことあるんですよ。

田村　いつ頃ですか?

──Uインター初期の頃から一連の桜庭（和志）戦の前くらいまでですね。それはなんでかって言うと、ズバリ言って単なる「カッコつけしぃ」だと思ったんですよ（笑）。いるじゃないですか?　ただ単にUWFのスタイルを表面的にカッコだけ真似して、理念も何も考えずにやってる人って。

田村　いやッ、いる……いますかね?

──そういう人だと誤解をしてたんです。で、桜庭戦を見て「あれ?」って思って、でもまだ単なる「カッコつけしぃ」だろうと思ってて、でも、それ以降は時々、田村選手の表情とかから、「これはとてつもないタマなんじゃないか」って思ってたんですよ。

田村　なるほど、なるほど。

──で、それが顕著になったのがリングス入りしてからなんですよ。Uインター時代には、「新時代の旗手」みたいなレッテルが貼られつつあったんだけど、僕には〝生の田村潔司〟が伝わってこなかった。マジメな青年ふうで見た目もつまんないし、スポーツ至上主義みたいな感じだったから（笑）。

田村　（宙空を見上げる）。

──その辺はどうですかね。「ふざけんな！」でもなんでもいいんで、答えてくれるとありがたいんですけど。

田村　いやッ、だから……それは、いいことだと思いますけどね、僕にとっては。昔のビデオを最近見たことがあるんですけど、そういうふうに思いますよね。

──インター後期は、不満とか鬱憤をすべてリング上にぶつけてました?　僕なんかからすると、「もっとぶつけりゃいいのに」と思いましたけど。

田村　そうですね。でも、**ぶつけたから、リングスに来たん**ですよね。

──あ、そうか。でも、なんでリングスでこんなに光っちゃったんでしょうかね。

田村　う～ん、なんでですかねー……。**タイミングが良かったん**じゃないですかね。すべてね。もう、ありがたいことで。

──ところでいま、リングスって、プロレス界に入れられることもあるし、格闘技界って括られることもありますよね。そのあたりは何か思うところはあります?

田村　う～ん……。

──単純にどっちに入れられるのが嬉しいですか。

田村　**両方ですかね。**僕も都合のいい時は格闘家だったり、都合の悪い時はプロレスラーじゃないって言ったりするんですよ（微笑）。

──実に正直ですね（笑）。

田村　逆に、**プロレスファンがいれば「僕は格闘家だ」って言いますし。プロレスファンじゃない人に「何やってんの?」って聞かれたら「プロレスやってます。プロレスラーです」って言いますね。**

──実に面白いですね！

田村　めんどくさいんですよね。いちいち説明するのが。

──あの、マスコミの中では、これからの時代は、プロレスと格闘技を融合させた『プロ格』の時代だ、とか一部で言われてますよね。このプロ格って言葉についてはどう思いますか。

田村　プロ格、プロ格……。プロ格は、いいんじゃないですかね。いいんですけど、世間に対する絶対的な知名度がないですからね。**「プロの格闘家です」って言われても、なんかわかんないですよね。**プロレス、サッカー、野球っていったら、「あっ、ああいう選手なんだ」っていうイメージがありますからね。

──でも「プロ格」っていうのは、なんか変じゃないですか?

田村　変ですか?

──何でかっていうと、UWFは「プロレスじゃない」っていう打ち出し方をしてきましたけど、いま考えると、UWFは「プロレスは格闘技である」というルネッサンス運動みたいな部分が大きかったと思うんですよ。

田村　（小刻みにうなずく）。

──で、僕は個人的に、プロレスも格闘技もまったく区別して見ないタイプで、「プロレスの根っこには当然、格闘技がある」っていう青臭い主張も持ってたりするんですよ。

田村　ああ、なるほど。うん、うん（大きくうなずく）。

──だから、プロレスと格闘技を融合させるっていうと、プロレスはもう出生からして500%ショーで、格闘技は真剣勝負でっていうふうに聞こえちゃって、その二元論は、なんか最初から勝負を投げてるようであんまり気持ちよくないんですよ（笑）。

田村　なるほどね。そうですよね。……プロレスは格闘技だから……（納得した感じで少し考えて）……**うんうん、わかります！**　そう言われたら、そうなのかなぁって思うんですけど、僕が育ってきた中、新生Uに入って育ってきた中ではプロレスじゃないですよね。格闘技ですよね。だから、入った時点で違う練習をさせられるわけじゃないですか。ロープに振ったり、飛んだり跳ねたりじゃなくて。苦しい、キツイ、痛い練習をさせられるんで、他のプロレスは認めたくないんですよ。**だからプロレスはプロレス、僕がやってるのは格闘技、**というふうに育ってきたんで。

──そういうふうな育てられ方をしてきましたよね。

田村　プロレスがどっからどうなったか僕もわからないですけど、プロレスっていったら、**椅子で叩いたり血が出る**っていうイメージが付いちゃいましたからね。

──でも、この間、何かの本を読んでたら、「もしUWFがなかったら、新日本か全日本かみちプロに入ってた」っていう田村選手の発言があって、ビックリしたんですよ。

田村　なんでですか?　だって**フツー**じゃないですか。

──ホントにフツー好きですね（笑）。

なんでいきなり、みちのくなんだろうと思って。
田村　あー、でも**みちプロは面白い**ですからね。
──それは、見てて面白いっていうことですよね？
田村　いやッ、**やってても面白い**と思いますけどね、選手も。
──やってても面白い！
田村　昔、プロレスごっこをやったじゃないですか？　やってて面白いじゃないですか。その**延長上にお客さんがいて、**やってる方は、見てる人以上に楽しいんじゃないですかね。僕はそういう考えだと思います。
──そういう部分での偏見はないんですね。
田村　はい。
──そこら辺が僕は面白いと思ったんですけどね。
田村　いやッ、**フツー**ですけどね(笑)。マスコミの人も考え過ぎなんですよね、周りの人もみんな。
──田村選手の中では、フツーにしゃべってるだけだと。
田村　**フツー**ですよ。僕が一番まともだと思いますよ。
──自分が一番まともだと思ってる人は周りから見ると、やっぱり変わってるんですよ。
田村　いやッ、そうですかね？
──UWFから入ってきて、いま現在ルチャ・リブレとかを、やらなくて良かったなぁという思いはありますか？
田村　うーん……そうですね。いやッ、みちプロ入っても面白かったと思うんですけど、なんて言うんですかね。その、**オーラ**が出るっていうんですか。やっぱ強い人には、オーラが出ると思いますから。強い人にみんな憧れると思いますし。だから、僕は高田さんとか見ながら育ったんですよ。高田さんは、凄い機嫌がいい時と悪い時が極端なんで、あの人も凄いプライドの高い人ですから。そういうのを見て育ったんで。やっぱり、**高田さんがいれば怖いっていうか、雰囲気が締まる**んですよね。で、やっぱり、凄いオーラが出てる時期を知ってるんで、僕もああいうふうになりたいなっていう憧れの目で見てましたから。

プロレスファンには「格闘家」、そうじゃない人には「プロレスラー」と言ってます

3月に行われた前田戦。敗れたものの、高速ローと高速ミドル、おまけにグラウンドでもキリキリ舞いさせた。2人の再戦は12・23福岡。田村の前田越えラストチャンス

──でも、田村さんもここまでのレベルになっても、別に周りを怖がらせたりとか、そういうことは特にしてないですよね。
田村　してないですね。してないですけど、**しなくちゃいけないかな、**とは思いますけどね。
──エ⁉　そうなんですか。じゃあ例えば、昔のプロレスラーのビビらせ方でいうと、飲んでる時に、グラスをバリバリ食っちゃったりとかして(笑)。
田村　いやッ、そういうのはないですけど(笑)。
──黙ってても、オーラが出てて近寄り難いという雰囲気を出したいということですか。
田村　出したいですね、それは。ただ、変に、なんて言うんだろうな……やっぱり試合とかでも練習とかでも、**強さとか巧さとかをビシッと見せなければ、そういうオーラって出ないと思うんですよ。**そういうことをしてないと、そういう視線も感じないですから。**僕も一歩外へ出たら、フツーのお兄ちゃんですし。**でも、練習になれば、やっぱりキツイことも言うし、そういう目で見られたりするんで、その辺のギャップっていうのが、たまーにこんがらがるときがあるんですよ。
──あー、なるほど。
田村　自分は自分で、強いから偉そうにするとかじゃないんですけど、なんかね、いま言ったような全然違う世界を行ったり来たりしてるんで、なんか、わけわかんなくなってね。本当に、**昨日の辰吉選手**じゃないですけど、あとサッカーのワールドカップ出た選手とかは、外を歩いててもそういうオーラが出てるじゃないですか。僕も本当は、テレビの全国ネットで出るとか、そういう舞台があれば、例えば街に出ても、**常にオーラが出る状態**までいけると思うんですよ。それを出せないのが悔しいっていうのがありますけど。
──でも、全国ネットで流れたからってオーラを感じない人もいますよね。サッカーのカズにしても、野球のイチローにしても、僕はオーラなんかこれっぽっちも感じないですからね。
田村　え？　感じないですか？
──感じないですね、全然。辰吉には感じますけど。それは僕個人の好みな

のかもしれないですけど。

田村　いや、実際見れば感じるでしょ？　感じると思いますよ。

——うん、ミーハーな部分で「あ、イチローだあ！」っていうのはありますよ、当然。でも、オーラっていうことでいったら、多分感じないという自信はありますね（笑）。

田村　あ、そうですかね？　へぇ～。面白いですね。

——プロレスラーという存在は力道山時代から"プロレスラーという鎧"をずーっと着続けてきたと思うんですよね。

田村　ああ。

——世間からは八百長だなんだと言われて、でもそれに対して「最強」とか「怖い」とかの鎧を自分の身と心に貼り付けるように教育されてきたわけですよね、昔のレスラーは。例えその鎧が重く感じても脱げないわけだから、それはそれでシンドイ作業だと思うんですよ。精神的にタフじゃなきゃもたないだろうし。

田村　そうですよね。

——だからさっき田村選手が自分のことを「外に一歩出ると、フツーの兄ちゃんみたい」だって言ってたけど、そう見えちゃうことは食い足りない部分でもあるんですね。でも、力道山時代や馬場・猪木時代とは時代が違うわけだしね。だから田村選手はこれからどういう鎧を着ていくのかっていうのが、すごく興味あるんですよ。

田村　新しい時代のってことですよね。

——そのへんの具体的なものは……考えてないですよね（笑）。

田村　いやッ、考えてますよ！　考えてます！

——え！　ホントですか！

田村　考えてるっていうか………**トイレ行ってきていいですか!?**

——ガクッ！　どうぞ～、行ってきてください（笑）。

（約3分後、田村潔司帰還）

——お帰りなさい（笑）。

田村　……えーと、なんでしたっけ？プロ格ですよね、要は。

——あ、そうですよね。あれ、そうでしたっけ？（笑）。じゃあ、それでいいです（笑）。

田村　うーん、でもね、極論から言えばね、楽しいものとか、凄いものとかを見せればいいと思うんですけどね。**新日本がやってるプロレスも、全日本がやってるプロレスも、みちのくもパンクラスも**お客さんが面白いとか凄いとか思ってくれたら、それでいいと思うんですよ。だからね、**嘘のないリングで、そういう面白いとか凄いとか思ってくれたら、それでいいですよね。だから、それを僕がやんなきゃいけない世代**なんだと思って。

——つまりは剣を持った上で、新しい時代の鎧を着る。剣と鎧の両方を持つと。あるいはその剣を世間に対しての鎧の役割にもするってことですよね。田村さんなら簡単にできそうですね。

田村　いや、シンドイっスよ（笑）。めちゃめちゃ**シンドイ**っすよ。胃が痛いですから（笑）。

——田村選手はとてつもないビッグ・

a sword of dis-obedience

ハートなのか、気が小っちゃいのか、どっちだかよくわかんないところがありますよね（笑）。

田村　よくわかんないですよねぇ（笑）。

――ガハハハ。あ、ご自分でもわからない。

田村　いやいや、自分でもそう思いますよ。

――悪い意味じゃなく、田村選手は二面性を持ってますよね。

田村　うん、あぁ、そうですねぇ。でもね、僕は気が弱いんですよ。インターの時に新日本に出なかったことにしても、リングスを選んだことにしても、ジムをやることにしても、**僕がやらなきゃできないこと**なんですけど、そういう流れっていうんですかね。子供が生まれて、小学校入って、中学校入って、高校卒業して、就職してっていうのは、みんなが通る当たり前の道じゃないですか。僕も、流れ的には一般の人と違うことをやってるかもしれないんですけど、**そういうレール**ができてるんじゃないかと思うんですよ。リングス選んだことにしても、凄い悩んだんですよ！　**ＵＷＦを捨てて行く**わけですから。だけど、そういうのが運命なんですかね。

――時代の流れが自然に田村選手を選んでるんですよ、きっと。時代に選ばせる素質みたいなものがあるんじゃないですか。

田村　そうですかね？

――掴み所がないといえば言葉は悪くなっちゃうんだけど、"自分のために"という顔と"自分以外の何かのために"っていう二つの顔が、クルクルとすごい速さで回っているのが、田村潔司っていう人だと思うんですよ。

田村　そうですねぇ、自分のことばっかり考えている人は、出世できたとしても、いつかは仮面が剥がれますよね。僕は、自分のことはもちろん可愛いですから、**自分のことも考えつつ、人のためっていうか、これからのこの世界のためにやってる部分が凄く占めてますからね。**まあ、そう考えると、**僕はすごくいい奴だと思うんですけどね**（微笑）。

――いや、いい奴でしょう。でも、悪い奴でもあるんですよね、見る人によっては（笑）。その二つがものすごい速さで回転してるような気がするんですけどね。

田村　昔はねぇ、気ィばっかり使ってたんですよ。自分のこと考えないで。っていうか、周りに気を使ってね。やっぱり、怖かったんでしょうね。だけ

新日本に出なかったことも、リングスを選んだことも、そういうレールがあった

ただ関節を極めたから「俺は強いんだ」じゃなくて、殻を破っていかないと！

ど、なんて言うんですかね、昔は嫌いな人でも合わそうとしてたんですけど、最近は**嫌いな人は嫌いな人でいいんじゃないか、**っていうふうになってきたんで。意見が合わなければ、それで対立しますし、でも、対立したことによって、また絆が深くなることもありますから。だから、自分を正直に出したほうがいいですよね。

——田村さんはストレスを溜めないタイプですか？

田村 いや、僕、**ストレスはね、すごい溜まる**んです。

——あ、溜まりますか（笑）。

田村 はい。リングスのことも、自分のジムの経営者としても考えないといけないし。経営してみるとわかるんですけど、**見えない部分で大変なことっていっぱいあるんですよ。**選手も育てなきゃいけないし、会員さんに接する態度にも気を使わなきゃいけないし、これからプロの選手を目指すコが出てきて、そういうコに対しても考えなければいけないですし、もういっぱいいっぱい気を使ってますからね。気を使ってないようで、気を使ってるんですよ。

——それ、使いすぎなんじゃないですか（笑）。そのストレスは、田村選手はどこで発散してるんですか。

田村 もう、女遊びしかないですよね。

——ガハハハハ！　女遊び！

田村 いやッ、その女遊びっていうのが、変な遊びと思われたら嫌なんですけど、ただ単純にお酒飲んで、みんなで**ワイワイ**できれば、それでいいんですよ。ただ、男だけじゃ面白くないから、女の子がいたほうが面白いじゃないですか。

——気がは使うけど欲深い？

田村 欲はありますね。でも、欲っていうか、嫉妬深いんじゃないですかね？　人と同じことをやりたくないし。**嫉妬深い**というか負けず嫌いというか。

——何かこう、ジックリ構えてるようで、パッと「先手を打つ」タイプっていうか。

田村 他団体がやってないことを何かやんなきゃいけないな、というか考えなくちゃいけないですよね。

——じゃ、そういったプランは頭の中に渦巻いてるわけですね。

田村 うーん、そんなに……**いやッ、渦巻いてますね！**　だから、こういうふうにやったらいいんじゃないかな、というやり方はありますし。**時代は流れてますからね！　昔のやり方じゃ古い**なという思いもありますし。

——例えばそれは、興行的なものとか、そういったことも含めてですか。

田村 はい。興行的にもそうだし、選手の育て方もそうだし。昔は、みんながお山の大将だったじゃないですか。**でも、強い人には頭を下げなさいっていうか、強い人は強いですから！**　強い人にはそれなりの待遇も与えなきゃいけないですし。例えばU—FILEで寮を作るとしたら、寮生の中でも、年とか関係なく、強かったら個室とか、弱い選手は2人部屋、3人部屋とか。いくら若くても、強ければ掃除はしなくてもいいとか。そういうのがないと、いけないかなとは思いますね。

——なるほど。そうなると完全実力部屋って感じですね（笑）。以前、ウチのインタビューで、「発想的にはパンクラスと同じ発想だ。ただスタイルが違うだけ」って発言をしてたんですけど、それは覚えてますか？

田村 はい、覚えてますよ。

——僕なんかはリングスとパンクラスがやったら面白いなぁとか思うんですよ。まあ、これはキナ臭い話抜きでの夢物語ですけど。

田村 やればいいですねぇ。

——これも田村選手の世代が種を蒔いとかないと実現できないことですよね。

田村 それは**対抗戦**ってことですか？

——個人的には田村vs船木なんて、死ぬまでにはぜひとも1回は見たいカードですけど、いまこの時点での話は対抗戦じゃなくてもいいです。例えば、部分交流であってもいいし、アマチュアの交流でもいいし。

田村 うーん……でも、もうねぇ……いまの時点では、**他の人とやるって発想はあんまり良くない**ですね。

——良くないですか！　リングスもU—FILEも、パンクラスも、シューティングも総合格闘技としてアマチュアを育成してる。そのアマチュアが繋がれば、総合格闘技の底辺は拡がっていくじゃないですか。そういうのは、田村選手の発想にはないんですか。

田村 ないですねぇ。

——どうしてですか？

田村 スタイルが違う！　シューティングはガードで足を組んでいいんですよね。僕は足を組ませないスタイルなんですよ。だから、それは**シューティングはシューティングで、パンクラスはパンクラスでルールがあるわけですから。**要はルールひとつ違うことで、強い弱いかがまた全然違ってくるんで、やっても意味がないと思うんですよね。だから、パンクラスとリングスがやったとしても、パンクラスは馬乗りになって叩いてもいいですよね？　リングスはダメなんですよ。それがあるのとないのとでは全然違いますし。

——じゃ、総合格闘技と呼ばれているものの、ルールを全部統一しちゃおうとか大それた構想はないんですか？

田村　統一……うーん、僕のいまやっていることがひとつの競技のルールですから。だから、本当にゼロから選手を育てていかないと。リングスっていう世界があって、そこで選手を育てて、外人だったらその外人が育てた選手と、僕の育てた選手がリングスルールでやると。よそから来たっていうのはなしで、やりたいですよね。

――じゃあ、例えばP's LABから、U－FILEに移籍してくれればいいわけですか。

田村　うーん……よそから来たのは難しいですね。練習をみんなと一緒にやらないとダメですね。で、まず**相手の強さを認めないと！**

――はっはー。

田村　よそから来ると、絶対勝ち負けにこだわっちゃうんで。例えば僕とV・ハンとの試合がある。**僕はハンを認めているから、向こうも認めてくれると思うんですよ。**だから、変な言い方ですけど、**わざと逃がしてあげて、一歩先を読んで、その隙をついて取る**とか、技術の凌ぎ合いができるということですよね。

――よく田村選手が言う、「自分が3の力でいったらハンも3の力できて、ハンが5の力できたら自分は5の力で仕留めたい」ということですよね。

田村　はい。

――そういう考えは、UWFに入門した頃からあったんですか？

田村　いえいえ、全然。段階がありますよね。入門して1年間ズーッと関節決められて防御を覚えて、また2年目で新弟子相手に極める楽しさを味わって、で、今度極めるだけじゃ、面白くないんですよ。3～4年目には、ここでわざと袈裟の態勢から逃げさせて、「こう逃げるだろうな」と思って、僕もそれに合わせて動く。で、相手も僕の動きをまた読んでくると、僕は次の次の手をやるとか。**だから、あるところまでいったら殻を破っていかないとダメだと思うんですよね！** **ただ関節極めたから「俺はもう強いんだ」じゃなくて、**相手をわざと逃がして、相手のどんな動きにも、一歩先を読んで対応するということですよね。

a sword of dis-obedience

いやー、いつでも芸術的な闘い模様となる田村vsハン戦。9.26札幌では試合後、ファンが総立ちで「タムラ・コール」を送った。トーナメント決勝（98.1.21）もこのカードとなるか!?

不穏な空気が流れた前田vs長井戦にすくなからず影響されたのか11.20のトーナメント2回戦。メインにも関わらず本領発揮ならず。立ち止まるな、田村！

――その一歩も二歩も先を読むところに芸術性が出てくるわけですよね。

田村　昔はね、もう2時間くらい金原（弘光＝現キングダム）とかとやってて、極まらないんですよ。**極まんないのが悔しいから、2時間ぐらいやるんですけど、**で、それはやってればやるほど、極め方ってのを覚えてくるんですよ。「極まらないからもういいや」じゃなくて、極めるまで納得するまでやってましたね。

――2時間もお互い極まらないっていうのもすごいですね！

田村　そうですね。ひとつの技に対して極まらないから、もう1回この技で極めてやろうとかね。でも、そういうのをずっとやってると、自分のパターンに一度はめると、絶対に極められるっていうのがあるんですよ。だから、その**引き出しが多い選手は強い**ですよね。

――いやあ、田村さんは、技ひとつに対しても負けず嫌いなんですね（笑）。

田村　はい。負けず嫌いっていうか、悔しいんですよねぇ（微笑）。

――昔、「相手が5の力しかなかったら、7の力まで引き出して、さらに10の力で叩き潰す」っていうことをアントニオ猪木が言ってましたけど、プロレスだからどうのこうのじゃなくて、人間と人間との闘い模様にはそういう駆け引きは出てきますよね。

田村　**ありますねぇ。**

――ただ、それがプロレスでは誇大解釈されて、最初からインプットされたような、とても闘いとはいえない試合ばかりが横行していったわけですよね。で、それに噛みついたのが前田日明というわけなんですけど（笑）。

田村　いやッ、**だから前田さんはやっぱり凄いですよね。**

――田村さんは、いま前田さんをどう思ってるんですか？

田村　……いやッ、大変だと……他の人がついていけないんじゃないですかね。前田さんが大変過ぎて。人間は大変過ぎると、絶対に**理不尽**なことを言いますから。

――理不尽なこと（笑）。

田村　まあ、前田さんはもともと言う人かも知れないですけど（笑）。

前田さんのヒクソン戦？ 凄いことだと思います。凄いリスクのある闘いですから

——ガハハハ。そうなんですか？（笑）。

田村　わかんないですけど、若い選手とかフロントね、愚痴ってナンボですけど、でも、前田さんから見れば、そんなのは本当にちっちゃい世界なわけで。前田さんは本当にもう……見えないところで苦労されてると思うんで。

——例えば前田さんの苦労みたいなものは、U—FILEの経営者として踏み出してから見えてきた部分もあるわけですよね

田村　ありますねえ、はい。この間、大阪大会**終わった後に**C・ドールマンと契約の話をしてるって聞いたんですよ。フツー試合が終わったら、飲みに行ったり食いに行ったりしたいじゃないですか。それを、仕事やってるわけですから。で、僕なんかは、リングスでは契約選手でお金貰えれば、それだけでいいですからね。**だけど、僕らがお好み焼きを食ってる、若い選手が何か食ってる間にも、**毎晩そういう交渉をね……大阪の興行もきつかったらしいんで、そういうのでも頭を悩ませていると思いますからね。そういうふうに考えると、やっぱり大変だなとね。

——若い選手は、もっと前田さんをフォローしてあげたほうがいいと思うんですか？

田村　いやッ、フォローじゃなくてもいいですし、してあげてもいいと思うんですけど。……**両方**ですかね

——両方が好きですね、田村選手は！やっぱりドン欲ですね（笑）。

田村　いやいや、いやッ、それはね、

人の考えですから。上と下の間が離れ過ぎてるんですよ。

――前田選手がヒクソン戦をブチ上げたことについては、率直なところどう思ってるんですか。

田村 （かなり長い間考えて）………

…えーっと………。

――率直には言えないですか。

田村 いやいや、うーん………**いヤッ、凄いことだと思います！ 凄いリスクのある闘いですからね。**一歩間違えたらねぇ……本当にまた、下に落とされるわけですから。ただ、前田さんは高田さんが負けた姿を見て、高田さんのためにもやってやろうっていう気持ちの方が強いと思うんで。自分がヒクソンに勝ってやろうという気持ちもあるんだと思うんですけど、やっぱり高田さんが負けたから、俺が仇を取ってやるって。**頼もしいですよね。**他にいないですからね。

――名乗りを挙げたのは、前田さんだけですからね。

田村 その辺は、本当にもう楽しみですけどね。

――田村選手には、そういう気持ちはないんですか。

田村 僕ですか。僕はねー、いまはまだ言いたくないんですけど……**いまの気持ちは、前田さんの結果によっては。**だから、いまは前田さんが、ああいうふうに言ってるから、前田さんに頑張ってもらいたいですよね！

――じゃあ、仮定の話ですけど、前田さんがヒクソン戦をブチ上げなかったら、田村選手はどういう行動を取ったんでしょうかね。その時になってみないとわかんないでしょうけどね、当然。

a sword of dis-obedience

田村 ハハハ、いやッ、それはわかんないですけどね。歯車が狂う時ってあるじゃないですか。例えば、試合の組立て方にしても、僕の試合が2試合目だとして、第1試合目がシーンとしてたら、ちょっと入場から盛り上げようかなとか、第1試合目が盛り上がってたら、2試合目は緊張感ある試合をやろうかなとか、そういう流れってあるんですよね。で、NKの時に前田さんのマイクがあって、流れ的には、僕はあんまり出ないほうがいいかなとかあるじゃないですか？ **僕がセミだったら、僕がマイク持ったかもわからないし。**前田さんがマイクで言わなかったら、僕がメインでマイク取ったかもわかんないし。だから、**前田さんが言っちゃった以上、僕が口出すことじゃないですよね。**前田さんがやるって言ってるんですから。

――高田vsヒクソン戦の影響なのかどうかは一概には言えないとしても、11月20日の大阪大会にしても興行的に苦戦しましたよね。マット界自体が実際に冷え込んでると思うんですよ。で、田村選手が、その辺をどう打開していこうと思ってるのか興味あるんですけど。

田村 うーん、マット界ですか？ やっぱりヒクソンを倒さないとだめですよね！

――やっぱり、そうなりますかね。それ以外では盛り上がらないですかね。

田村 **何かあります？**

――田村さんに期待します（笑）。

田村 （微笑）。盛り上がるようなことをしていれば、周りは絶対ついてくると思うんで。いまは地道にやるしかないんじゃないですかね。

――浮き足立たずに。

田村 はい。でも、**ファンは何を期待しますかね。**僕に対して、リングスに対して。

――多分、ファンが望んでることも、具体的なものってないと思うんですよ。とにかく、理屈抜きに面白いもの、感動できるものが見たいというね。でもやっぱり、vsブラジルに勝つのは近道っちゃー近道ですよね。

田村 ………いやッ、それか、リングスの**ワールド・トーナメントの決勝**を見るしかないんですかね。

――シメにかかってますね（笑）。決勝に行く気マンマンってところですね。

田村 でも、**今度はベルト懸かってますからね。**見る価値はホントに凄いあると思いますけどね。

――そうなんですよ。見る価値は大アリなんですよ。でも、いまはU系のファンは、正直、意気消沈してますよね。

田村 それはだから、グレイシーのあれですよね。でも、そういう盛り上がる試合ってね、毎回やれって言われても無理ですから。サッカーのワールドカップにしても、40年かけてみんなが熱狂するわけでしょ。辰吉選手にしたって、十何回も日本が世界挑戦に失敗してるから、ああいうふうに盛り上がるわけじゃないですか。だから、これから、**もう10年グレイシーに負けないと。**

――うあっ！ もう10年負け続ける。きついですよ、それは（笑）。

田村 その10年間溜めたストレスが、バーンッとなるのが、**思いきり盛り上がる日かもしれないですしね。**でも、そういうお膳立てを作るのは難しいですよね。

――でも、もしかしたら、もっと負け続けてもいいっていうのは面白い発想かもしれないですね。でも、そうなると一気に爆発させるのは、田村さんじゃないとダメなんですよ。

田村 えっ？？

――それを言っちゃった手前ね（笑）。

田村 いやッ、じゃあカットしてください（笑）。

――今日は長々とどうもありがとうございました。

田村 ありがとうございました！

【11月26日、六本木アートセンターにて収録】

撮影協力／格闘探偵団バトラーツ
（岡やん、八木、じゅんじ）

……ああ、好評すぎて怖い

寸止めなしの殺戮連載！

あのね、眠たい相談は受けつけへんで!

前田日明の“ワールド”メガバトル人生相談

「人生は語らず」

第3回

構成／山口昇
撮影／遠藤政文

【日明兄さんの朝礼】

先日、いろんな出会いがあって、夜中の1時に、東京湾の一番奥の東京マリーナというところから伊豆の大島までヨットで帆走した。そこで驚いたのが、一歩東京湾に出ると、夜空には満天の星があったり、街の方を見ると照明やネオンの光がその街をドームのように包んでいる、えもいえぬ綺麗な景色だった。さらに驚いたのは、あらためて思って自分で笑ってしまったが、夜の海のせいか、足下に暗く揺れている海を眺めて「海にはこんなにたくさんの水があるんだなあ」と思ったことだ。

乗ってる船自体もエンジンを止めて風の力だけで走っている。

波を切る音と風の音。

それがすごく新鮮だった。

そんな海でもいったん荒れてしまえば、牙を剥いて怖いところなんだろうけど、自然というのは人間の中にある気持ちをすごくロマンティックにしてくれる。だから、自然とふれあうっていうことは、自分の感覚を磨くためにもいい勉強になる。そういう磨かれた感性があるから、俺はパンクラスのことをボンクラスという。

Q ノストラダムスが地球の終わりを予告した1999年の7月まで、あと2年を切ってしまった 人間が行ってきた数々の狼藉を考えると、そういう天誅が下っても仕方ない！ 正直言ってボクは怖くて怖くてしょうがない時があります かといって、こんなことを人に相談してもバカにされるだけだし、ズバリ言ってけっこう重要な研究材料だと思うんですが、前田さんの意見を聞かせてください

（世田谷区・カタストロフィ大佐・20歳・男）

A なに暇なこと言うてるんや！ みんなで死ねば怖くないやんけ！ やっぱね、死ぬことよりも、こういう時が来たら、人だけ生き残る方が怖いでしょ。だから、そういう時、万が一死ねない場合に備えて、『自殺のすすめ』とかいう本があったじゃない？

あれを熟読して、それに備えて対処すると。
あと、もしハルマゲドンが来なかった時、一番悪いのは『ノストラダムスの大予言』を解説した五島勉！　あの人をみんなで張り付けにして、私は「あの本のお陰で人生が狂ったんや！　どうすんねん！　なんとかせえ！」とスゴみましょう（なんかいいことあるかもね）。この場合、警察に訴えられないようにカワイクやりましょうね。どっかでこの人に会ったら、ラーメンの一杯でもおごってもらいましょう、ということやね。
そんなことよりも俺ね、いまから5年くらい前に、母親が慌てて「ちょっとお前、大丈夫か？」と電話してきてね。「どうしたんや？」って聞いたら、母方のおじいさんが、妹とおふくろの夢枕に立って、「日明は38歳のときに死ぬ。だからおまえらは、そういうふうに覚悟せい」って言ってきたらしいんや。
で、その母方のおじいさんが生き死にに関することで夢に出てきた時は、それまで外したことがなかったんだよね。それでドキッ！　とした経験があるから、もうノストラダムスなんて全～然なんともないわ。
だって、38歳っていまの俺やで！　だから最近、俺がアントニオ猪木とも対談し、長州力とも対談し、ボンクラスとも喧嘩しと、いろいろ善行を重ねてるのは、いつ死んでも「前田はいい奴やったな～」って言われるようにという願いを踏まえてのこっちゃね。
でもね、もしもみんなで死んだらオモロイで！　だって、あの世にはモナリザも楊貴妃もマリリン・モンローもみんないるやんけ。でね、あの世は肉体も何もない世界だから、「処女膜破れた」とか「犯された」とかいう概念はないでしょ？　だから、ヤリ放題やんけ！　というわけで、ハルマゲドンの時にはみんな素直に死になさい！
しかし、私はたとえ地球の終わりが来たとしても、数多くのベッピンな女とともに生き残る覚悟がある！　アンゴルモアの大王がなんぼのもんじゃ！
寝言は寝て言え！　若者よ、目を覚ませ！

Q
「私は侍である。だから死ぬのは怖くない」というようなことをヒクソン・グレイシーは言ってました。それに対し、もしヒクソンとの対戦が実現したら、「その試合で俺がわからせてやるよ。死ぬことより生き抜くことのほうがよっぽど怖いことをね。死ぬなんて簡単なことだよ。本当の恐怖は、人生を信念を曲げずに生き抜くこと、生き残ることなんだから」と某誌のインタビューで前田さんは言ってました。私もそういう考えなので、その言葉はすごく印象に残りました。今回は"生き抜くことのほうがよっぽど怖い"という意味をもっともっと深く教えてください
（山形県・長尾はじめ・25歳・男）

A
「死ぬのは怖くない」って言うんやったら、自分で自分の首でも締めとけばええんやんけ！　それだけの話やで。
武道っていうのは、もともと生き残るための、サバイバルの技術や。なんのために生き残るかというと、儒教を理解していない人にはわかりづらいけど、個人の欲得を離れて、自分の忠誠を尽くすもののために、自分の命をも投げ打って事に当たると。だから昔の侍はこういうことを言う時に「名こそ惜しけれ」という言葉で象徴的に言ったんや。だからこういう場合は、金とか今流の名誉とはちょっとちゃうで。でも、えてして外国の武士道被れの人たちはね、「私」というものが中心になって、必ず現代流のお金とか名誉というものを自分の中からはずすことができない。だから中途半端に「死」だけを問題にするんだよ。
武士道でいうところの死っていうのはそういう意味じゃなくて、「人事を尽くして天命を待つ」と。「たとえ自分に宿命的に死が訪れようとも、それをニュートラルな立場として受け入れることが出来る」ということを言ってるわけでしょ。

AKIRA MAEDA

『葉隠』の思想を説いた鍋島藩の山本常朝って人は、「武士道とは死ぬことと見つけたり」って書き残したけど、なんでそんなことを言ったかというと、あの人は自分の殿様が死んだ時に「殉死させてくれ」と言って断られたんだよね。死ぬことが許されなかったわけや。で、さっき言った意味を踏まえて、自分の武士道を完成させるためのアピールとして「死ぬことと見つけたり」って書いたんだよ。
でも人の「生き死に」について考えるって、だいたい「死」っていうのは、誰もが語り得ない議論なんだよ。誰も実際に死んだことないしね。そういうものに対して取るべき態度はニュートラルであること！　今生に対して未練を残さないこと！　それが最高の立場なんだよね。
それとね、間違いなく死ぬかもしれないって状況にあって、"何か"のために生き残ろうとする勇気っていうのはたいへんなことなんだよね。今も昔も、特攻隊みたいなものは別として、「死ぬのは怖くない」っていう奴ほど、だいたいが逃げ道として「死ぬ死ぬ」って言ってる感じでしょ。「死ぬのは怖くない」なんて言うのは、ただのファッションにしか聞こえない！　こういうのは、いまの格闘家の最新モードになってきたからね。そういうことは口に出すべきではない。覚悟として心に秘めることだ。
だから死をオカズにしてしか、自分のやっていることを語れなかったら、ヒクソンは可哀想やなと思うね。
あとね、ハッキリ言って、死んだ人は生きてる人間に対して余計なことは何もしないんだよ。生きた人間に、死そのものとか死人まで利用して余計なことをするのは生きた人間でしょ。
地獄界、餓鬼界、畜生界、修羅界、人間界、天上界とかね、仏教でいうところの六道輪廻はこの世に全部あるねん。つまりね、この世には天国から地獄までの全部があるメリーゴーランドとジェットコースターが一緒になったようなとこや。死んだらどうなるかわからんしね。それだけとっても死ぬことより生き抜くことの方がたいへんなのがわかるやろ。
なんと含蓄と知識に富んだこの言葉。……私は死ぬことよりも自分が怖い。……今日は妙に頭が冴えてるな。……ああ、今夜は満月か。ワォー。

Q
前田さん、はじめまして。ボクは前田さんの栄光も過去も知らない、ただプロレスが好きな者です。実は10月11日の高田延彦vsヒクソン・グレイシーの試合からボクは自分がわからなくなったのです。あの試合がTVをはじめ各メディアで紹介されて、あまり気にもしてなかったボクにも情報が入ってきて高田さんを目にするようになりました。ボクはどうやら高田さんに恋（？）してしまったようです。それ以来、高田さんのことばかり考える毎日……。女性のヌードよりも高田さんの方に魅力を感じてしまっています。ボクっておかしいんですか？　前田さんの言葉で聞かせて下さい　また、前田さんの知る高田さんって、どんな男か教えて下さい。
（東京都・Such A Lovely Place・19歳・男）

A
そこで次郎長ニッコリ笑って、馬鹿は死ななきゃ治らない!!　忙しいときにこんなバカな相談を持ってくんなよ。それにしても、こういうのがこの頃多いね。
俺が中学生だか小学生の時、毎日新聞の夕刊に『神への挑戦』っていう題で、最先端の研究事項の紹介記事が載ってたんだよね。その中で生物学的なアプローチとして人工増加の問題をネズミでシュミレーションしてた記事があったんや。
で、ネズミのなんとかって種類があって、それをある一定の広さの場所でネズミの個体数をどんどん増やしていくと、まず何が出てくるかというと、ホモとレズ！　それがさらに増えていくと、親が子を傷つけたり食ったり、そのうちにネズミ社会の中に虐待だとかイジメとかが出てくんねん。もっともっと増えていくとどうなるか。互いに殺し合い、そのうちに集団自殺するらしい。
だから、まあ、こういうのも世紀末の景色

あのね、眠たい相談は受けつけへんで！
前田日明の“ワールド”メガバトル人生相談「人生は語らず」

の中に溶け込んでる一種の風景としてみれば自然なんかな。寂しいヒステリーなオカマたちがわめいてるのも、八ヶ岳で自然に鳥が鳴いてるのと同じようなもんということっちゃね。

Q 私は26歳の看護婦です　26歳にもなって気持ち悪いとお思いかもしれませんが、実は私、今まで男性とお付き合いした経験がないんです。どうせブスだしスタイルも悪いし、職業上、あまり出会いもありませんし、休日はデートなんかしているより少しでも多く身体を休めたいと思っているので、彼氏がいなくても全然平気だったんですが、やはり同期が結婚などというニュースを耳にすると、ちょっぴり寂しく、焦りを感じてたのも事実です。でも先日、こんな私にも交際を申し込んでくる男性が現れたんです。でも私はこの人のことをまったく知りませんし、顔もハッキリ言って全然タイプじゃありません。なので最初は断るつもりでいたんですが、これを逃したらもう一生男性とお付き合いできないんじゃないかとも思います。私もあと2ヶ月で27歳です。このへんで妥協しておくのが賢い女の生き方なんでしょうか？

（仙台市・天使のわき毛・26歳・女）

A これはもう大きくゆったりと考えるしかないね。ニュートラルな立場で、まずは友達づきあいから始めてね、ちょっとでも自分の情に触れるところがあったら、じらしにじらしてもったいぶって、値打ちをつり上げるだけつり上げといて、ちょっとだけやらせる。気をつけなければいけないのは、だいたい男って、一発やらせると本性現して急に横柄になったりとかあるから、常に高くもったいぶってコントロールするのが尻に敷くコツ。そういう作業をしながら見極めていくと。

それとね、これはすべての女の子にわかってほしいんだけど、男っていうのはいろんなもんによって育てられるもんなんだよね。ある人は先輩との上下関係に育てられ、ある人は自分の環境によって育てられる。また、彼女や女房によって育てられる人もおる。いろんな男がいるんだよね。

だからいまのうちに、しっかりカカァ天下になるようなトレーニングを積んで、来たるべき大物の出現に備えると。そして大物が出現したら、パッとそれに乗り換える。それまでは、ある程度スタンスを保ちながらね。

で、そのスタンスを保ってる行為が、また男にとってみると理知的な大人の女性に見えてたりするもんなんや。

でね、世の男どもは、自分が理解し得ないものに対して脅威を感じて尊敬するっていう変な習性があるんで、そこを大いに利用しながら、高いブランドものでもプレゼントしてもらったりすることっちゃね。

ここで教訓！　女の子が、男とつきあう時に絶対守んなきゃいけないのは、すべてを見せない！　さらけ出さない！　ある部分の秘密はいつも持つこと！

考えてみると、やっぱり最高の魅力は神秘性なんだよね。「あれ？　コイツ、人よりもケツの穴のシワの数が一本多いんじゃないか？」と思うから知りたいわけであって、男っていうのは本質的に隠されてるもんに対して知りたがるんだよね。

その証拠に、男の子が異性に対して一番最初に目覚めると、肉体に対する直接的な興味よりも、「あのコ、パンツ何色はいてんのかな？」というスカートめくりから始めるでしょ。

だから、その男が何によって育てて欲しい男なのか、自分が持ってるどういう神秘に対して彼は反応するのかをよく見極める。

そして反応した神秘について、もっと装飾して、もっと崇高に聖なるものに崇めたてて、どんどんミツグ君からアッシー君、メッシー君にして、たまにかわいそうだと思ったらチューの一つでもさせてやって、もうちょっとかわいそうだと思ったら3ミリぐらい入れさせてやって、そんで「ちょっとなかなかいいテクニシャンだわ」と思ったら、たまにはもったいつけながら恥じらうフリしてサセてあげましょう。

でも、気をつけなきゃいけないのは、世の中には「逆妊娠固め」という技があるから避妊だけはちゃんとすることやね。中出しはダメよ！　避妊は忘れずに。

Q 酒とバクチと女に手を出してしまった父親が蒸発して早15年。女手ひとつで私と妹を育ててくれた実の母親なのですが、毎朝5時に起きて、遠い親戚の工場で労働をしていたせいか、遂に最近は肺の病気にかかってしまい寝たきりで咳込んでおります。とても仕事に行ける体調ではありません。かといって一人にしておけませんので、私がつきっきりで看病しております　妹の稼ぎと私の内職での僅かなお給料で私達母子3人が生活していかなければならないのが現状です。母の苦労は私の想像を絶するものだったのでしょう。私は今でも感謝していますし、そんな母を放ってなんておけません。心の底からそう思います。ですが、私も年頃なので「そんなことを考えてる場合じゃない」と思いながらも、恋やオシャレやおいしいパフェのお店のことを考えてしまうのです。「母がいなければ！」。気が緩むとそんなことを考えてしまっている自分がいて、とても恥ずかしいのです　しかし、実際に私も母の看病に疲れていま す。いずれは私にも限界が来るかもしれません日明兄さん、私はどうすればいいのでしょう？一家の面倒を見てくれる優しい夫を見つけるのが一番の近道なのでしょうか？

（川崎市・匿名希望・29歳・女）

A 人間こうやって逆境に入っちゃうと、周りが見えなくなるんだよね。なんでかっていうと、そういう経験に振り回されてしまって、自分の感性とか感覚がそれに張り付けになっちゃうんだよ。

一番大事なのは、私生活でシンドイことがあったとしても、いつも自分の好奇心を張り巡らして、自分自身が本来持ってるフレッシュさ（それが魅力って言うんだけど）をいつも失わないっていうのは大事だよね。

俺自身もいろんなことがあったけど、そういう時に新しい展望が開けたりとか、逆境を脱したりとかできたのは何でかっていうと、そういう気持ちを忘れなかったことと、それによく運の正体は人って思うけど、やっぱり人との出会いがきっかけになるんだよね。

彼女もいま、お母さんの看病に振り回されてしまって、ストレスになって周りの人に変にツッケンドンになってしまうと、人っていう運の正体までも逃がしてしまうから、好奇心とフレッシュさだけは失わないでほしいね。

そういった逆境にあっても、笑えるくらいの感性を磨くっていうのは、彼女の今後の人生にとって、すごいキーポイントになると思うね。嬉しい時に笑える、悲しい時に泣ける、逆境になっても普段の生活に振り回されない部分の感性を磨いたら、それは誰にも持てない、代え難い大きな魅力なんだよね。特に女の人にとっては。

だからね、婚期なんて問題じゃなくて、あなたがそういうものを見つけることができたら、いろんな男がほっとかないと思うよ。もし、あなたが婚期なんて気にしてるんだったら本末転倒で、あなたの中で、まだそういうものが育ってないんだよ。そういうものが育っていけば、誰もほっとかないから。

「柳に雪折れなし」って言うじゃない。いつも柔軟な感性を持ってたら鈍することもないんだよね。それが、えもいえない素晴らしい魅力に繋がるんだよ。

なおかつ、こういった誰にもできないような経験っていったらなんだけどね、こういう経験っていうのは、通りあって、「人間っての は本当に暖かいな」っていう経験もするだろうし、反対に「人間ってのはなんて冷たいんだろう」という経験もするだろうし。で、そういうのを自分の中でニュートラルに受け入れるということが、大人として成長するということなんだよね。

あとは、自分で自分の背中をポンッと押せ

るような力を育てることやね。

ただ、いまは視線が、自分の背負ってるものの重さっていうのを考えすぎて、背中が重くなって、下ばっかり見ちゃってるんだよ。ちょっと視線を上に向ける。その気持ちさえあれば、彼女の未来は幸せで溢れていると思うね。

周りでも見てる人がいっぱいいると思うんだけどね、自分が気付かないだけで、たぶんいろんな人が応援してると思うよ。こういう熱い人にはね、熱い人が集まってくるよ。それは心配ないよ。だけど、そういう熱い人が集まってきたときに、暗くなってるとダメなんだよね。

泣いて暮らしても一日やったら、笑って暮らしても一日。それやったら、笑って暮らした方がええやん。

恋ができるように、オシャレができるように、パフェが食べれるように、こういう時こそ好奇心を捨てずに何か努力すればいいじゃない。

人生はね、「感じるものにとっては悲劇だけど、考える人にとっては喜劇である」と。

視線を上に向けて考えれば、きっと笑えるはずや！ ♪上を向いて歩こう、涙がこぼれないように（下を向いたら鼻水垂れんで）。

Q パチンコにはまってます。どうしてもやめられません。夫が会社に行くと、ついつい足が向いて……。月に10万スル時もありますこのままじゃ……やめるにはどうしたらいいんですか？ 前田さん、教えてください。

（東京都・匿名主婦・29歳・女）

A これは一回、スッてスッてスリまくるしかないね。そんで、パチンコの魅力よりも後悔が勝ったときに、やっと我に帰れるんだよ。パチンコの魅力が後悔より上の場合は、まだまだやめられないね。

スッてスッてスリまくって、いろんな人に白い目で見られて、怒鳴られて、怒られて、ハブノチョにされて、ほんで夫婦別れして、家離散して、友達も一人もいなくなって、サラ金とかのローンの借金がいっぱい増えて、"このままじゃソープランドに身を売るしかないわ"ってとこになったら嫌でもやめられるでしょ。

いまの世の中ヒマすぎてね、なんでもかんでも労せずにできる世の中だから、みんな単純な毎日に流されちゃうんだよね。本当はパチンコじゃなくても、自分の感覚を張り巡らせて周りを見てみたら、もっと面白そうなことがいっぱいあるはずなのに、パチンコっていう一番簡単なものにはまっちゃってるんだよね。

だから、この人に言えることは、好奇心の欠如！ 先天性好奇心欠乏不全症！ それから後天性欲求不満！

だいたい主婦でこんなんなってるってことは、ヒマすぎるからこんなことを考えとるんや。いつまでも子供やっとらんと、自分の子を作って親になることやね。パチンコの玉と遊ばずに、別の玉を活用しましょう。

Q ゲームに熱中し過ぎてしまって、仕事が手に付きません。夜遅くまで、というか夜が明けるまでやり込んでしまい翌日は遅刻をしたり、有給を使ってズル休みをしてしまう今日この頃です。まっとうな社会人としての自分は「会社に行かなくちゃ」と思うのですが、もう一人の自分が「このゲームは楽しいなあ 会社に行きたくないなあ」と耳元で囁くのです。このままでは会社をクビになってしまいます。前田さん、ボクはどうすればいいのでしょうか？ 自分ではゲームのようにうまく出口が見つかりません

（岐阜県・ぱらっぱ～・24歳・男）

A こんなん何も心配ないわ。「まっとうな会社員」とかさ「ズル休み」ってことがわかってるんだから、大丈夫でしょ。

AKIRA MAEDA

それにゲームに集中できるってことは、自分の中にある集中力、これぐらいのスパンでの凄い集中力があるってことがわかったわけでしょ。それだけでもめっけもんやんけ。あとはその集中力を他に使う時の方法が必要なんであって、その方法とは何だろう？ と考えれば問題ないで。

例えば、会社の新人社員の中に自分が気を揉むような若い娘がいたら、その娘の前でええかっこしようとか、そんなんでもいいんじゃない。ボーナスいっぱい貰ったら、車買うだの、ジェットスキー買うだの、ヨット買うだの、なんだってあるで。その他にもダイビング・インストラクターの免許を取って女の子をかましまくったれ！ とかね。

そういうしょうもないことから始めて、大望を持つと。目標が大切やね。

でもね、TVゲーム。たしかにあれは時間がなくなるんだよね 前に「信長の野望」を初めてやった時に、昼の12時頃から始めて、ハッと気がついたら夜中の2時半だったということがあったもんなぁ。

それからね、凄い忙しい時の方がいろんなことできたりすんねん。女の子ともつきあえるし、趣味のこともできるしでね。反対にヒマになっちゃうと、すべてがヒマになっちゃうね。そういうもんやんけ。

だから何か大望を持てば、ゲームだけに集中してしまうってこともないんじゃない。

【日明先生の総括】

俺の好きな歌に、クレイジー・キャッツの『そのうちなんとかなるだろう』というのがある。

♪銭の無い奴ぁ、俺んとこへ来い
俺も無いけど心配すんな
見ろよ青い空、白い雲～
そのうちなんとかなるだろう

人の生活なんて、すべからくそういうもんでしょう。前ばっかり向いてると落とし穴にはまるし、かといって下ばかり見ていると自分の行き先が見えない。

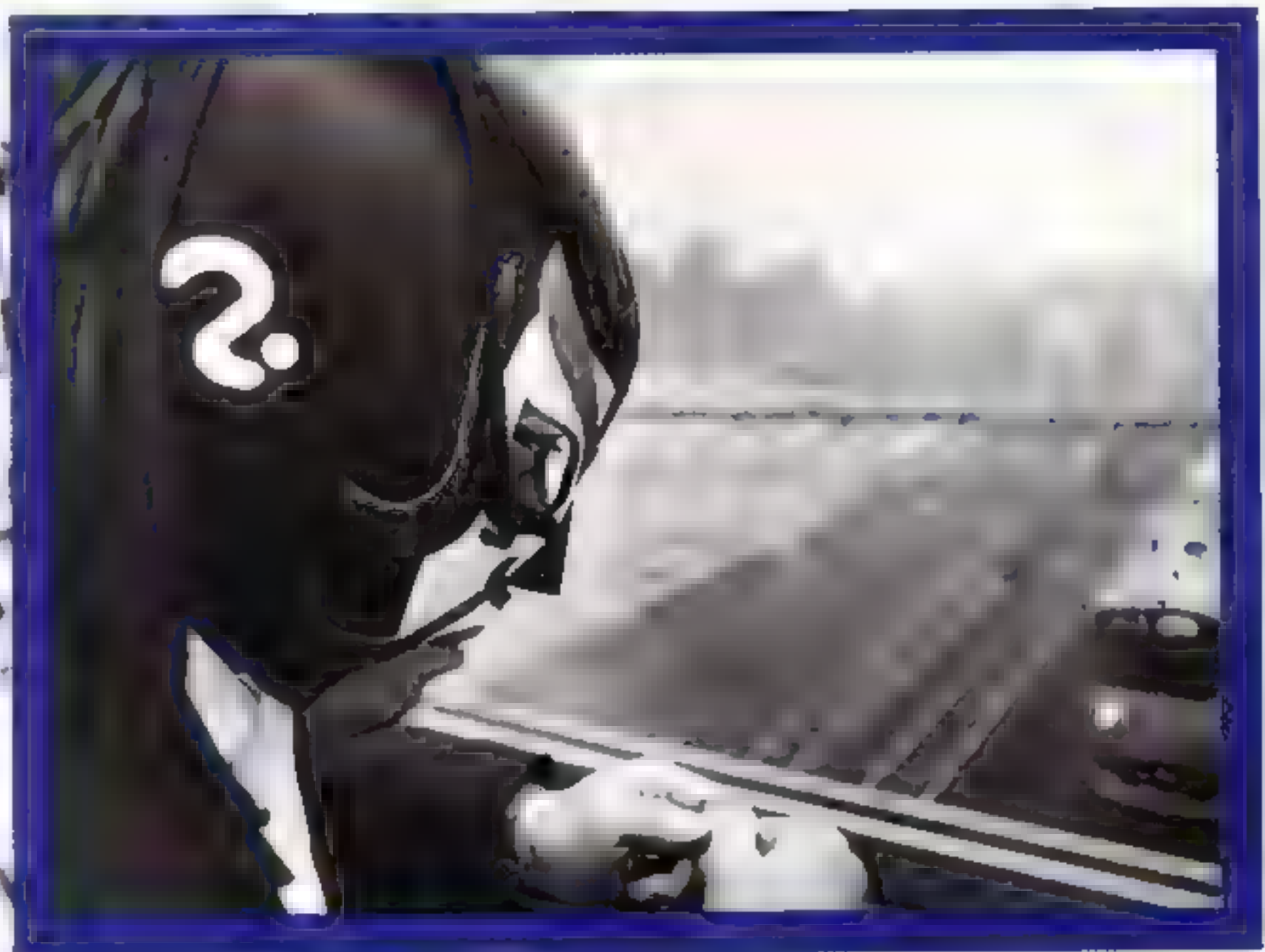
だから、いつもキョロキョロしよう。カメレオンのように右の目と左の目で違うところが見れたら一人前や。

そういう人間は微々たるもんだけどね。そういえば、格闘技界にもそういう人がいたな。カメレオン・アーミーのように鋭い人がおったたな。

脳味噌の雪解けを待つ諸君！ 相談、受け付けてやってもええで！

悩みがある人は即座に日明兄さんに相談しよう！ ただし、どんな相談に対しても寸止めなしなので、どんな答えが返ってきても編集部は責任を取りません。あしからず

さあ、勇気を持って初めての相談だ！

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3 ·702
（株）ダブルクロス 紙のプロレスRADICAL編集部
『日明兄さんのニュートラルが一番』係まで。

みちプロ経営危機の真実を
ザ・グレート・サスケが独占激白!! ①

こんな経営をしていたら 50年もつみちプロが 5年で潰れてしまう!

聞き手/山口日昇(別名・アシュリン)
interview by Noboru Yamaguchi
撮影/斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

11月末日。経営危機騒動の渦中にいるグレート・サスケ社長が上京しているという情報が入った。間髪入れずにコンタクトを取ってみると、インタビューも写真撮影も「NO!」。『紙プロ』とつきあいの長いグレートから「NO!」という言葉を聞くのは初めてである。しかし、東京の街を焦燥感と逼迫感を漂わせながら、あてどなく歩くサスケ社長を本誌は追った。まさに「撮り殺すぞ、コラァ!」という気迫を持って望遠レンズでの隠し撮りまで敢行したのである。本誌を見つけたグレートは、あまりのしつこさに閉口したのか、疲れた笑顔で重い口を開いたのだった。話をしてみると、そこには、いつものパワフルな"ガハハハ笑い"をするグレートはいなかった。

——こんな雨の中、今日はどこにいく予定だったんですか?

サスケ うーん、実は明日、朝から膝の検査があったんでね。他に仕事もあったけど、気分転換に夕暮れの東京の街でもブラブラしてみようかと思ってねぇ。

——うちのカタブツ君(34歳)なんてズル休みしたから「何してたんだ?」って聞いたんですよ。そしたら「ブラブラしてました」っていうから、「どこを?」って聞いたら、「家の中」だって。……聞いてます?

サスケ は…は…は(力ない笑い)。いや、で~も、『紙プロ』さんって意外にしつこいんですね~。他の雑誌でも今回の騒動については、しゃべるのよそうと思ってたんだけど、負けたわ、うん。なんでも聞いてください。

——あの、山一証券が潰れましたね。

サスケ ……**潰れたねー、うん。**今日も宮城のトップどころの徳陽シティ銀行、あれが 潰れちゃったしね。もう、地方銀行はバタバタ潰れるんじゃないかな。

——地方に影が落ちてますね。

サスケ (うつむいて)……**落ちてるねぇ。**

——で、地方に根ざしてやってきたみちのくは、いまホントのところはどういった状況なんですか?

サスケ ……**んー、消費者の買い控え、銀行の貸し渋り**っていうのが、そのまんまプロレス業界にも当てはまってるわけだねぇ。

——は?

サスケ だから、**プロレス見なくても生きていけるワ、と。**世間でも、高いもん買わなくても通常に暮らしていければいいワってことで、消費者が買い控えしてると。そうすると中小企業としては、もう資金繰りに参っちゃって、不良債権を恐れて銀行も貸し渋るし。**もう悪循環ですよ!** だからどんな業界でも、例えば、昨年のウィンドウズ・ブームみたいにね、家電業界が一気に盛り上がるとかね。そういう現象が起きれば全体の景気も良くなるんですよねー。でも、いまパソコン・ブームもすっかり下火で家電業界も伸び悩むどころか**落ち込んでる状態**でね……。

——ま、家電業界はともかく、みちプロの経営危機騒動に関しては、僕は正直なところ同情を買う作戦かなって思ってたんだけど、なんか最近の社長は、職を失った労務者みたいで元気ないしね。俺も社長と付き合いが長いけど、そんな姿見るの初めてだし、心のない俺までが心配になっちゃってね。

サスケ ……やっぱりね、**発端は『週刊ファイト』の報道だね。**あれが、みちプロ経営危機だと煽っちゃってねぇ。でも確かに、あの通りだったんですよね。

——え!? あの通り! じゃあ、あれは『ファイト』が流したデマじゃないんですね。

サスケ ただ、……んー、冷静に分析すると、今年に入って**急激に観客動員が東北において落ちた**と、それが一つの原因としてあると。……だけど、それは一つの原因に過ぎなくて、まだ傷口もそんなに浅くなかったんですよ。

——「深くない」じゃないんですか?

サスケ そうそうそう。頭イカれちゃったかなぁ。深くなかったんですよ。

——そういえば、すっかり忘れ去られてますけど、社長は去年の夏、頭蓋骨骨折という重傷を負いましたね。しかも脳挫傷もあった。これはいまどうなんですか?

サスケ あ、それはもう**完治**してますよ!

——ホントですか!?

サスケ してますよ、うん。**俺に言わせればね。**後遺症は3カ月ぐらいでなくなりました。**我ながら頑丈な身体**だなと思ってますよ。

——じゃあ脳味噌の中身が問題なんですね。

サスケ うん、中身はね、**忘れっぽく**なりましたね……それはあるなぁ。

——じゃあ、膝さえ完治すれば、選手としての気力は大丈夫なわけですね。

サスケ そうそう、やれる自信もやる気もあるしね。ただ、その一……**経営的にいま、ニッチもサッチもいかないん**でねぇ。

結局最後は、みちプロは無くなるんだろうなっていう本音の予感はあった

―社長は自分では、もともと経営者としての素質はあると思ってたんですか?

サスケ　俺は向いてないと思ったねえ。ただ、1年目2年目とやっていくうちに、自信はついたよね。

―その自信に足もとをすくわれたと。

サスケ　……それはあるかもしれないねぇ。それは、その通りかもしれないねぇ。

―一時期もの凄い勢いあったもんなぁ。みちプロもグレート・サスケも。

サスケ　いやぁ、そうかなあ……。それはね、『紙プロ』さんが盛り上げてくれたから。『紙プロ』さんと『週プロ』ね。

―『ゴング』は?

サスケ　ん〜、『ゴング』はイマイチだな。ターザン（山本）に持ち上げてもらったのは良かったね。その頃の勢いは良かったね。

―持ち上げられて、とことん調子に乗ってた頃に比べると、いまの元気のなさは信じられないですよ!

サスケ　あのね、ひとつ言えるのはね、みちプロを旗揚げした直後ね、**『50カ年計画』**だとか言いましたよね?

―ああ、ブチ上げてましたね。

サスケ　ねえ。でも『50カ年計画』だなんだって言いながら、**結局最後には、みちプロは無くなるんだろうなっていう本音の予感はあったんですよ。**

11.21全女のリングで勝ち名乗りを受けた（勝ったよね？）正規軍。"みちプロのサスケ"として後楽園のリングに上がるのは12.18が最後になるのだろうか!?

―え!?　どっかで諦観してたということ。

サスケ　本音の予感はあった。ただ、**それが50年で来るどころか、5年で来るとは思ってなかったねぇ……。**ただね、よくこういうこと言いますよ。同族経営の中小企業は30年で終わるって。**全女さん**がまさにそうなんですよ。30年でちょうど終わってるんですよ。

―まだ終わってないじゃないですか!

サスケ　一応、倒産というね、ひと区切りがついたじゃないですか。

―まあ、つけられたというか。

サスケ　だから、うちらは30年のところを、5年で走り去ってしまったというかね。

　このままでは50年もつみちプロが5年で終わってしまう!ってところですかね。

サスケ　ねえ。猪木さんより凄い話ですよ。でもね、俺、なんでも次の段階にステップするためには、**1回いまあるものを壊して進まないとダメ**だと思うんだよね。例えば、一般の人々でも結婚して子供がいるとする。だけど何か家庭不和があって離婚したとして、家庭がバラバラになってしまったと。でもね、そういうのも有りかなと思うんですよ。**俺に言わせればね。**それで新しい家庭を作るとかね。そういうことってあっていいと思うんですよ。それは会社に対しても言えることでね。

―人生は永遠の積木崩しですね。

サスケ　あるいは、まるっきり新しい

ものを作るとかね。僕は最近、そういうことを考えてますね。

――新しいものを作るという以前に、選手へのギャラの遅配の件はどうなんですか。

サスケ　（うつむいて）……5年目にして初めて選手に対してのギャラの遅配が発生したわけだ。（勢いよく顔を上げて）でも遅配っていっても**2週間遅れれただけ**なんですよ！　それぐらい、いままではキッチリ払ってたってことですよ。まあ、遅れることは、確かに一般社会にとっては大きいことかもしれないけど、ただ、みちプロも中小企業ですからね！　**中小企業においてはあってもおかしくないことなんですよ！　俺の理論で言えばね。**

――グレート理論で言えばね。

サスケ　ね？　ところが、**一部の選手がワーワー言い出しちゃって、**それが『ファイト』に漏れちゃったと。これが真相ですよ。そうすると、あとが大変ですよ！　マスコミさんが連鎖反応を起こして、「実際どうなんですか？」ということで、まとめて見解示さなきゃならない。それで記者会見を開いたと。で、「苦しいことは、苦しいですよ」って言いましたよね。そうしたら！　今度はうちの**メインバンクが、一連の報道記事を見て銀行口座を押さえにかかったわけ。凍結ですよ！**

――八方塞がりですね。

サスケ　ただね、口座を凍結するなんてことはあり得ないことなんですよ。だって、元は俺の金なんだから！　ねえ？　返済期日までにいままでちゃんと返してる実績はあるんですよ。そのへんが、俺の言う**銀行の貸し渋り**なんであってね。で、まず関連業者とか、イの一番に返さなくちゃいけないところに返すから、選手に遅れるんであってね。……だからあとは**12月の出稼ぎシリーズ**で、東北の10倍の利益をとにかく上げていけば、ギリギリ年を越せるんじゃないかなという気はしますね。ただ、とにかく「ちょっと組織がデカくなっちゃったな」っていうのはあるんですよ。

――は？　みちプロでデカい!?

お互い経営危機同士の絆からか11.21全女の後楽園ホールに友情参戦をはたしたみちプロ勢。全女の道場を借りてトレーニングさせてもらった恩返しだ。

サスケ　50カ年の中のまだ5年目なのにね……**まず所属選手の数が多すぎるわ。**

――へ？　いまの数で多い!?　じゃあクビにしちゃえばいいじゃないですか。

サスケ　それはそうなんですよ。だから、みんな今年いっぱいで契約切れますから、そこで見直しを図りますよ。**一部選手解雇**とかね、実際あるでしょうね。組織がデカくなってれば、売り上げもデカくなってればいいんですよ。理想的ですよね。ところが売り上げが伸びてない。ということは無駄な人間を入れてしまったということだねぇ。

――でも、その**無駄な人間**を入れたのは、社長なわけでしょ。

サスケ　まあね。でもさ、社長としては、無駄な人間とは思ってないわけだ。「コイツが何十人、何百人のお客さんを引き入れるんじゃないか」って期待をもって入れるわけだよ。ところが、**貢献どころかマイナス**になってると。これは……その、予想外ですよ。

――でも、実際問題、社長批判も最近あがってきてるわけでしょう。

サスケ　でもね、俺は面と向かって聞いたことはないしね！　俺に言わせれば、どんな小さな組織でも上司の悪口は出てくるもんですよ。だから、**俺はまあ屁とも思わねえですね!!**　で、やっぱり、みちプロの資本はサスケ・ファミリーが出してるわけよ。**だから、俺は何も言われる筋合いはねえんですよ、誰にもね。**だから、文句を言う仲間がいたら、**「悔しかったら、資本金出してみろ！」**ということですよね。究極の論理を言えば、**「みちプロは俺の好きなように運営させてもらうよ」**ということですよね。

――さすがグレート！　と叫びたいところだけどこういう状況じゃそうも言ってられないんじゃない？　レスラー・サスケ批判も内部から出てきてるでしょう。金出してるから好きなようにやるというだけじゃ、レスラーとしてあまりにも寂しいし。

サスケ　いや、ところがさ、TAKAみちのくがこの前の『紙プロ』のインタビューで**「サスケは終わった」**とかなんだか言ってるけどさ、俺に言わせりゃさ、**「オメーがまだ始まってねーじゃねぇか！」**って言いたいよ!!　じゃあ、お前の名前で何人の客が呼べるんだってね。**俺に言わせればね。**だから、今年俺が、一時期ニューヨーク行きますって言って、ち

ょっと離れてしまったと。

—みちプロが大変な時に敢えて。

サスケ　その時にお客さんがガターンと減ってしまったと。これが全ての答えでしょ。ただ、俺も本当にここまで落ち込むとは思わなかったんですよ。だから、俺は今年前半までは海援隊も強くなってるし、敵ながらあっぱれだと。「海援隊？　いいんじゃない、みちプロの中でデカイ顔して」と思ってた。と〜ころが、**俺がいなくなった途端、ガッタガタですよ！**　だから、「なんだ、みちプロ＝サスケだったんじゃねえか」と。だから俺の**好き勝手にさせてもらうし、文句も言わせないしね。**　あとは、やはり多少ギャラが遅れてもね、外に漏らしてほしくなかったというかね。**誰かが漏らしたから、**『ファイト』に出ちゃったんだから。

—でも、あるレスラーによると、8月9月からズッとギャラが滞ってると。

サスケ　うんうん、確かにそれはありますよね。ただ、それも払える範囲でちょっとずつ払ってるしね。**最後は契約通りちゃんと払うって言ってるしね。**　それでね、デルフィンが10・10の両国以降復帰して東北にも帰ってきたと。そしたら東北のお客さんがまた増えたんですよ。これは素晴らしいことだよ！　やっぱりね、**腐ってもデルフィン！**　デルフィンはスターですよ。

—腐ってもイルカと。

サスケ　そうそう。腐ってもイルカと。やはりデルフィンはスターであり、**海援隊はスターになりきれなかった男たちであると。**　まだ発展途上かもしれないけどね。でも、いま客を呼べるのはサスケとデルフィンですよ。

—でも、サスケ、デルフィン、それに海援隊と揃っても、両国は去年より1000人も客足が落ちたじゃないですか。

サスケ　（うつむいて）……**落ちたねぇ。**

—そのへんは、社長の冷静の分析によると。

サスケ　これはねぇ、**『PRIDE—1』に食われましたね！**

—前回、ウチのインタビューで「日にちが1日違いでもそれはあんまり関係ないんじゃないですか」って言ってたじゃない!!

サスケ　ん〜、言ったはいいけどねぇ……そこで**消費者の買い控え**がでてくるんですよ!!　ひと言で言えば、**プロレスバブル**が弾けたというわけですよね。プロレスファンの真理として、いい試合は全部押さえたいっていうのがあるでしょう。去年以前、あるいはバブルの絶頂期だったらね、ふたつとも見てたと思いますよ。ところが、今年ぐらいの不景気になると、さすがにファンも選んでしまったと。

—だったら、なおさら、みちプロ全体の敗北として考えないといけじゃないですか！

サスケ　（うつむいて）……**高田さんはヒクソンに負けたけど、俺は高田さんに負けたんだ**と、そういう論理だね。

—切ない三段論法ですね。

サスケ　三段論法だねー。切ないねぇ。これは、しょうがないねぇ。

—しょうがないでいいんですか!?

サスケ　いやいやいや。だから……どうしましょう？　先が見えないんだなぁ。

—そんなグレートは見たくないですね。

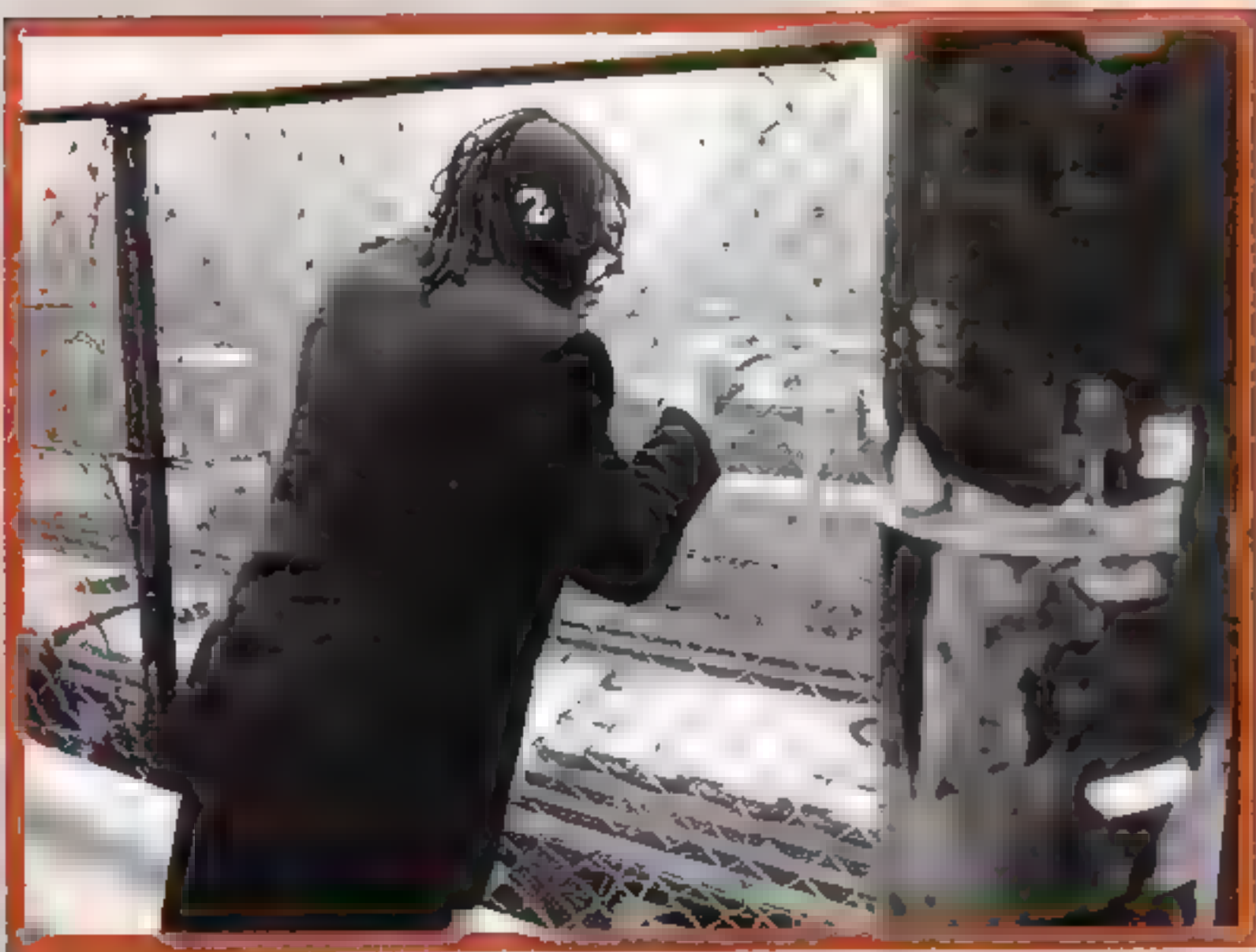
サスケ　でもレスラーとしての悩みは、いまあんまりないんですよ！　デルフィンが日に日に良くなって頑張ってくれてね。デルフィンと組んだら**選手的にはイケルかなっていう気はあるんですよ。**　例え怪我してても

俺はもう、覚悟はできてるよ！　最悪の場合、覚悟はできてる！

ね。選手としては、いま、**やる気マ**
何が悪いんじゃー」という言葉を持っ
をクローズアップしなくちゃならない
見てるお客さんは極端な話、新日本・

ね。選手としては、いま、**やる気マンマン**ですよ！

——さっき社長が、プロレスバブルと言ったけども、ズバリ言って、みちのくもそのバブルの一端だったと思ってます？

サスケ　それはね、言わしてもらうけど、ちょっと違う！　プロレスバブルが弾けた後にみちプロができたんだよ。決してウチらはプロレスバブルに

乗っかったんではないと。逆に言うと、バブルが弾けた後に、**スキ間をついたスキ間産業であり、ベンチャー企業**であると。で、2年目に大ブレイクした時に〝一人バブル〟は体験しましたよ。そこから、**俺の経営の仕方がミスった**なっていうのはありますよね。

——UWFの終焉する時期に「邪道で何が悪いんじゃー」という言葉を持って大仁田厚がスキ間をついた。その後を追従したのが、みちプロであるということですよね。

サスケ　そうだね、それは言えてるね。

——でも、大仁田厚もみちのくプロレスも、フェードアウトしかかってますよね。

サスケ　**ZENも受けなかったしね。**……やっぱり、これはヤバイよね。ZENも海援隊も受けなかった。これは寂しいね。

——『ファイト』誌上で、最近は磁場が狂いっぱなしのターザン山本が珍しく的を得たことを言っててね。「今度会う時まではアングル病を直せ」とサスケ社長にメッセージしてたやつは読みました？

サスケ　うーん……それは本当に本音の部分なんですよ。ウチらみたいな**ローカルで小さな団体**が、アングルのようなサイド・ストーリーを持ってしまったのはマズイなっていうのはあるよねぇ。

——本来ならみちプロっていうのは試合を中心にした楽しい空間で魅せる団体だったんですよね。根っこにはルチャがあって、ルチャの世界は伏線も何も知らなくても、それこそ初めて見た人でも楽しめるもんでしょう。それがいつの頃からか、サイド・ストーリーばっかりがクローズ・アップされてますよね。

サスケ　大前提として先に言っとかなきゃなんないのは、**別にサイド・ストーリーを俺らは作ってるわけじゃない**からね。ただ、そういうものをクローズアップしなくちゃならない状況になってきたと。なぜかというと、東北でいつまでも、一話完結の興行だと、東北で見てるお客さんが辛いんですよ。例えばね、月に一度、あるいは何シリーズかに一度、東京から**逆密航**してくれるファンがいっぱいいますよね。そ

ういうファンの方は一話完結で大喜びなんですよ。ただそれは、なんで面白いかというと、新日さん、全日さんと並べて見てるから面白いわけですよ。ああ、こういうのもあるんだというね。

——たまには違う食い物もいいなと。

サスケ　そうそう。ところが、東北で見てるお客さんは極端な話、新日本・全日本は見てないんですよ。**プロレスはみちプロなんですよ！**　そのお客さんたちは、いつも同じような対戦カードで、いつも同じ雰囲気だったら、それは飽きが来ますよ。だから、それに危機感を感じた海援隊の連中が決起したわけだしね。そういう意味では、海援隊は先を読んでるなって感心はしますよ。だからね、いま現状のみちプロの方向性が決して間違ってるとは思わないんですよ。ただ、いまはそれを踏まえた上で**生まれ変わる時期**かな、というのはありますよ。

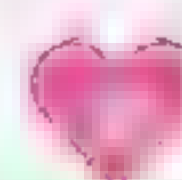
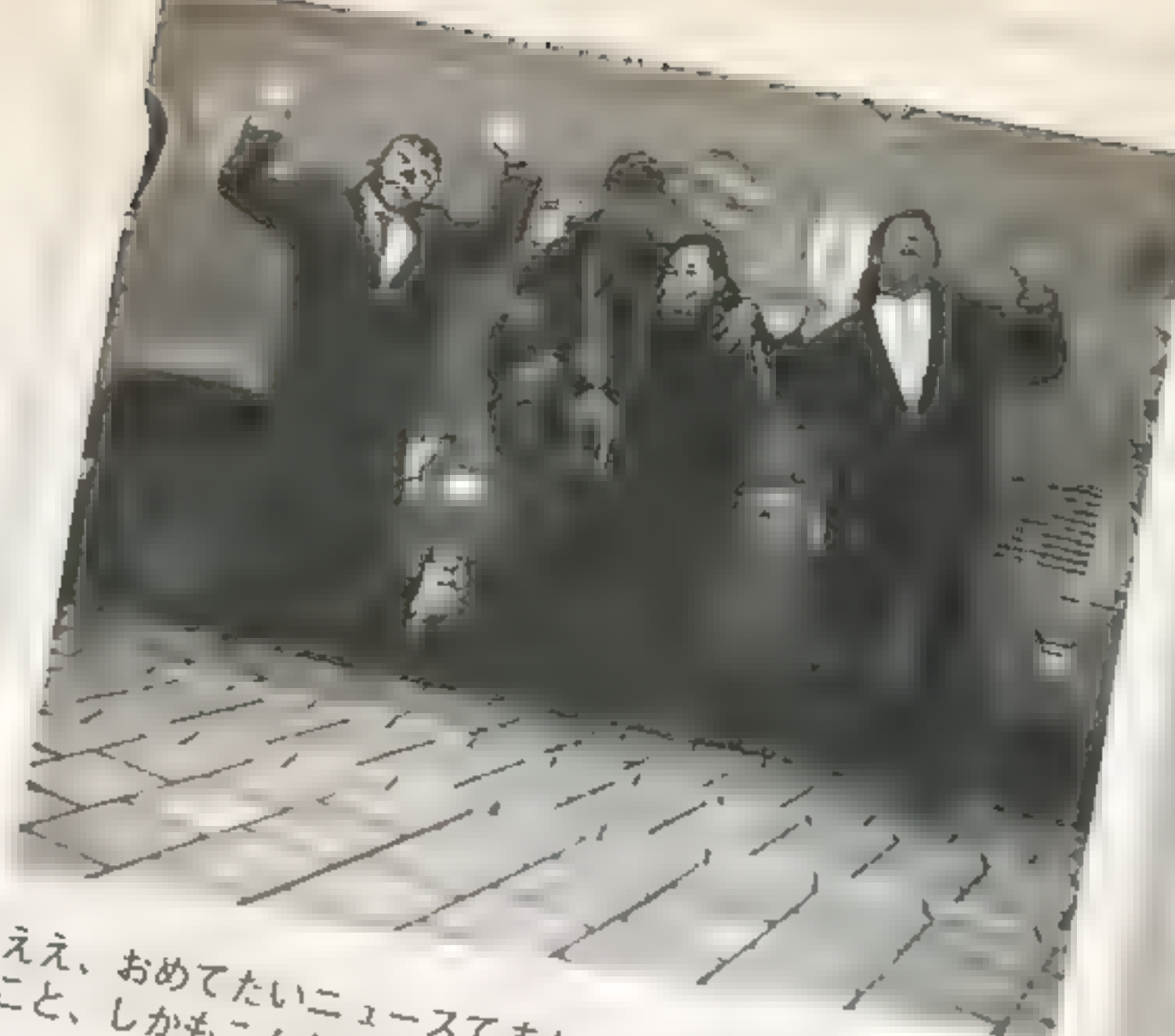
——ズバリ言って、生まれ変われるんですか？

サスケ　まあ12月次第だね。出稼ぎの結果次第だよ。そこでお客さんが判断を下すと思いますよ。みちプロがファンにとって本当に必要かどうかっていうことですよね。特に**後楽園、仙台、札幌の3連チャンで、答えが全部出る**んじゃないですか。このまんまフェードアウトするべきかどうか。

——このまんまになる可能性も非常にあると。

サスケ　**……俺はもう、（潰れてもいい）覚悟はできてるよ！**　俺ともう一人誰かいればね。瀬野でもいいよ、例えばね。最悪の場合、そっから**やり直す覚悟**はできてるよ！

はたして、みちプロはどうなるのか⁉︎
サスケの胸中激白は
P82へ続く——。

RADICAL独占
超衝撃スクープ!!
アレクサンダー大塚とのものもが
(格闘探偵団バトラーツ)
電撃結婚!!!!!!
(本誌・

紙プロのことだから、どうせ『どっきり』やろ？（デルフィン談）

ええ、おめでたいニュースですからいいんですけど、こんなこと、しかもこんなポーズとってる場合じゃ・・・

アムロの結婚＆出産よりビックリしましたよ（大ちゃん談）

我こそはキューピットと言ってはばからない2人　どっちもキューピッドって柄でも顔でもないけどね　ところでこの4ショットの意味は……？

ガンダムを見たり、プラモを作ったり、ゲームしたりと、アレクの横には常にモハメドがいたのに……。

阪神大震災よりビックリしましたよぉ〜（サスケ談）

ただ単に、両社長交えて4人で記念写真を撮るって企画だったのに、方向性かなりズレてやしませんか？

まったく世の中何が起こるかわからない！

まさに電撃射撃衝撃的な結婚劇である！

二人は去年の6月、取材を通じて知り合った。しかし、片やレスラーとしては赤マル急上昇中とはいえ、普段は「んむはぁ」しか言わないアレク。片や取材中でも「ほえ〜」としか言わない本誌の破壊嬢・のものもである。

そんな二人の間に恋愛感情が芽生える隙間など、1ミリたりともなかったはずである。

ところが！　好奇心にかけては人一倍旺盛な編集部の目のみならず、「コーション」を取ることにかけては日本一のボンジョビ島田レフェリーの目までもスリ抜けて、二人は誰も知らないところで愛を育んでいたのである。

二人が親密になったのはいつからなのか!?　道場での取材時にイタズラ好きの石川社長が無理矢理くっつけたのか？　今年のヤンジェネで優勝したアレクに、のものもが『紙プロ賞』を渡した際に、アレクがリング上で愛の告白をしたのか？　それとも、みちプロ東北ドームツアー！の際にサスケ社長が愛のキューピットでもしたというのか？　まさに謎は深まるばかりである。

当初、二人からは「誌面での発表は控えてほしい」という奥ゆかしい申し出があった。しかし、それを聞いた山口編集長は「スキャンダルを経営に結びつけられない経営者は失格だ！」というわけのわからない言葉を発して却下！　こうして、電撃発表ということになったわけである。もちろん、これは大仕掛けのギャグでもなんでもない

ゼヒ読者の皆さんも、本誌とともに二人にエールを送ってやってほしい！

それでは皆さん、いきますか〜ッ！　イーチッ、ニーッ、サン、ヨイショッ、ほえ〜！（「んむはぁ」でもよし）

おい、ホントかよ!?（ヤスカクさん談）　いや、これホント!!（芳賀玄太談）

木村健悟

～新日本魂（ストロングスタイルスピリッツ）から長州力引退まで～

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

健悟流
黒い、パンツの心意気

—健悟さんって乙女座なんですか?

健悟　そうそう、乙女座のB型。

—ボクも乙女座なんですけど、占いだと必ず「夢見がちなロマンティスト」ってことになっちゃうんですよね。

健悟　ボク、凄いロマンティストだから（キッパリ）。自分でもそう思うもん。

—こう見えても夢見がちだと（笑）。

健悟　やっぱり全ての事に関して人間は夢を見るから。例えば星空とかね。

—は？　星空ですか!?

健悟　すっごく星が綺麗なところでのんびりとしていたいタイプなんだよ。綺麗なメロディのような感じでさ。

—綺麗なメロディですか、健悟さんの得意な歌の世界で例えると（笑）。

健悟　いやぁ、ボクはバラード系とかすごく静かな音楽が好きなんだよね。歌うとなると、また違うんだけど。

—やっぱ綺麗な星は、パラオの猪木島とかで見るといいんでしょうね。

健悟　ああ～、そうですね。あと、長野県の蓼科とかだと星が手に届きそうな感じで。田舎で育ったもんだから、子供の頃にそういうの見てますからね。

—出身は愛媛県の新居浜でしたよね。あの辺りは、けっこう荒っぽい土地柄として有名だと思うんですけど。

健悟　まあ、大変ガラの悪いところで育ちましてね。そういうところで生まれた割には、すごいロマンティスト！

—やっぱり乙女座ですからね。でも子供の頃は、健悟さんも相当のワルだったって噂があるんですけど（笑）。

健悟　まあ、ごく普通の子供たちと大差はないんだろうけども、ちょっと人より多めに警察の厄介になったかな。

—ああ、ちょっとだけ（笑）。

健悟　ちょっと悪いことばっかりして、今で言ういじめっ子でね。まあ、すごい悪い感じであったことは確かですね。

—すごいワルですか（笑）。施設に入るか入らないかのところまで行ったって、古いプロレス雑誌で読みましたよ。

健悟　ボクはそういうことを何も恥じるわけじゃないけど、子供の頃に良い経験させてもらったということでね。そういう施設にも入りましたし、中学校なんか満足に入ってませんし。だから、やっぱり悪かったんだよね。

—やっぱり（笑）。一体、どんな悪事をしでかしてたんですか？

健悟　そうだねぇ。もう喧嘩もそうだし、あとはかっぱらいとかしてましたし、家出なんてのはしょっちゅうだしね。無銭飲食なんてのもやりましたし、無賃乗車でよく捕まったりとかね。

ちょっと人より多く、警察の厄介になったね。

—よく（笑）。いつ頃から健悟さんはそういう悪の道に進まれたんですか。

健悟　悪の道じゃないけど、子供の頃から自立心が強かったんだろうね。だから小学校5、6年の頃から家出をしてね。勉強が大っ嫌いで、身体だけが大きかったからね。すごいマセてたんでしょうね。大人の世界から見たら、生意気なガキに見えたんだろうけど。

—それで家出して東京を目指して？

健悟　いや、大阪目指してた。親父がアマチュアボクシングやってた関係で、小学校5、6年の頃からボクシングを教えてもらっててね。ボクシングが好きだから大阪に行って、プロレスと同じで道場に入っちゃえばなんとかなるかっていう。でも、とんでもないですよ。お金を払って練習を受けるってことを知らないでね。もう、井の中の蛙で自分の世界しか知らないでしょ。だから大変な恥を掻いていたもんですよね。

—ボクサーっていうと、お父さんも荒っぽい人だったんですか？

健悟　凄かったよ。喧嘩好きで腕っ節が強かったから、よく殴られた（笑）。

—ボクサーに（笑）。

健悟　だけど体がだんだん大きくなってくると素手じゃ追いつかないから、何でもそこにあるもので殴るの（笑）。薪でもバットでも。ひどいときは空気入れで殴られたことがある。あれで腰を殴られた時は腰が抜けたね（笑）。中学生入るか入らないかの頃かな。

—家出ばっかりしてる頃ですね。

健悟　ああ、もう悪かった頃だね。まあ、でも親父も怖かったけど、やっぱり反発心があったんだろうね。プロの世界に行きたいっていう考えは小学校5、6年頃から持ってたから。何にも思い入れがなかったもんね。勉強なんかしなくたっていいっていう。

—じゃあ、昔からまったく。

健悟　したことない（キッパリ）！

—得意なのは体育と音楽ぐらいで。

健悟　そうだねえ、音楽は得意だったんだよ。な～んかわかんないんだけど、子供の頃の通知票見たら音楽だけは成績がいいんだよ。5階段（段階？）のうちの4ぐらいは取ったからね。あと体操が4ぐらいでしょ。それ以外はイチニ、イチニでしたからね。

—それでボクサーを目指した、と。

健悟　キックボクサーを本当はやりたかったんだよね。プロレスに通じる何かがあったから。よっぽど頭が良ければ、末は博士か大臣かなんて自分でもなりたいなとは思ってたんだけど、とんでもない話で（笑）。

—それで、とりあえずボクシングのジムには行ってみたんですよね。

健悟　ええ、行きましたよぉ。だけど、職場をまず見つけてこいって言われましたね。そんなもの、小学校5、6年じゃ仕事もないもんねえ。もちろん「卒業しましたから」なんて言っちゃったけど。とんでもない話ですよ。

それから、中学にはろくに行かずに暴れ通すわけですか。

健悟　中学1年の途中から3年の途中まで、2年間ぐらい施設にいましたし。

そのきっかけっていうのは喧嘩?

健悟　もう非行ですよ。要するに、普通の世界に置いていたんじゃあどうのこうのってことなんでしょうね。

——そんなに手が付けられないぐらいのワルだったんですか（笑）。

健悟　うん（キッパリ）。かといって、悪どいことやるんじゃないんだよね。

——もっとロマンティックな（笑）。

健悟　酒を飲むわけじゃないし、女をするわけじゃないし、中学生ですからね。ボクは喧嘩でも人を半殺しにするとかじゃなくてね、自分に向かってくる者とか、ちょっと何かあったらすぐやるわけですよね。そりゃもう悪かったですよ。今でも警察に、自分の指紋と写真があるんじゃないですか（笑）。

——まだ残ってますか（笑）。

健悟　だからそれ以来、もう悪いことができなくなりましたね。

——それでボクシングから日本プロレスに入っちゃうわけですか?

健悟　いや、最初はボクシングをやっていきたかったんだけど、相撲の世界にスカウトされたんだよね。

ああ、忘れがちですけど健悟さんは相撲出身なんですよね（笑）。スカウトされるほど有名だったんですか?

健悟　そうじゃないんですよ。大阪に出てきてボクシングを目指すには、まず働き口を見つけなきゃいけない。それで腹一杯食えるところっていったら、もう出前持ちぐらいしかないでしょ。

——ボクサーはハングリーですからね。

健悟　それで仕事始めてたまたま出前に行った所が内外タイムズでね。相撲担当の人に「相撲取りにならないか?いいから、まず東京行こう。新幹線に乗せてやるから」なんて言われて。新幹線のスピードなんて想像もつかないもんでしょ。だから一度乗りたいなってことで、騙されたんですよ。

日プロに飛び込んだら先に潰れちゃいました

——騙されたんですか（笑）。

健悟　それで宮城野部屋という所に入りましてね。バンバン殴られるっていうのはある程度わかってましたけど、朝がキツいのってのは嫌ですねぇ。

——毎朝4時起きぐらいですよね。

健悟　夏場なんか4時頃でしょ。冬場でも5時近くで。それに道路歩くんだって浴衣一枚かけて裸足ですからね。冬場でもう大変な厳しい世界ですよ。裸足なんてのは、相撲取りかニワトリぐらいのもんでね（笑）。まあ、よくそこに1年半ぐらいいたもんだけど、身体がデカくならなかったんですね。

ああ、食べても太れなかったと。

健悟　あとは締め込みの結びのところで投げられると、腰椎分離症で腰が外れちゃってズレるんだよね。それで寝ちゃったら立ち上がれなくなるようなことになっちゃって、「俺には相撲って のは向かないかなー」なんて思ってね。

それで断念してプロレス入り、と。

健悟　そうだねぇ。やっぱり自分はテレビを見てて、プロレスの方がいいかな、と（笑）。その頃ボクシングはこっちに飛んでたね。この大きな体でボクシングは合わないなと思いましたよ。

——プロレスラーでは当時、どなたのファンだったんですか。

健悟　あの頃は大木金太郎さんとか猪木さんとかいたでしょう。やっぱり、すんごく猪木さんに憧れてましたよね。

——猪木さんに憧れていたのに、日本プロレスに入門しちゃうわけですか。

健悟　その頃は猪木さんが日本プロレスから出た後だから、猪木さんが新しく団体を作るだろうなという頭があったんですよ。でも大きい所に入るのと、このまま待って出来たてのまだ不安定な所に入るのとどちらがいいかって考えちゃったんですよ。それで、やっぱり老舗のところが大きいし絶対いいだろうということで日本プロレスに飛び込んだんですよね。そしたら、そっちが先に潰れちゃいましたね（笑）。

——選択を間違えましたね。（笑）

健悟　まあでも、そこで坂口征二って人と会ってね。自分の人生を良くても悪くても大きく左右したのは、やっぱり坂口さんの力ってのがあるよね。

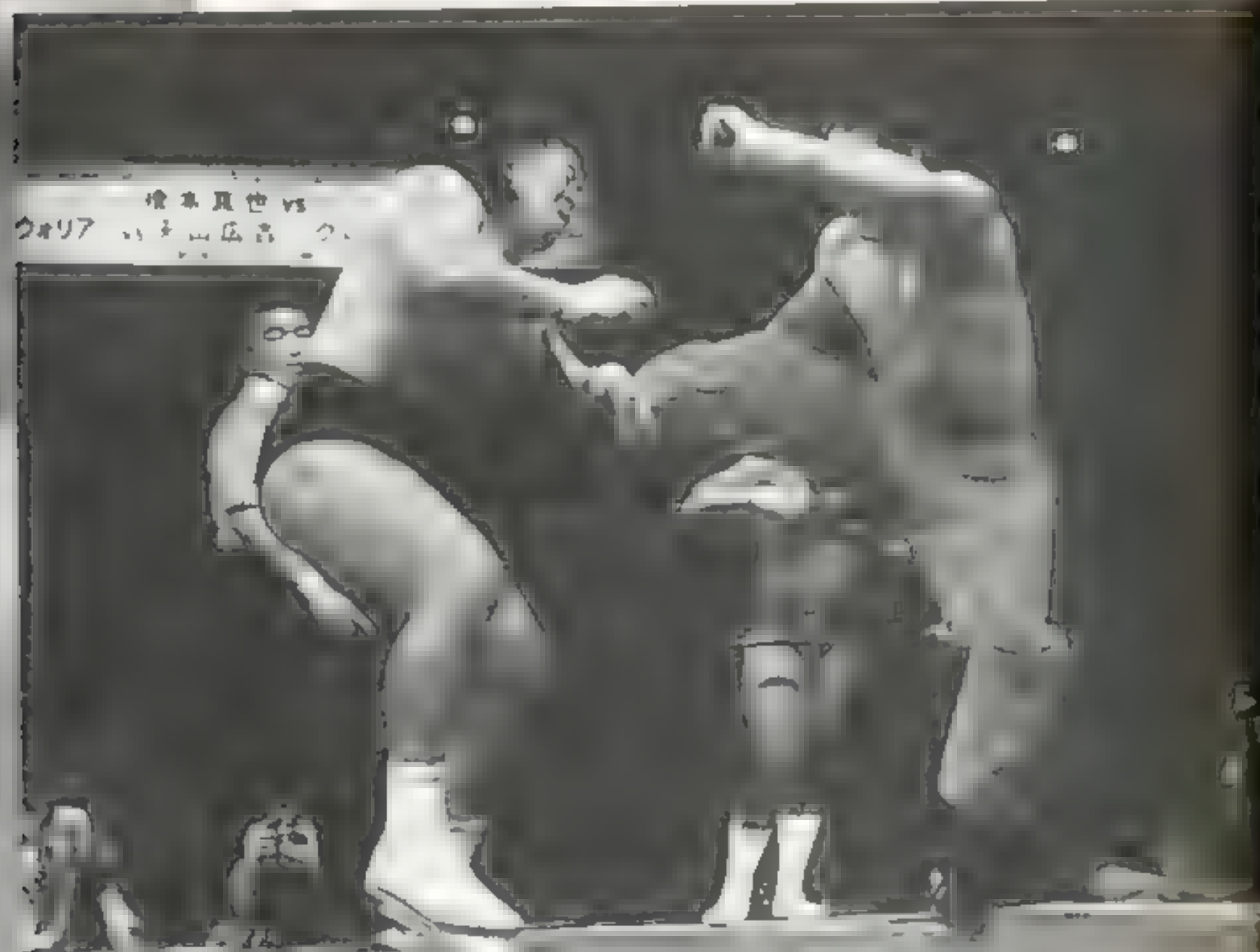
明らかに健悟さんの師匠は猪木さんというよりも坂口さんですからね。

健悟　そうだねぇ。やっぱり何があっても、あの人のことは忘れないね。

——日プロ時代から、坂口さんの付き人をされてたんですか?

健悟　そう。それでずーっときたわけでしょ、26年間。だから、やっぱり普通の人以上に思い入れがあるよね。

——で、そんな坂口さんと一緒に新日に移籍するわけですけど、健悟さん自身にも猪木さんのいる新日に行きたい

とかいう思いはあったんですか?
健悟　やっぱり坂口さんに付いていきたいってことだったよね。まだ自分はその頃18歳ぐらいだから、右か左かどっち選ぶんだって言われても自分の師匠に付いて行くしかないじゃない。だから共同運命体（運命共同体?）って感じだよね。向こうにしてみりゃ、たかが一人の新弟子って頭があるけど、こっちにしてみりゃあ絶対について行くもんだと思ってたもんね。
―その頃の健悟さんは、まだ本名の木村聖裔のままでしたよね。これって無茶苦茶珍しい名前なんですけど。

健悟　そうですねぇ。聖人の聖に末裔の裔、聖なる神の末裔ですから。この裔の字はめったに見ないですよ。新聞で年に1回見るか見ないかぐらいですから。自分で見るとビックリして、ジーッと穴が開くほど見てますけども。
―見てますか（笑）。
健悟　ええ、それぐらい珍しい字ですから、どっかのお坊さんか宗教の人かなと思っちゃいますからね（笑）。それほど親父にしてみれば、ちゃんとした子供になって欲しいという気持ちがすごいあったんでしょうね。
―それが、なぜか（笑）。
健悟　どういうわけか期待に反しちゃうから、そりゃ親父は厳しくなりますよねぇ（しみじみ）。わかりますよ。
―わかりますか（笑）。それから木村たかしになって、次は健吾、と。この名前は一体、どこから来たんですか。
健悟　これはね、ファンの人に「木村たかしでは、これからレスリングの世界では出世はしないよ」とか言われてね。調べてみたら、やっぱり健吾の方がいい。それで語呂もいいじゃないで

すか。最初は恥ずかしかったけど健吾っていうものが締まりが良くてね。

——やっぱり名前を変えたら運勢も変わるものなんですか？

健悟 あんまり、そうとは限らないけど(笑)。まあ、気持ちが多少違うしね、自分が登りたがりの時ですから、やはり変えて良かったんかなと思いますよ。

——話は戻りますが、健悟さんが新日に入られたとき、新日の若手の間とかでは「日本プロレスから来た人間に負けてたまるか！」みたいな思いがすごい強かったと聞いたんですけど。

健悟 ああ、あったでしょうね。

——藤原さんとかも、そういう気持ちでとにかく練習したっていう。

健悟 そうだねえ。やっぱり僕たちが最初に顔を合わせたときには、なんかよそ者を変な目で見るような感じで見られましたもんね。だからすごいライバル意識を持ってたんでしょうね。それがかえって、いいアレになったかもわかんないね。

長州は雑草ではないよ サラブレッド的でしょ

前座の試合なんて、最初から見たいってファンが多かったもん。俺たちの対藤原戦とか対藤波戦とか対浜田戦とか、いろんなカードがあったでしょ。だから面白かったんでしょうね。

——藤原さんと健悟さんとの試合なんて、いまでも伝説ですからね。

健悟 ですねえ。ほんとよくやりましたね。みんな1年中怪我してましたからね。だから変なあだ名が付いちゃって、ぶち壊し屋なんて言われてねえ。

——ああ、当時の健悟さんはクラッシャーって呼ばれていたんですよね(笑)。

健悟 どちらかが怪我をして、もう絶えず鼻血がでてるとかね、ボクは真っ白いタイツでしたからいつも血だらけだったね。やっぱりそれだけ活きが良かったんですよ。……懐かしいね(笑)。

——しみじみしちゃいますね(笑)。

健悟 いまはもう活きが悪くなっちゃて、目が死んじゃってるからね(笑)。

——そ、そんなことないですよ(笑)。

健悟 あの頃が懐かしいね(しみじみ)。

——まあ、元ワルでクラッシャーでって言ったら、そんなの前田さんか健悟さんかってぐらいですからね。

健悟 まあ、あれほど悪くなかったからね(笑)。アイツの方が、もっと悪かったんじゃないですか？

——やっぱり、その頃が一番ガチガチな試合やってたって感じですかね。

健悟 そうだねえ。ホントに派手な技も使えないしね、もう殴るか蹴るか、あとは基本的なことばっかりでしょ。

——当時の新日の前座って、いまも伝説になってるんですけど、本当に喧嘩一歩手前だったというか(笑)。

健悟 ホントにそのぐらいの感じでやらないと、気を抜いちゃうと、誰かが駄目になってどっか吹っ飛んじゃうとかね。意識失ったりとかね。僕の歯は、全部自分の歯なんですよ。人の歯はよくブチ抜いたりしましたけどね(笑)。

——ブチ抜きましたか(笑)。健悟さんの歯は丈夫だったんですか？

健悟 逃げ方が上手だから(笑)。多少、ボクシングが役立ってるのかもね。

——紙一重で見切ってるわけですね(笑)。その頃、闘ってて面白かった相手っていうと誰ですか。

健悟 いや、みんな楽しかったよ。その時は苦しかったけどね。今考えてみれば、浜田の試合もそうだしね、ちっこいのがちょろちょろして。それから藤原とのゴツゴツした、ガチガチした試合でしょ。藤波さんとのライバル心を剥き出しにした試合でしょ。まあ、長州は全然、別でしたけどね(キッパリ)。栗柄にしても荒川にしても、みんな面白かったですね。考えてみたら。

——やっぱり健悟さんのライバルとい

猪木が宗教風見鶏なら、健悟兄ィはタイツ風見鶏だ。白、黒、赤とフェイバリットカラーも豊富である

木村健悟

昨日の敵は今日の友。ライバルの藤波とは名コンビでもあった（しみじみ）。

うと藤波さんになるんですね。

健悟　そうですねえ。やっぱり自分がここまでこれたっていうのは、目標がいたんだよね。藤波っていうのは同じ年だけど、やっぱりレスリングの先輩だし。猪木さんと坂口さんと互いにライバル意識を剥き出しにした付き人同士でしょ。だから、すっごいラッキーだったんだよね。だから第一になくてはならないのは坂口征二だけれども、自分にとって第二っていうのは猪木さんとやっぱり藤波になっちゃうよね。

――さっき、「長州さんはちょっと違う」って言われましたけど、それはやっぱり後輩だからってことなんですか？

健悟　うん。時代もちょっと違うけど、あいつの場合はサラブレッド的な部分があったでしょ。待遇も、レスリングのチャンピオンっていうのがあったからね。ちょっとそういう若い頃の苦労はないですよね。

――ああ、雑草みたいな部分が。

健悟　あいつは雑草ではないよね。まあ、苦労はしたんだろうけど、自分たちほど苦労はしてないでしょ。それだけの恵まれた環境と素質があったからここまできたんだろうね。まあ、努力もしたんだろうけども。

――それが健悟さんに言わせれば、藤波さんと長州さんとの違いというか。

健悟　俺は藤波も天才だと思ってるしね。あんだけの動きは、やっぱり動物的な運動神経を持ってないとやれないなって。若手の頃でもやっぱり、なかなか勝てんかったもんね。年も一緒だし体力的には変わらない、こっちの方が大きいぐらいなのにどうして勝てないかっていったら、飛ぶことも走ることも何でもできたけど、それ以上に動物的な勘があったんだよね。長州にはそれがないんですよ。レスリングに関する強さっていうのはありましたけど、後はもう力でねじ伏せるっていう。

――直線的な試合しますもんね。

健悟　だから、あの二人は上手く噛み合ったんでしょう。だけど、俺と藤波とじゃ噛み合わなかったんだよね。同じようなタイプだから。だから一緒に組んでいてもどちらかが死ななきゃいけない。だけど多分、藤波と長州っていうのはお互いタイプが違うから。

――お互いに光が当たるわけですね。

健悟　だから輝いたんでしょうね。でも、俺がだから陰を見たっていうんじゃなくてね、それは努力不足だったのかもしれないし、それだけの力がなかったといえばそれまでだし。

――「俺たちの時代」と呼ばれる輪の中に、どうして健悟さんが入れないのかっていうのも不思議ですもんね。

健悟　それは要するに人気があるかないかの違いじゃないの？　どうしても藤波と長州でしょ。それで全日本でも鶴田と天龍だとかさあ、そういうふうになっちゃうの。まあ、それは代表的なことで、なにもそういうのに関して俺の名前が出ないから云々じゃなくて。……まあ、わかってくれてる人はわかってるし。どっちかっていうと地味な性格だからさ（笑）。そういう意味では損をしていることは損をしているよね。

――誰かが光ることによって。

健悟　どうしても誰かの引き立て役みたいになっていくことはあったよね。それが俺のレスリングの特色というか、試合の内容もやっぱり相手の力を出し切る、受けて受けてっていう。そういう意味では猪木さんのレスリングに似てるんだけど、猪木さんの場合は人一倍輝くところが俺と違うんだよね。

――猪木さんは、最後に美味しい所を全部持っていきますからね（笑）。

健悟　こっちは受けて受けて最後はやられちゃうんじゃ、えらい違いだからね（笑）。

※脱力ギャグを織り混ぜながら「黒いパンツの心意気」として猪木イズムをアピールする健悟兄ィ。次号では「猪木とは何か？」「坂口とは何か？」「長州とは何か？」「クーデターとは何か？」「暴動とは何か？」「UWFとは何か？」「平成の新日とは何か？」「八百長とは何か？」などについて激白しまくる！

【11月24日、後楽園ホール近辺で収録】

売り切れ店続出の為、ファンの皆様には大変ご迷惑をおかけしました。
下記のNWOサポート店でお買い求めください。

(北海道)■リングパレス■玉光堂琴似店■キクヤ(青森)■新星堂 弘前店(宮城)■新星堂 仙台店■シャス コスクラム 福島 ■新星堂 Q5郡山店(秋田 ■ミュ ジックショップササヤ(山形)■新星堂 山形駅ビル店■ミュ -シックライブラリー山形店(石川)■サンミュ ジック小松店(富山)■フクロヤ野村(新潟 ■H RASE 遊 ... 店、荒 店、五泉店、上越店、坂井店、新津店、新発田店、新発田豊町店、弥彦店、横越店、亀田店、長岡店、水原店、中条店、安田店)■新星堂(新潟丸大店、長岡駅前店)■石丸電気 新潟店■HIE'S新発田店■. 屋書店 南万代店 ■上新ディスクピア新潟■アン ネ新潟店(群馬)■新星堂 高崎店(栃木)■新星堂(カルチェ宇都宮店、小山イズミヤ店)、茨城)■新星堂(水戸店、土浦Wing店、日立ヨ カ堂店)(埼玉)■新星堂 越谷店、南越谷店、久喜店、Q5志木店、春日部ロビンソン店、入間店、深谷店)(千葉)■新星堂(千葉駅ビル店、Q5柏店)■ヤンレイ松戸店■伊藤ららぽーと■中村屋ステーションモール 東京 ■新日本プロレスリング闘魂Shop六本木店■レコスル(渋谷店、池袋店)■新星堂(国分寺丸井店、昭島店、新宿清国通店、カルチェ5新宿店、中野丸井店、荻窪店、飯田橋店、北千住店、上野店、大森店、東大和店、目黒店、吉祥寺ステーション店、武蔵境ヨーカドー店、池袋アルバ店、CDショップアポロ店、立川ボルト店)■東西書店(三鷹店、小金井店)■帝都無線 紀伊国屋店■ヤマギワソフトショップA館■石丸電気(本店、ソフトワン2F店、6号店)■山野楽器(本店、池袋パル コ店)■五番街■マイン・サウントパーク立川店(山梨)■新星堂 甲府駅ビル店(神奈川)■新星堂(ヶ境ライフ店、横浜ジョイナス店、茅ヶ崎店、小田原店 溝ノ口店)■ソフトインDo ヤマギワ横浜店■キクイチ 横浜高島屋店■タハラ本店■ミュ ジックショップ・イズミ 梶ヶ谷店(静岡)■すみや(沼津バイパス店、高台店)(長野)■新星堂 松本駅ビル店、長野駅ビル店)■平安堂(MUSIC若槻店、南千歳店、川中島店)(岐阜)■サンシ ョルティ(愛知 ■新星堂 宮店■いまじん尾張旭店 ■ヤマギワ(メルサ ナティアパ ク ■ヤマト楽器精文館■ヤンレイ名古屋店(京都)■JEUGIA四条店■ヒーバーレコード京極店(滋賀 ■JEUGIA草津店(大阪)■新星堂(守口店、なんば店)■上新ディスクピア(日本橋店、阪急三番街店、梅田店)(徳島 ■フクタレコード(高知 ■宮地無線(広島)■新星堂 広島店■テオテオ(本店、DISC City紙屋町店)(福岡)■ サウント ヒロカネ ビブレ店 ■LIMB福岡本店(大分)■新星堂 大分パル コ店■ ミューシックETO(鹿児島 ■十字屋■ミュ ジックスペ スCROSS

■通信販売をご希望の方は闘魂SHOPまで ☎03(5411)5959

お求めは全国のレコード店、書店、プロレス・ショップ及び闘魂SHOP他にてお求め下さい!

お問い合わせは:東芝EMI(株) 映像部 ☎03-5512-1749 ●ご注文についてのお問い合わせは:同 販売3部 ☎03-5512-1558

TOSHIBA EMI

紙のプロレス RADICAL

1998 no.7

おめでとう！　アレク&のものも!!
そして、悲しいかなのものも!!
キミはもうすぐバトバトの人間に
なってしまうんだね？（ウゥ…）

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

※ターザン山本の間合い地獄連載2本『ザ・ドマイナー・パワー』と「ザッツ・レスラー」は今回も新日本が載ったのとはまったく関係なく休載です。うふ。うふ。
※椎名基樹&せきしろ氏は宇宙一周の旅に出ちゃったため休載です。通だね〜。

Art Director
出田さん●San Ideta

Design／two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル／田村潔司
撮影／斉藤ユーリ
スタイリング／Kiyoshi Tamura
ヘア&メイク／Kiyoshi Tamura

※98年も元気でいきますかーっ!!
「RADICAL」は「根源的」「根本的」という意味でとらえてくれると非常に嬉しいというか!!

ヒクソンは地球の裏側からやってきた
"もうひとつのプロレス"の偉大なる王者である——。

日本プロレス界よ、敬意をもってグレイシーを潰せ!!

『鎧と剣』「熱狂と観察」——二つ、我にあり！

山口日昇

バンタムに始まり、バンタムに終わる

ジットが入り、辰吉主演のドラマはこれか

10・11 ヒクソンは、思わず見とれて

与える目的もあったらしい。

ヒクソンは最高級のプロレスラーである

バンタムに始まり、バンタムに終わる――。去る11月22日、ボクシングの辰吉丈一郎が世界バンタム級王座に返り咲いた一戦は、久々に胸躍るプロレスを見た思いだった。

試合は後半、接近してのドツキ合いの様相を呈し、場内には「大タツヨシ・コール」が巻き起こった。

「熱狂」に身を委ねてリング上の闘いを見つめるというのは実に気持ちいいものである。

そして迎えた7R！　レフェリーが試合を止め、辰吉が喜びのあまりリング上を跳ね回ると同時に、場内はまさに蜂の巣をつついたような大歓声に包まれた。

デビュー4戦目での世界王座奪取、網膜剥離、薬師寺戦での敗退、国内での試合出場停止、海外での再起、そして断崖絶壁の今回のチャレンジ――。

辰吉がそれまでに描いてきた軌跡が一瞬にして、鮮やかにリング上から立ち昇った一戦だった。

辰吉丈一郎という生き方を見事に演出してきた辰吉のセンス。

そのセンスが生み出してきた数々の偶然のドラマ。

凄絶な打ち合いというリアリティ。

「圧倒的不利」の声が多かった下馬評のなかでのタイトル奪取という鮮烈すぎるハプニングと感動。

敗れて泣き崩れてしまった、若きタイの王者のプライドを上回った勝負根性。

入場からリングを降りるまでの間に辰吉は、これだけのことを見ている者の細胞に刻み込んでしまったのだ。

しかも、最後には「つづく」というクレジットが入り、辰吉主演のドラマはこれからまた新たな展開をみせようとしているのだから、期待感は高まるばかりである。

これによって、16回連続で世界挑戦に失敗している日本ボクシング界にも光明が射し込み、復興の気運は大いに盛り上がった。

こんなプロレス的空間はいまやプロレス会場でもめったにお目にかかれるもんではない。

この日の一戦は、まさに気持ちのいいプロレスであり、やっぱり浪速のジョーは、小さな「プロレスラー」だった。

さて97年、辰吉以外にも、超一級品の「プロレスラー」としてのたたずまいをみせてくれた人間がもうひとりいる。

その名は、ヒクソン！

もちろん、10・11に東京ドームで高田延彦を破ったヒクソン・グレイシーのことである。

プロレスはエンターテインメントで、格闘技は真剣勝負。だから、まったくの別物という見方は、あまりにも窮屈なところで真面目すぎる。

競技としては別であっても、闘いを「生業」にしているというところにおいては同じである。大きな概念として捉えなければ、「プロレス」も「格闘技」もあまりにもチンケになってしまいすぎるのだ。お互いに無視できない存在であるのが「プロレス」と「プロ格闘技」であり、相手を驚異に感じれば感じるほど、近親憎悪に近い感情が湧き出てくる。

ということは、実際のプロレスも「格闘技側」に相手にされなくなったらそれこそ終わりであり、それと同じことは反対にもいえるはずである。

10・11――ヒクソンは、思わず見とれてしまうほどの〝鎧〟を着て、実に鋭利な〝剣〟を携えてリングに上がった。

鎧と剣――二つ、我にあり！

その二つの間を振り子のように、目にもつかない早さで振幅し、人々に感動を与える闘いを突き刺していく。

それが「プロレスラー」である。

その意味でいえばヒクソンは最高級のプロレスラーということになる。

では、鎧とは何か？

この間読んだ本に『破滅の美学』という本がある。

著者は笠原和夫さんという人で、『仁義なき戦い』を始め、東映の〝ドル箱〟といわれた、一連のヤクザ映画の脚本を書いていた人だ。

いまでもヤクザは嫌いだという笠原さんが、取材を通して接したヤクザの世界に生きる男達の生き様やエピソードを絡めながら、なぜ自分は「映画のつくり手」として極道の世界に惹かれていったのかということを書いたものである。

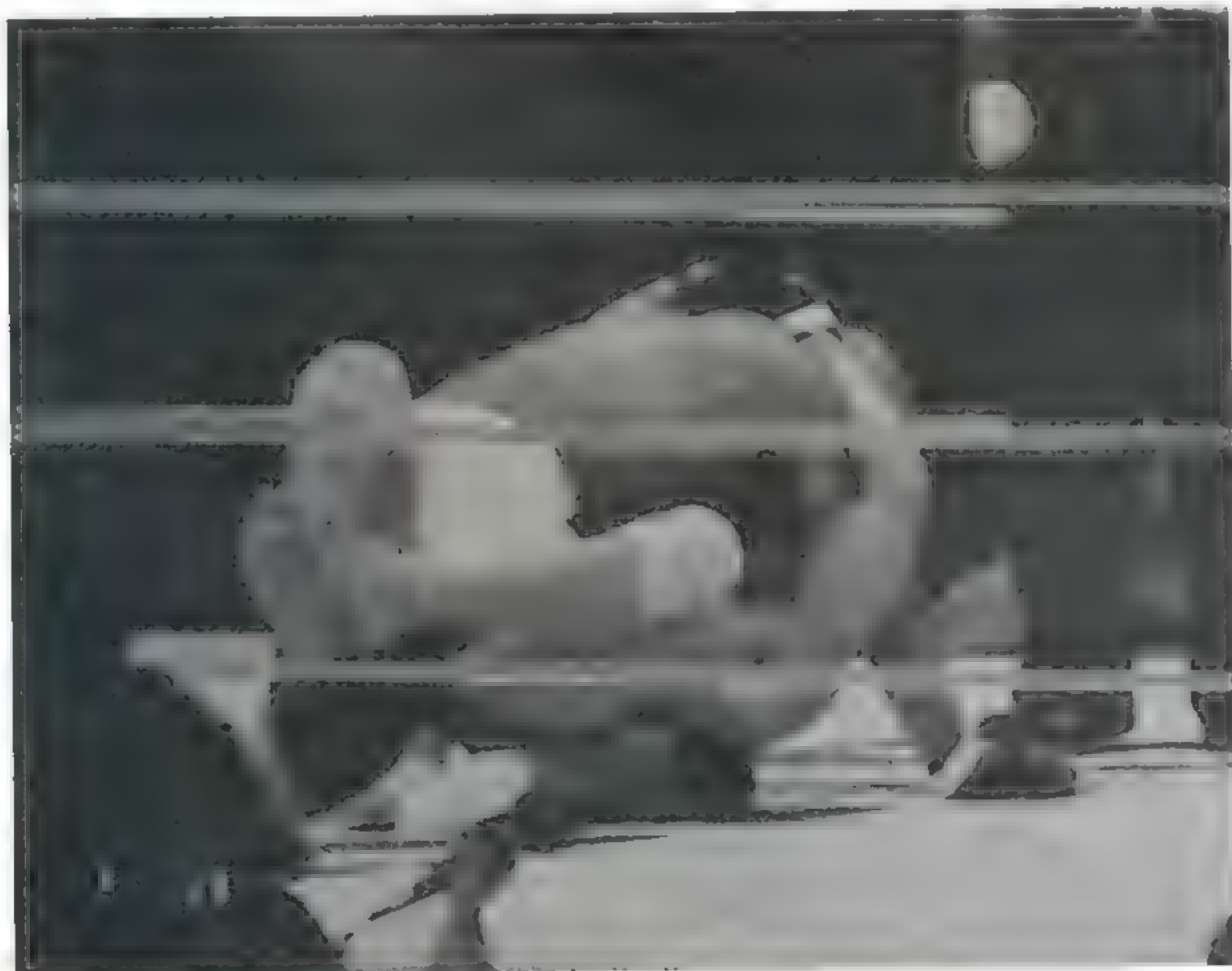
そして、全体の背骨には、「鎧」とは何か？　という壮大なテーマが貫かれていた。

その本にはこんな素敵なエピソードが書いてあった。

昭和30年代――。広島の呉に「人斬りの哲」と呼ばれた組長がいたらしい。

彼の自宅の居間には、年代もののドデカイ鎧が飾ってある。チョイとやっかいな客の場合はその居間に通して、それとなく威圧感を与える目的もあったらしい。

しかしある日、その鎧を前にして、「人斬りの哲」はしみじみと舎弟にこう語ったという。

「昼は若い衆に取り囲まれて威張っていられる。酒が入れば気も大きくなって極道くらい楽しいものはない。しかしな、夜中にひとりで煙草を吸っていると、早く堅気にならなきゃと、そればかり考えてしまう。

グレイシー柔術は地球の裏側の「裏プロレス」だ!

しかし、一度着てしまった〝鎧〟はなかなか脱げないものだ。この頃は鎧が重くなってしまって、脱ごうにも身動きできなくなってしまってるようで恐ろしくなる――」

それから間もなくして、「人斬りの哲」は銃弾五発を身体に浴び、最後まで〝極道という鎧〟を着たまま絶命したらしい。

人斬りの哲の話は、凄絶ではあるものの、どこか童話のようでもある。

しかし、鎧はなにも極道だけが着ているものではないのだ。

死期が近いというのに、机にしがみつくようにして書き続けた「作家」という鎧を着た男。

過労死するまで「企業戦士」という鎧を着続けた会社員。

「勝負師」という鎧を着て破滅へまっしぐらに進むギャンブラー。

そして「最強」という鎧を着たプロレスラー。

そういえば、力道山時代からプロレスラーは、まるでおとぎ話のように〝プロレスラーという名の鎧〟を着つづけた。

カナヅチでガンガンと手の甲を叩き空手チョップを磨き上げた力道山、前頭部で板に釘を打ちつけて額を鍛えた一本足頭突きの大木金太郎、硬球を思いきり顔面にぶつけられてもヘーゼンとしていた上田馬之助――。彼らは24時間プロレスラーであることを肝に銘じ、決して世間に対して隙を見せなかった。精神と肉体の両方を衆目に晒しながら、タフという言葉では括れないほど、まがまがしいほどに己を鍛え上げたのだ。

古き良き時代の〝プロレスラーという名の鎧〟!

彼らは例え重いと感じても、一度着た〝プロレスラーという名の鎧〟は脱げなかった。その鎧を身体と心に張り付けることによって、世間が描いている「強い・怖い・凄い」といったプロレスラーのイメージに、自分の実像を近づけようとするシンドイ作業をしてきた。

そして鎧を最後まで背負いつづけた者にしか出せない〝凄み〟というものを醸し出していたのである。

しかし、力道山が死去してからは徐々に、プラスチックで出来た鎧や、段ボールにマジックで色を塗ったようなハリボテの鎧を着て、「俺もヨロイ着てるもんね~」という顔をしたプロレスラーが時代の主流を占め始めるようになっていく。

そんな風潮に待ったをかけたのが、若き日のアントニオ猪木というわけである。

カール・ゴッチの元で、近代プロレスが錆びつかせていた、技術という名の〝剣〟をもう一度磨き直し、イザというときのために、ストロング・スタイルという名のピカピカの鞘に、その剣をしまいこんだのだ。

しかし、やがてアントニオ猪木率いる新日本プロレスも、剣をより鋭利にする作業よりも、鎧に金ラメの装飾をほどこす作業に偏っていった。

そこに、剣も研がんとね、鎧だけ磨いてね、そんなハリボテみたいにしてどうすんの! なあ? おたく問題あるよ! この業界の害虫みたいなんはテ・ッ・テ・イ・テ・キにやりますよ! と突っ込んだのがUWFという運動体だったのである。

そのヘソはもちろん前田日明である。

そしてUWFが動き出してから約15年、Uの理念に憧れてプロレスの世界に飛び込んだ若者たちは、剣をさらに鋭くしていったものの、今度は剣を研ぐことで容量が一杯になり、鎧なんて重くて邪魔なだけ、と簡単に脱ぎ捨ててしまった。現在のU系の若い選手からは、いわゆるプロレスラーの匂いは漂ってこない。

もはや、古き良き時代の〝プロレスラーという名の鎧〟などはノスタルジーでしかないというわけである。プロレスラーらしいプロレスラーが少なくなったと古いファンが感じるのも当たり前の話なのだ。

それが老舗であっても同じだ。リング上では〝プロレスラーという名の鎧〟を感じさせるレスラーでも、リングを降りればすぐに鎧を脱いでしまう。

彼らにとって、プロレスは生業ではなく、仕事なのである。

しかし、鎧を簡単に脱ぎ捨てられるプロレスラーに、凄みを見つけることは難しい。

いまや、アルティメット系の大会に出る格闘家やK―1戦士たちは、ヘタすると、プロレスラーよりもプロレスラーらしい鎧を着はじめている時代である。

本当にうかうかはしていられないのだ!

タンク・アボットなど、その過去のエピソードといい、原始的な闘い方といい、まるで力道山時代に来日した強豪ガイジンレスラーのようではないか。

さて、ヒクソンである。

彼の着ている鎧は、「グレイシー神話」であり「400戦無敗」である。その鎧は彼の心と身体にピタリと張りついている。おまけにヒクソンは〝自分の見せ方〟というのを知っている。ヒクソンであることの、あるいは人々が自分を「ヒクソン」と認知してくれるためには何をなすべきかを熟知しているのだ。

そして何よりも、鋭利な剣そのものが、すでにヒクソンの鎧となっている。

鎧と剣――二つ、ヒクソンにあり!

ヒクソンはブラジルという地球の裏側からやってきた400戦無敗の『裏プロレスラー』であり、グレイシー柔術は武道という衣を被せた『裏プロレス』なのだ！

彼らの信者たちは、グレイシー柔術はエンターテインメントをやっているわけではないとお決まりの文句をいうかもしれないが、彼らは興行というアングルを用いていないだけで、道場経営という名の形を変えた興行をしているのだ。色気のない言い方をすれば、入場料と会費の違いはあるものの、できるだけ多くの人を集めてお金を取るという点では一緒なのである。

やはり高田を応援していた人間まで虜にしてしまったヒクソンの超然としたたたずまいや、武道家然としたふるまいには唸るしかないが、ある意味ではそれも「ショーマンシップ」というものとどこかで接点をもってくるはずだ。

アメリカから輸入されてきたプロレスに日本の武道的発想を吹き込んだＵＷＦ。日本から渡った柔術をブラジル的発想で実戦化していったグレイシー柔術。

どちらもプロとしての鎧と、闘う者としての剣——その二つを追求している。

97年10月11日。高田延彦は70年もの歴史の間に研鑽されてきた「鎧と剣」に威圧され、地球の裏側からやってきた「裏プロレス」史上最強の王者になすすべなく敗れた。

ヒクソンが強いのは事実だが、その事実を突きつけられた前田日明が敢然と立ち上がったのは必然である。前田は、日本の「真プロレス」の総帥であるからだ。

日本の「真プロレス」対ブラジルの「裏プロレス」——。

「情」対「無情」

「生き残るために命を懸ける男」対「死を恐れない男」

いま、こんなに運命的な物語が始まろうとしているのに、プロレスファンは、なぜかマット界全体をどことなく醒めた視線でもって様子を伺っている。

作家の村松友視さんは、「私、プロレスの味方です」の文庫版あとがきに、「プロレスは、真面目に見てもわからない。不真面目に見ればなおわからない。どうすればいいかといえば、クソ真面目に見なければならない」と書いた後に、次のような言葉を投げかけている。

「クソ真面目にプロレスを見るということとは、徹底的に熱狂しながら徹底的に観察することであって、火傷と凍傷を同時に味わうような世界だ。しかし、火傷と凍傷が『痛い』という共通の感覚でつながるように、熱狂と観察も相似たところがあって、同時にこなすことができるような気がする」

熱狂と観察——二つ、我にあり！

熱狂と観察を同時にこなしながら、自分自身とプロレスとの関わりを考えていく。それがプロレスファンである。

プロレスファンよ、プロレスラーのせいにするな！

プロレスラーよ、プロレスファンのせいにするな！

レスラーと観客が緊張感のある勝負をしなければ、プロレス物語に「つづく」のクレジットは流れないのである！

98・1・18 PRIDE-2 カード決定！
この大会を受け入れるか、吹き飛ばすか!?
プロレス界・プロレスファンは何を考える!?

ホイス・グレイシー、日本初上陸

遂に日本初上陸をはたすホイス。どんな色気を見せてくれるだろうか

世紀の一戦、高田VSヒクソンを実現させた『PRIDE-1』に続いて、『PRIDE-2』が98年1月18日、横浜アリーナで開催される。

最注目は、ヒクソンの実弟・ホイスの日本初登場！　最近はヒクソンの陰に隠れがちだったホイスだが、オクタゴンの中で、ひとり異質な光を放っていた頃のホイスが、はたしていまだ「ホイス」なのかどうかは興味深い。

そのホイスの相手は第14回、15回のＵＦＣを連覇し、ヒクソン相手でもいけるのではないかとも言われている超実力者、マーク・ケアーに決定した。世間を巻き込むインパクトには欠けるものの、実にスリリングなカードである。

その他、10・11ではヘンゾ・グレイシー相手に善戦し「何が黒船じゃ～、何がグレイシーじゃ～！」と叫んだ慧舟会の突貫小僧・小路晃がモット柔術の雄、ジュアン・モットと対戦。同じく10・11で無効試合に終わった、Ｂ・シカティックとＲ・ホワイトの因縁の再戦。そして、リングスのリング上でバトラーツの田中稔を破った「トーナメント・オブ・Ｊ」２連覇の実績を持つ菊田早苗がヘンゾに挑むなど、格闘技ファンにとっては興味深いカードが揃った。

また、他にも隠し玉があるという噂も業界中を駆けめぐっているが、はたして最終的なラインナップはどうなるのだろうか。

本当にホイスはヒクソンの1/10の強さなのか!?　ホイスの“色気”の正体は!?　プロレスは格闘技畑の大会を無視するべきかどうか!?　プロレスファンにとっては、勝負以外にこの大会の意義をいかに見つけられるか、というのが観戦上の勝負となってくるはずだ。

1月18日、いよいよホイスの“生”をみるときがやってきた！

PRIDE-2

98年1月18日(日)
横浜アリーナ　17：00試合開始～
【対戦カード】

●ホイス・グレイシーVSマーク・ケアー
●ブランコ・シカティックVSラルフ・ホワイト
●ヘンゾ・グレイシーVS菊田早苗
●小路晃VSジュアン・モット
●その他の参戦予定選手／
マルコ・ファス、ウィリアム・ロスマーレン

※カードは12月2日時点での発表、チケットはチケットぴあ、チケットセゾン他で、12月14日一斉発売！
※問い合わせ＝ＫＲＳ　03・5464・7900

RINGS&紙プロPRESENT

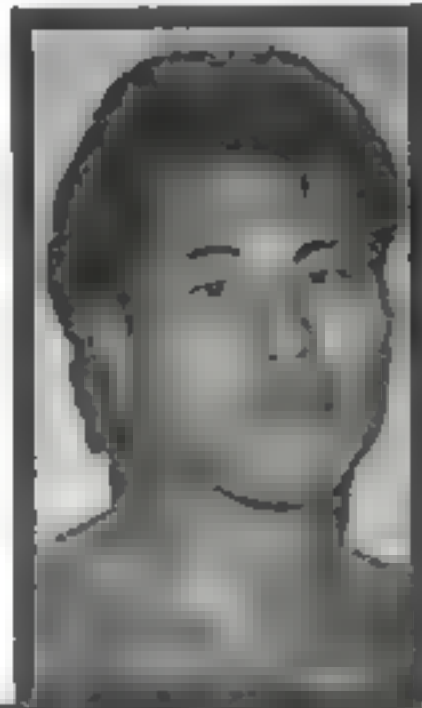
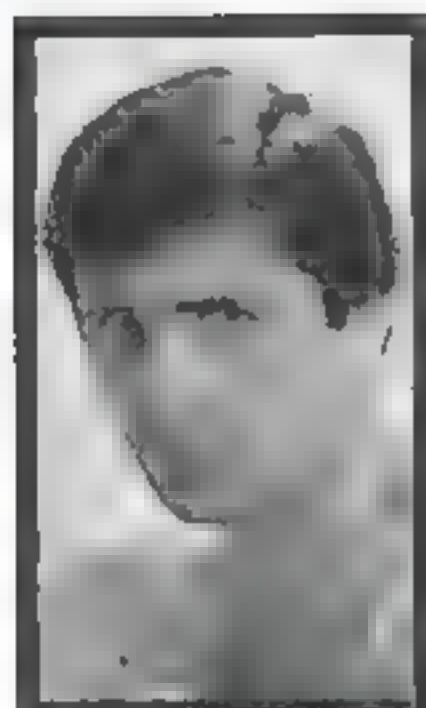
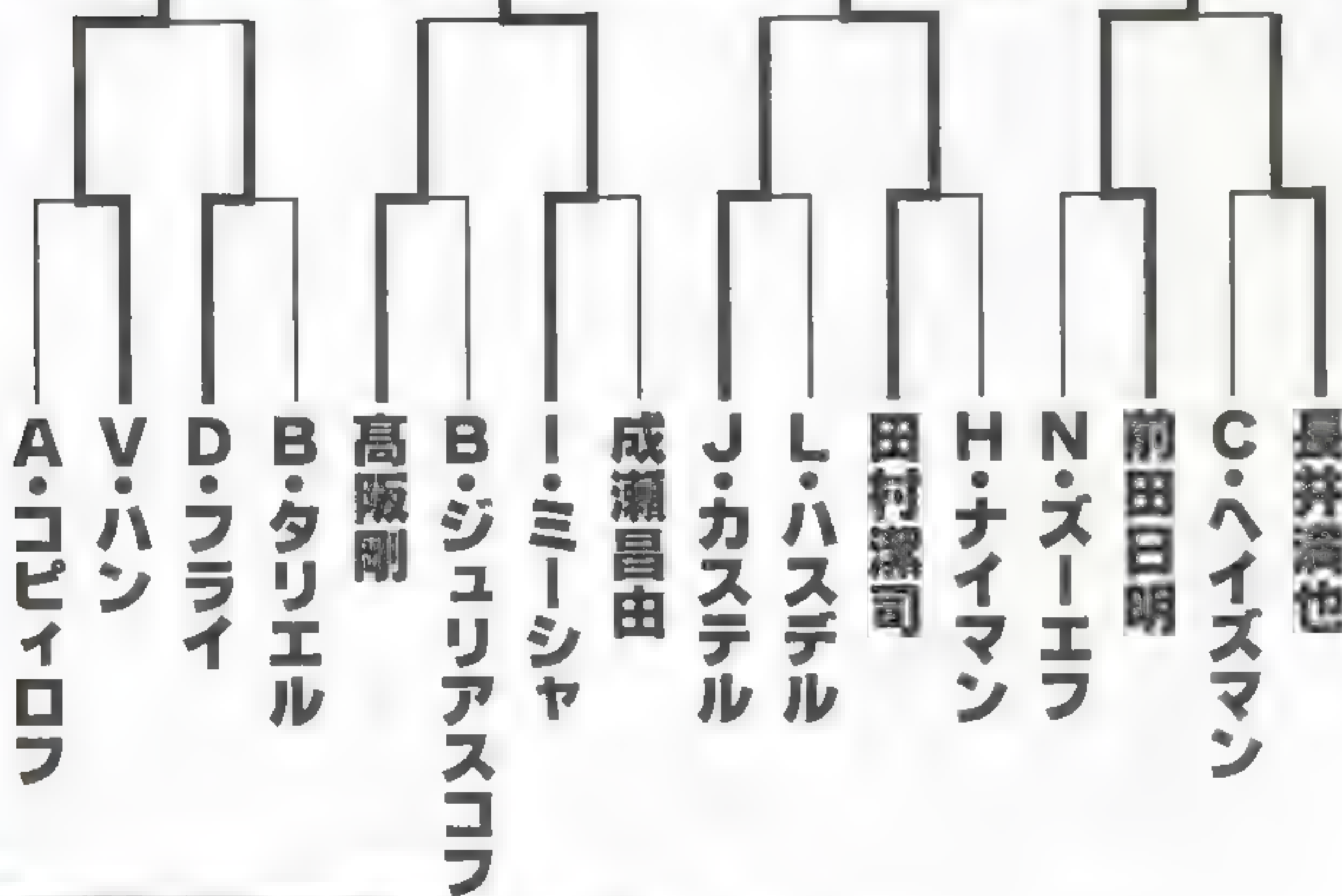
選ばれしものが98・1・21武道館の優勝戦をリングサイド最前列で観戦できる上に、『紙プロ』特派員＝バックステージ・パスをもらえちゃう!!(もしかしたら日明兄さんのデコピン付き)

『ワールド・メガバトル・トーナメント1997』優勝決定戦進出者を当てろクイズ! 途中経過報告!!

優勝

98・1・21　東京・日本武道館(18:30)

12・23　福岡国際センター(17:30)

- A・コピィロフ
- V・ハン
- D・フライ
- B・タリエル
- 髙阪剛
- B・ジュリアスコフ
- I・ミーシャ
- 成瀬昌由
- J・カステル
- L・ハステル
- 田村潔司
- H・ナイマン
- N・ズーエフ
- 前田日明
- C・ヘイズマン
- 長井満也

さて、前号で募集した"『ワールド・メガバトル・トーナメント1997』優勝決定戦進出者を当てろクイ〜ズー!"(これは長い満也)。

このウルトラクイズには応募者殺到! 凄い数ですよ(いや、これホントー)。で、前号の締切直前に、出場が決定してた山本宜久が腰の故障のために欠場ってことになって、1回ひっくり返ってまた出場するってことになって、で、また2回目のひっくり返りがあって、結局、山本は欠場でその枠には長井が入ったと(ややこしいけどわかるやろ? なあ? わかんなくてどうすんの!)。

そんでもって差し替え不能ってことで、前号のトーナメント表の1回戦枠には山本選手の名前が載ってたわけなんですが、お詫びとして(でもね、紙プロは悪くないで! 悪いのはリングスや! でしょ!)山本選手の優勝決定戦進出を予想した全員の中から抽選で3名様に山本選手のサイン色紙を差し上げます(いや、これもホントー)。

で、まだ完璧に集計したわけじゃないんでハッキリとは言いかねますが、決勝戦予想で多いのは、「前田vsハン」「前田vs髙阪」「田村vsハン」「田村vs髙阪」などです。ズバリ言って正解者が多く出そうなので、12・23福岡での準決勝終了後に、リングス公認レフェリー・島田裕二氏立ち会いのもと厳正なる抽選を行い、当選者にはすぐさま間髪入れずにお知らせします!(連絡は来年になるかもなので、アセらず待つように)。

当選者は、決勝戦をリングサイド1列目で観戦でき(席は違うけどペアで入場可)、「紙プロ」特派員としてバックステージ・パスを進呈! ナマの選手に会わせたるで!

もちろんこの模様は次号で報告します!

はたして、準決勝の前田vs田村の勝者は? その前に日明兄さんは出場できるのか? リングスとは何ぞや? などなどを考え、ワクワクドキドキしながら、準決勝&決勝の日を待ちましょう! では、アディオス!!

いまのとこ生き残ってる人名簿

兵庫県・三野広之／埼玉県・中川雅博／中野区・今井秀典／川崎市・大槻利幸／尼崎市・渡久地信行／秋田県・青木美樹子／世田谷区・巴明日香／群馬県・大泉秀明／埼玉県・田中聡／富山市・和泉弘昌／宮崎市・寺本裕／沖縄県・本村克也／練馬区・山本修司／青梅市・玉川薫／川崎市・建野友保／豊島区・斎藤幸代／北海道・稲垣真弓／世田谷区・梶原禎子　他多数

読者が書く 10・11 その後の書!!

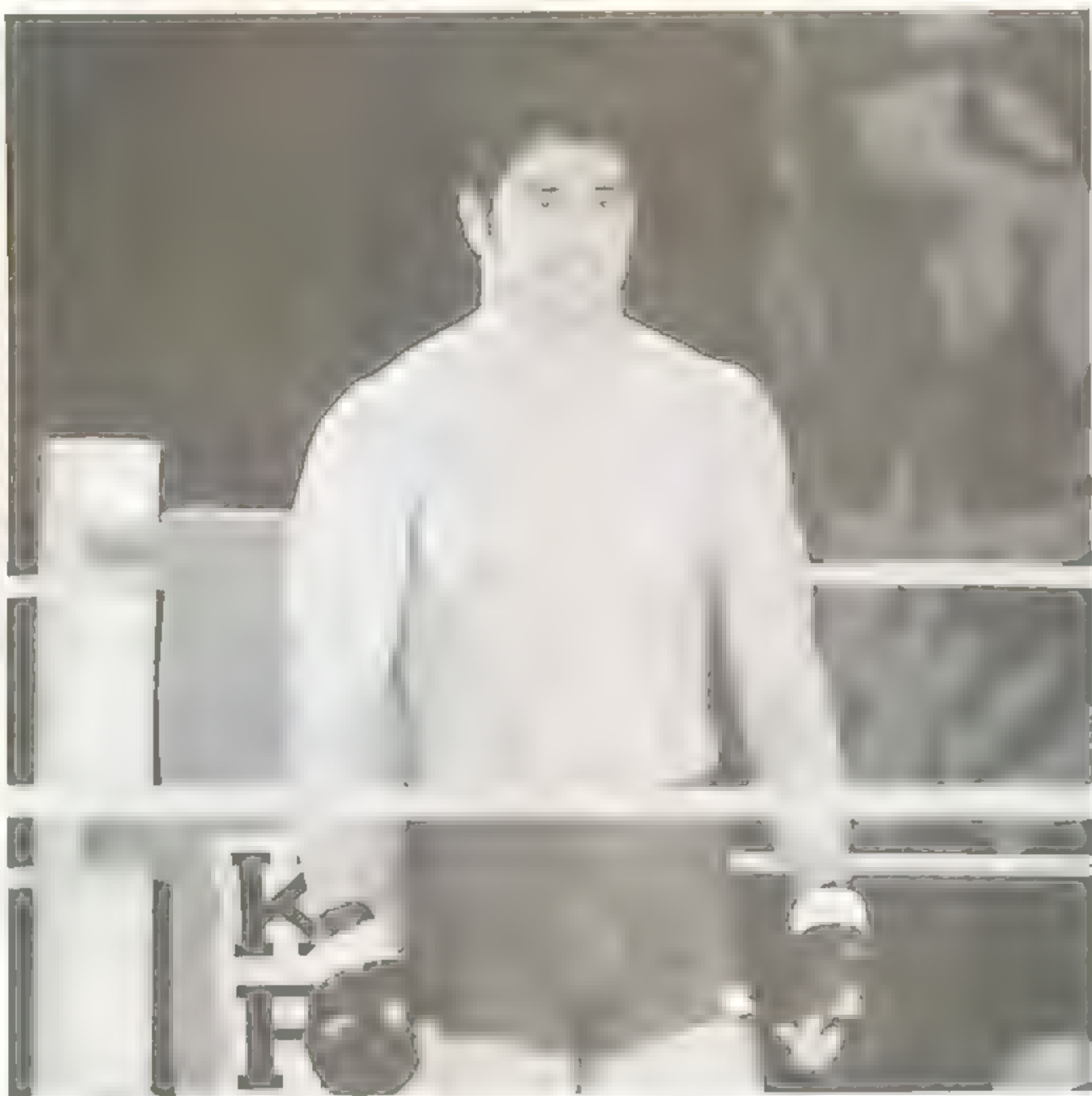
高田VSヒクソン

書き倒しゃあいいんだよ! 書き倒しゃあ!!

前号にて『高田VSヒクソン戦、その周辺で考えたこと』っちゅーことで論文または作文を募集したところ、ものすごい量の封筒が届く届く。きっと「掲載された方には超ビッグなプレゼント有り」——というひと言に釣られたんでしょう。読者というのは実に強欲ですね。ってそんなわけはなく、やはり「10・11」はファンの間に大きな波紋を投げかけ、その波紋は、いまだにファンの脳味噌を掻き回し続けてるということでありましょう。来たものはどれもこれも楽しんだり考えたりしながら読めましたが、専門誌の記事を真似したようなもの、どこかで読んだようなものはバサッと切り捨てました。ズバリ言って、キミたちはファンであっても専門家じゃねえんです! つまり選考基準は、理不尽なほど熱かったり笑えたりの、ファンという立場でしか書けないもの、ファン魂を感じさせるものっちゅーことですね。

（掲載した文章はすべて原文ママです）

読者が書く！その後の10・11!!

山口日昇賞

千葉県

武田維弦

10月11日に東京ドームで、ヒクソン・グレイシーと戦ったのは誰だったか——。高田延彦である。では、高田の肩書きは何であったか——。プロレスラーである。

全く当たり前の話ではあるが、なぜか引っかかる。あの日、ヒクソンと対峙した高田は、〝プロレスラー〟と、〝ヒクソンと戦う男〟との間で浮遊していた。

プロレスラーと小学生男子は、ある一点、非常に通じる物がある。

小学生の頃、やたらと高いところから飛び降りた。そうすることで自分に向けられる、仲間の驚きと尊敬の視線がほしかったからだ。そして仲間内で高さを競い、エスカレートしていく。鉄棒、家の塀、校庭の木、ベランダ…。どこから飛び降りても、平気な顔をしなければならない。それは、自分と相手の「意地のはりあい」だった。

大人になるにつれて、それは、「なんであんな事…」と笑い話になる。

しかし、プロレスラーは、今だに、「意地のはりあい」を繰り返す人間達なのだ。ただ違うのは、その意地が、「技術を内包した意地」だと言うことであろう。

10月11日を迎えるまで、高田はあらゆる方法で技術を磨いた。しかし、ゴングが鳴った瞬間、その技術は、意地をまとっていなかった。〝プロレスラー、高田延彦〟と、〝ヒクソンと戦う男、高田延彦〟との間で浮遊した高田延彦は、後者を選んだ。そして、「あの試合」を経て、「あの結果」に至る。

ヒクソンは、グレイシー柔術の使い手以外の何者でもなかった。今まででずっと、そうだったように、である。高田は、それまでずっとプロレスラーだったが、あの日のリング上は、そうでなかった。そうなると、長年、培ってきたヒクソンの技術に対抗するのは、僅か数カ月の、ヒクソン戦のための技術だけである。追いつけない。追いつけるはずがなかった。

プライドとは〝誇り〟である。誇りがなければ、意地ははれない。

もし、再戦のチャンスがあるならば、高田には「プロレスラー」であってほしい。「技術を内包した意地」をもって戦ってほしい。これは、他のレスラーにも、望みたいのだ。そうでなければ、もし戦っても〝プロレス勝利〟という言葉は、嘘臭くて、とても使えない。それとも、「プロレスにプライドが持てない」高田延彦は、10月11日のリング上で、すでに大人となってしまったのか。そして、「プロレス」を、笑い話にしてしまうのだろうか——。

P.S.
じゃあ沖縄行きますんで。

●選考寸評

●この人、実は17歳の女の子です。でも「17歳の女の子」というところに惹かれたわけではなく（いや、これホント）、「17歳の女の子」が意地を張って書いてるところに惹かれました。読み終わると、ボクも「意地を張りたい」と熱くなり、と同時に脳味噌と心が洗われたような気がしたのです。かしこ。

読者が書く！その後の10・11!!

[illegible]賞

愛知県

武上康夫

『高田VSヒクソン戦を考察して』

【第一章】

高田の完敗の一番の理由は、高田がバーリトゥードをしようと思ったためたと思う

やはりヒクソンはバーリトゥードのプロ。

それを高田が僅かな時間の中で真似をしても通用しなかったのだと思う。

ただ、このまま引き下がってはいけない。

しかしグレイシーには長い歴史があある

そのためプロレス側としてはグレイシーの歴史に対抗するために、やっぱり日明兄さんが叫んだようにUWFを再結成してお互いに技術交流するべきである。

ただ、パンクラスは仲間にしない。なぜなら彼らは卑怯で日本語が不自由な内弁慶小僧たから。

しかし、パンクラスを含まないとなると、いまいち組織としては大きくならない。

そこで第3次UWFは世界格闘技連盟と結託するのである。

（ここから妄想世界へ突入）

ここでUWF連盟、略称Uリーグが誕生する

【第二章】

太陽の光が眩しくなってきた今日この頃。Uリーグの面々はいつものようにチャンコの後の美味しいケーキを食べながら、ヒクソン退治の方法を討論していた。昔は様々な事でモメていた彼らだが今は目標が一つのため皆仲良く、平和であった。

しかし嵐は当然やって来た。

前田がある日、佐山のケーキを食べてしまったのである。前田にしてみれば6つあるケーキの1つを食べたにすぎない。しかし佐山は激怒。前田も逆ギレして「佐山はコトナだ！」と言いだす　当然猪木も口を出し「クイックキック・リーVSサミー・リーでやれ〜」と言いだす始末。

前田にしてみればモメなくてもいい話をモメるようにしているだけだ。しかも前田には高橋君、安生君じゃなくて安西君、宍倉君といった害虫をブチ殺さなくてはいけないので佐

山にはつきあうことができないんです。そうでしょう？　ねえ？　思いません？

しかし佐山は自分より大きな奴がケーキを食べた事が許せないのでシュートで決着をつけようと言ってきかない。そこで登場するのが小川直也である。

小川は常々佐山に反感を抱いていた。いろいろ気に入らないことがあったが、小川がどうしても許せないのは"オーちゃん"と呼ばれる事であった。オバQじゃないんだから。

ボーゴの様に好きな言葉が『お化け』といった生き甲斐を捨てたハングリーガイじゃない小川はここで前田側につき、前田の代わりで佐山とデスマッチではなく闘魂列伝2で決闘、そして見事勝利。小川の強さを知った前田はヒクソンと戦うことを小川に譲る。小川vsヒクソン戦は卍固めで小川の勝ち。その後Uリーグは他団体を制圧。こうして小川はユセフ・トルコの言うように第2の力道山になり、日本のプロレスを一つにしたのである。めでたしめでたし。

◉選考寸評

●先日発掘したばかりの話だが、グリコ・森永事件に揺れていた頃、なぜか旧UWF道場に「かい人21面相」から脅迫状が届いたことがあったという。「佐山さんへ。あんたの大好きなケーキに毒入れた。子供の夢を壊さんためにも、ケーキ止めて痩せなあかんで」

マット界に衝撃走る！　かと思えば、その大阪弁であっさり犯人は日明兄さんだとバレたそうである　はあ。

それを思えば、武上君が書いたようなことだって現実に起こりうるのだ！

プロレスへの愛を『紙プロ』的悪質センスで包んだこの原稿、合格です！

ちなみに加藤賢宗先生自ら投稿してくれた作品も面白かったんですが、長すぎるとの理由で落とされちゃいました。読者が勝手に送ってきた鈴木健ちゃん（キングダム）の、高田敗戦に落ち込むファンへ個人的に送ったラブリーな手紙もやたら熱くて最高でした。

のものも賞

愛知県 原田幸治（32歳）

『能対歌舞伎の如く』

高田延彦は舞いで踊れなかった。それはそうだ、そこは歌舞伎の舞台ではなかった。

ヒクソン・グレイシーは、いつもの如く、自分の舞台で踊っていた。

そこは、いつもの能楽堂だった。

歌舞伎において名優であるためには、踊りのステップ、振り付けはもちろん、観客に対してのアピールの仕方をマスターする必要がある。

ここ20年の日本での一番の踊り手は、初代「アントニオ猪木」であると思う。

今日は弟子の高田の出番であった。

対するは、ヒクソン。舞台は、東京ドーム。私は、最初の舞台から観たが、それは、私の望んでいたものではなかった。

私は、歌舞伎と思っていて、実は能の舞台に来てしまったのだ。

能はそもそも観客不在である。

踊り手は、神と「ひとつ」になり、踊るだけであった。能楽堂の控の間から舞台に渡る道（橋）は、現世から幽境への通路であった。

ヒクソンはその道を確実に渡った。

高田は渡れなかった。

歌舞伎役者にとって、道は、客に対して見栄をきるところであったのだから。

ヒクソンが、今後もし破れることがあるとしたら、本当の歌舞伎の舞台に呼び寄せるしかない。

一度歌舞伎の舞台を教示することだ。

◉選考寸評

●本文読まずに堅物（カタブツ君のことじゃないよ）っぽいタイトルで決めました。いま、やっと本文読みました。感想？　タイプじゃないけどハンサムだねぇって感じ。ンムフフフ……。

読者が書く！その後の10・11!!

読者が書く！その後の10・11!!
坂井ノブ賞
熊本市
坂下敏郎

『樹海でポン…』

オレは昨日まで観戦歴4年だと思っていたが、ゴングの増刊『女子プロレスの40年』を読んで調べてみたら、まだ3年しか経っていなかった。プロレスに興味を抱いたきっかけが、例の横浜アリーナでの北斗・神取戦だから、当然オレにとっての内なるカリスマは、アントニオ猪木でも前田日明でもなく、ましてやアポロ菅原などでもない。全女の出戻り娘(?)、シルバー・ベル・ドリーム店主、そう…北斗晶その人なのだ。で、どうしてこんな勘違いをしたかと言うと、それはやはり、プロレス界の流れが早いと言う事なのだ。

観戦数の少ない私でさえコレなのだから、首都圏に住み、プロレス興行に足繁く通ってる人等は、もっと大きな勘違いを犯しているのではないだろうか？　花くまゆうさく氏の、このところのコメントを読んでいると、明らかに格闘技インポテンツ症候群に悩まされているかのようである。でも、ある種観戦するたびに、若いエキスをレスラー達に吸い取られてしまうのは自業自得なのだ。だから、J'dのファンに老け顔が多いのは、そのエキスをジャガー横田に吸い取られていると言う噂が信憑性を帯びてくるのである。なんかスゴイ前フリになったが、これは本題とは一切関係のない話だ。女子プロ・ファンの与太話と思って、全て忘れてほしい。樹海に入ってみよう…。

まず、ヒクソンは最強なのかと言う問いに答えたい。私は、彼は最強を誇るには不充分であるように思えるのだ。「何故？」と、彼が問うなら、私はあえて、こう提言する。「真の最強を謳うなら、全女の堀田を倒してからにしろ！」と。

無理ならば、グンダレンコでもイイ。いやマジで。オレは高田よりグンダレンコの方が、もしかしたらヒクソンに勝てるような気がしていたのだ。大方のマスコミは、高田の敗戦をプロレスの敗戦のように喧伝していたが、あまりにも早漏…いや、早計ではないだろうか…。高田はプロレスラーではあるけれど、どちらかと言うとU系のレスラーだろ!?

正確に表現するなら、"Uの敗戦"とした方が、私には納得できるのだが…。ま、高田の負けは仕方ないとしても、試合後の高田の対応は、およそプロのレスラーらしくなかった。では、どこが、どうイケなかったのか、女子プロ観戦歴3年の私から、ちょっと生意気だが言わせてもらいたい。まず、試合後も仰臥したままマットに寝ていたのはまずかったように思う。なんか、初めて床入りした女郎みたいで、パンクラスの船木じゃないが、私にはその時、悲しい浄瑠璃の音色が聞こえてきたような気がしたのだ。あそこは、ほぼヒクソンと同時に立ち上がり、彼に再戦を乞うべきであった。高田がやらなかったので、チャクリキ・ジムのジイさんがやってたけど、本来ならキングダムの誰かがやるべきだったのだ。それをやらないから前田日明がやっただけで、闘う姿勢さえ見せる事の出来ないファイターは、ただのサラリーマンにしか私には見えない。とにかく、高田はあまりにも大きな"負のイメージ"を背負い込んでしまった。死んだつもりで格闘技と対峙しない事には、再び浮上するのは困難であるように思う。私が高田を尊敬するのは、リング上での戦い以外、一切のプロレス的ギミックを否定している点にある。あの時、たとえばマイクを掴み「どうでしたか、お客さん!?」とか、「明日また生きるぞ！」みたいな逃げ道を作れば、彼も彼の所属するキングダムも、あそこまで重い十字架を背負わなくて済んだような気がするのだが、高田は正面からヒクソン敗戦を受けとめてしまった。

まるで、そうする事が義務であるかのように…。ここに、高田延彦の実像が在るのだ。高田の敗戦は、オレには他人事だったが、それでも涙が溢れてくるのを禁じ得なかった。勝つ事で感動させてくれるレスラーもいれば、高田のように、あまりにもリスクの大きい戦いに挑む勇気で感動させてくれるレスラーもいていいのではないだろうか？　こんないたいけなファンの心を知ってか知らずか、試合後シャワーを浴び控室から出てきた高田は、一層爽やかさを際立たせていたっちゃあ、いたのだが…。今大会を主催したKRSは、ターザン山本のインタビューの中で、B・M社の"夢の懸け橋"に触発されたように語っていたが、高田クラスを引っ張り出しての一夜完結興行は、プロレス・ファンの立場からすると、すごく罪深い事をしたように映る。

プロレス界全体を敵に回したというか、もっとプロレスに対しての愛情とは言わないまでも、配慮が欲しかったような気がする。

前田日明が、KRSの連中に対し怒りを表わにしていたが、プロレスで飯を喰っている以上、当然の行為である。オレが彼等の立場なら、彼等の四倍の収益を上げてみせる事が出来る。オレなら、今回のドーム大会は、あくまでもヒクソンと安生の"リベンジ・マッチ"から立ち上げていただろう。"安生で観客が集まるだろうか？"と思うむきもあるが、私の試算では充分イケると出た。(どういう試算なのか聞かないでくれ…) ただ、この日入場してきた安生の手には、生ダコが握られていたりする。島田レフリーとの口論になるが、結局生ダコはヒクソンの頭の上に乗っけられ、両者のセコンド陣がリング内に介入して、ゴング前よりヒート・アップ。

事態が収束に向かったところで、改めて試合開始のゴング。結果、1R4分28秒でレフリー・ストップにより、ヒクソンの判定勝ち。レフリーの裁定は、"安生の顔面のダメージがヒドかったので…"としたが、これにキングダム側が猛反発。"安生の顔がヒドイのは生まれつきだ！"と抗議するも裁定は変わらず、二ヶ月後の大阪ドームで、新たな挑戦者として高田延彦がヒクソンに対戦をアッピール。ヒクソン側も、これを受諾した。

結果、4分48秒で高田敗れる。しかし、高田は試合後の会見で、「プロレスならオレは負けない！」との発言に、ヒクソン陣営は激怒、次なる東京ドームではヒクソンがプロレスで高田に挑戦した。結果、ラ・マヒストラルからの一瞬の体固めにより、1R1分57秒高田の勝利になるも、ヒクソン側から3カウント入ってなかったとレフリーのトミー蘭に抗議が出て、次の名古屋ドームでは完全決着戦だと言って勝手にヒクソンが興業を仕切ってしまうのだ。そんな重要な記者会見も、地理にうといヒクソン側は、上野の西郷どんの銅像の前でやってしまったからサアー大変！

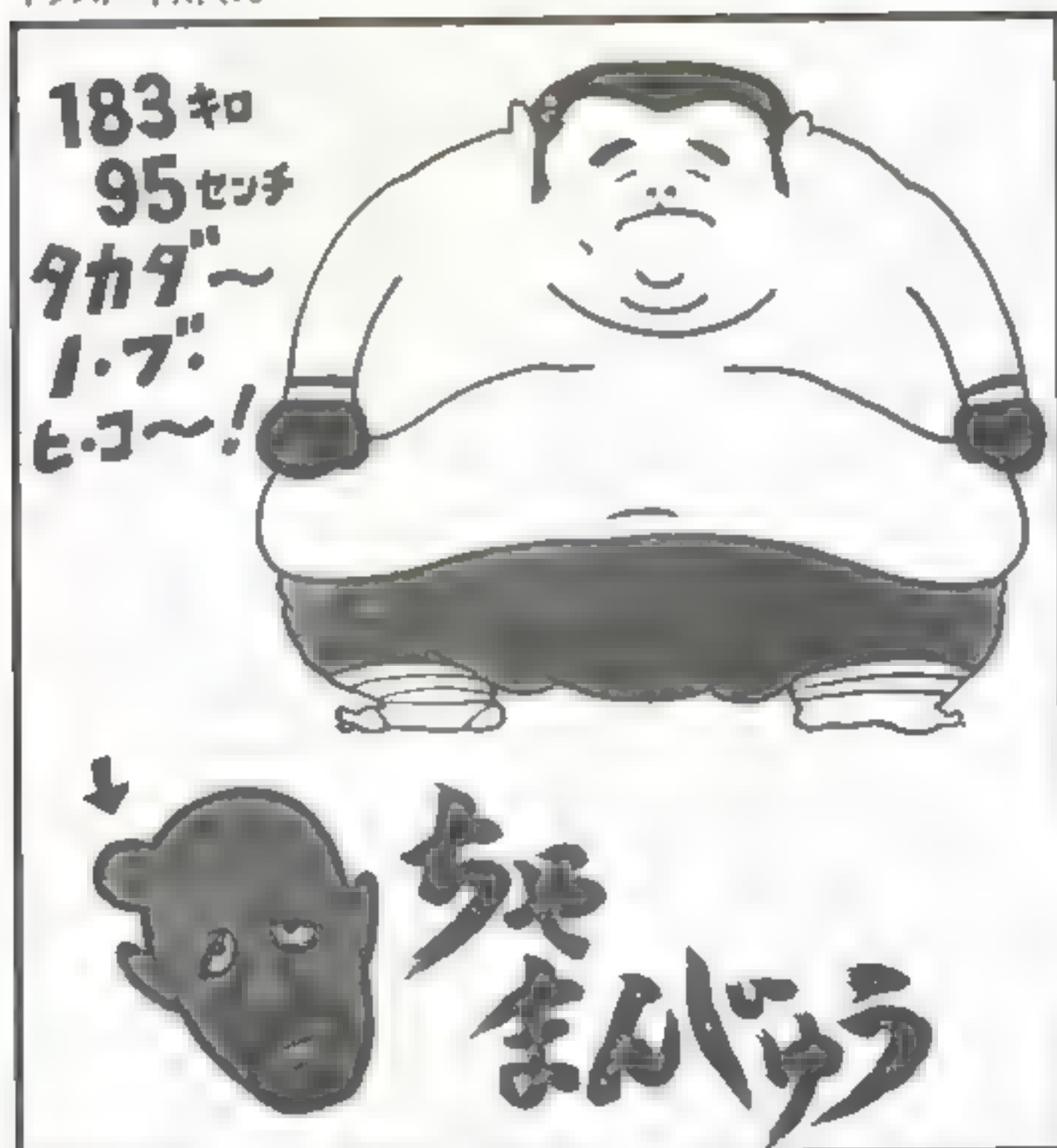
配られた説明文では、今回の名古屋ドームでのタイトルは"ヒーちゃんず主催興行"となっていたが、それを読んだレディ・ゴン編集長・原記者から、JWP側へ理解して欲しいとの連絡が入り、山本代表は今回に限り、これを諒承した。結果、60分フル・タイム・ドロー。2人の死闘は、優勝を逃したドラゴンズ・ファンを限りなく勇気づけた。今度はキングダム側から提案があり、次の福岡ドームでは次期挑戦者トーナメントを開催し、その勝者がメインでヒクソンと戦うと鈴木健社長は声高に宣言した。

いよいよ決戦の日、福岡ドームは超満員の札止め、6万人の観客で埋まっていた。ヒクソンは瞑想から覚めると、弟を相手に軽いストレッチをこなした。体調は十分。万に一つも負ける要素はない。セコンドの呼び声にうながされ、ドームの長い花道を歩き始めた。太いロープをくぐり、リングに入ると、彼は対角線上の対戦相手を見やった。「！」そこには、見慣れない男が、自信なさそうに佇んでいた。

ヒクソンは不思議な思いで、さらに目をこらすと、UWFインターと記されたジャージを着た男は、はにかんだように微笑むのだった。そして、そのジャージの胸元には、日本の字で"宮戸"とネーム刺繍が入れられていた。ヒクソンは、目線をマットに下げると、声にならないで声で…"トホホ…"と、ひとりごちたのである。

―完

選考寸評

●ベタベタかつマニアックなギャグが随所に散りばめられたプロレスファンにしか書けない文章です。樹海の中で幻覚キノコでも食べてしまったのでしょうか？　楽しい夢を見てるみたいですね。正論をオブラートでしっかり包んでいる奥ゆかしさが好きです。

『10・11観戦記』

自分は文章を書くのが苦手なのですが、『超ビッグなプレゼント有り』に興味があるので書きます。今は亡き『ストロング・スタイル』P—1クライマックスで初代王者になった時（急になくなってしまって2代目はなし）は、すごーく小さいトロフィーで、『ゴング格闘技似顔絵最強位決定戦』では、「3回勝ち抜くとパネル、5回勝ち抜くと特別プレゼント（パネルよりいいもの…編集長談）」とか書いておきながら、5カ月勝ち抜いたのにパネルどころか格闘家の写真20枚位を送って来ただけなので（クマクマンボにとって写真の方がパネルよりいいのか？）あまり人を信じないようになりました。

イラスト・中川くん

当日、自分は学生なので一限の「芸術と哲学」だけ出席してチケット（4000円）を取ってくれた友達らと電車に乗り開始ギリギリにドームに着きました。

バーリ・トゥードに近いルールの試合は、WOWOWでリマvsミーシャとかモラエスvs山本とかモラエスvsユーリとかリマvsヒョードロフ位しか、ちゃんと観ていないので（しかもモラエス＆リマだけ）とてもワクワクして眠れなかったのでフラフラしてしまいました。

第一試合は、すぐ終わってしまいインパクトがなかった。大体、一寸前にスバーンにボロ負けした選手が村上とやるのは失礼。でも村上は日本で試合出来れば嬉しいのかな。

第二試合は、エグかった。流血KOされたタクタロフではなく、立ち上がれないタクタロフを皆が心配している時にリングサイドであくびしている大原かおりが。

第三試合は、ヘン蔵はあのリマやモラエスのお師さんなので、かなり強いだろうと思っていて、日本に来る一寸前にビッグマッチをやっているので余裕があるなあと思ってたので小路は、かませドッグだと思っていたのですが、試合開始直後にチケットを取ってくれた友達が

「しょーぅじぃー」

と叫んでたのを聞いて我に返って小路を応援しました。小路は良かった。しかし大会全体を通してもですが、アリキックの人に対して何もしない（出来ない!?）選手が目立ちました。あと「心は日本人」とかいう割に、日本人ならキツイ試合間隔でも勝てるだろうと思っているのが日本を馬鹿にしているヘン蔵。タデウと小路、二兎追う者は一兎を得ず。

スペシャルライヴ、格闘バンドwith MIWAKO（仮）。皆、トイレに行きました。ギターを弾きながら第四試合の選手紹介。ネイサン・ジョーンズがアップで写し出され、皆マイク・ベルナルドと間違える。このスペシャルライヴのせいで注意力散漫、締まらない大会に。試合の方は秒殺ボンクラス！ 流石ストリートでは負けなしネイサン・ジョーンズ。北尾は遠くから観ても大きかった。

皆スペシャルライヴの時に休憩をたっぷり取ったので謎の休憩20分。自分は一番奥の席なので座ったまま過ごす。寝不足で眠い。

スペシャルマッチ1、皆無意味に20分以上過ごしたので必要以上に期待。自分は顔が似ているだけでモーリス・スミス2世と呼ばれるラルフ・ホワイトが、メイン以外で最注目選手だったのに茶饅頭。自分はシカティックの様に戦火を生き抜いてきたとか、ラリアットを打ち過ぎて右ヒジが曲がったままとか、そんな苦労を売りにするような奴は大嫌い。倒れているスミス2世を蹴ったので100万円払え！ 安い席だったせいかも知れませんがルール説明が全くわかりませんでした。反則なのに100万円払わないの？ 休憩後にしては最悪。

スペシャルマッチ2、皆ワクワクしていたけど、自分はスミス2世がとても残念で、ルール説明も聞こえずらくてイライラ。入場時、黒澤のテーマ曲がコムロ。「スピード2」のテーマ曲が響く、ゆっくりリングへ向かう黒澤、もの凄く大きいメインダート、前の試合の消化不良も手伝って盛り上がる。しかしケガをしてしまっても止めないし、ロープエスケープも納得出来なくイライラ。黒澤もメインダートも可哀想だったと思った。

第五試合、皆もイライラ。途中、うとうとする。リングを突き破ってアンダーテイカーとスティングが出て来てキモとスバーンをリング下へ連れて行って欲しいと本気で願う。左後ろの席の外人さんがエキサイトして叫ぶ、叫ぶ。外人さんのお陰で目がさめる。ヒヤリングが苦手なので「ファッキン、キモ！」位しかわかりませんでした。もうキモもスバーンも呼ぶな！ もう来るな！ やる気がないんですもの。『マガジンWOoooo！』の編集部の人が「後楽園ホールならブーイングは起きなかった。」とか書いていた。マエダコール大合唱。

謎の休憩第2弾、この頃になるとKRSを恨むようになります。寺田恵子のテーマ曲が何回も流れます。何となく洗脳されてる気分に。

メインエベント。ヒクソン入場、ムチャクチャ格好良い。ガウンを欲しがる友達。自分には少し風呂上がりに見えた。高田入場、セコンドに宮戸が！ 喜ぶ友達。安生と抱き合う。つるつるヒクソンのブラジル国家。寺田恵子も『君が代』、「こーけーのー、むーすぅーう、まあ　あでー♪」

長い、長過ぎる十万石饅頭。ヨクヨウ付け過ぎ。事前に自分一人で予想していた高田タイツ予想は黒だったのでハズレ。試合開始、腰が引けてる高田。事前に自分一人で予想していたファイブプロ結果予想はヒクソンの腕ひしぎだったので大当たり。でもガッカリ。

寺田恵子を無視して出口へ。自分は元々、高田はフライングキッド市原よりは好きだけど嫌いだったのでダメージは少なかった。Tシャツだって『number』に頂いた、「tradition Bites nWo 4 life」だったから少なかったはず、友達はバリバリの「U.W.F.」Tシャツ。明らかにダメージが大きそう。アンケートを取る人達を無視して歩いた。駅について、

「前田vsヒクソンをあおる絵を描くよ。」

と言いました。新宿で皆と別れました。大変疲れました。帰ってすぐ眠ってしまったので「リン魂」も「大谷vs高岩」も見逃しました。

しばらくして日明兄さんが高田に試合前に協力しているのを知り喜び、高田の首が腰がボロボロなのを知り喜び、日明兄さんがKRSの文句を言うのを喜び、ヒクソンとやるというのを喜びました。

高田は最初から10月にやると決まっていれば、勝てたかもと思うようになるようにしました。何しろスタートらしいので、ガッカリして損した。前向きに考えるようにしよう。

高田の敗戦は「輝かしい前田日明引退ロードの序曲」である。

選考評

●高田vsヒクソン戦で考えたことを書いてこいと言ってんのに、中川君の自慢話やKRSへの恨み節しか最後の方まで書かれてなかったんで（でもスゲエ鋭いこと書いてます。まったくもって正しいです）「死ね」とか思いながら読んでました。でも最後の「〜引退ロードの序曲」のところだけ、魂が伝わってくるような渾身の字で書いてあるのを見て、少し涙が出ちゃいました。それと同時に観戦記が巨大な前フリだったことに気がつかなかった自分を恥じる思い出いっぱいです。

僕はヒクソンの「柔術セミナー」に参加したことがある。初めの挨拶の時、ヒクソンはやや緊張気味に見えた。ヒクソンはマシーンではない。生身の愛すべき男なのである。

ここからはその他の入選作品です！

書きゃあいいんだよ！ 書きゃあ!!

芽ケ崎 野村直人（29歳）

『立ち向かう勇気』

プロレスとは何か？　プロレスとは「立ち向かう勇気」である。これが小学生の時猪木に魅せられ、以来20年以上プロレスを見続けてきた僕の結論である。忘れかけていたが、それを思い出させる出来事が起こった。高田vsヒクソン戦である。――言うまでもない事だが、本当に言うまでもない事なのだがプロレスとバーリ・トゥードは全くの別物である。理由は①プロレスは客から金を取って見せるものであること。つまりプロレスには興行論があるが、バーリ・トゥードにはない。いい悪いの問題ではなく、お互いそういうものなのだ。②プロレスの道場でのスパーリングに「殴る」という概念はない。つまり、プロレスのスパーリングにおける「殴る」はバーリ・トゥードにおける「目潰し」や「金的」と同じなのだ。よって道場では「極めっこ」になる。「ポジショニング」という発想は出てこない。プロレスとバーリ・トゥードはお互い違う方法で「最強」への道を探っていたのである。プロレスとバーリ・トゥードが全くの別物である以上、高田vsヒクソンはバーリ・トゥード（もしくはそれに準ずる）ルールで戦うなら初心者が達人に挑むようなものである。ではなぜ高田はヒクソンと戦ったのか？　僕は高田が「自分への落とし前」をつけたかったからだと考える。安生の道場破り失敗後、高田はすぐに打倒ヒクソンへ名乗りを上げると思われたがそうではなく「近い将来の引退宣言」「参院選への出馬と落馬」「武藤戦の足4の字による敗北」と次々にイメージを失墜させてしまった。もうこうなったらヒクソンとやるしかない、自分が自分でいる為にそれ以外ないと高田は考えたはずである。負けるのは恥ずかしいことではない、恥ずべきことは逃げることだ、ドンキホーテではないが「自分のあるべき姿のために戦う」、これが高田の本音だったのではないか。そして、それこそが僕にとってのプロレスなのであり、プロレスラーの強さなのである。

かつてドームで行われた猪木VS天龍。僕はドームのスタンド席のかなり上の方にいた。そこからは入場ゲートの裏が見えた。そこには負けるとわかっているリングへ上がる猪木のシルエットが見えた。あの強かった、僕の大好きだった男のシルエットだ。「猪木は今、負けるとわかっているリングへ上がる直前、何を考えているのだろう」そう思うと涙が出てきた。今回の高田の入場シーンも同じ様な気持ちになった。リング下で安生と抱き合うシーンは感動的であった。もうこれだけで今日来た甲斐があったとさえ思った。しかし、ヒクソンはそのシーンに対してこう言った――「タカダ選手の弱さを感じた」これこそがプロレスとバーリ・トゥードの違いを極端に表している。そして、僕が好きなのはやっぱりプロレスであり、プロレスラーなのだ。あのシーンを見て感動してしまったのだから間違いない。高田は確かにほとんど何もできなかった。それは否定できない。

だが、僕は高田に感謝しているし、憧れてもいる。それは高田が「立ち向かった」からだ。そして、もう一人「立ち向かおう」としている男がいる。前田日明である。「自分らの青春の為」にヒクソンと戦おうとしている。正直、現在の前田のコンディションでは厳しいだろうし、本人もそれを分かってないはずがない。それでも前田は本気で勝ちに行くだろうし、それを見届けたいと思う。

僕は出来ればヒクソンには飯塚やカ・シンに挑戦してもらいたい。観客動員力やヒクソンのギャラを考えると難しいだろうが、プロレスに道場論があるならば道場長である飯塚がどんな戦いをするか見てみたい。カ・シン、いや石沢の本当の姿も見てみたい。もし敗れたとしても彼らは"強さ"というギミックを身に付け、レスラーとして一皮むけるに違いない。

そして、何といってもヒクソンに立ち向かって欲しい男、それはアントニオ猪木である。猪木には常にその時代の最強の男から逃げないで欲しい。うやむやになっているカウントダウンの最終戦はvsヒクソンしかない。あの猪木の引退試合をあるべき盛り上がりと感動で包むには猪木vsヒクソンしかないのだ。負けたっていいじゃないか。リング上でボロボロになった猪木を目に焼きつけたいし、それこそが猪木自身が望んだことではないのか。猪木なら記者会見の席上、ヒクソンに強烈な張り手を見舞うだろう。考えただけでもしびれる。

そして"新日本の男達"（僕の中では前田も高田も船木も鈴木でさえも"新日本の男達"に入る）に先導されてリングに上がった猪木はマイクをつかんで叫ぶ。「ヒクソーン、お前に俺が殺れるのかーっ、この野郎ーっ」もうそれだけでいい。他には何もいらない。

追記

京都市 弘田陽介（23歳）

『ありがとう、そしてさよならプロレス』

数年前から非常に奇妙なプロレスの見方をしていたように思う。プロレスの中にプロレス的なるものを躍起になって見出そうとしていたのである。これは、非常にパラドキシカルな言い方になるが、私の中でプロレスとプロレス的なるものが分離してしまっていたからである。

「私はプロレスとは何かがいまだにわかりません」

子どもの頃、私はプロレスを見てきた。しかし私にとって、今のプロレスの中には、プロレスという名詞で語れるものしか見えないのである、残念ながら。昔はずっとよかったと今をやたらバカにしてみてもしょうがないのだが、私はプロレスからプロレス的なるものを取り込み成長してきたと思う。私はプロレスと大阪スポーツに育ててもらったのだ。プロレスにはなにか言い得ない、プロレス的なるものとしか言い得ないようなものがうごめいていた。私が金曜夜8時から見ていたものは、プロレスであり、かつプロレス的なるものだったのだ。とても当たり前のことだ。

そして、大きくなるにつれて私は

プロレス的なるものをプロレス以外のものにも見出すようになった。このことは逆に言うとプロレス的なるものが私を動かす行動原理となっていたのである。あらゆる場面で、私の現れとしてのプロレス的なるものを見出すことができた。しかし、皮肉なことに、ここにきて肝心のプロレスからはプロレス的なるものを見出すことができなくなってしまったのだ。プロレスの中にプロレス的なるものを探す？　こんな悲しいことが他にあるだろうか。ないから探すのだ。

私はもうプロレスにお別れを言うときだと思った。私が大人になったのか、それともプロレスというジャンルが変質したのか、それはわからない。だが、確実に言えるのは私とプロレスの関係が変わってしまったという事だ。別れには何か踏ん切りが必要だ。だから、私は周囲の反対を押し切り強引にＰｅｒｆｅｃＴＶを購入し、私にとってのプロレス最後の日を待った。もし高田が勝ったら、と私は思った。そうすると、もう一度私はプロレスが好きになれるかもしれない。でも、それは喜びでありながらも一つの驚異であった。

そこにはプロレスがあった。神秘的な修行僧的な男が醸し出す幻想。日本からブラジルへ、そして日本へともう一度戻ってきた「こころ」という幻想。それに対し、今度だけは幻想を再びと戻ってきた男、幻想を打ち砕きに行くことで幻想を増長させた男、真剣に勝負を訴えながら泣く泣く故郷から去った男、すべてを背負い、プロレスを背負い、ファンを、そして私を背負った男の幻想。そしてその男を育て、同じ時間を過ごした男達の幻想。一方の幻想はあっさりもう一方を弾きとばした。一方は膨らみゆく幻想を体現するものとして、そしてもう一方は萎みゆく幻想を体現するものとして。

そこにはプロレスが確かにあった。そして最高のプロレス的なるものが、そしてすべての時間がそこには確かにあった。だから、ありがとうなのだ。だから、さようならなのだ。

福島県 武田公文（16歳）

『飛び出せ！　天才!!』

「勝てば儲けもんって感じ…。」そう発言していた時点で既に高田の敗北は見えていた。紙プロ誌上での勝敗予想も苦し紛れな故意の空騒ぎでしかなかった。試合直前の焦燥感、試合開始時の及び腰、試合中の硬直、試合後の号泣！　どれ一つ取っても高田はプロレスラーらしからぬ弱気に満ちていた。実は、2年半前の引退表明の時点で高田は終わっていたのだ。

プロレスファンが求めるのは〝勝ち逃げ〟なんかではない。ストロングスタイルを前面に押し出して圧勝する確かな手応えが欲しいのである。その第一歩すら踏み出せなかった腰抜け高田は雪辱戦など諦めて、第一線のレスラーに道を譲るべきである。高田の仇打ちを訴える前田なんかも前倒しにして、我々はもっと説得力のあるレスラーを総出で送り出さなければならない。

今、バーリ・トゥードに最も近いレスラーは、佐山聡だ！　15年経って益々強く華やかに進化した勇姿には新たな歴史の始まりを予感せずにはおれない。佐山が日本に持ち込んだグレイシー柔術がプロレスに揺さぶりをかけ、折りしもその佐山自身がプロレスのリングに立った今、両雄が向き合う図式は誰もが熱望する流れである。そもそもグレイシー退治は佐山のライフワークでもあるのだ。

背広姿で新日マットに立っただけでも感激したのに、遂にマスクを被った試合まで見せてくれた事は、本人も出番を自覚している様子で好感触だ。仮にも♪お前は虎になれ♪の流れる中、初代タイガーファッションでヒクソンと対峙する運びとなれば、東京ドームは爆発だ！　もはや天才には天才を以て制しなければならない時が来たのだ!!

山梨県 橋本久（33歳）

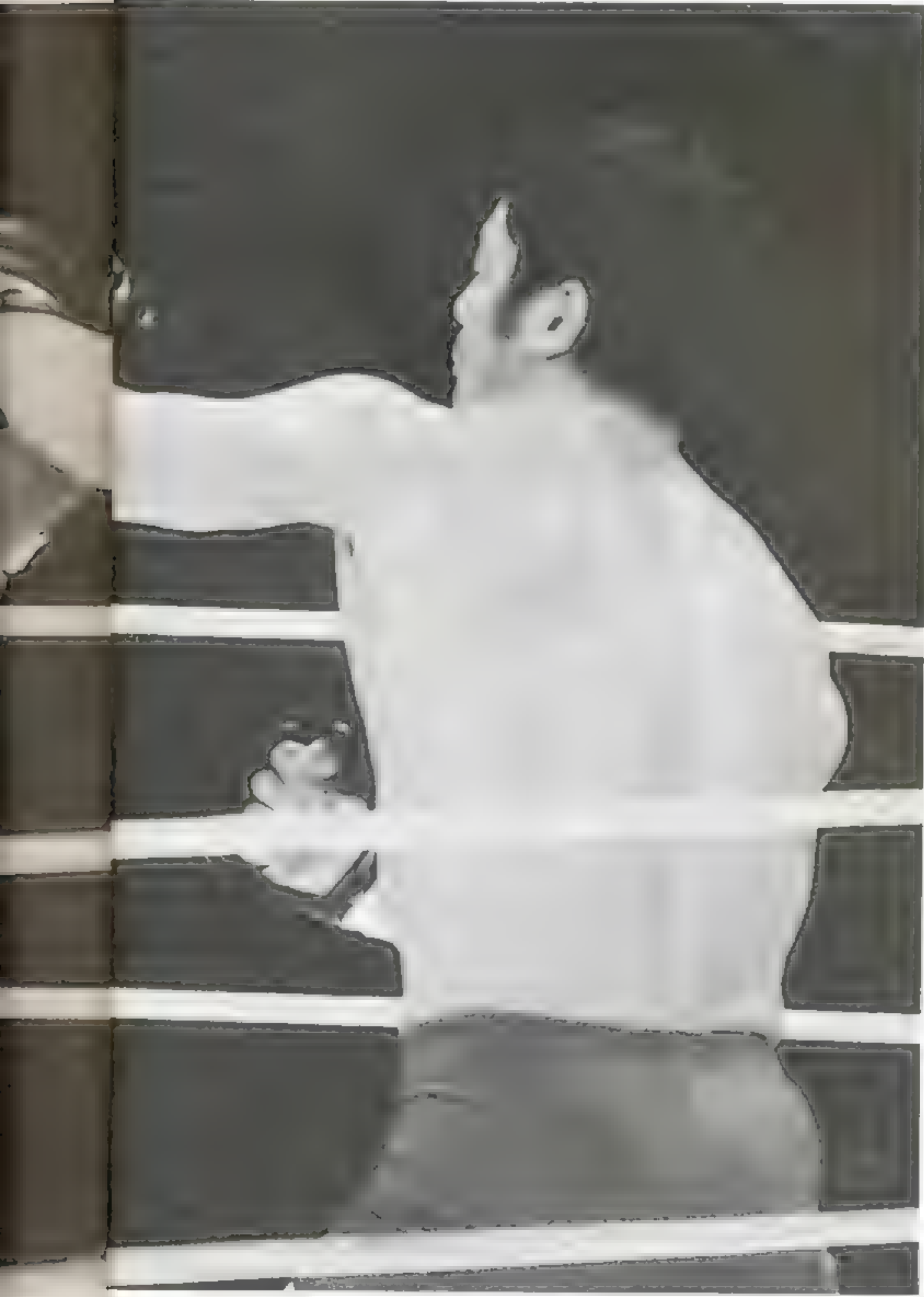
『グレイシーの問いかけに答えろ』

「高田―ヒクソン戦」が決まった後も、終わった今もプロレス界及びプロレスラーは鈍い。プロレス界及びプロレスラーは、今こそグレイシー柔術がバーリ・トゥードという方法論で提示した問いかけにきちんと答える必要があるのではないか。

グレイシーの問いかけとは何か。それは武道の立場から、すべての格闘家に対して「あなたは最強を決めることができるバーリ・トゥードの試合をできますか？」そして「何でもありの実戦において、あなたの技術は有効ですか？」ということであった。言い替えれば、「プロレスの暗黙の了解は八百長ではありませんか？」という問いかけなのだ。

この問いに答え、グレイシーやバーリ・トゥードに関わらなければならない人と無視してかまわない人がいる。無視してかまわないのは、例えばボクシングのように一つのジャンルとして確立したスポーツ格闘技をやっている場合である。立嶋篤史選手は「キックはキックだ。」と言ったが、他の競技と比べないで欲しい」と言ったが、他の競技と比べないで欲しい」と考える立場に立てばまったく正しい意見である。つまり格闘技をスポーツ化させ、スポーツ性を追求するなら空手でも柔道でも総合格闘技でも、グレイシーの問いに答え交流する必要はまったくないと言っていい。

しかし、格闘技にスポーツ性（ルールの範囲内での強さ）ではなく、武道性（実戦での強さ）を追求する格闘家は、グレイシー柔術やアルティメット大会というものに向かい合わなければならない。空手をスポーツとしてやっている人もいれば、武道としてやっている人もいる。総合格闘技をスポーツとして一つの確立したジャンルにしたいと思っている人もいれば、最強を求める手段としてやっている人もいる。同じ競技をしていても、その人がその格闘技になにを求めるかでグレイシーとの関

読者が書く！その後の10・11!!

わり方がまったく違ってくるということだ。

ならばプロレスラーは、どうなのか？　やはり同じことなのだ。G・馬場は「プロレスはプロレスだ」と言った。スポーツでも格闘技でもない、プロレスはプロレス。何とも潔い表明ではないか。これならグレイシーは入り込む余地はない。一方、プロレスは格闘技だ、それも世界最強でありキング・オブ・スポーツだ、と言うプロレスラーもいる。もしそう思っているのなら、最強を名乗るグレイシー柔術とその頂点に立つヒクソン・グレイシーを無視することはできないはずである。だから高田は戦った。そして敗れた。この結果についてあいまいな発言しかしないプロレスラーに聞きたい。プロレスに何を求めているのか立場をはっきりしてください、と。今プロレスファンは、プロレスラーに単純明快な強さを求めはじめている。

グレイシーの問いかけはファンからの問いかけでもある。答えによってはプロレスはファンから見捨てられることになるだろう。

横浜市　吉岡隆二（20歳）

『高田よ、何も語るな！』

キングダム11・3後楽園ホール大会で開かれた高田延彦記者会見の記事を読んで、ボクは非常に不快な気分になった。

なんだこりゃ。

高田は何を考えているんだ！？

「自分の力は間違いなく出てないし、あれが本当の力だと思われたくない。ぼくの力がちゃんと出ていれば必ずいい勝負ができる、あるいは勝てると思ってます」

読んでて呆れた。バーリ・トゥードとか、柔術とかいうものは、相手の力を出させずに勝つのが当たり前。「ぼくの力がちゃんと出ていれば…」そんなんだったら誰だって勝てるよ！

「ルールに関しても反則じゃないものが反則にとられていた…」

ルールのせいにするなー

島田レフリーのせいにするなー

誰も書かないけど、あの試合を裁いた島田レフリーのプレッシャーは相当なものだったはずである。前日までヒクソン側と揉めていたという話も聞いた。そんな島田レフリー、バトラーツとキングダムが揉めているという噂も聞いた。高田よ、人のせいにするなー

今のところ前田日明たけが公式にリベンジを宣言している。高田も、「がんばってほしい、勝ってほしい」といっている。

自分のケツは自分でふけ！

雑誌の投稿欄などを見る限り、高田を批判しているものは少ない。ヒクソンが強すぎたからしょうがない。せめて高田の勇気をたたえよう、といったものばかりである。

つまり、高田はファンに同情されているわけである。

高田よ、考えているヒマがあったら動け。

キングダムの選手も、みんな強くなっている。もはや、Uインターとはちがう。高田の居場所はないかもしれない。リングス参戦も噂されているが、そんなことをしたらファンは幻滅するだろう。

このまま高田は落ちていくのか。ファンに、マスコミに、レスラーたちに同情されるだけの存在になるのか。

そんなんでいいわけない！

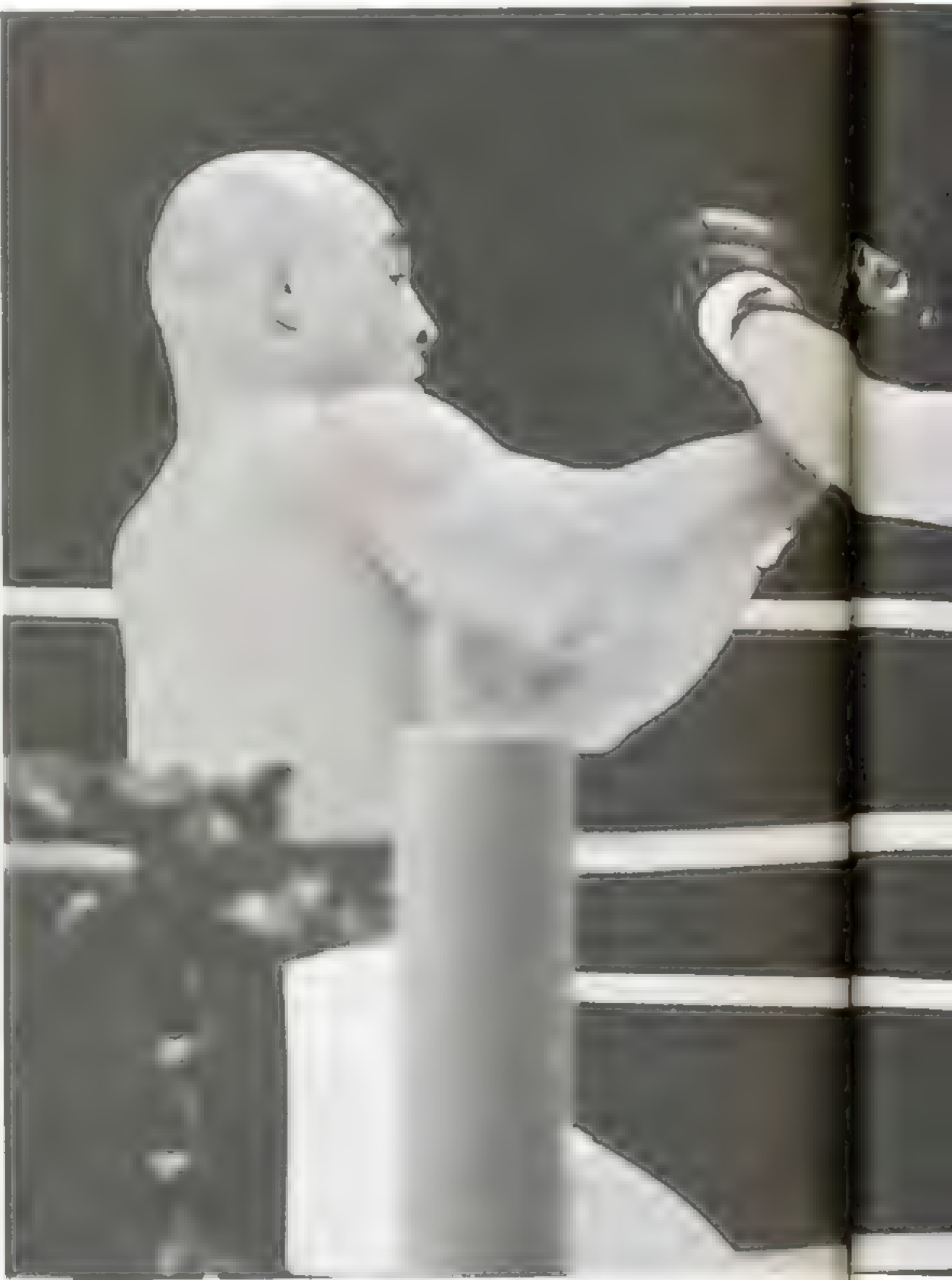
同情なんかクソくらえだ！

もしかしたら、記者会見で言い訳めいたことを言ったのは「同情」に対する反論なのかも。高田流のダンディズムとも考えられる。

なんだかんだといっても、ボクはプロレスファンだ。高田ファンなんだ！　だから高田よ、今は何も語るな。言葉はいらない。ただひたすら刀を磨け。いつか来る復讐のその日のために…。

横浜市　BOM-BAIYE

『グレイシーの強さ』

高田が完敗した。当然の結果である。なぜならグレイシーに対する認識が甘すぎたからである。高田が弱いとは言わない。しかし、彼の戦い方を見る限り、グレイシーに対する認識が甘いと言わざるをえない。

高田が勝つと予測した前田や藤原、その他諸々の人の戦前のコメントを見ても、いかにグレイシーに対する認識が甘いかがわかる。

唯一、グレイシーの強さを認めているプロレスラーは船木だけである。その船木自身、グレイシーに勝つには最低でも2年の練習が必要と言っている。

世間の流れは次は前田となっているようであるが、結果はみえている。グレイシーの強さを認めることが出来なければ、プロレスラーがヒクソンに勝つことは出来ないだろう。

三重県　熊倉一志

高田がリングインする際の表情を見た時、誰もがやってくれると思ったと思う。

10・25日明兄さんのリング上からのアピールに誰もが熱くなったと思う。

10・11高田アカンかったけど、兄さんがやる時はセコンドについてくれ！

わけのわからんヒクソン信者ども、きっちり落とし前つけたるからな！　日明兄さんが。

掲載された皆さんには、超ビッグなプレゼントをお送りします。でも、「超ビッグじゃない！」などの苦情は一切受け付けません。（いや、これホント）

松永高司会長 ロングインタビュー 後編

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
撮影／浜田孝一
photographs by Koichi Hamada

みんなにいい思いさせなきゃだから、来年には大儲けする！

前号の特集『全女分裂！』の中でもいちばん反響が多かったローリング・ドリーマーこと松永高司会長のインタビューが、前号よりも質量共にパワーアップして帰ってきた！「レスラーよりもレスラーっぽい」と言われている豪傑・松永会長。どんな逆境に立たされても、バカ話をして笑っているのはさすがだ。全女が2度目の不渡りを出しても、「興行は続けます！」と高らかに宣言して、実際に興行を維持しているのだ。この名物会長の豪快な人生観、破天荒な経営観、屈強なプロレス観がある限り、女子プロレスは永遠に不滅であろう。読めば命の泉湧く、読むだけで元気になる怒涛のインタビューである。（上の写真は1974年9月4日、WWWA会長ミルドレッド・バークと共に）

戦闘機を威嚇してたら　ダダダダダって撃たれた（笑）

——松永会長は「10年間1日も休まない」宣言をしてましたよね？

松永　そうです。俺はもう61歳ですから。だから死ぬまで「疲れた」とか、「休みてぇ」なんて言うなと。

——死ぬまで（笑）。

松永　死んだら好きなだけ休めるんだぞ、俺は（笑）。

——ダハハハハ。最高です（笑）。素晴らしい意見です。

松永　ねえ（笑）。だから、働きたいって言ったって死んだら休むしかねえんだから。生きてる間、あと5年なのか、10年なのか。もう死にくたばるまで働けば必ず未来が開けると、俺は思ってるからね。だから日曜、祭日でも必ずここへ来るわけです。

——ウチの会社にも言って聞かせたい男がいますよ（笑）。

松永　もう、仕事してることが楽しくて楽しくて仕方ない。

——最近知ったんですけど、クラッシュ・ギャルズが大ヒットしていた時点でも、借金がまだ残っていたという。

松永　そうそうそう。

——そんなに大変なものですか。

松永　プロレスなんてあんま儲からんって、ほんと。バッと出た時は1年ですよ、いいのは。だから、昇って行くとき1年ぐらいかけて昇って、頂点極めて1年ぐらい、あとは下降線ですね。

——そんなに儲かんない仕事をこんなにまで体を張って続けるというのは、なんなんですかね。

松永　楽しいもの（笑）。選手はリングの上でプロレス、俺は場外乱闘（笑）。

——場外乱闘（笑）。

松永　プロレスやってるようなもんですよ。

——人生はプロレスなわけですね、まさに世間とプロレスしてるという（笑）。

松永　だと思うんだよね。

——世間ではあんまり相容れないかもしれないんですけど、やっぱりレスラーって非常識な方が面白いじゃないですか。

松永　うん。だから、新人を採っても優等生の子はやっぱダメなんだよね。なにかやっぱしね、かけ離れてる奴がいいね。ダンプだって腕立て一つもできなくても、ああなっちゃうんだから。一生懸命練習してですね、マジメな子がそうなるかっていうとそうならないですよね。長与にしろ、どっかチャランポランなところあったからね（笑）。口は悪いし。でも彼女のああいう開けっ広げなところが良かったんじゃないですか。

——会長は北斗さんと似てるって自分でも言われてたらしいですね、性格的に。

松永　北斗？　似てねえと思うけどな（笑）。でも、自分がこうと思ってると駄々っ子みたいに是が非でもそれに持っていこうとするのね。彼女も新人の時に置いて行かれるわけよね、一人。置いて行かれるのがイヤで、連れてってほしいんで、芝居みたいなものを打ってましたね。「頭が痛い」って七転八倒するわけですよね。で、病院に救急車で連れってったりするわけですよ。結局どこが悪いかわからねえわけだ。すると「もう治った」とかね（笑）。まあ、若いときから芝居っ気はあったね。

——芝居っ気（笑）。

松永　まあ、彼女みたいのは、人と出ないんじゃないかな。

——やっぱ選手にしてもそうだし、会長にしてもそういう非常識さが魅力というか。

松永　うん……非常識かな？

——ダハハハハ。さっきも言いましたけど世間の常識と相容れないと（笑）。

松永　うんうんうん（笑）。だから、長い間生きちゃうと、なんでもありという風に思っちゃう（笑）。だから、この間も事故起こしたんですよ。事務所から家に帰る時で、夜の1時ぐらいですから、車通ってないんですよ。で、信号は赤だったんですけど、「赤でもいいや」って（笑）。

——ダハハハハ。

松永　それで最後にドーンってぶつかって。「あっ、やっちゃった」って（笑）。

——ダハハハハ。わざとだったんですか。

松永　わざとじゃないけど（笑）。「また赤だ、また赤だ、だけど車来ねえや」って（笑）。向こうにタクシーがいたらしいんだけど、来たの全然わかんなかったからね。だからブレーキも踏まねえで。「やっぱ赤で止まりゃあ良かった」って思った（笑）。

——ダハハハ、非常識ですね（笑）。でも、いいですよ。面白いですよ。

松永　で、おまわりが「あんた、ここ赤で行ったんじゃないですか？」っていうから「赤で行った！」って（笑）。

——堂々と言いましたか（笑）。

松永　「おまわりさんの言う通り」とね。「あんた何キロで走ってたんですか？　計算するとこれくらいですよ」と。「じゃあ、その通りでしょ」って。

——ダハハハ。ゴチャゴチャ言わな

普段は豪快に何でもワハハと笑い飛ばしてしまう会長だが、負債の話になると顔は曇りがち。債権者も「立ち直るまで待ちましょう」と言って、好意的だという。

いんですね（笑）。

松永　罰はバッチリ受けます。

――かっこいいですね（笑）。

松永　まあ、性格がそうだからねえ。しょうがないわ、それは。

――レスラーですよ、それは（笑）。人としての在り方は。

松永　そうかもしれないね。レスラーと付き合ってるからね（笑）。

――ちょっとプロレスの話になりますが、例えばこれまで何度も客層変わってきたと思うんですけど、会長からしてみればどういうお客さんが一番いいんですか。

松永　それはまあ、一般大衆が一番いいんですよね。

――じゃあ最近の状況はよくなかったわけですね、マニア化してきた状況は。

松永　そうですね。まあ、仕方ないかもしれないねえ。こういうものだからマニアの人が毎日毎日見に来てくれると。だけれども、一世風靡をするには一般大衆を巻き添えにしないとダメでしょうね。だから、マニアから一般大衆まで巻き込みたいと。日本全国、女子プロ一色にする。そうすると日本全国に散らばっているお金を全部かき集められる（笑）。

――ダハハハハ。結局、そこに行き着くわけですね。

松永　だからボク、そんなことばっかり考えているんですよ、今。クルーザーに乗ってるとするでしょ、そうすると撒き餌をブワァーと撒けばサバだとかが寄ってくるでしょ。そこで船の下に沈めておいた網を一気に「あげろ！」ってあげてバケツに10杯ぐらい捕るわけですよ（笑）。

――その姿勢がプロレスにもつながるわけですね（笑）。撒き餌して（笑）。

松永　撒き餌して、一網打尽（笑）。

――クルーザーはいつ頃売り払っちゃったんですか？

松永　もう大分前だな。もう10年近くなるかな。何台も何台も買い換えたりして……（遠い目）。そうだ、生まれてから今日まで、何度も死に損なったわ、俺。

――え～っ!? 突然すごい話題ですね（笑）。それは具体的に言うと？

松永　一回はね、おふくろの腹の中に入ってる時にね、お袋が今日堕ろしにいくか、明日堕ろしにいくかっていううちに生まれて来ちゃったと（笑）。それでオヤジが見て「俺の子じゃねえ」って言ったんだから（笑）。

――ダハハハハ！

松永　それで5、6歳の頃、空襲ですわね。初めて戦闘機が来た時、全員家に居たんだけど、うちの一つ上の兄貴と俺とで「アメリカなんてどうってことねえや！やれるもんならやって見やがれ！」って言って外に出て戦闘機見ながらね、威嚇してた。

――威嚇（笑）。

松永　そうしたらブウーンって戦闘機が急に来て、ダダダダッて（笑）。撃たれた。

――ダハハハ。

松永　それでお袋が「危ない」って軒下に入れて機銃掃射を逃れた。

あのね、読みたくないんなら RADICALの"ラ"の字も言うなよ！ でしょ？

――間一髪ですか（笑）。

松永 うん（笑）。それが2度目（笑）。

松永 あとね、空襲があると家族で山に逃げるわけですよ。でも、俺を忘れてっちゃうんだからね。

――ダハハハハハ。置いてかれちゃったんですか（笑）。

松永 置いてかれちゃったの（笑）。それで家の真ん前がボンボン燃えてるわけよ。ね？ で、ウチでニワトリ飼ってたんだけど煙で全部死んじゃった。で、オヤジが帰ってきて俺が生きてるわけよ。「いやいや、生きてるぞ」って（笑）。

――忘れてったくせに（笑）。

松永 布団にくるまって助かった。あと、もう、一つ、これまた大変でね（笑）。終戦になってね。モチ竿（トリモチ）ってあったでしょ？ トンボ捕る棒。その先っちょを口にくわえてね、もう一方を地面につけてズーッと擦ってたわけですよ。そしたら、アスファルトの穴開いてるところに落ちて、ノドにドーンって刺さって。骨に刺さって血だらけになって。

――はあ～。

松永 それでお袋が抜こうたって抜けないの、奥に刺さって。それでやっと抜いてね。よく出来たお袋でさ、口の中見て「あっ、大丈夫」って言って、そのまま。

――ダハハハ、豪快な母さんですね。

松永 大丈夫。血がこんな出てね。あん時も死に損なったようなもんだね。あとね、田舎がある宮城県にも行くことになったんですよ。だけど、切符代払うのイヤだったから。汽車のデッキがあるでしょ、そこに昇ってく梯子みたいのにぶら下がってたわけ。そうすると「お前な、その足もげるぞ」っていうわけよ、もう一人の俺が。

9月12日、旧汐留駅跡地で大量離脱問題について記者会見を開き質問に答えた松永会長と植田コミッショナー

――ほうー もう一人の俺が（笑）。

松永 「お前な、ここを今ガードレールが通るから、お前足もげるぞ」という風にもう一人の俺が言ってる気がするわけですよ。

――天の声ですね（笑）。

松永 そうそう。それでヒュッと上げたら、ガードレールがビューって飛んでった。1秒遅かったら足切断。

――その、もう一人の俺はよく出てくるわけですか？

松永 常にもう一人の俺がいるわけですよ。

――常に（笑）。

松永 そう、影武者が。そいつがいつも助けるわけね。

――今回の危機は助けてくれなかったわけですね（笑）。

松永 ガハハハハ。これから助けなきゃいかんけど、もう一人の俺も大分老化してるんじゃないかな（笑）。それでちょうど、福島と宮城県の間の時に汽車が遅く走るように見えるわけ。ねっ。そうすると兄貴が「飛び降りちゃおうか」っていうわけよ。「金払うのもったいねえから、ここで飛び降りちゃおう」てね、二人でバーンと飛び降りた！ びっくりしたねぇ。

――びっくりしましたか（笑）。

松永 ゴロゴロゴロゴロってね。そんなにスピードないと思ってたけど、やっぱあったね。あれも危なく死に損なった（笑）。

――気を付けた方がいいですか、飛び降りる時は（笑）。

松永 そういうことばっかりだ（笑）。

――借金で殺されかかったことは、さすがにないですよね。

松永 借金で？……今、殺された格好になってるわ。毎日毎日支払いで（しんみり）。

――でも、まだなんとかねえ。

松永 なんとか急場を乗り越えれば、先が見えてくるんじゃないですか。

――話がぜんぜん違うんですけどね、一つ確認したい話があったんですよ。ロッシーさんの本（『やっぱり全女がイチバーン！』ベースボールマガジン社刊）にも出てたんですけど。30歳になったら目の前に現れた人と結婚するって決めてたっていう。

松永 そうそうそうそう。

――それで、ホントに30歳の誕生日に会った人と結婚したんだって聞いたんですけど。

松永 いやいや、ボクは20歳まで坊主。

――へ？ 坊主？

松永 だから、20歳までは頭の毛を伸ばさないと。

――なんで決めたんですか？（笑）

松永 自分で決めた。一つの賭けだよ。

――自分に対する賭け？

松永 そうそう。

――勝っても何ももらえないですよね（笑）。

松永 へへへへ。あとはボクは30歳になるまでは女も持たないと。だから、目の前に現れたものは自分の女

家なんか取られたほうがラク! 守ろうと思うと大変だよ

房にするもんだと。それが●ッコでも●目でもいいと。
――ダハハハハハ。
松永 っていう風に自分で誓ってた。まあ、●ッコでも●目でもないけどね。
――そしたら偶然選手が現れた、と。
松永 うん。だから女房は選手だったからねえ。まあ、30歳だったし、お互いに誘うともなく仲良くなって。ちょうど良かったのかなと思います。試合でも使えたしね（笑）。
――やっぱ安く使えるわけですか、奥さんだから（笑）。
松永 そうそうそう。もうゼロでもいいし（笑）。だから、人がいない時は娘が腹に入ってる時もやってたしね。
――らしいですね。最初の人妻レスラーですね。
松永 そうかもしれない。
――このロッシーさんの本の時点で「家も競売で取られたし」っていう発言があったんですけど。いまでもないんですか？
松永 ないない。兄弟全部ない。
――兄弟全部ない（笑）。
松永 俺のは競売で取られて……だって何億もする家だから、それを払わないと自分の手元に残らないでしょ。だけど競売に出せば、その債務はゼロになると。それはまた金儲ければまた買えるじゃねえかって。だから、兄弟のも去年売ったのかな。
――この時の発言では「取られた方が楽になる」ということですが（笑）。
松永 いや、これホント（笑）。ガハハハ。守ろうと思うと大変だよと。
――守りに入っちゃダメなんですね。
松永 また、買えるじゃねえかと（笑）。
――そういう風に思えるっていうのは何度か成功してるからですよね。
松永 うん、そうそうそう。何度かね。また、買える……買えないかもしれないけどね。
――ビューティー時代とかすごかったらしいですもんね。札束を足で踏んでとか（笑）。
松永 いや、それはオーバーだけどね（笑）。それは例え話ね。お金、足で踏んだらバチ当たるよ（笑）。
――ダハハハハ。
松永 確かにそういうぐらい、お客さんが見に来てくれました。
――家も買ったし。
松永 そうそうそう。家を買うってことは、悪くなった時に処分できるっていうことがあるからね。だから少しでもいいものを買っといて、悪くなったらそれを売れば使えるじゃないかと。
――すべてそこに結び付くんですね。
松永 そうそう。女子プロが一番の生き甲斐だから。これなくしたら何があんのって。何もできないね。
――それでもやっぱり女子プロが一番ですか？
松永 まあ、そうですね、夢があったし。これ始めた時に、やはり昭和29年に妹がプロレス入ったでしょ。で、それでボクもついていってレフェリーをやらされたり、コーチみたいなこともさせられて、見よう見まねで覚えて。やはり、日本全国を回って、最初はよかったけど、最後の方は汽車に乗るのもみんなキセルをして行ったもんですよね（笑）。
――キセルしてたんですか！（笑）
松永 それで汽車賃を浮かしてメシ代にしたりね。汽車に乗っても、ほとんど一杯だから座れないですよね。大阪までは地べたに座ったり通路に寝たりしていくわけです。そういうのをしていると、出来ればバスに選手を乗せて、リングとかはトラックに積んで、そういうキャラバンを組んで日本全国を回りたいっていうのがその時の発想ですね。だから、こういうスタイルで日本全国をバスで回るっていうのはウチが初めてじゃないかと思うんですよ。
――でしょうけど、キセルしてたとは知りませんでしたね（笑）。
松永 ガハハハハハ。東京駅の改札出る時がちょっと難しいんだよ（笑）。でも、一回も捕まったことないから、ガハハハハ。
――ダハハハハ。昔、旅館とかで食中毒のふりして逃げたとか（笑）。
松永 いや、それはわからん。ボクはいなかった時じゃないですか？
――そうなんですか、なんか、長与さんが言ってましたけどね。
松永 そうですか、それで旅館代を浮かしたと。あー、そういう話は聞いたことがある（笑）。
――聞いたことがある（笑）。昔からそういう体質でしたか。でもしぶといですよね、そういう思いがあれば続けていけますよね。
松永 と思いますよ。あとは金さえ回れば一番いいんですよね。そんなにお金はいらないからね、回ればいいんですよね。
――今後の新しい全女をどうしていきたいってのはあります？
松永 いやないよ。ただ遮二無二やるしかないんじゃないの。ただ一つはこれからスターが出てくるんじゃないですか。
――ところで、噂では、これまでピンチになると必ず誰かが助けてくれたみたいな話を聞いたんですけど。

バカなことばかりやってるのは「倒産しても元気ですよ!」と(笑)

松永　俺もそう思うわけ。ピンチになると何かができあがってくるわけ。誰かが来ると……。

―このピンチで何が来るか楽しみですね (笑)。

松永　そうですねえ……もう、使いもんにならなくなったからダメだ、パワーがなくなったから (笑)。

―それは糖尿病のためですか (笑)。

松永　もう糖尿病でダメだ。(股間を見て) 立たねえし。

―ダハハハハ。大丈夫ですよ、猪木さんも糖尿ですから (笑)。

松永　あの人もすごいらしいね、糖尿が。

―そういうわけで、お互い猪木イズムでガンバってください。

松永　はい。

【聞き手／吉田豪　97年9月25日、全女事務所にて収録】

※この取材から約1ヶ月後の10月20日、ついに全女は2度目の不渡りを出した。記者会見で松永会長は「不渡り=倒産ではありません。興行はいままで通り行っていきます」と宣言。しかし、そんな状況の中、10・26後楽園ホールに「芝居っ気はあった」(by会長) 北斗晶が突如出現。「金は貸せねえけど、試合に出てやるよ!」と粋なセリフで大喝采を浴びた。そんな状況を経た会長を再び直撃した。不屈の夢追い人魂を見ろ!

―その後の松永会長ってことで、お話をお聞きしたいんです。2回目の不渡りを出して記者会見してましたけど、まだ興行は続けていくんですよね。

松永　そうそう。苦しいけどね、

―なんか影響はありました?

松永　影響はあるよ (笑)。

―当然、新聞にも「倒産」って出ちゃうわけですからね。

松永　そうそう。ただ、地方やなんかで、「実際に切符を買っても中止になっちゃうんじゃねえか」とかね。だから、もう前売りはゼロに等しいと。

―ゼロ!

松永　まあ、何枚か、何十枚か。まあ、通常の半分かね。

―だから、「ちゃんとやるんだよ」ってところもちゃんとアピールしとかないと。

松永　そうだね。全女って一体どうなってるのかねえ (笑)。遊び半分でやってきたことがねえ。ただ一つ言えることは、僕は女子のプロレス以外まったくやる気がない。

―それでですね、明日 (11・21) の後楽園大会にみちのくプロレスが参戦するらしいですね。

松永　はいはい。皆さん来てくれるということで。友情出演ですよ。ホントに有り難いことで、これを無にするようなことはしたくないでね。

―サスケ社長の方から?

松永　そうそう、友情出演でノーギャラでいいと (笑)。

―ノーギャラ!　だけどサスケ社長のところも今は大変みたいですね。

松永　まあ、結局今は大変じゃないところはないんじゃないかなあ。それでなおかつ、これから団体を作っていくっていうのは難しいやね (笑)。

―先日、ロッシー小川さんが新団体旗揚げして、本 (『女子プロレス危機一髪』ぶんか社刊) を出版して全女の批判みたいなものも書いたりしてますけども、そういう部分はどう思いますか?

松永　それはまあ、見方が違うから。自分がやってきたことに対して批判めいたことを言われても仕方ないけど、自分自身をまったく曲げる気はない。

―まったくない (笑)。

松永　曲げる気ないよ (笑)。もう自分のマイペース。で、そんな本は読む気もないし、読んだって中身はわかるから。うちのことを書いたって売れねえんじゃねえかって (笑)。そりゃ、どこの会社でも叩けば埃が出るだろうから (笑)。埃の出ない会社なんかないんだから、ねえ (笑)。もう言いたい人にはどうぞと (笑)。それで金儲けできるなら、どうぞと。

―なるほど。試合の面に関してですけど、後楽園大会を見に行くごとにどんどんどんどん変化してるなっていうのは感じるんですよ。

松永　なぜこうなったかっていうと、今まで離脱する前はトップの選手ばっかなんですよね。そうなってくると、お客の入りと支払いとのバランスですかね。やっぱ支払いもできなくなってくる。僕はいつもこういうことを言うんですけどね「仕事は大勢、うまいものは一人」。これがスターなんですよ。

―どういう意味ですか?

松永　いやあ (笑)。みんなに働かせて、おいしいものは自分一人が食うと (笑)。まあ、逆だったからね。「スターが大勢、うまいものはない」って (笑)。

松永　ない（笑）。
——それじゃダメですね（笑）。
松永　ねえ。普通の会社でもそうだけど。仕事は大勢にさせといて一番いい思いをするのは社長だわね（笑）。でも、社長級が何十人もいたと。
——そうですよね。
松永　でしょ。スターは一人か二人でいいわけでしょ。
——で、そんな苦しい時期に会長は、浜松町に常打ち会場を作るって言ってましたけど、あの計画は今どうなってるんですか？
松永　倒産したからダメだわ（笑）。
——ダメですか（笑）。
松永　ワハハ、向こうが逃げたわ（笑）。
——夢のある構想でしたよね、でも。
松永　そうでしょ（笑）。また、誰かが金出してくれりゃあねえ。まだ、諦めてないからね。
——まだ、諦めてないですか（笑）。
松永　そうそうそう。また、盛り上がってくれれば、そういう話もまた持ってきてくれるでしょ。ですから、こういう風に低迷になった場合でも、あそこにいけばいつでもプロレスが見れるという会場をね。
　名前まで決まってたんですよね。
松永　そうそうそう。え〜と……パイレーツ！　まあ、前もいろんな夢があったけど、またダメになったなあ。
——またダメでしたか（笑）。
松永　ダメだったねえ、ワハハハハハ！
——今はどんな夢がありますか？
松永　夢？　新聞折り込み広告で、金がざくざく入ってくる「Gパワー」っていう腕輪があったのね。それを買ったんだよ、1万8000円で。
——Gパワー？
松永　〜（腕をつきだして）これだ、これ。
——えっ？　これですか（笑）。うっわ〜、ちょっと見ていいですか（笑）。
松永　新聞広告にね、「これをはめたら、ざくざくと金が転がり込んでくる」と。で、「これ買おう！」と。みんなにバカにされたけど（笑）。
——ガハハハハ。
松永　うちに帰って女房にも怒られたけど（笑）。
——そんなもん買ってる場合じゃないだろうって（笑）。
松永　で、90日以内に、それが達成されなかったら、払い戻しするって。
——凄いですね。今何日目ですか？
松永　2日目（笑）。
——どうですか、今のところ。
松永　だから、「これがそうかな、あれがそうかな」なんていうものがチラホラ出てきてるけど。
　運気は好転してるんですね。
松永　だけど、俺、今年は厄年でしょ。だから来年は大丈夫（笑）。
——ガハハハハ。そのうちに効果も表れてくるでしょう（笑）。
松永　夢がないとね。こんな風にね、バカなことばっかりやってるのは、「倒産しても元気ですよ！」と（笑）。
ワハハハハ！
——会長も元気ですね（笑）。
松永　そう。「明日、金どうするか？」「今、金どうする？」って言ってもしょうがねえもんね、ねえんだから（笑）。
——Gパワーで乗り切りますか（笑）。
松永　乗り切る（笑）。来年には大儲けする。みんなにもいい思いをさせなきゃいけないしね。

聞き手／坂井ノブ
【97年11月20日、全女事務所にて収録】

アルシオンの引き抜き問題に関しては「そういう生き方もあるだろうけど、欲しけりゃもってけ！　借金も持っていきゃあいいんだよ！　ワハハハハ！」と一蹴。VIVA！　会長！

あのね、読みたくないんなら
RADICALの"ラ"の字も言うなよ！　でしょ？

紙のプロレスDEPART

お世話になったあの人に……

こんなお歳暮はいかが？

商品番号 ① 闘いのドンキホーテ VIDEO

【戦慄の内容】
●ザ・グレート・サスケ＆石川雄規vs山賊男ガリバーX＆山賊男ガリバーXX　●池田大輔＆アレクサンダー大塚＆米山サトシvs臼田勝美＆小野武志＆田中稔　●初代タイガーマスクvs獅龍　●グラン浜田＆スペル・デルフィン＆薬師寺正人vsディック東郷＆MEN'Sテイオー＆TAKAみちのく　●新崎人生 vs 愚乱・浪花　●その他、ターザン密葬＆発狂の場面や、未公開の選手による「弔辞」、さらにUインター崩壊前夜のゴールデンカップス突如来襲の様子も収録。他じゃ絶対見れない内容です！

【[illegible]】
●今では『紙プロRADICAL』でもお目にかかれない亡霊落武者が見れます。時の移ろいが味わえるので、お歳暮に最適！　●みちプロとバトバトのバカ社長ズが、この日初タッグを結成しました。おめでたいので、お歳暮に最適！　●バトラーツ初のバチバチ６人タッグが実現しました！　驚きと感動の連続で、お歳暮に最適！　●現・タイガーキングが今ではもう見れない、「初代タイガーマスク」として出場。貴重なので、お歳暮に最適！

商品番号 ② トンパチ

トンパチ
佐山聡画伯

【衝撃の内容】
●カリスマトンパチことザ・グレート・サスケがUFO談義で大槻に説教？　●折原昌夫のリアル・トンパチインタビュー。これで各方面から苦情が殺到して、現在、折原は反省中　●宇宙人トンパチことジョージ高野が前田に置いていかれた現状を大いにぼやく！　●デンジャートンパチこと松永光弘がステーキ屋オープンの野望をすでに本書で語っていた！　●この他、邪道外道・セッドジニアス・将軍KYワカマツ・矢口壹琅・ターザン山本・レッドマンの圧倒的に感動的なトークが炸裂！　●インタビュアーも超豪華！　大槻ケンヂ・浅草キッド・吉田豪（紙のプロレス）

【[illegible]】
●表紙イラストは天才・佐山聡画伯。ブタがトンカチとハンカチを持ってパチパチと手を叩いており、おめでたいのでお歳暮に最適！　●登場レスラーたちの特製トンパチ紙相撲がついているので楽しみ２倍！　楽しいのでお歳暮に最適！　●めったに読めない人たちに、めったにやらないような超ロングインタビューをしてます。めったにない本なのでお歳暮に最適！　●プロレスとはかけ離れた話をしていますが、ぐるっと遠回りをしてプロレスに通じる話をしています。哲学的なのでお歳暮に最適！

また商品番号＝①「闘いのドンキホーテ」は世界経済のために、特別通販も行うんです！

①現金書留　②郵便振替　00130-3-769154　名義：（株）ダブルクロス
1・2いすれかの方法で下記住所へビデオの料金を送って下さい。送料＆税込で大出血価格7500円です。その際、住所、氏名、年齢、電話番号を明記していただかないと商品が届かない場合がありますので、忘れずに。（郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に記入）
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス『ドンキホーテ通販係』まで。　ＴＥＬ03-3403-5188　ＦＡＸ03-3403-5187

RADICAL BOUT REVIEW

紙プロ的 RADICAL 観戦記

新名物!!

っちゃー観戦記なんですけどね

タッグリーグ・ザ・ベスト'97

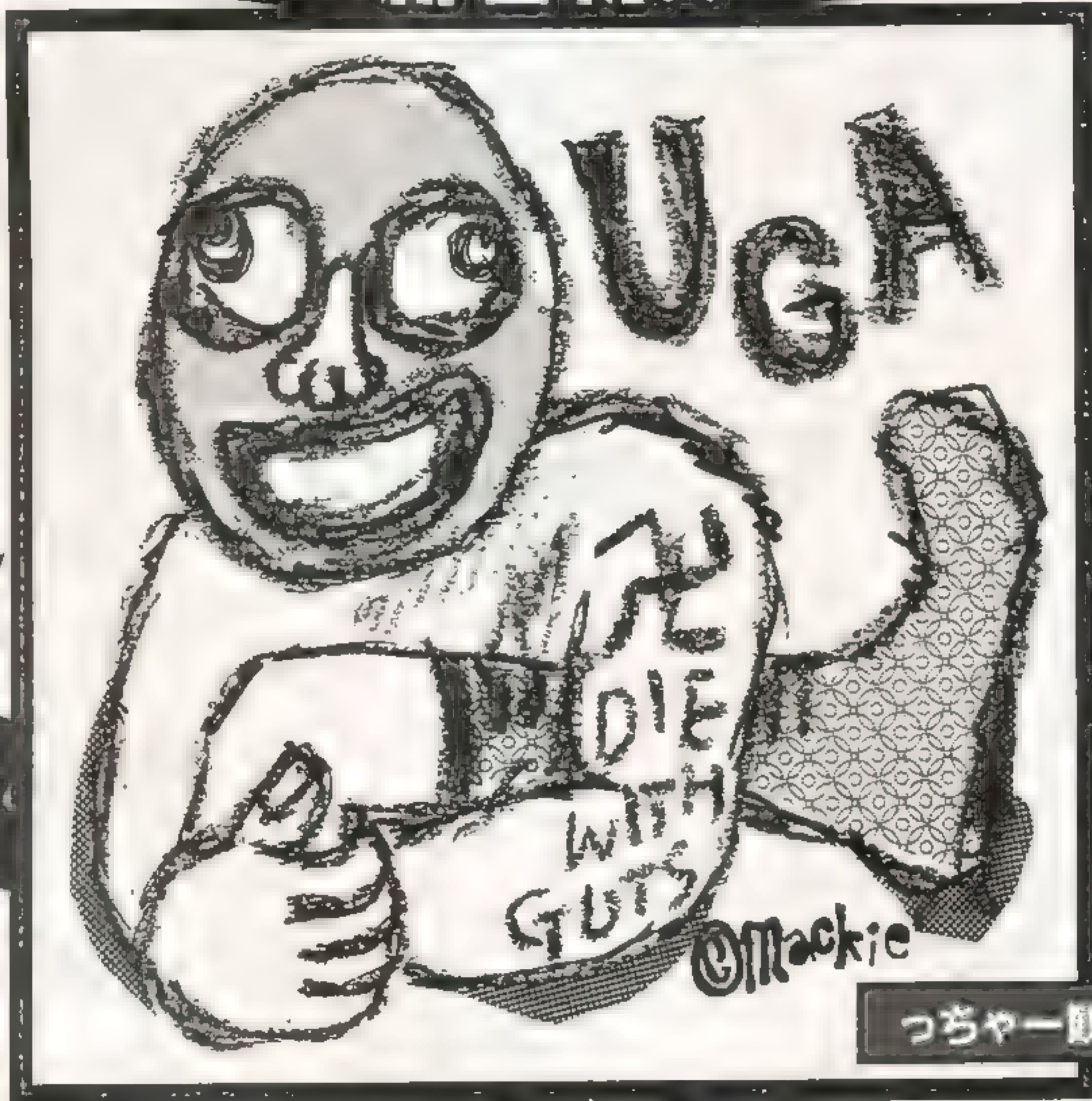
11／21（後楽園ホール）

全日本女子プロレス

本日のベストバウト

1位
中西&高橋vs
豊田&元川

2位
中原奈々vs
納見佳容&豊田紀子

3位
サスケ&浜田&デルフィンvs
海援隊★DX

この日は中西&高橋も非常に素晴らしかったのですが、中原奈々デビュー戦もすごいインパクトでした。いきなり1対2のハンデキャップマッチだったんですが、相手はこの日デビューの豊田と再デビューの納見です。この2人を相手に、プロレス技を出さずに勝っちゃいました。しかも、右腕を骨折して肩も上がらないようなベストとは程遠い状態なのにです。会長も「基礎からやらしたら、一生デビューできない」と言うだけあって、この日もいわゆるプロレス技のストンピングにチャレンジしてましたが、蹴る前になぜか両足を揃えて一拍置いてました。一言で片付ければ「ヘタクソ」ということなんでしょうが、プロレスの基礎を綺麗にやるよりも、逆に本人の持つ迫力や地力を想像するとドキドキしてしまいました。今号のインタビューで語っていたように、中原はバリバリの不良少女で「喧嘩に負けたことはない」そうです。狭いあのかわいいストンピングにはいろいろ考えさせられました。狭い枠にはめないで欲しいと心の底から思った次第です。

だいたいプロレスの試合会場というのは、ひねくれた見方をするプロレスファンという人種が何千人集まる空間です。失敗したら、野次られたり、笑われますが、正確に技の懸け合いだけをしてればいいというものでもありません。まあ、それでも、失敗しても凄い人と、失敗したら目も当てられない人という2種類いると思います。そこで観客がやるべき作業は「その失敗に何を見るか？」でしょう。そこにとれだけ潜在能力や凄みを見るかがファンの大事なテーマであるような気がします。

ボクの中では失敗しても凄いレスラーは田上、安田でしたが、この日新たに中原がランクインしました。

（坂井ノブ）

WORLD MEGA-BATTLE TOURNAMENT 1997

11/20（大阪市中央体育館）

RINGS

本日のベストバウト

1位
前田日明vs長井満也
前田の試合後の長井に対する張り手の迫力込み）

2位
髙阪剛vs イリューヒン・ミーシャ

3位
前田vs長井戦の瞼が落ちたからか、ベストの田村が見れなかったのが残念！

安生洋二が「200％勝てる」と前田を挑発したとき、前田は「生の喧嘩見せたろかー」と激怒した。それを伝え聞いた高田延彦は、「前田さんはバカ強いよ」と、ひと言いったそうである。この言葉にはビビッときた。「生の喧嘩」もいいが、「バカ強い」も実に破壊力がある。

そうなのだ、前田は「バカ強い」人だったのである。

さて、この日の前田vs長井戦。リングスにしては珍しく不穏な空気が渦巻いた一戦だった。意を決したように攻め込む長井に対して、爆弾の膝をやられて動けない前田。ふがいなく映る前田に対して、ファンからは「そんなんじゃヒクソンどころじゃないゾ!!」という厳しい声が飛び、記者連中からは「前田は終わった」との声も聞かれた。

しかし、それはまったくの逆である。高田がヒクソンに敗れた要因は、開始直後の陣地取りにあった。ヒクソンは試合開始直後にリング中央という自分の陣地をシッカリと確保し、勝ったのだ。

確かにこの日の前田は圧倒的に不利に見えたが、地力だけで長井の猛攻を凌ぎながらも、常に陣地を確保していたのは前田のほうだった。まるで第一次UWFでの"金的事件"——大阪での佐山戦のように、ズンズンズンと前へ前へ出る前田。久々に「バカ強い」前田を垣間見た。前田のバカ強さは死ななきゃ治らないのである。

陣地——、まるでカメレオンのように右目と左目で別々の方向を見つめる冷酷さと、それとは相反する熱さを持って、前へ前へと出る無謀さを合わせ持っているものだけが手に入れられる場所。

前田日明は陣地取りの方法を本能で知っている。

ヒクソンとの陣地取り合戦はもう始まっているのだ。

（日昇）

BIRTH TOUR '97

11/19（札幌中島体育センター）

PROFESSIONAL WRESTLING KINGDOM

本日のベストバウト

1位
金原弘光vs パトリック・スミス

2位
桜庭和志vs 山本健一

3位
日野さんと食べた「だるま」のジンギスカン

3

この日は文句なく寒かった！

11月3日の後楽園大会が面白かっただけに、それに続く地方ツアーはどうなるんだろう？　という興味から足を運んだ。決してすすき野ナイト・クルージングが目的ではない（好きです、恋の街サッポロ！）。

寒風吹きすさぶ中、試合開始5分前に会場入りしたが、観客の入りも寒い！　客席しか見えない、と錯覚したほどだ。

「フロント・プロレス」が通用しにくい時代の打開策として「地盤固め」を選んだキングダム。選手のアスリートとしての「地盤固め」と、リング上の闘いを観客の細胞に刻み込んでいくための「地盤固め」。その現れがキングダム・ルールである

しかし、いかんせん、新しい試みのキングダム・ルールを理解させるには札幌中島体育センターという会場は老朽化しすぎていたし広すぎた（9月の別府ビーコンプラザは新しかったが広すぎた）。なにか、初期シューティングやシュート・ボクシングがプロレスのハード面を導入して行ったビッグ・マッチ、しかもコケたときの興行を思い出した。この雰囲気ではせっかく選手が"大振り"しても客席には届きにくい。

はたしてこの団体が、結局は「Uインター」という一度覚えた言葉を繰り返す九官鳥のようになるのか、過去を忘れる才能を発揮して大化けするのか、この日は少しばかり測りかねたというのが正直な感想である　あまりにも後楽園との密度が違いすぎた

この際Uインターの一番いい時代を取り戻すことを目標にするなどというチンケな発想はしてほしくない。打倒、Uインター！　キングダムが新しい闘い方と手法でUインターを遥かに超えるという、痛快な物語の方が面白い。

（日昇）

©M・GIGIE

ALIVE IN KOBE

11/16（神戸ファッションマートアトリウムプラザ）

PANCRASE

本日のベストバウト

1位
近藤有己vs 髙橋義生

2位
船木誠勝vs ジェイソン・ゴトシー

3位
山宮恵一郎vs 伊藤崇文

4

この日のお勧めは、何と言っても近藤有己vs高橋義生の初対決に尽きる。

特に高橋にとっては、博多スターレーンで行われた、あのvs船木誠勝戦以来、約4年振り3度目のメイン出場なのだ。気合いが入らないわけがない。

おそらく今年、最もパンクラスで活動的だった高橋に、御褒美代わりのメイン出場&王者・近藤との一騎打ち、と思えばいいのだろうか？

試合開始直後、高橋がフッと顔を突き出して近藤を威嚇。その後は、文字通りの「シバキ合い」となった。バシッ！　バシッ！　そんな打突音が会場中に響き渡る。途中、高橋が一度ダウンしたが、これは本人にも「わからない」という感じの倒れ方。良きにつけ悪しきにつけ、高橋の試合からはどうしても危険な香りがプンプンしてくる。正直な話、見ていて怖くなるほどだ。

例によって、リング下に尾崎充実社長の心配そうな顔が見える。

そして、唐突に近藤の肩固めが決まった!!　だが全体的には、高橋が王者・近藤に「プロとは何か？」を教えているといった印象　きっと近藤は、この試合でまたひとつ成長したに違いない。

それでも驚くべきは、あれだけの打撃合戦にも関わらず、試合後の近藤の顔はきれいなまま。たまたま同乗した帰りの新幹線内で話を聞くと、「僕には掌底は効きませんよ」と、余裕ともとれる発言。この辺は、さすがは王者、である。

一方の高橋には、新幹線に乗る前の新神戸の駅で会った。

「面白ければいいッスよ。メインだから」

今日の試合は面白かった旨を伝えると、折れた鼻をおさえつつも、高橋は笑いながらそう答えた。その表情は、この日一番の高橋らしさを醸し出していた。

（"Show"大谷泰顕）

5

スクランブルサバイバー'97

11/15（浜松市体育館）

FMW

本日のベストバウト

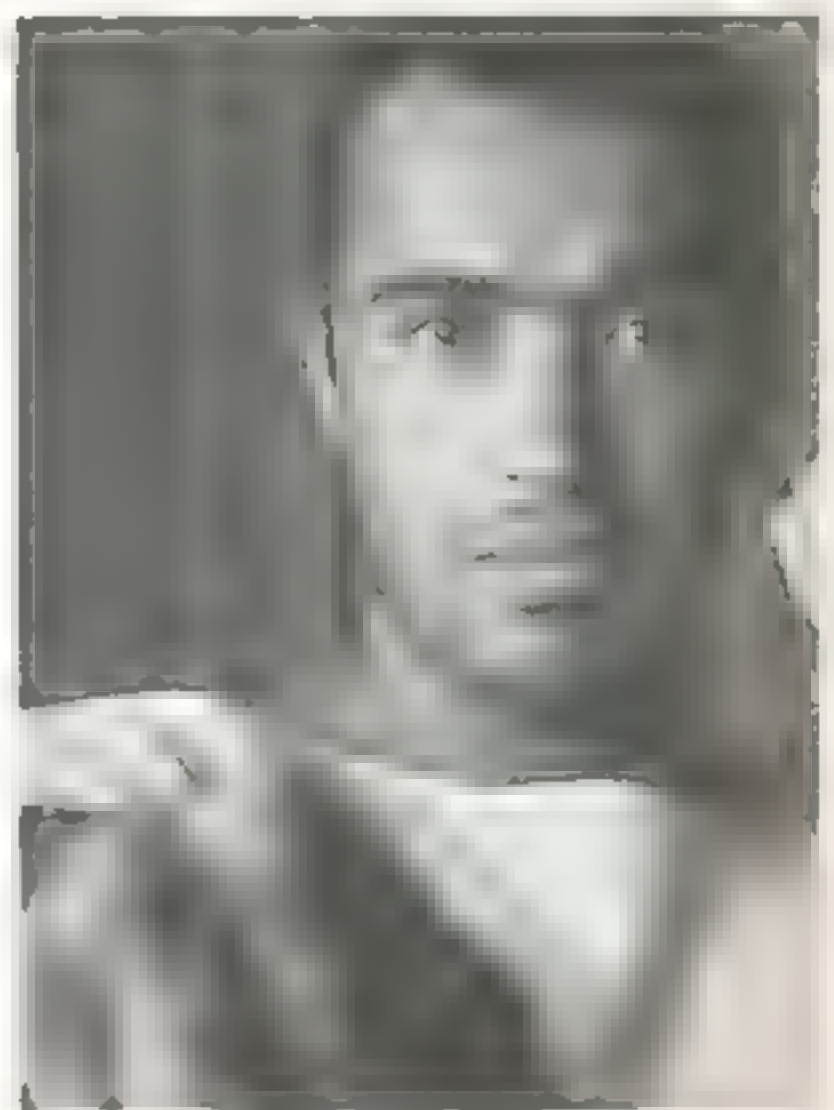
1位 冬木軍vs 非道、グラジ、ニタ

2位 シャーク土屋&クラッシャー前泊vs アジャ・コング&中山香里

3位 ミス・モンゴルvs 里美和

随分久々だなぁって思ってたら、くどめが引退しちゃってから初めてのFMWでした（川崎球場は一応行ったけど、2試合しか見れなかった）。しかもここは浜松。FMWで地方へ行くなんて初めてかも、って言うか、基本的に私はみちのく&バトラーツ以外で地方へ行った経験はないので……。んんん？　あ〜、あった！　そういえばW★ING見に地方へ行ったことあるぅ。しかも3回も‼　えへへ、のものもは熱狂的なW★ING信者だったからね。しかし、今考えると何が見たくて地方まで行ってたんだろう、デンジャーのファイヤーデスマッチ？　それともレザーの五寸釘デスマッチ？　ん〜、実に謎である。

ってそんなのFMWと全然関係ないやん！　いやいや、実はそうでもないんスよ。一時期メジャー化を目指し、興行全体すいぶん小綺麗にまとまっちゃってたFMWも、最近は徐々にW★ING戻りしているような気がして、個人的には嬉しい限り。特にこの日の冬木軍VSグレートニタとその仲間達の試合は、まさに全盛期のW★INGそのもの。中身が保坂というのがイマイチだったんだけど、とにかくめちゃくちゃコケティッシュで目が離せなかったのがニセニタ。でも真面目にニタを全うしすぎたせいか、「ヒョーヒョー」（ニタの雄叫び）言い過ぎて、お客さんに「うるさい！」とツッコまれてる姿はかなり格好悪かった。しかもその後素直におとなしくなっちゃったりして。そういえば、この日初めて新山がいないことに気が付いた私。ZENのグラサン&モヒカン金髪の男も誰なんだか気になってた私は、その瞬間点と点がつながった！　そうか、ZENのアイツは新山か！……実際は全くの別人。藤田豊成さん（元オリプロ）という人でした。（のものも）

6

K-1 GRANDPRIX'97

11/9（東京ドーム）

正道会館

本日のベストバウト

1位 F・フィリォvs サム・グレコ

2位 A・フグvs 佐竹雅昭

3位 ピーター・アーツvs M・ベルナルド

一回戦で佐竹が15秒で負けた。フィリォが15秒で勝った。両方とも凄い試合だった。

PUFFYの由美ちゃんは「立ち技だとわかりやすいじゃないですか？　寝技だと何をやってるかわからなくなってしまうんで。立ってて『ゴ〜ン』ってなったほうが『ワ〜』ってなれるんですよね」と語っている　これが非常に大事な要素のような気がする。女子プロレスで一世風靡を狙う全日本女子プロレスの松永会長にしても「K-1は一発勝負で勝ち負けがはっきりしてる。プロレスの場合はあまりにも技術が身に付いちゃうと、そっちばかりに気がいって勝負ってことをどっか忘れてるわけですね」と語っている。

「一発勝負でわかりやすい」ということで言えば、この日のフィリォの一回戦などは特にわかりやすかった。素人目にはわからない細かい技術の攻防もあるのだろうが、勝ち方が豪快で気持ちいい。二回戦で判定負けしてしまったが。

今年のトーナメントを制したのはフィリォの快進撃を止めたミスター・パーフェクトことアーネスト・ホーストである。誰もが納得の優勝であった。

K-1は会場の演出にもお金がかかっているそうだし、各地ドームで連戦している。おまけにTVのゴールデンタイムで中継している。世間に有無を言わせず、魅了してしまうのだから素晴らしい。ボクも、素直に「面白い！」と思った。「じゃあ、わかりにくいものは潰れるのか？」となると話は違ってくる。どうせわかりにくいなら、そこにどれだけ意味を持たせるか、それがポイントである。フィリォはわかりやすい試合なのに意味ありげな闘いをする、珍しいキャラクターだ。

（坂井ノブ）

7

みちのくふたり旅'97

〜タッグリーグ戦〜

11/6（岩手・一戸町民体育館）

みちのくプロレス

本日のベストバウト

1位 新崎人生vs マジックマン

2位 サスケ&デルフィン&浜田&タイガーvs 海援隊★DX&スーパーボーイ

3位 薬師寺正人&星川尚浩vs ヨネ原人&ペロ・ルッソ

むきょー、さ、さむい！　さむすぎ。しかも駅の周り、喫茶店はおろか何もねえの。八百屋しかないんだもん。すごいとこだわ、一戸！　この、ド田舎大賞！

久々に訪れたみちのくド田舎興行だっただけに、イマイチお客さんの入りが芳しくない。こんなド田舎にも経営危機の波が！って感じなんでしょうか。

さて、肝心の試合の方はと言うと、意外や意外、あったんだよ収穫が。はるばる一戸まで来たかいがあったっちゅーもんさ。それは何か？　ズバリ、マジックマンです！　もうマジ、最高！　チャラララ〜♪というマジシャンのテーマ（？）にのって入場してくると、リング上でマジック開始。それがドヘタ。しかし、憎めない愛すべきキャラのため、大きな心で見守ってしまう。

そんなこんなで相手役の人生登場。人生さん、今日はオフなんですね（みちプロではマジックマン相手の試合をオフと呼んでるらしい）。とにかくこのマジックマン、さすが素人だけあって、手品もドヘタだがプロレスもドヘタ。っちゅーより何もできない。唯一反撃したのは、凶器攻撃だけ（っつってもクラッカー）。そして1分51秒であっけなく破れ、また手品して帰って行った。ホントに手品が好きなんだね。

試合とは関係ないけど、マジックマンが会場入りした時に、のものもちょうどそばにいて、することないからマジックマンの一挙手一投足に注目してたのね。そしたら見られてるのを意識しての行動かなんだかわかんないけど、とにかくやたら一人で喋ってんだわ。しかもチラッとこっち見ながら。一体、何言ってたんだろ。おまけにマジックマンの荷物は人一倍多かった。カバンの中はマジックセットがいっぱい？　マジかよ、マジー　（のものも）

8

B-MY BABY
11/5（後楽園ホール）
格闘探偵団バトラーツ

本日のベストバウト
1位 アレクサンダー大塚vs池田大輔
2位 田中稔vs折原昌夫
3位 日高郁人vs[illegible]

突然だが、平成維震軍のハタ坊・小原がまるで高野拳磁のごとく背中に犬と書かれたまま呑気に試合をしているのは、後藤達俊と二人でnWoの2軍「犬Wo」を結成するため、とボクは推理するね。

……というどうでもいいネタをマクラに話を進めるが、「XWo」を提唱していた「外人の血が多過ぎた高野拳磁」ことビクター・クルーガー（2メートル）の登場以降、バトラーツの方向性は徐々に変わりつつあったものである。前座スタイルを徹底して極めたバチバチ・タノクという安全牌を徐々に封印した彼らは「万年前座」呼ばわりからの脱却のためか、まるでアンドレへと挑んだ猪木のごとくビクターにシングルでぶつかっていったのだ。

それでも結局、「バトラーツならではのシングルマッチ」というものがほとんど見えてこない（見せろというのも傲慢な話だが、タックの完成度がなまじ高かった以上、しょうがない）ため、非常に衝撃的（B-SHOCK）だった最初の後楽園ホール以降、正直ボクはバトラーツに対して徐々にクールダウンしつつあった。

ところが、ビクター離脱後初になるこの後楽園大会ではシングルでのバチバチにも説得力が出て、これまた非常に面白くなっていたからもうビックリ。悪いのは、あのデカブツ君だったのか？

バチバチをやるには「愛」が重要だと池田はかつて語っていたが、やっぱり外人に仲間と同じレベルの愛を求めるのは酷だったのかもしれない。その代わり、池田も全日で「愛」が芽生えたらそこでもバチバチできるようになるのだろう。他の選手も同様で、要するにバトラーツの指命は各団体に愛を広めることにあるのである。つまり永遠のラブ・ジェネレーション・バトルなのだ。

愛を求めるため、今日も小野はナンパするわけなのである。（豪）

9

新世界～NEW WORLD～
11/3（後楽園ホール）
PROFESSIONAL WRESTRING KINGDOM

本日のベストバウト
1位 桜庭和志vsグレッグ・ダグラス
2位 山本健一vs折原昌夫
3位 垣原賢人vsフェリックス・ミッチェル

この日は文句なく面白かった！

しかし、全6試合のうち、4試合は合格、2試合は不合格である。不合格といっても決してつまらなかったわけではないので、その2つがどの試合かは書かない。でも、理由だけでも書いとこうか。

ところで、高田の敗戦ショノクを吹き飛はす気運を高めるには、どうしたらいいのだろうか。U系のファンは、いまや精神的にも経済的にも余裕がない。Uインター時代は宮戸優光&鈴木健の「フロント・プロレス」をファンが楽しむ（反発も含め）ゆとりがあったが、いまはそれさえもないのが現状である。

そうなると、闘いそのものから、キングダムのイメージを観客に突き刺していくしか方法はない。それはフロントも選手も重々わかっているはずだ。だからこそ、"魔の10・11"から1カ月もたたないうちの後楽園大会急きょ決定だったのだろう

しかし、その2試合だけは、「身内受け」の匂いがして、キングダムのイメージを突き刺すには、どことなく中途半端だった。

一方、実力者、クレック・ダクラスを破った桜庭の素敵な笑顔ー折原昌夫相手に完勝し、おまけに「これからは自分の時代です！」と言い放ったヤマケンの不敵な面構え！　いいですね、面白いですね。対照的なこの二人（後楽園クラスの会場では、特に）で、素敵、不敵ときたら、あとは無敵の快進撃を続けるスターが現れるのを待ちたいところだが、悠長に待ってはいられないというのがフロントとU系ファンの本音だろう。

『最強』から『挑戦』へ——。挑戦するからには黄色信号を渡らなければならない時もある。突っ切るか事故るか、12・14はすぐそこである。（日昇）

10

プラム麻里子追悼興行
10/30（東京・大田区体育館）
JWP

本日のベストバウト
1位 尾崎魔弓vsC・鈴木&D・関西
2位 元川恵美vs[illegible]
（レフェリー・キャンディー奥津）
3位 中山香里vsクラッシャー前泊

試合開始前に追悼のテンカウント・ゴングが鳴らされた。選手や関係者によるコメントもなく非常に飾り気のないセレモニーだった。この日は、試合の合間に休憩時間もなく、各選手のテーマ曲も本来のものではなかった。非常にそっけない淡々とした時間が流れていったという印象である。しかしやはり、セミとメインだけは違っていた。元・ジャパン勢の試合は見ているだけで、とても切ない。

元・ジャパン勢以外で異質なのはクラッシャー前泊だけだった。みんな何かを抑えたような、淡々とした試合ぶりだった中で、ひとりヒールのファイトに徹していた。それが賛否両論分かれるところなのだろうが、あれでよかったと思う。それに今回、不参加だったガイアについても様々な憶測が飛び交った。追悼するという大事なテーマの他にも、もう少し大事にしてほしいことがいくつかあったと思う。葬式じゃないわけだし。そういった意味で追悼興行というものは難しいのだろう。

でも、尾崎がプラムのコスチュームを抱えて入ってきたときはジワッと来たし、フィニッシュの時の関西もさすがだったし、デビルを交えた4人で試合後に挨拶するシーンも忘れられない。あと、メインの試合前にレフェリー小鉄が披露した、見たこともないような準備運動も……。

この追悼興行は、大いに意義もあったし、やってよかったと思う。このプラムの事故で何が改善されるのか？　残されたプロレスに携わる者たちが何をもって供養をするのか？　問題はいろいろある。というわけで、この日はボクも本当にしんみりしてしまった。合掌。（坂井ノブ）

11

PANCRASE1997 ALIVE TOUR

10／29（後楽園ホール）

PANCRASE

1位 髙橋義生vs金宗王

2位 國奥麒樹真vs ガイ・メッツアー

3位 伊藤崇文vs 美濃輪育久

この日は船木&鈴木が出場しませんでした。東スポのマシン眼にそのことを叩かれてましたが、そんなのはお構いなしにこの日の後楽園ホールは満員でした。

この日、ボクが期待していたのは金宗王（キム・ジョン・ワン）です。拮抗した実力のハイブリッドレスラーたちがひしめき合うパンクラスにおいて、キムの試合には常に完全燃焼の壮快感があるので、ボクは大好きです。ハイブリッド・ボディーとはかけ離れた、昔ながらのプロレスラーのような筋肉の付き方もグーです。豪快な負けっぷりは目を引かれずにはいられません。この試合でキムも打撃を出すのですが、髙橋の一発とは重さが明らかに違うので簡単にタウンを取られてしまいます。そして、最後には強烈なニーを喰らっての壮絶KO負けでした。クールに徹した髙橋も良かったと思います。

あと、この日、目に付いたのは國奥のヒラヒラの付いた「かっこいいパンツ」です。鬼塚勝也なら似合いそうですね。『週プロ』によれば、これを見た観客は「嬉しそうにとよめいた」そうですどよめきに参加できずに笑ってしまったボクとしては、國奥の「かっこいい観」がすごく気になります。

そして、全試合終了後に船木、髙橋、尾崎社長がリング上から前田日明&リングスに絶縁宣言をして、観客の大半が歓声で受け入れていました。それぞれのトップの印象から、もっぱらリングスファン＝積極好戦派、パンクラスファン＝消極鎖国派というイメージがあります。が、髙橋の一連の行動は、理念とか思想に縛られない「売られた喧嘩は買う」という自然の摂理に基づいており、個人的に好きです。個人の生き様と団体の理念の衝突は、これからのパンクラスの重要なテーマではないでしょうか？

（坂井ノブ）

12

モハメド・アリ かけがえのない日々

（渋谷シネマライズで公開中）

アスミック

本日のベストバウト

1位 パンフレットのアリ語録

1位 アリvsフォアマン

1位 アリの記者会見すべて

この試合が行われたのはボクが生まれる前だし、猪木vsアリ戦が行われたのもボクが生まれる前だ。正直言って、『アリ体験』のないボクには凄く新鮮だった「古いことは新しいことであり、新しいことは古いことでもある」というカール・ゴッチの言葉は正しい。「動くモハメド・アリ」は非常に面白かった

猪木vsアリ戦だって、今の時代でそれだけのリスクを背負えるボクサーは見当たらない。本気で実現させた猪木さんもすごいのだが。そういう意味でアリはハイリスク・ハイリターンな試合に挑めるスケールの大きな〝プロレスラー〟だったのだと思う。

で、この映画は、キンシャサで行われたヘビー級選手権モハメド・アリvsジョージ・フォアマンのドキュメンタリーである。その一戦にたどり着くまでの流れ、散りばめられた伏線の張り方、途中で起こるハプニングなど、プロレス的要素が満載である。同じ黒人でありながら、巧みな話術とパフォーマンスで大衆を味方に付けるアリと、「ボマイエ（ヤツを殺せ！）」などと言われてしまう若き日のフォアマン。完全にベビーフェイスとヒールの色分けが出来ているのも、非常にプロレス的だった。この一戦に大きく関わっていたドン・キングが、この試合後に台頭する。裏でもいろいろあったのだろう。戦前の評価も残虐な最強のチャンピオン・フォアマンが黒人社会の英雄で長いブランク後のアリを圧倒するだろうというもの。これまた平成9年に渋谷の映画館で見てもアリを応援したくなるようなボマイエ（＝ボンバイエ）な展開だったのであった。

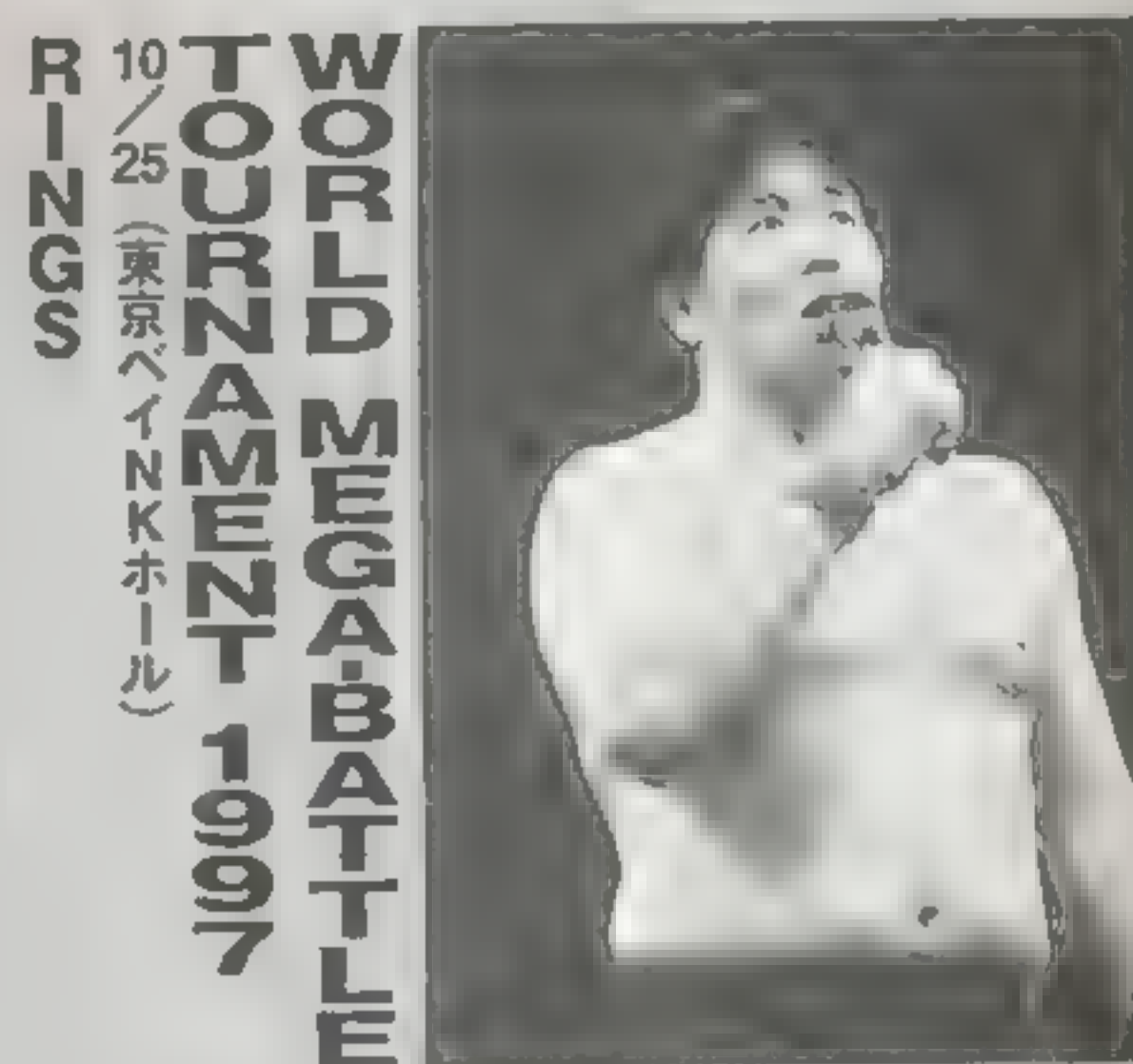
試合内容も、非常にマンカチノクでありながら、これがあまりにリアル！ ここに真のプロレスを見た！「わざとらしいことこそリアル！」（by 芳賀元太）

（坂井ノブ）

13

WORLD MEGA-BATTLE TOURNAMENT 1997

10／25（東京ベイNKホール）

RINGS

本日のベストバウト

1位 前田日明の「ヒクソンとやります！ SRS（KRS）のリングには上がりません」宣言

2位 髙阪剛vs ボリス・ジュリアスコフ

3位 田村潔司vsハンス・ナイマン（「田村、ヒクソンとやれ～」というヤジに対してキッと睨んだ視線込み）

フランク・シャムロックのリングス参戦を、リングスvsパンクラスという図式で見ていたファンも多かったはずだ。

V・ハンとのメインを終えた田村はフランクについて聞かれて、こう語った。

「髙阪選手といいライバルになるんじゃないですか。僕は一応、髙阪選手に勝ってますから」

お見事！ 鮮烈な投げかけである！

これを聞いて、ハタと思い出した場面がある。

A・ブッチャーが全日本から戦場を移し、新日本のリングで初めて挨拶に立ったときのことだ この移籍劇は昭和56年当時、大事件だった。そのブッチャーを前にアントニオ猪木はこう叫んだ。「今回ブッチャーが派閥を越えて挑戦してきた勇気には感激し、敬意を表します だがひとことだけ言っておきます。いいですか！、お客さん！ もしブッチャーが今までのようなスタイルの試合をする限り、この私には絶対に勝てません！」猪木の投げかけは瞬時にして、全日本にいた頃のブッチャーでは勝てないことをアピールし、ブッチャーの新たなる戦場における変貌を予感させた。

フランクは残念ながらリングスには居着かなかったが、同じように田村の言葉は、リングスの新たな風景を期待させ、さりげなくフランクでは俺には勝てないということを示唆していた。

猪木ほどの巨大なケレンはないものの、田村の発言は、関係者やファンが気付きにくい部分で奇妙な奥行きがある。そういえば、最近の田村のイメージは日本プロレス時代〝若獅子〟と呼ばれていた頃の猪木が放っていた鮮烈なイメージと重なる部分がある。田村は不条理化する前のアントニオ猪木だったのである。

あれ？ それはそうと、これは9・26札幌の話だった。（日昇）

'97年12月25日 TOKYO FM ホール大会で、バトラーツからちょっぴり小粋なX'masプレゼント……

アレクサンダー大塚

「BAN BAN BAN」出演時に来ていた衣装、藤原組ジャンバー、ピンクペアTシャツ（ホモTシャツ）、「トーナメント・オブJ」出場時着用したゼッケン、リングシューズ。おホモだちの人にぜひ買ってもらいたいですねぇ

石川雄規

悪役時代でめったにサインをしなかった時期（84年）の、タイガー・ジェット・シンの貴重なサイン色紙。あと、米米クラブの解散コンサートの時にもらったスタッフジャンバー。サイン欲しい人には当日入れまーす

池田大輔

忘れもしない93年12月8日、組長がCMに出演した際、常盤貴子が遊びに来て楽屋でサインをもらったのが、このMA－1（とにかくいっぱい着込んだ）。そんな思い入れの1着

これ、ぜ〜んぶあ・げ・………る ワケないっ！
ガッチリ稼ぐぜ、夢の大オークション
じっくり選んで、賢い買もの

小野武志

愛の性感!?マッサージ。その場で5分間、小野武志が誠心誠意込めて、アナタの心と身体を揉みほぐします！　女性歓迎！　肩から胸から心まで、揉んで揉んで揉みほぐす！

田中稔

藤原組、最後の大会（'95年11・19横浜文体）で使用した水色タイツ　藤原組時代使用していたオレンジ色タイツ。今年3月、リングス「トーナメント21」1回戦で使用したハチマキ。他では絶対見られない、新弟子時代（'93年12月）のヤバヤバ映像を収録した「田中稔秘ビデオ」。すべてサインつき！　ビデオはかなり貴重です！

岡本衛

極真空手道着で押忍！　極真魂（キョクシンスピリッツ）をアナタに！　そこんとこ、よろしく！　押忍！

モハメド・ヨネ

藤原組3点セット（ジャンバー、Tシャツ、スパッツ）と、旗揚げ戦から着用していた愛用の一品、黄色パンツ　そして組長（若い頃愛用）から譲り受けたブーツ　モハの足が大きくなったため、泣く泣く放出！

島田最強

オレは藤原たトレーナ と、高田VSヒクソン戦、世紀の一戦を裁いた世紀のポロシャツ

石黒腹黒

ひさの限定、UWFインタージャンバー。もし売れたら、一緒にお食事でもいかがですか？　1万円以上たったら誰でもいいや

日高郁人

知る人ぞ知る、現・パンクラシストの箕輪選手との対戦VTR、入門テストを受けた時着用していたTシャツ（番号入り）。箕輪との試合VTRは、今となってはかなり貴重（しかも、結果は……ニヤッ）。

臼田勝美

（ご本人欠席のため、謎のサングラス男・J氏にご登場頂きました
イズマイウ戦の入場時着用したポンチョ、パンツ、レガース、ニーパッド、コスチューム一式　一式だよ、一式！　やっぱり呑んべえは太っ腹ってことだね。

★すっげー豪華なモノもあれば、んぶあぁーと唸るモノもある千差万別、多種多様、千客万来の出物たち。再度念を押しますけど、これはプレゼントではありません！　そして、通信販売の告知でもありません！　12・25バトラーツの今年最後の試合、東京FMホール大会に行った方のみ参加できる夢のオークションの出展物の告知です。わかりましたか？　「欲しい！」と思っても、会場行かなくちゃ買えませんので、そこんとこよろしく哀愁。
大会チケットの問い合わせはバトラーツまで（0489-63-0005）

特別友情出演

※なお、田村選手、藤田選手、本間選手、サスケ社長は当日会場には来られませんのであしからず

藤田&本間（大日本プロレス）

1・4新日本の東京ドーム大会で小鹿社長が着用していたTシャツ。2人のサイン入りでどう？

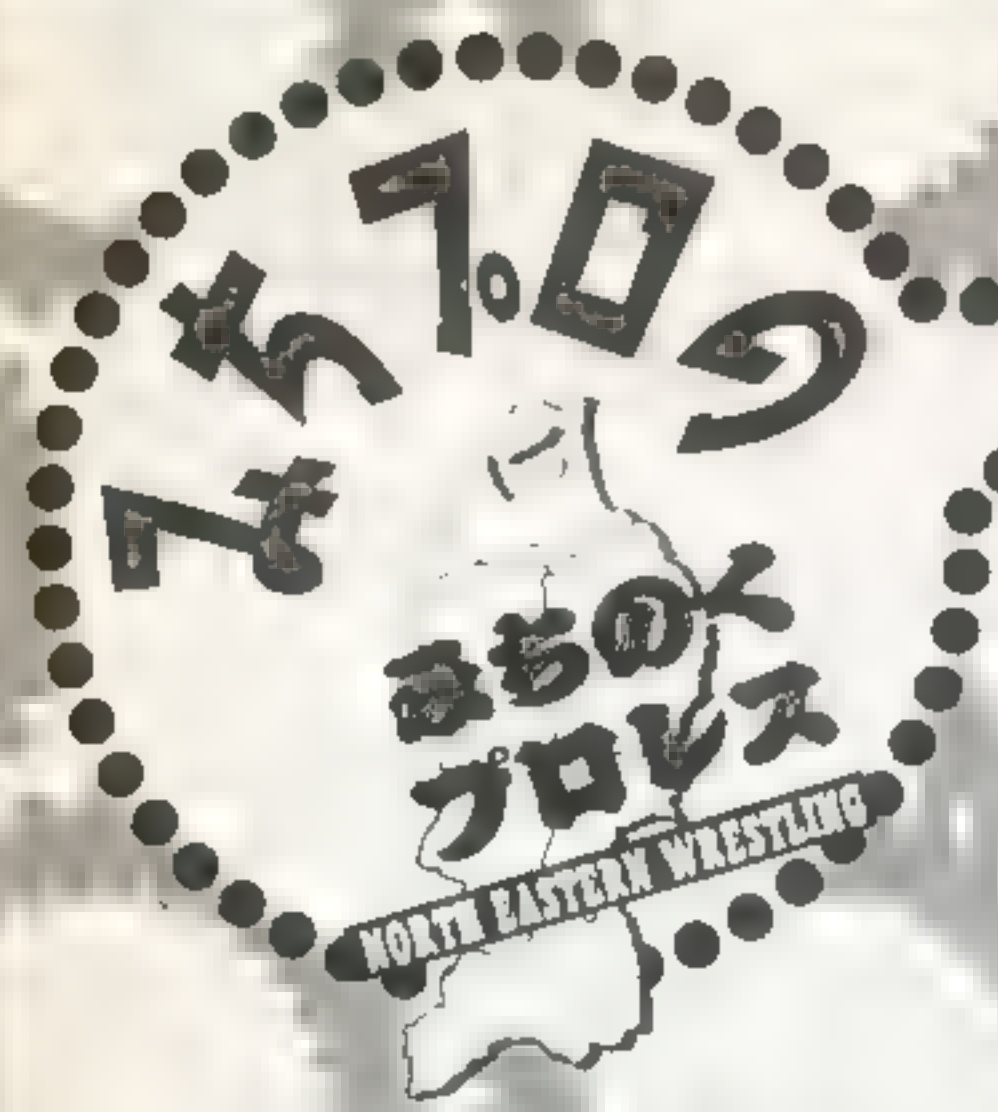
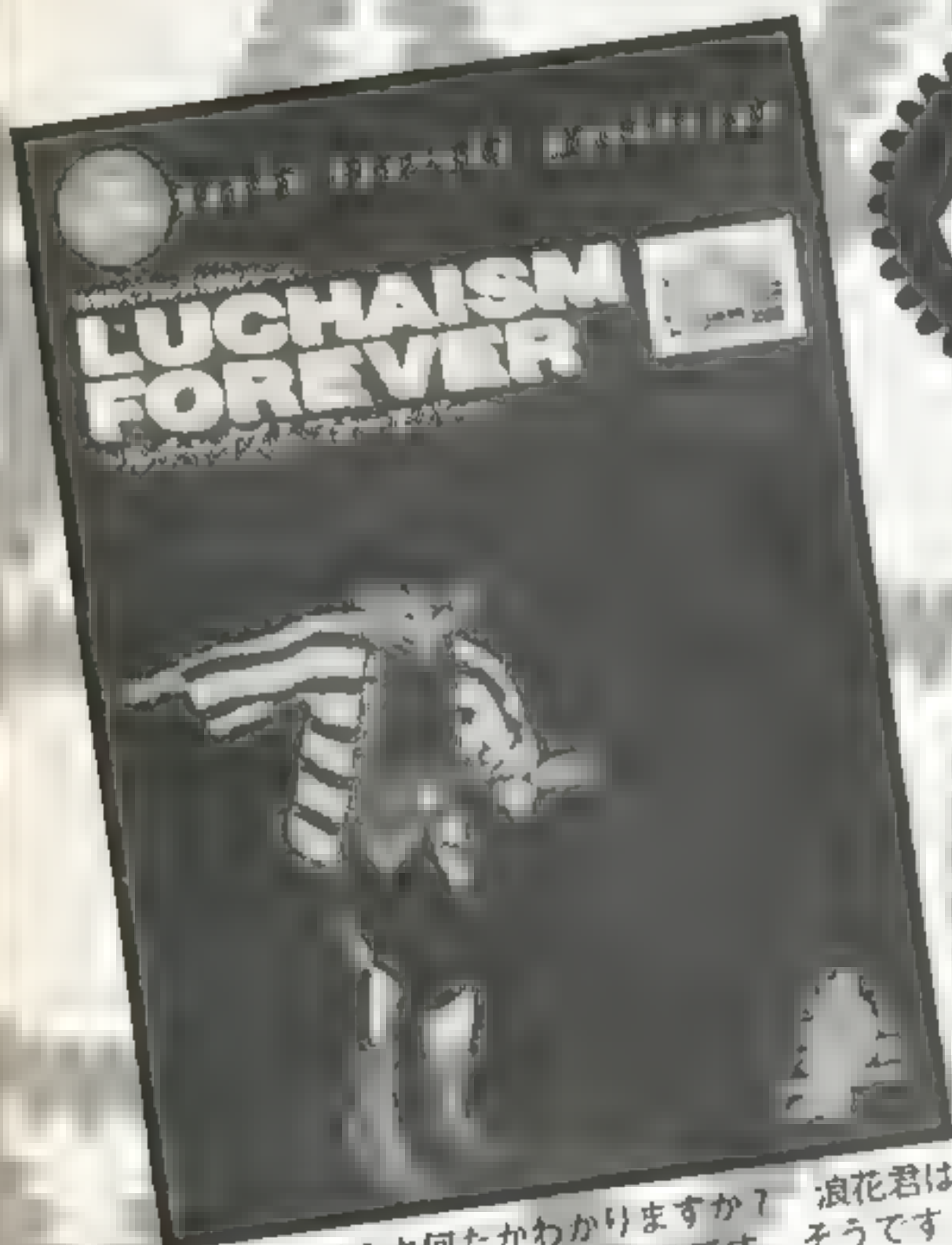
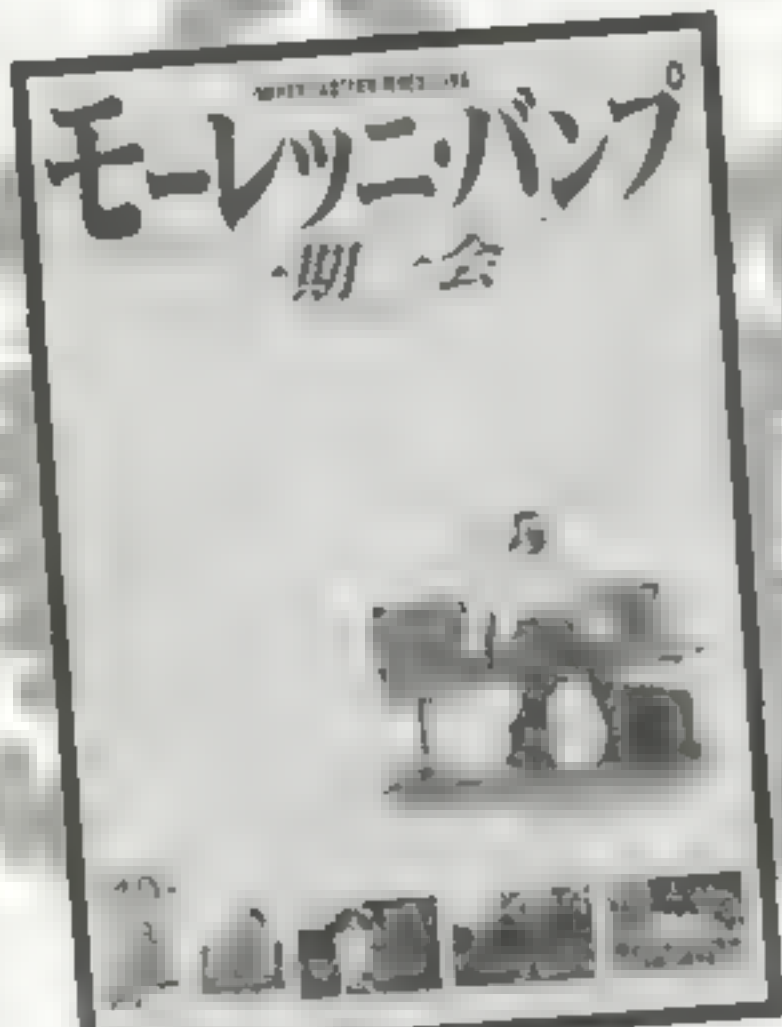
田村潔司（リングス）

タムタム初の単行本「赤いパンツの頑固者（サイン入り）」と、サイン入りポラ。サインはゴールド！豪華でーす

★な、なんとォ!!　写真はないけど、当日はサスケ社長からの出品もあります。お楽しみに♥

こんなノー天気なパンフがある限りみちのくプロレスは永遠に不滅です!

みちプロのパンフは最高!!

みちのくプロレス NORTH EASTERN WRESTLING

かっこよさを前提として制作している他の団体（特にU系）のパンフとは、明らかに方向性が違うみちプロパンフ。みちプロパンフのテーマは、「かっこよさ」をも超越した「笑い」につきる。経営危機がなんだー!! そんなしみったれた話題はみちプロに似合わないゾー! というワケで、これからもオモロイパンフ作ってくれるかな? いいともー!、って、それじゃ「笑っていいとも」やん。こっちは同じタモさんでも「今夜は最高!」。えっ、パンフは最高!って、「今夜は最高!」のことだったの……!?

これ、元ネタ何たかわかりますか? 浪花君は大の布袋寅泰ファン。そうです、そうです、ソースです。これは布袋の「ギタリズム・フォーエバー」（英語表記を調べるのか面倒なので、カタカナにしちゃいました）だったんですねぇ。ん〜、参った。

元ネタは映画の「フォレスト・ガンプ〜一期一会」。ガンプ（元ネタだと主人公の人名）がバンプ（受け身）。半蔵氏の細かい役作りがクー。でも半蔵氏の心中、結構複雑だと思うけど。

元ネタは「摩天楼はバラ色に」。「やっぱりサスケには◯◯◯◯がよく似合う!」って書いてあるんですけど、◯の中に入るのは何なんでしょう? ガイジン? それともリムジン? ◯◯ジンにこだわることないのかぁ。んー、この場合「やっぱり"みちのく"なのかね。

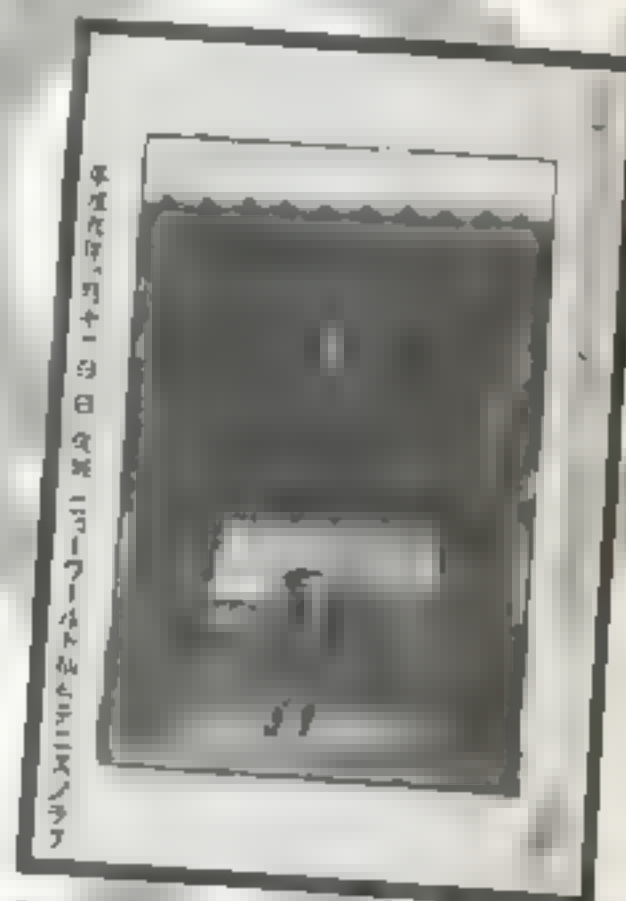
もう最高! 元ネタはズバリ、トリフ、シリーズかよ」って思ってたけど（もう経営危機問題の噂があったからね）、このパンフを見て、そんな心配も吹っ飛びました。大爆笑に完敗で乾杯って感じ。

みちプロの写真集の広告（7号の裏表紙）なんだけど、サスケ社長の「おまえ、みちのくだろ!」というセリフが何ともなぁ。「みちのくはオマエだろ!」とツッコミたくなる、珠玉の名セリフ。さすがグレート!

これは18号の裏表紙です。今だから言えるけど、やっぱ夢狩人っていうタッグネームはないよな。同じタッグチームでも、片やロードウォーリアーズ、片や夢狩人。どっちが強そうかと言ったらねぇ……。

リッキー・フジ（FMW）が、チープなオフィス（当時）に現れた所を激写! それにしてもチープなオフィスに似合わない格好だ。っていうか、逆に似合ってるのかな? どっちもボロボロだし。

毎回こういったノーマルパターンだったら、別にどうってことないのに、突然ポッとあると、何かおもろい。っちゅーか、肩の組み方が不自然。っていうか、そもそも肩組む必要性もないと思うんだけど。

これもシリーズタイトルがめちゃくちゃクーな作品。白書と白使って、うまいね、どうも。人生さんはこういうの好きなんでしょうか?

これはシリーズタイトルだけで、珍しくあんまり凝ってない作品ですね でも、サスケ社長は「世界の寅さん」でもありますからねぇ。そのまんまでもいいのか。

うっかり歓声を上げてしまいそうになるくらいすんばらしーいこれらのパンフレットは、ぬ、ぬ、ぬぴょーんと! 通信販売もやってるとのことよ ただし もはや在庫切れの物もあるので必ず確認することです 問い合わせ先は みちのくプロレス(0196-26-1333)まで 間違い電話に気を付けてね

「ストップ・ザ・アレク!」か!?　それともイカレ社長がより高い壁となるか!?
98年初頭から早くも頂上決戦実現!!

石川雄規 vs アレクサンダー大塚

UWA世界ミドル級選手権試合
最強のチャレンジャーが名乗り!
チャンピオン・田中稔、防衛なるか!?

みちのくプロレス、タイガーマスク参戦!
虎ハンター、小野武志決起か!?

池田大輔、ホームリングで本領発揮!!

《《《その他好カード続出間違いなし!》》》

チケット料金

SRS席 6000円(1.2列目のみ)
特別席 5000円／自由席 3500円
指定席 4000円／立ち見 3500円
(当日、席がなくなり次第発売)

チケット取扱所

チケットぴあ……03・5237・9999
チケットセゾン…03・5990・9999
後楽園ホール…03・5800・9999
大山アメリカン…03・3962・6443
チャンピオン……03・3221・6237
レッスル渋谷……03・3464・0078
レッスル池袋……03・3989・0056
アイドール………03・3371・5211
書泉ブックマート…03・3294・0011
プロレスマニア館…03・5276・0304
CNプレイガイド…03・5802・9999
バトラーツ…………0489・63・0005

NOW ON SALE!

【チケット・対戦カードの問い合わせ】
バトラーツ…………0489・63・0005

PANCRASE
HYBRID WRESTLING
後輩に負け続ける、哀しきパンクラシストが放つ
衝撃のテレビ神奈川宣言！
撮影／浜田孝一
富宅飛駈

――のっけから聞きますけど、『紙のプロレス』ってどういう印象あります？

冨宅　マニアック路線てっいうか、そういう感じですね。受けとり方によっては違う種類の本っていうか。

僕は読んでいてムカつくことも多いんですよ（笑）。

冨宅　結構、いろんなところを読んでますよ。誰でしたっけ？

――中村カタブツ君（34歳）？

冨宅　ええ、その人と大谷さんの抗争とか読んでますよ、フフフ。雑誌の編集後記とか好きなんですよ。全然知らない人やけど、その人の個人的なこととか書いてあるでしょう。

――カタブツ君ネタ満載の『バカ日誌』は、一部の読者に大人気らしいですよ。

冨宅　すごく字がちっちゃいじゃないですか。あれは読むのは大変ですね。

――ただ、読むと触れるとは大違いみたいで、リアル版のカタブツ君は手に負えないらしいですけどね。

冨宅　でも、そんなもんじゃないですか？　外から見ていて面白い人って、いっしょに仕事したら、嫌われるタイプが多いじゃないですか。「天才」とか「トンパチ」って言われるタイプの人は、特に。

――まあ、中村カタブツ君（34歳）は「天才」でも「トンパチ」でもないんですけどね（笑）。ところで、今日は勝手に「頑張れ冨宅飛駈」というテーマを持ってインタビューに来たんですけど、先日の神戸の長谷川悟史戦の試合後、「逃げ出そうと思えば辞められるけど、続く限りは辞めない」と言ってましたよね。

冨宅　前に（全日本キックボクシングの）立嶋篤史選手が「俺が好きではじめたのに、他人にどうこう言われたくない」云々ってあったじゃないですか。それ、そのままですよね。読んでて、同じことを思ってるんやな、と思いましたね。で、普通の会社でも失敗したら「責任とって辞める」ってありますよね。でも、失敗しても最後までやって辞めるんやったらわかりますけど、失敗してすぐに辞めるなら、他の人が迷惑じゃないですか。そういう感覚は嫌っていうか、変ですよね。

――あの時に「風当たりが強い」とも言ってましたけど……。

冨宅　試合後のアンケートやパソ通でも評判はよくないですからね（苦笑）。でも、それはそれでしかたないと思うし、それが当たり前やと思うし。確かに、いい気分はしないですけど、試合が組まれる限りは見たくない人でも、とりあえずは見ざるを得ないじゃないですか。でも、パンクラスの試合は見ていて疲れるらしいですから、ちょうど休憩タイムでいいんやないかっていう感覚ですよね。ただ、こういうことを言うと、また「プロとして失格」って言われそうですね（苦笑）。でも、プロですから。これで飯食ってますから!!

――その部分のプライドはあると。ただ、『盾－TATE－』のインタビューの中で、冨宅さんは「プロレスラーが、強い、弱い、うまい、下手に分かれるのであれば、決して弱くはないと思う」と言ってますよね。

冨宅　弱かったら辞めてると思いますよ。実力ももちろん、気持ちとかも含めてですよね。「辞めろ」って言われても、そう言った人が今後の生活を保証

Taka Fuke

11・16神戸大会で後輩の長谷川悟史に判定負けを喫した。試合後、「逃げだそうと思えば辞められる。インストラクターの道もある。でも、続く限りはやろうと思う」と悲壮感が漂いまくったコメントを出した

「辞めろ」って言うけど、言った人が生活を保証してくれるのか！

してくれるわけじゃないですから。仮に辞めるにしたって、1カ月くらいはかかるじゃないですか、残務整理に。そう簡単には辞められないですよ。

——そんな現実主義にならないでくださいよ!! でも、後輩ということで言うと、去年の6月に、柳澤龍志選手に負けたのが最初ですよね。

冨宅 それまで練習でも試合でも後輩に取られたことはなかったんですよ。それが初めて試合で取られて。いまの感覚からすればおかしくないんでしょうけど、やっぱり昔のプロレスを経験してる者としては、すごいショックやったですよね。

ああ、ショックだった。

冨宅 やっぱり藤原組の時でも、後輩に取られるとなったら一大事件でしたからね。それが何千人の見ている前でとなったら……。その試合は判定で負けて、おまけに骨折までしましたから。

——踏んだり蹴ったりでしたね。

冨宅 複雑な感じでしたよ。柳澤が入門した時から見てるじゃないですか。だから、昔は簡単に勝てたのになあって。「悔しい」っていう一言じゃないですよね。

——でもね、例えば、勝ったとしても「つまんない」と言われる時もあるでしょう。

週1回はP'sLABで指導をする冨宅。U-FILE CAMPの田村もアマチュア育成を手掛けている。UWFの同期たちとの関係は興味深い

冨宅 でも、勝ってれば評判はいいですからね。やっぱり見てる人には勝ち負けじゃないですか。新聞も結果しか載ってないことが多いし。

——同期で言えば、最近はキングダムの垣原賢人選手も、決して調子よく勝ってるとは言えないですけど、そういうのは冨宅さん的には気になりますか?

冨宅 「どうしてかな?」と思いますよね。どこの世界もいっしょですから、後輩が力つけてきて、向こうは向こうで大変やなと思いますね。

——カッキーとは、普段は会ったりもしてますか?

冨宅 そんなでもないですね。逆に田村(潔司)さんの方が多いですね。

——U-FILE CAMPの田村選手ですね。

冨宅 やっぱり道場を持ったわけやから大変やな、と思いますね。向こうは向こうでしっかりしたメインイベンターじゃないですか。でも、その部分にはどうこう思わないんですよ。単純にお互いの(道場の)アマチュアの話とかしたり。僕は(P's LABに)週1回ゲストで出て教えてるだけですけど、田村さんは毎日やってるわけやろうから。時間もかかるだろうし。

——拘束時間は長いでしょうね。

冨宅 3週間前にも会ったんですけど、その時に田村さんが開口一番、「まあ、お互いにいろいろあるけど」って(笑)。それは笑いましたね。

——ヌハハハ。でも、どちらかと言えば、カッキーと冨宅さんは団体は違えど似たようなポジションですよね。

冨宅 前座の壁って言うかね。昔の新日本で言えば、ドン荒川さんくらいの位置っていうか。

——ヌハハハ。ただ、きっとUWFでデビューした田村、垣原、冨宅の三人にしかわからない世界って、あると僕は勝手に思ってるんですよね。

冨宅 それはあると思いますよ。パンクラス内にしてもそうですけど、他の団体の先輩にしても、寝食をともにしてる仲やったら、感覚は違ってくると思いますね。インタビューを読んでてもわかりますよ。これはこう言ってるけど、ホントはこうなんやろうなとか。

——以心伝心ですね。

冨宅 そういう誌面を通じての交際が(田村と垣原とは)あるんで(笑)。

——文通仲間みたいな?

冨宅 実際には遠い存在でもないんで、久し振りに会っても、微妙ないい関係ですよね。

例えば、今後、田村戦や垣原戦っていうのはどうですか?

冨宅 前は思ってましたけど、いまはないですね。友達じゃないですか。だから、あえて友達同士で殴り合いをしなくても……。これからホンマに闘う運命にあれば、そういう流れになっていくでしょうし、そういう時が来ると思うんですよ。あったらあったでいいし、なかったらなかったでいいし。

——縁があればやりたい?

冨宅 もしあったら、パンクラスの日本人対決とは違った感覚でつらいですね。もちろん、試合が組まれてリングに上がったらそんなことはないですけど。想像したらつらそうですよね。

——ああ、つらそうですか。勝ち続けて、「頂上対決!!」とかだったらまた違うかもしれないですよね。

冨宅 デビューしてからいままで、そんなに大きく負け越してる年ってないんですよ。大抵、ほぼ5割なんですよ。それでも負けてばっかりって思われてるみたいで。確かにそんなに荒々しい試合じゃないんで、そういうイメージは強いかもしれないですね。負けてても強い印象を与える選手の方がプロとしてすごいのかもわかんないですけど、俺からしてみれば勝手ですよね。

―こうなったら、弱いと思ってるファンに宣戦布告しちゃいましょう!!

冨宅　ハハハハハ。勝ってる試合でも「引退しろ」って書いてありますからね。ということは俺に負けてる選手が引退の材料になるじゃないですか。それってその選手がかわいそうですよ。

―道場でスパーリングを見てるとわかるんですよね。例えば、いまは近藤有己選手がチャンピオンですけど、横浜道場では伊藤崇文選手、渋谷修身選手の三人が五分五分に見えますもん。

冨宅　勝負運の強さも絶対にあると思いますよ。近藤は「強い」っていうのが前提ですけど、ヤバイってなってもそれを自分の方にプラスに持っていけるっていうか。だから「運」もあると思いますね。それにプラスした「強さ」があるからチャンピオンになれるんだと思いますね、現時点で言えば。

―でもね、『盾―TATE―』で冨宅さんが初告白した海外プロレス修行の話なんか、読者からの反響が『矛』『盾』を通じてベスト5に入るくらいあったんです。「まさか!?」という意味で。だから僕は、どちらかと言えば硬派なパンクラスなんだけど、その中で冨宅さんみたいな許容範囲の広い選手は好きなんですよ。

冨宅　僕は普通なんですけど、人によっては「逃げてる」やら「横にズレてる」やら言う人はおるみたいで。でも、ナンボ強くても、このスタイルでやってるかぎり、リングに上がれる回数は少なくなってきますよね。だからあれ（プロレス修行）は場慣れですよね。（もっと場数を踏めば）感覚が違ってくると思ったんですよ。いまのリング上で生かせてるかどうかはわかんないですけど。

―確かにパンクラスはプロレスの中での「救いの論理」が働きにくい世界なのかもしれないけど、『船木誠勝の肉体改造法』にしたって、「脂肪はまったくなくなったらダメ」って説いてますもんね。

冨宅　スタミナがなくなりますから。

―だから、単純に勝ち負けで判断せずに、リング上のすべての出来事をもっと好意的に見てほしいんですよね。

冨宅　藤原組の時にキックボクサーと異種格闘技戦をやったことがあるんですけど、その時に鈴木（みのる）さんと「もしもタイ人にドロップキックが当たったらすごいじゃん」っていう話になったんですよ。それはドロップキックをやるとかやらんとかじゃなしに、そういう気持ちでプロレスラーとしてリングに上がるっていう話なんですけどね。で、実際に、試合で最後のラウンドになって、掴んでも逃げられるし、打撃では対応できるわけないじゃないですか。だから、そこで一瞬、ドロップキックしようかと思ったんですよ。当たったらすごいな、と思って。

―えっ、ホントですか!?

冨宅　で、いまは当たり前に付けてますけど、あの時にファールカップをしてたんですよね。だから、ドロップキックをやって着地した時に痛ならへん

こういった試合後のアピールに、冨宅のマニアックなメッセージが秘められているのだ。それを読み取るのがファンの醍醐味と言えるだろう

かな、と思ってやめたんです。

—同じ土壌で語ったらいけないのかもしれないけど、アントニオ猪木vsウイリー・ウイリアムスの異種格闘技戦の時に、アントニオ猪木はドロップキックをやってましたからね。

冨宅　だから、プロレスをどうのこうの言う人もいますけど、そういう人は「プロレス技はかからない」って決めつけてるじゃないですか。でも、僕は練習生の時のスパーリング中に鈴木さんから実際にコブラツイストを極められたことありますよ、グランドで。

—えーッ、コブラツイストを!?

冨宅　ギブアップしましたよ。痛かったですもん。肩も首も腰も極まってるし。だから、確率は低いですけど、有り得ない話じゃないんですよ。でも、そればっかり狙ってたら負けるやろうし、それこそ違う方向にいってしまうんで、チャンスがあればかかるってことですけど。

—いつだったか近藤選手が「スパーリングでドラゴンスクリューが決まったことがある」って言ってましたよ。

冨宅　ドラゴンスクリューは決まると思いますよ。相手のミドルキックを掴むことができたら。僕も一度、藤原組の時にバート・ベイルに決めましたよ(とニッコリ)。

—やっぱり決まると嬉しいですか。

冨宅　10月の後楽園ホールで伊藤がドラゴンスクリューをやりましたよね。回転が逆でしたけど(笑)。

—ああ、そうだそうだ。だから、ファンは勝手に決めつけていいと思うんだけど、それでも、いまよりも1ミリでいいから許容範囲を広げてリング上を見てほしいです、繰り返しになるけど。

冨宅　旗揚げをした頃の挨拶で、僕は「パンクラスのリングの中は個人の自由です」って言ってるんですよ。確かにルールで最低限してはいけないことは書いてありますけど、それに反しなければやってもOKなんですよ。プロレスだって反則は5秒以内はOKじゃないですか。

—そういうルールですもんね。

冨宅　ルールで「ドロップキックをやってはいけない」とかって書いてあったら僕もやらないと思いますけど。そうじゃなくて、できるチャンスがあるんであればやってみたいって気持ちはありますね。

冨宅は会話の途中で、突然細かい描写が割り込んでくることがあるので面白い

他団体だったら、少なくともいまよりはいいでしょうね(笑)

—ところで、冨宅さんはいま何歳でしたっけ?

冨宅　来年の1月30日の誕生日で29ですよ。寺西勇さんと同じ誕生日なんですけどね。

—そこまで聞いてないです(笑)。30歳に手が届く年齢のパンクラシストってどうなんですか?

冨宅　昔、カール・ゴッチさんが「それまでは何を食べてもいいし、どんな練習をやってもいいけど、26になったら体のことを考えろ」って言ってたんですよ。で、ホンマに26になったら体力と、普段の練習での気力がガクッと落ちたんですよね。

—26って微妙な年齢ですね。

冨宅　で、俺だけかと思ったら、船木さんも鈴木さんも髙橋(義生)も、同年代の連中がみんな言うんですよ。それが第一段階で、今年28になってから、さらに落ちましたね。何て言うんですかね。闘争心がガッと出てこないっていうか。怪我の回復が遅いとか。

—やっぱり引退とか考えますか?

冨宅　考えますね。

—ただパンクラスでは、まだ前例がないだけに、引退とはどういうものか想像しにくいですよね。

冨宅　でも引退は突然くると思うんですよ。

—はあ。

冨宅　引退しようって思ったら、やりたくなくなると思うんですよ。他のスポーツ選手にしたって、突然引退するケースがほとんどじゃないですか。それが普通やと思うんですよ。だから、僕は今年の夏に、もうホンマあれかなと思って、何人かの人に「5年以内に引退しようと思ってる」って言ったんですよ。5年って自分の中ではかなり長いんですけど。

—えっ、マジでですか?

冨宅　ホンマにそう思ったんですよ。例えば、他のスポーツでもオリンピック選手とか、「25歳で引退」っていうこともあるから、おかしくないやろうと思って。でも、それが「やっぱりやろう」って切り替えることができた。「こんなことを考えてるから、体もそんなことになるんやな」と思って。もう一回頑張ろうと思って、それからは気持ちの部分では強くなりましたね。

—やっぱり「引退しろ」と言いたい人には勝手に言わせておきましょう!!

冨宅　ホント見たくない人は見なければいいと思いますよ。こんなこと言ったらいけないのかもしれないけど。見

見てくれる人が1人でもいたら その人のために僕はやる！

なきゃ見ないでもいられるんですよ。実際、僕の母親かてそうですからね。

―どういうことですか？

冨宅　入場まで見るんですよ。で、入場が終わったら席を立ったりとか、そうじゃない場合でもずーっと試合が終わるまでうつむいてたりとか。

―親の気持ちって複雑ですね。

冨宅　きっとどこの親もいっしょだと思いますよ、特に母親は。この前の神戸なんか、来てるはずやのに、試合が終わっても控え室に会いにさえ来なかったですからね。だんだんそうなってくるんですよ（苦笑）。で、逆にそれが面白かったりするんですよね。

―面白がってどうするんですか（笑）。

冨宅　当然、超有名になりたいとかっていう気持ちもありますけど、僕はマイナス思考っていうか、マニアック思考も強いんですよねえ。ラジオの深夜放送やってるような。だから、船木さんとか近藤はテレビで言えばフジテレビのゴールデンタイムなんですよ。でも、僕はテレビ神奈川の昼11時とか（笑）。

―冨宅飛駈はテレビ神奈川（笑）。

冨宅　それでも見てる人はいるんですよ。だから、（冨宅の試合も）世の中には見てくれてる人も何人かはおると思うんですよ。

―そんな何人かって（笑）。テレビ神奈川は何10万人単位で見てますよ。

冨宅　だから、そういう人が1人でもおったら、その人のためにやろうっていう気持ちもありますよ、ええ。そういう存在であってもやっていけてるんで、それはそれで個人的には嬉しい部分もありますしね。

―うらやましいですね（笑）。僕なんか総スカンですよ。まあ、いいや。

冨宅　ホンマに総スカンを食らったら、やっていけないですからね。ただ、昔から身内受けはいいんですけどね。それからオバちゃん受けも（笑）。

[illegible]で穏やかなイメージの冨宅。ブチ切れた姿も見てみたい

―ヌハハハ。何となくわかりますよ。

冨宅　きっと、自分が関西出身っていうのもあるんでしょうけど、いままで大阪ローカルのタレントとか、ラジオの深夜番組にしか出てない人の方が深くファンになれましたからね。深夜でも何万人の人は聴いてるんですけど。で、UWFの時に大阪で試合があって、岡けん太・ゆう太さん（吉本興業の漫才師）が高田（延彦）さんに差し入れを持ってきたんですけど、控え室がわからなかったらしくて、僕に聞いてきたんですよ。その時に「おっ、岡けん太・ゆう太や!!」って、すごく嬉しかったですからね（とニッコリ）。

―そりゃあ、冨宅さんにとってのアイドルですもんね。

冨宅　その前にハウンドドックのコンサートに鈴木さんと行って、大友康平さんとかに挨拶をしに行ったんですけど、その時は「大友康平か」っていう感じでしたからね。

―プロレスファンもそういう感覚の人って多いですよね。

冨宅　そういう意味では、ファンに近いんじゃないですかね。

―ファンの発想を持ったプロレスラーってことですか？　何かインディーの選手みたいですね。

冨宅　いえ、僕はパンクラシストですから。

―そうか。それとはちょっと違いますね。ただ例えば、他団体だったら、もっと自分の強さが出せるのになあとは思いません？

冨宅　少なくとも、いまよりはいいでしょうね（笑）。

―いまよりはって（笑）。

冨宅　でも、メインイベンターにいくかって言ったら、それは難しいと思いますよ。ナンボ実力の世界やって言っても、生まれ持ってスターっていう人と、生まれ持って2位って人とでは。

―ただ、他団体なりの主催者からオファーが来たら、それは当然、団体やギャラや条件にもよるだろうけど、出たいとは思います？

冨宅　内容次第で、よければ出たいと思いますね。こんな僕でも声をかけてくれる人がいるんやったら考えようっていう感覚ですね。

―そんな、もうキャリアもそこそこあるのに。

冨宅　いや、なにせ僕はテレビ神奈川ですから。UHFですからね（笑）。

【11月20日、P's LABにて収録】

心優しき男は
弱肉強食のリングで
何を思う?

垣原賢人

Masahito Kakihara

キングダム

聞き手/坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影/浜田孝一
photographs by Koichi Hamada

「かっこいい垣原賢人」をこれから作り上げます!

──今日は固い話はさっさと終わらせて、あとは柔らかい話をうかがおうと思ってるんですけど。

垣原　イエス・アイ・ドゥ。

──ガハハハハ。最近キングダムはアルティメット戦士に挑戦しますって感じじゃないですか、方針として。パトリック・スミスやヴァリッジ・イズマイウも参戦しますよね。垣原さん的にはこういう団体の方向性ってどう思ってるんですか？

垣原　そうですねえ。まあ、経験としては面白いと思いますね。ただ、望んでやってる感じは、正直言ってしないですね。僕はもともとアルティメットはあんまり好きじゃなかったんで。

──それはいろんなマスコミでも言ってますね。

垣原　そうですね。でも、キングダムルールは、アルティメットからもっとスポーツライクにルールを設けてやってるんで、アルティメットに比べても全然面白いなと思いますよ。

──アルティメットはどこが嫌いなんですか？

垣原　そうですね、遡るとね、ホント長い話になるんですけど。

──いやあ、どうぞどうぞ。

垣原　そうスか！（笑）。こんな話していいかどうかわからないですけどね。僕がものごころつくか、つかない頃に、両親が仲悪くてですね、アルティメットのような殴り合いをしてたんですよ（笑）。

──ガハハハハ！

垣原　当時4歳か5歳ぐらいでしょうね。

──お父さんがマウントパンチしてたんですか（笑）。

「暴力」は自分の中でも一番嫌なものですよ

垣原　してるんですよ（笑）。妹と震えながら見てて。だから、生まれて初めて見た暴力って言うのは、親のマウントパンチだったんですよ（笑）。それで、無性に身体が震えて。だから、暴力は怖いものだと。自分の中でも一番嫌なものですよ。今こんな仕事してるんで矛盾もあるんですけど、僕にとってアルティメットってそういうのとオーバーラップして見えちゃう部分があるんで。ああいう殺伐とした殴り合いよりも、技術の応酬を見せるというか、闘いの中の美しさというかね。芸術性みたいなものを追求したいというのはそこなんですね。

──なるほどね。いや〜、今までなんで垣原さんがアルティメットが嫌いなのかわかんなかったんですよ。

垣原　これ初公開なんですよ！

──でも、それでなんでプロレスラーやってるんですか（笑）。

垣原　やっぱ幼い頃から恐怖心とか、そういう気持ちをもってたから、強さに憧れがあったんでしょうね、反動で。

──弱いからこそ強さを求めると。

垣原　「このままでは俺はいつまでも負け犬だ、逃げてはいけないんだ」ってことで鎧のような肉体と強い技術を身につければ、俺は臆病な生活をしなくてもいいんじゃないかなと。だから、ムチャクチャ怖かったんだけど、「なんとかこれを克服しなけりゃ僕はビッグになれない」と思ってこの道を選んだんですよ。それで、新日本に上がってた頃のＵＷＦがかっこよく見えたんで、ＵＷＦに行きました。

──なるほどねえ。で、時は流れて、ＵＷＦ分裂を経て今のこういう状況になって田村選手や冨宅選手ともバラバラになってしまいましたよね。まあ、それぞれの団体とも互いに向いてる方向は似てると思うんですよ。プロレスの強さをいかに見せるか、という部分での闘いですよね。例えばパトリック・スミス相手に、今はリングスの田村選手が勝ち、安生選手が勝ち、今は後輩の金原選手が勝ちっていう状況で

11月3日後楽園大会では、アルティメット戦士のF・ミッチェルと対戦。相手がルールを把握していなかったためグランド状態のカッキーに蹴りを見舞う場面もあったが、文句無しに勝利。

Uの遺伝子が受け継がれる限り終わったとは思いません!

XK Masahito Kakihara

――垣原選手は負けましたけど、こういう状況はいかがでしょうか？ 置いてかれてるって感じてますか？

垣原 う〜ん……田村選手や後輩と自分を比べたり、イライラしたりっていう時期はありましたけど、今はそれを通り越してますね。人よりも自分自身が一試合、一試合を大事にして、人々の記憶に残るような試合をやっていこうと。だから、人は人、自分は自分だと。人が誰に勝とうが負けようが関係ないと。僕が一つの試合をね、大事に一生懸命やって、それによってお客さんが感動して、記憶に残るような試合ができるなら、それはそれでいいわけですよ。

――あいつに負けないようにしようとか対抗意識を燃やしたりはしないんですか？

垣原 まあ、それもありますよね。でもね、僕は今、切磋琢磨するという言葉が使えないような位置にいるんですよ。もうそれぐらいドン底！ 競争の枠にさえ入らないような深海の底にいるんですよ。もう、対抗意識さえ起こらないような。

――なぜ起こらないんですか？

垣原 やっぱ感じるんですよね。そういう成績の中でね。だから、変に周りの選手と自分を比べて考えるのは、もう僕の中ではナンセンスじゃないかなと思うようになったんですよ。だからと言って競争心がなくなったってわけじゃないですけど。まずは自分の中で凄く納得できるもの、納得のできる試合、そういうものを出していければ自ずとパッと周りを見たら、今まで自分が上を見てて「ああ、差が開いてるな」と思った選手が隣りに並んでたり、下に見下ろししているっていう状況になるんじゃないかなと。

――我が道を行くわけですね。

垣原 理解していただけましたでしょうか（笑）。

はい。理解させていただきました。この間、金原選手が試合後のコメントでエンセン井上選手とスパーリングしてるとおっしゃってたんですけど、垣原選手もやってるんですか？

垣原 道場に来た場合は勿論やります。

――どうですかエンセン選手は？

垣原 いやあ、もの凄い技術を持ってる最高に尊敬できる選手ですね。

――今まで先輩で、前田さんとか、高田さんとかいたわけじゃないですか？それとはまた違うスパーリングって感じですか？

垣原 そうですね。違う感じですね。一緒に並べるのは、ちょっと違うなっていうね。僕らと学んでる技術が違う

から。自分たちにない技術を持ってる

垣原 う〜ん。そうですねえ。でも、

ファンはかなりショックを受けてると

だから、それがある限りはまだ終わってないじゃないですか。誰も出て来な

から。自分たちにない技術を持ってるから僕は衝撃を受けるわけで、同じことをやってればそんなに大して感じないでしょうからね。

UWFは崩壊してしまいましたけど、Uの遺伝子っていうのがズーッと残ってたと思うんですよ。

垣原　はい、はい、はい。

——で、10・11に高田さんがヒクソンに敗れました。あれで盛んに言われているのがUWFの終わりだとか、Uは負けたとかいう意見なんですけど。

垣原　でも、そう言われても仕方がないですかね？

——率直にあの敗戦はどう思いましたか？

垣原　う〜ん、そうですねえ。やっぱり言葉を選んじゃいますね。

——田村さんは涙を流してましたよね。垣原さんは泣きましたか？

垣原　僕はねえ、目に涙を浮かべた程度ですかね。そういう感じでしたね。

——あんまりショックじゃなかったんですか？

垣原　いや、それはショックですけど。大将がいますよね。で、負けました。そこで周りについてる僕らが泣いてたら、救いがないほど負けたっていうイメージじゃないですか。だから、周りにいる僕たちは気丈に振る舞わなければいけないのかなっていう。旦那を亡くした未亡人っていうんですか、そういう心境ですよ（笑）。

——垣原さんとしては「まだUWFは終わらせねえぞ」っていう気持ちはあるわけですよね。

垣原　う〜ん。そうですねえ。でも、UWFって現実問題としてないですからねえ。UWFっていう団体もないし、Uっていう文字もないですからね。

——U FILE CAMPがあるじゃないですか？

垣原　おぉ！ そうだ、ありましたねえ（笑）。でも、UWFっていう遺伝子は脈々といろんな団体で受け継がれていますからねえ。リングスとかパンクラスとかうちとかバトラーツとか。だから、いいことじゃないんですか。分かれてはいるんですけど、いろんなところでそれぞれに活躍して、ガンガンやってますからねえ。だから、終わったとは思わないですね。Uの遺伝子が受け継がれている限りは、ホントの意味で終わったと思いません！

——ヒクソンに負けても？

垣原　思いません！

——でもね、UWFっていう「強さ」にこだわってプロレスをやってきたプロレス団体というか、格闘技団体がですね、ヒクソンにああいう形で負けて、ファンはかなりショックを受けてると思うんですよ。ウチに来る読者ハガキでも反応が凄いです。

垣原　はい、はい。

——で、誰かがヒクソンを倒さなければしょうがないだろうってムードになってると思うんですよ。

垣原　はい。

——前田さんが今、ヒクソンとやるために動いてる状況はどう思いますか？

垣原　さすが前田さんだなっていうか、絶対前田さんには頑張ってもらいたいです。そう考えるとUの遺伝子っていうのはまだあるわけじゃないですか。高田さんが負けたからって全て終わったわけじゃない。前田さんがすぐに名乗りを上げたわけだし。もっとこれから若い選手が挑戦していくと思うし。

「普段の僕を撮って下さい」ということで、はしゃぎまくるカッキー。戦績は悪くともこの男の天性の明るさは消えないのだ！　しかし、こうやって並べてみるとマンガである。

だから、それがある限りはまだ終わってないじゃないですか。誰も出て来なくなったら、いよいよ終わりだなっていうか。

——その時には行きますか？

垣原　そうなったら行きますね。「もう誰も出ないの？」ってなったら、「ウィース」って言いながら、キョロキョロしながら行きますよ（笑）。

——ガハハハハ。その時、またガウンの背中にUWFってあったら（笑）。

垣原　着るかもしれないですね、封印しているあのガウンを（笑）。

——逆に、俗に言うプロレスをやろうかなって思ったことってあります？

垣原　ないって言ったらウソになりますね。ただ、自分がいままで学んできたことが、新日本とか、全日本とかに入って果たしてやっていけるのかなっていう部分では不安ですよね。

——僕は垣原さんだったらいけるかなって思ってたんですよ。長州さんも一時絶賛してたじゃないですか。

垣原　そうですね。

——まあ、褒められて悪い気はしませんよね？

垣原　まあ、そうですけど（笑）。でもね、ぶっちゃけた話UWFってプロレスではないっていうスタンスできてたじゃないですか。だから、「プロレスラー」って言われると抵抗を感じたりとかしてたんですよ。なんか「プロレス」って言葉が凄く嫌だった時期もあったんです。今思えば凄く傲慢だったと思うんですけど。でも、迷いがあっちゃいけないと思うんですよ。僕らはどこ

プロレスと格闘技の中間で両方を凄くいい形でやりたい！

を切ったってプロレスラーだし、今はもうプロレスラーだって思ってます。

—で、プロレスラーとして、どういう道を歩いていこうかというのは？

垣原　道はこれから切り開きますよ。

—田村さんとか、冨宅さんとはそういう話はするんですか？

垣原　いや、仕事の話はしないです。三人なら三人とも意見が分かれるわけじゃないですか。確かに他の二人の意見も正しいと思うけど、自分の意見も正しいと思うし。そこでね、二人の意見を聞いちゃうと余計に自分が迷っちゃうんじゃないかと。迷わずやりたいですね。

—強い核がほしいってことですか？

垣原　ほしいですね。だから、それがなんなのかっていうと、まだ自分が最終的に目指すものに出会ってないから、いろんなものを見てるのかもしれないんです。これから絞り込んでいくと思うんです。

—Uインターが崩壊した時、田村選手や冨宅選手から誘いってありました？

垣原　それとなくありましたよ。

—冨宅選手が「闘おう」とリング上で垣原さんに呼びかけてましたね。

垣原　まあ、一緒に汗を流したメンバーですからね。

—聞いた時はどうでした？

垣原　やっぱり温かいものを感じましたね。ピンチの時に声をかけてくれるっていうのは有り難いなって思いましたね。

—三人にしかわからない世界ってあると思うんですよ、絶対。いくらリングスとパンクラスがもめてるっていっても。

垣原　そうですよね。やっぱ、見てて寂しいですね。

—UWFを愛するが故に。

垣原　そうなんですよ。みんな大好きな先輩ですしね。僕は全然悪く思ったりはしないですね。ただ、そういうメンバーが誌面上で、いがみ合ってるのを見ると「やめてほしいな」っていうか。「♪けんかをやめてぇ〜」って感じですね（笑）。

—ハハハ。ところで、垣原さんが思う「かっこいいもの」って何ですか？

垣原　かっこいいもの？

—UWFってかっこいいでしょ？

垣原　かっこいいと思いますね。

—尾崎豊が好きなんですよね？

垣原　好きですね。何ですか、今回のテーマはかっこいいものですか？（笑）

—違います。垣原さんが何を理想にして、何を目指すのかってことです。

垣原　やっぱり、自分自身が一番かっこよくなりたいわけじゃないですか。その中で揺るぎない心、一本バーンッと芯を持って、絶対的なものを作りたいですね。垣原賢人という最高なオリジナルを作って、僕が何をやろうが、人が何を言おうが揺るぎないものをキッチリ築いていくというね。

—逆に井の中の蛙になりがちの世界ではありますけどね。

垣原　ただ、僕はいろいろ経験してきてるじゃないですか。極端な話、井の中の蛙じゃなくても僕のオリジナルってできるじゃないですか。で、プロレスと格闘技があって、その中間ぐらいで両方をもの凄くいい形でやれたとしたら、そういう人が今はいないじゃないですか？　一時、プロ格とか言ってましたけど、あれもどっちか比重が偏るじゃないですか？　そうじゃなくてプロレスと格闘技がいいバランスで保てるレスラーになったらいいと。

—それで肩書きがプロレスラーだったらメチャクチャかっこいいですね。

垣原　それがかっこいい垣原賢人じゃないかな。その為に努力していきたいなと。

—いいですねえ。じゃあ、そろそろ柔らかい話題に移りましょう。尾崎豊以外に好きなミュージシャンっています？

垣原　僕はいろいろ好きですよ。結構いっぱいいますよ。

—シャ乱Qのライブも行ってるんですよね？

垣原　ホントに音楽の趣味はバラバラなんですよ。もちろんシャ乱Qも好きだし。河村隆一や山崎まさよしやSPEEDも好きですし。分け隔てないですね。

—プロレスラーって昔は芸能界とつ

UWFの仲間である田村、冨宅と会うときはバカ話ばかりしているという。

ながりがあったじゃないですか？　や

垣原　だから、世間にね、大手を振っ

いいですか？

原さんはリングに

いですね。垣原賢人という最高なるオ

——プロレスラーって昔は芸能界とつながりがあったじゃないですか？　やっぱそういうのはこれからもやっていかなきゃいけないと思うんですよ。だから、そういう意味で垣原さんの、言っちゃあなんですけど、ミーハーなところって僕は凄く面白いと思います。

垣原　いやあ、僕ってミーハーに見えます？（笑）

——だからそれがいいことろなんですよ！

垣原　僕はメチャメチャ、ミーハーですね（笑）。

——女優とかとも、噂になっちゃって下さい。

垣原　いけたらいいですけどね（笑）。

——レスラーたるもの世間に食い込んでいかなきゃいけないですよね。

垣原　それはさっきの井の中の蛙の話に通じますよね（笑）。

——そう、そう、そう。

垣原　だから、世間にね、大手を振って出ていくためには、自分にもの凄く自信をもたなきゃいけない。プロレスラーとしても格闘技者としても両方の自分を持ってれば、凄く揺るぎないし、人に何を言われても平気でいられるじゃないですか。そういう状態を作っておいて表に出てけば思いっきりアピールできるし、ミーハー街道まっしぐらですよ（笑）。

——ミーハー街道（笑）。

垣原　その中途半端を消し去るための作業として、一戦一戦大事にして、ゆくゆくは垣原賢人のオリジナルバージョンを作ってバーンと世間に出ていくっていうのが僕の夢ですね。

——いい目標ですね！

垣原　今は柔らかい話でしたっけ？　固い話はやめましょう！　もっと僕の深層心理の部分を話したいんですけどいいですか？

——イエス・アイ・ドゥ（笑）。

垣原　家にカミダナはありますか？

——へ？

垣原　まあ、この話をするとだいたい笑われるんですけど。

——へ？　現代の若者にしては珍しいですね。

垣原　でも、神棚の前で手を合わせるっていう行為が、いちばん心が安らぐんですよね。

——それはカッキーの意外な一面ですね（笑）。

垣原　そうでしょ？（笑）。親のアルテイメットに次ぐ初公開第2弾（笑）。

——毎朝、「パンッパンッ」ってやってるんですか？

垣原　イエス・アイ・ドゥー　人間って生きてると、気付かずに過ちを犯しちゃうことがありますよね？　坂井さんも平気な顔してウソついたり人を傷つけたりしてると思うんですよ。

——イエス・アイ・アム！（笑）。多分、やってるでしょうね（笑）。

垣原　そういうことを反省して、浄化する作業なんですよ。

——神棚がマイ・ブームなんですね。

垣原　そうですね。毎月1日と15日にはお榊を買ってるんですよ。

——本格的ですね（笑）。マイ神棚は持ってるんですか？

垣原　もちろん（笑）。でも、こういうこと言っても誰もわかってくれないんですよ。

——ボクもそういう趣味の人にお目にかかるのは初めてです（笑）。でも、垣原さんはリングに上がる前にお祈りしてますよね。あれも、そこに通じるんですか？

垣原　そう、あれで心が落ち着くんですよ。

——他人が何と言おうと関係ないですよ。我が道を行くべきです！

垣原　まあ、変な宗教じゃないですから。ボクだけの神様がいるんですよ。

【97年11月26日、キングダム応接室にて収録】

※インタビュー後記　じつはこのインタビューを受けるかどうか、カッキーはかなり悩んだという。「自分の中で消化し切れていない問題が山ほどあるのに喋れない！」と思ったそうだ。ファン思いのカッキーならではの心意気である。カッキーはこうも言った。「このインタビューが今世紀最後になるかもしれないです」一瞬、耳を疑ったが、カッキーはこう続けた。「今、消化出来ないことも、あと3年したら喋れるようになると思います！」その声はとてつもなく明るい。僕らは21世紀までカッキーを待とうじゃないか！　カッキー解禁インタビューは『紙プロ』でやろうぜ！　そう、合言葉は――イエス・アイ・ドゥ！

勝った試合後のカッキー・パフォーマンスは必見！筋肉ポーズを置りまくってくれるのだ。常にプロ意識を忘れない男である。

KK Masahito Kakihara

キングダム　今後のスケジュール

12.14（日）国立代々木競技場　第二体育館　18:00開始
※メインは金原弘光vsヴァリッジ・イズマイウ！

1.28（水）後楽園ホール（詳細は未定）

［問い合わせ先］キングダム03-3224-1151

TANK ABBOTT

構成／"Show"大谷泰顕
interview by "Show" Yasuaki Otani

タンクが着ている"鎧"の正体とは何だ！

決戦！世紀末の日本格闘技界に"世紀末のストリートファイター"遂に上陸!! 喧嘩大王、安生と激突！

12・21『UFC―J』に来襲するタンク・アボットを直撃!!

"何でもあり"のアルティメット大会でさえ「追放」を受けた"喧嘩大王"タンク・アボット。最近では、あの「PRIDE―1」にも出場を見込まれながら、直前にストリートファイトに巻き込まれ、「警察に連行された」とかでドタキャン！ 今回の来日も、実際にその姿を見るまでは不安視されていた。喧嘩230回に、逮捕歴12回!! そんな危険極まりないアボットが、12月21日・横浜アリーナで開催される「UFC―J（アルティメット・ジャパン）」を目前に控えた10月末、プロモーションのために日本初上陸を果たした。まるで力道山時代に来日した"外人レスラー"のような物語を持ち、プロレスラーがまとっていたかのような"鎧"に包まれた喧嘩屋のお叫びを聞け!!

10月30日、全日空ホテル[illegible]

「俺は世界で一番強いと思っている。中にはステロイドをやったり、ビッグマウスなヤツもいるが、俺は俺らしい率直なファイトを見せるだけさ」

12月21日、横浜アリーナで開催される『UFC－J（アルティメット・ジャパン）』で、待望の初ファイトを披露する"喧嘩屋"タンク・アボットに、試合に対する抱負を聞くと、彼はこう答えた。

アボットと言えば、試合はわかりやすく豪快そのものだが、アルティメット大会では試合はもちろん、試合以外でも様々な逸話を残してきたファイター。いまどきこんなヤツはどこを探しても、なかなか見つかりっこない。

とにかく"何でもあり"のアルティメット大会でさえ、一度は「追放処分を受けている」なんて、素敵なファイターじゃないか。

そんな破天荒な経歴を持つアボットだから、僕はおそるおそるといった感じで、インタビューを開始。まずは無難に少年時代の話からと思ったが、アボットは「その前に言っておくことがある」と、こちらの機先を制した。

★　★

「みんな俺のことを誤解しているようだが、俺が若い時にはまともなガキだったんだぜ。確かに喧嘩もしたが、決して「不良」だなんてわけじゃなかったんだからな」

そういって、アボットは豪快に笑う。一見しただけでも、普段からよく豪快に笑っているのがわかる笑い方だ。

「父親の勧めで5歳の時にアメリカン・フットボールをはじめて、9歳でレスリング（フリースタイル）に転向したんだ。どうもチームスポーツはなじめなくてな（苦笑）。レスリングじゃあ、中学の時にはオールアメリカンに選ばれた。ただ、その後に大きな自動車事故に遭って、左膝がブチ割れちまってな（と、手で膝をなでる）」

ふと左膝に目をやると、まだ傷跡が一目でわかるように大きく残っている。

「その事故もあって、レスリングから離れることになったんだ。その頃からだな、だんだんストリートファイトに目覚めはじめたのは」

出た！　ここからがアボット人生の本領発揮なのだ。

「ストリートファイトを本格的にやりはじめたのは高校に入ってから。特に19歳になってから25歳までは、そうだなあ、週に4回はやってたな。きっかけ？　そんなものはあるわけないだろ。いや、そうだな、血が騒いだんだよ」

血が騒いだ!?

「そうさ。だから喧嘩して、俺の強さを証明したかったんだ。で、その後にボクシングに転身したんだ」

あ、ちょっと待ってくれ。その前に「ストリートファイト」は何回くらいやったのか、それを教えてほしい。

「うーん、俺が覚えているだけで、ざっと230回はやっただろうな」

230回も!!

「ただ、言っておきたいのは、俺からふっかけたことは一度もないってことだ!!　すべて、相手にふっかけられたから買っただけだ。ただ実を言うと、そのストリートファイトのおかげで、ざっと12回も捕まっちまってな」

喧嘩230回に、牢獄経験12回（苦笑）。そんな刑務所帰りの前科者・アボットに当然、世間の眼は冷たかった。

「ストリートファイトだけが俺を受け入れてくれたのさ」

自然とそうなるのも、しかたがないと言えばしかたがない。

「そりゃあ、俺にだって罪の重さを感じることもあったよ。で、最後に捕まった時に6カ月間収容されてな。その時だな、ある友人から手紙が来たんだ」

その手紙には、アルティメット大会のことが書かれてあり、そこにキモが活躍していることも書いてあったという。何を隠そう、キモはアボットと同じ、カリフォルニア州のハンティングトンビーチ出身なのだ。

「キモのことはストリートファイト時代からよく知ってたさ。ただ、ヤツは俺を恐れてチャレンジはしてこなかった。だから、ヤツが活躍してるなら俺が……ってわけだな」

その後、刑務所帰りのアボットはアルティメット大会を主催するSEGに連絡。

ヒクソン？ 勝てそうにない奴とは会ったことがない

アルティメット大会におけるタンク・アボットの破天荒史

▼95・7・14
初出場で準優勝を果たした第6回大会（ワイオミング州キャスパー、イベント・センター、優勝はオレッグ・タクタロフ）終了後、アボットは、ホテルで仲間とともに、もうひとりの"喧嘩屋"の異名を持つパトリック・スミスに襲いかかり、ふいに後頭部を殴って失神させる。

▼95・12・16
アルティメット大会のオールスター戦「ジ・アルティメット・アルティメット（コロラド州デンバー、マンモス・イベント・センター）」で、アボットは準決勝でダニエル・スバーンと対戦。惜しくも敗れたものの、脊髄に200発近くの打撃を食らってもタップせず。

▼96・2・16
第8回大会（プエルトリコ、バイヤモン、コリセオ・ルベン・ロドリゲス）では、トーナメント決勝戦の前に、アボットとブラジリアン柔術のアラン・ゴエスがオクタゴンの傍らで大乱闘。エントリーされていたはずの第9回大会（96・5・17／ミシガン州デトロイト、コボ・アリーナ）には出場停止処分を食らってしまう。

▼96・7・12
一度は追放処分を受けたアボットだったが、再びアルティメット大会に姿を現したのは第10回大会（アラバマ州バーミンガム、ステイト・フェア・アリーナ）。放送席にドカッと座り、PPVのコメンテーターをつとめる。アルティメット大会の中でもホイス・グレイシー、ウエイン・シャムロック、ダニエル・スバーンと並ぶ、貴重なキャラクターゆえに、アボットの魅力と、ファンの後押しには勝てなかったのだ。実際、アボットが会場に姿を現すと、客席は騒然となり、歓迎ムード一色。

▼96・12・7
二度目のオールスター戦「ジ・アルティメット・アルティメット96」（アラバマ州バーミンガム、ステイト・フェア・アリーナ）におけるトーナメント準決勝では、なんとスティーブ・ネルマークをノーザンライト・ボム気味のボディ・スラムで投げ捨てる（直後に、右フックで失神KO勝ち。決勝ではドン・フライに惜しくも敗れ、準優勝）。

▼97・10・17
第15回大会（ミシシッピ州ベイ・セントルイス、カジノ・マジック）では、正式にオファーを受けたのは3日前にもかかわらず、スーパーファイト・UFA認定UFC世界ヘビー級選手権でモーリス・スミスと対戦する（結果はTKO負け）。

TANK ABBOT

社長に会って、「俺を使え」と直談判を試みる。

「そこで俺は自分のことを『ストリートファイターだ』と言ったら、『アルティメット大会にはスキル（技術）がない者はダメだ』と。最初は真剣に受け入れてはくれなかったんだ。それが一度、俺の闘いを見たら、みんなが、アッと驚いたってわけさ」

そういえば、オクタゴンでの最初の試合は、第6回大会（95・7・14／ワイオミング州キャスパー）だったが、リングアナウンサーに自分の名前がコールされた瞬間、ニヤッと笑ったのをビデオで見た時には驚かされた。試合ぶりには唖然としたのを覚えている。

やはり、ストリートファイト時代の経験は並大抵じゃない。当時の戦績に関しても、当然、笑いながらこんなコメントを残してくれた。

「まったく負けたと思ったことはない。ただ、飲みすぎてフラフラな状態の時にやったストリートファイトは別だがな（苦笑）。2度だけそんなこともあったな。その時は相手が30人もいたんだから……。トータルな勝率？　まあ、95％はあっただろうな」

きっと、自分が「生きている」と感じる瞬間がストリートファイトだった、と言えばいいんだろうか。

「YES。俺が俺の持っている感情を正直に表現したのがストリートファイトなんだ。それでも俺のウォリアーとしての姿勢は『最低限防ぐ』だからな。勘違いするなよ。俺はアボイダーなんだ。ただ、それでもかかってくる相手には、自分に忠実にファイトをするさ。それまでは我慢、我慢、我慢……」

何だか高倉健の世界に似ている。

「確かに、俺はレッテルを張られているから、手当たり次第にやって、相手に怪我を負わせていると思われがちだが、決してそんなことはない。いざやるとなった時でも、『お前、本当にやるのか？』と確認してからやることにしてるんだ。そこで相手がビビッたら、ムリしてやるようなことはしないさ」

ただ、一般社会なら警察のやっかいになることでも、アルティメット大会では合法的にストリートファイトでお金も稼げる。一挙両得の世界だ。

「いや、俺はまだ妻も子もいないから、単に賞金目当てで闘うこともない。ただコンバットスポーツが好きなんだ。そのステージがあるから闘うだけだ。確かに、いまはそれなりの知名度も得ちまったが、別に有名にならなくたってよかった。例えば、アルティメット大会が何の変哲のない倉庫で行なわれてたとしても、俺はやっただろうからな」

アルティメット大会におけるアボットの知名度はかなりのもの。なぜなら、僕が最初に生でアボットを見た第13回大会（97・2・7／アラバマ州ドーサン）では、試合はしなかったものの、PPVのコメンテーターのために姿を現したアボットに、会場中から大声援が起こっていたほどだったんだから。

「たまたまこの時代に生まれたから、テレビ中継をされたり、多くの人に知られる場所で闘うことになったが、例えばこれが150年前にその機会を与えられていれば、その時の自分の感情に忠実に、闘うことに愛情を持って、純粋に闘っただろうな」

単なる「賞金稼ぎ」ではない、と言いたいのだろう。だが、いくら強いとはいえ、実際に負けがあるのは事実。

「実は負け方だ。負けたことに対して、自分自身が恥じだと思ったことは一度もない。俺がベストを尽くした結果だからな。納得のいく闘いをして負けることは、問題だとは思わない」

思わずここで「でも、いままで負けた相手に、リベンジを果たしたいとは思わないの？」と聞いてしまったが、「そうは思わない」と簡単に切り返されてしまった。その答えはこうだ。

「単純なことさ。その相手が悪意を持って、俺と闘ったわけではないからだ。それよりも、何を持って『負け』となるのかだ。怪我をして病院に運ばれることが『負け』なのか。ルール上の『負け』が『負け』なのか……」

冒頭でも触れたが、アボットの試合は大振りのパンチ攻撃、倒れた相手の顔面へヒザ爆弾、顔面パンチの集中放火と、いわゆる技術系の選手とは大きく懸け離れている。その意味で言えば、ホイス・グレイシーが登場しなくなった第6回大会からアボットが出ることになったのも、単なる偶然とは思えない。ただグレイシーに対して回答を求めると、アボットの語気は荒くなった。

「ヒクソンだろうが、誰だろうが、俺からチャレンジすることはない。絶対に俺がかなわないと思うようなヤツであれば別だが、そんなヤツにはいままで会ったこともないからわからんな」

だが、いま日本では「ヒクソンが最強」というイメージが蔓延していることを伝えると……。

「ストロンゲスト？　そりゃあ、彼は勝ち続けているかもしれないが、それは自分よりも弱い人間としか闘わないからだろう。そしたら強く見えるだろうな。すべてのグレイシーは『マネーマネーマネー』。それはっかりじゃないか。俺はマネーがなくとも、チャレンジしてくれは誰とでも闘うんだからな。本当の強さを証明しようとしたら、自然とそうなるさ」

僕はアボットの話を聞いているうちに、実はこんなことを考えていた。「もしもアントニオ猪木の全盛時なら、絶対に新日本プロレスに来日してるだろうなあ」って。要するに、ひと昔前のプロレスラーの持つ、危険な雰囲気を全身から醸し出すファイターだってことが会話から伝わってきたからだ。

それを如実に現す発言がインタビューの終わりの方で聞けた。それは「いままで恐怖を感じたことはあるか？」という問いにアボットが答えた時。

「恐怖を感じる、ということは、相手に対して負けているからだよ。俺は一度もそんなことを思ったことはないぜ。ただし、自分自身を『怖い』と思ったことはあるがな」

そう言って、最後まで豪快に笑っていたアボット。「オクタゴンに入るには勇気がいる」という声も聞くが、「あれは俺のホームだからな」と、軽く受け流す。

いよいよ本当にそのファイトが日本で見られる日が間近に迫って来た。いまから胸が高鳴る。

プロレスラーが失った“何か”をアボットが見せてくれるのか？　トーナメント1回戦の相手はなんと安生！　要注目だ!!

タンク・アボット(Tank Abbot)

182.9cm、123.8kg、32歳。アメリカ、カリフォルニア州出身。格闘技歴は、フリースタイル・レスリング、ストリート・ファイティング、ボクシングを経験。「覚えておいてほしいんだが、俺はキチンと大学を出てるんだぜ」とは本人の弁。聞けば、「カリフォルニア州立大学ロングビーチ校出身で専攻はヒストリー（=アメリカ史）」とのこと。大学卒業後は、ある中小企業に勤めたものの、前科者のアボットに世間の目は冷たく「ストリートファイト」の毎日。アルティメット大会参戦後はそれを生かし、現在は時折見せる柔術の技術も体得。過去アルティメット大会には6回出場している（戦績は12戦6勝6敗だが、いままでトーナメントでは二度の準優勝経験あり）。

12・14(日)国立代々木競技場 第2体育館

PM6：00スタート

AMBITION

PROFESSIONAL WRESTLING KINGDOM

打倒、グレイシー柔術!!

10・11東京ドーム、グレイシー柔術最強の男ヒクソン・グレイシーに高田延彦が完敗を喫した
格闘技界を震撼させた黒船ともいわれるグレイシー柔術にプロレスが飲み込まれる…
プロレスファンの誰もが高田の敗戦にショックを隠し切れなかった。しかし、
一度の敗退ですべては終わらない

復讐

10・11の結果を真に受け止めた上でキングダムは再び立ち上がった。

金原弘光VSヴァリッジ・イズマイウ

この一戦が復讐への第一歩となる。グレイシー柔術一級の強者であるイズマイウに
今、最も勢いのある金原が必勝を期してリングに立つ。
そして、そのイズマイウの後方に我々はヒクソン・グレイシーの姿を見る。
10・11東京ドームで生じた歴史のうねりが12月14日、代々木で新たなうねりに変わる。
1998年への21世紀へ向けての大いなる序曲を見逃してはならない。
この日、この場所で必ず何かが動き出す！

[主催] ニッポン放送／DirecTV

金原弘光VSヴァリッジ・イズマイウ
桜庭和志VSポール・ヘレラ
山本健一VSパトリック・スミス
ビリージャック・スコットVSラリー・パーカー
安生洋二VS垣原賢人
佐野友飛VS高山善廣
松井駿介VSニコラス・スタークス

チケット絶賛発売中

ロイヤルシート	¥12、000
アリーナS席	¥10、000
スタンドS席	¥8、000
スタンドA席	¥6、000
指定席	¥4、000

大会に関するお問い合わせはキングダム03－3224－1151

みちプロ経営危機の真実を ザ・グレート・サスケが独占激白！②

「本当に、いまはもう天命を待つだけです…」

紙プロ史上初！ “（笑）なし” サスケ・インタビュー

聞き手／山口日昇（別名ジェニファー）
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

みちプロ危機!!

――今年を乗り越えたところで、来年1月に社長は膝の手術するわけでしょ。で、いつ東北で活動再開するかわからないと。これだけ社長批判があがってるとこを見ると、その間、選手を他団体に派遣したとしたら、ズバリ言ってそこに居着いちゃうんじゃないですか？

サスケ いや、それはですね、極端な話、**居着いていいんですよ！** それも一つのリストラでありね。俺はね、いま正直なところ選手の再就職口を探してるようなものだしね。いま人生がFMWに行ったりとかは、それはその一環ですよ。薬師寺とヨネも大日本さんに派遣すると。それはそのまま居着いてもらっても結構だしね。いま言えるのはね、1月16日の札幌まではとにかく全力疾走しますよ！ 俺は……俺はっていうか、みちプロはね、絶対いままで**投げやりな試合したことはないからね**。やるからには100％力を出し切るし、怪我してる俺でも札幌まで全力でやりますよ。ただ、いまはそれしか決まってないと。

――じゃあ最悪なパターンとして、みちプロにはグレート・サスケ一人しか残らない可能性もあるわけだ。

サスケ その時はみちプロは終わりでしょうね。やる意味がないでしょうね。 っていうのは、俺の相手がいないわけだからね。一人でも相手がいればやりますよ。それはもう、逆に選手のみんなに任せますよ。

――ホントに切羽詰まった話ですね。

サスケ だから12月18日に後楽園を入れたんですよ。**ユニバーサル時代に対してケジメつけなきゃならないという意味で。** だから全女さんにも出させてもらってね、ケジメつけたつもりだし。俺はやっぱり、全女さんに育ててもらったっていう感謝の念がありますんでね。あとは、1月14日の仙台で東北の総決算、で、16日の札幌で、出稼ぎというか全国ひっくるめての総決算。**これで終わってても俺は悔いないですよ！**

――でも、ホントにそれで終わっちゃったら悔いは残るでしょう？

サスケ だって足の手術だって、うまくいくかどうかわかんないしね。

――みちプロも、「金の切れ目が縁の切れ目」になっちゃうんですかねえ。えてしてそうなっちゃうじゃないですか、この世界。

サスケ まあね。ただ、みちプロに関しては、**縁は切れないと思う！ 金はいま切れてるけどもね。** 縁だけは切れないと思うし、それは敵である海援隊にしてもそうだしね。例えばこの先みんながバラバラになって、いろんなところに再就職した場合、それでもね、何らかの結束は固いと思いますよ！ だから、ある程度冷却期間を置いて、また**何年か後にみんな集まる**っていうことも十分に考えられるしね。だから、俺はそっちの可能性を探りたいなっていう気持ちがあるね。

――「サスケはそこが甘いんだよ」って、いまTAKAみちのくの声が聞こえましたね。

サスケ あいつにどうこう言われる筋合いはないね！ あいつはそんなこと言う前に**英語勉強しろっつーんだよね。**

――そういえばTAKAみちのくが、前号の『紙プロ』のインタビューで、「サスケは『紙プロ』と付き合ってからダメになった」って言ってましたね。

サスケ 大きなお世話だよねぇ！

――サスケ社長は、真剣に考えたりやったりしてても、選手たちからとってみると、何事も遊んでるようにしか見

えないんじゃないですかね。

サスケ　それはいいんじゃないかな、と思うんですよね。「俺はみんなのために、日夜働いているんだよ」とかさ、「俺はみんなのことをいつも考えて、こんだけ払ってあげてるんだよ」とか言う人もいるよね。でも、俺はそういう人間は**嫌**だからね！

——そういう美学は持ちたくない、と。

サスケ　持ちたくないねえ。やっぱり、「みんなの面倒を見て当然なんだよー、俺は社長だからあ」っていうかね。例えば仕事で徹夜しなければならない時もさ、「いいよー、俺一人でやるから」っていうね、それが俺のもともとの性格だしさ、それが俺の美学でありね。俺はみんなに苦労かけたくないなと思ってるだけであってさ、**それを逆に取られてもしょうがないしね。**それを逆に取る人間は、レベルの低い人間だとしか思わないしね。俺は自分自身ね、**TAKAみちのくとか海援隊とかの奴らよりは、ワンステージ上の人間だって思ってるからね！**　アイツらと一緒じゃねえなって思う時があるんだよね。人間的なレベルの話ですよ、これは。

——それがグレートの本音であると。

サスケ　俺の視線っていうのは、みんなより一段高いんですよ！　だから、俺はいつも宇宙見てるしね。だから俺に言わせりゃ、違いはそこなんだよ!!

——宇宙を見てる!!　それでこそグレートですね！　でも、そんなことばっかり言ってるから、選手から「何考えてるかわかんない」って言われるんですよ！

サスケ　あと**世界平和**だね！　やっぱり、いま真剣に世界平和考えてますね。さっきもラジオで、イラクかどっかがが全人類を殺せる量の毒ガスかなんかを作ったと。そういうことが、いまや現実じゃないですか。そういう現実を、真っ正面から見なければならないというか！　**やはり1947年にロズウェルにUFOが落ちた！**　これも俺は現実だと思いますよ。それを斜に構えて笑うのは簡単なんですよ!!　ただ真剣に考えた人間だけが、報われると思うんですよ。

——社長はそんなことばっかり真剣に考えてるけど、いま報われてないじゃないですか。

サスケ　（うつむいて）……なんにしてもね、**話はガラッと変わる**んですけどね、山一証券にしても拓銀にしても仙台の銀行にしてもね、日銀特融が発動されて、社会的な影響が大きいんで、ほぼ無制限に救済すると。なおかつ輪をかけて公的資金、つまり税金もあてがわれる可能性があると。ただね、預金者保護という目的はいいとして、公的資金導入に関しては**いかがなものかな**というのはありますよね！　ちょっと待てよと！　あと救済するところが、**2つ**あるんじゃないかと！

——それは一体どこですか!?

サスケ　全女とウチですよ!!　俺は声を大にして言いたいね。というのは、**全女さんはね、日本プロレス史の創設者ですよ!!**　新日本より創設は早いんだから。

——全日本より早いですしね。

サスケ　そうよ！　ねえ？　男女関係なくね。まして、プロレスそのものの創業者でもある、その**全日本女子を救済しなければ、これは国家としてウソですよ！**　だって全女が潰れるってことは、プロレスが潰れる可能性もあるわけですよ。**ズバリ言ってプロレスっていうのは日本の文化ですよ!!　文化を国が救わないでどうすんだって！**　それとね、WWFに行ったTAKAを見てもらえばわかる通り、いま、やはり日本人選手が海外でも評価されてる時代ですよ。いや、全世界で日本人選手が欲しがられていると。そういう業界はね、**国家として救済すべき**じゃないかと思いますよね。ホントに。

——国家レベルの話までいきますか。

サスケ　で、みちプロに関して言えば、これはもう**日本初のローカル団体**。まして東北の地域活性化を目指して、

プロレスは日本の文化ですよ！ 文化を国が救わないでどうすんだ

実際に一部分では活性化してるんです。観光客を多数動員してるしね。東北にどんどん外部から金を落としてるしね。これは本当に東北に**経済効果**をもたらしてると思いますよ。それが潰れかかっているわけですよ！ それを救済しないで、どうするんだと!!

——銀行なんか救済してる場合じゃないと。

サスケ うんうん。そうそう。まさにそう。

——そういうことを言ってるから、選手から反発喰らうんですよ。

サスケ これはね、半分マジメにそうですよ。

——あ、半分なんですか？

サスケ いやいや、かなりマジメにね。例えば**通産省が**ベンチャー企業であるみちプロに**資金を出すとか。**早くそういう動きになってほしいねぇ（遠くを見つめる）。

——いや、そんなに遠くを見つめないでください。ところでね、猪木さんの「プロレスを通じて、終生大衆に尽くす」という理念が端的に表れてるのが、みちプロだと思うんですよね。

サスケ **俺もそのつもりです！**

——社長は、「みちプロを東北に根付いた大衆娯楽にする」と常々言ってましたね。

実は星が2つ見えるんだ、漠然と。星が2つ、みちプロに降ってきます

サスケ あるいは東北の文化にしたいと。**文化と娯楽ですよ！**

——娯楽と言うからには、プロレスファンじゃない人も視野に入れないと、お話にならないということになりますね。

サスケ まったくその通りだねぇ。だから、いつからか、プロレス界全体が、マニアだけの袋小路にはまっちゃたんですよね。まず、本当に一般の人が入れないような状況です。

——例えば海援隊にしても、マニアには評価が高いけど……。

サスケ それが実はね、ちょっと間違いなんですよ！ それこそが、プロレス村の中の評論になっちゃうんですよ。実は違うんですよ。

——ほう。聞かせてもらいましょう。

サスケ 東北の一般の人たち、おじいさんおばあさん、初めて来たお客さんは、やはり正規軍VS海援隊の闘いで熱くなれるんですよ、逆に言えば。それは**善と悪**がはっきりしてるし。本当に喧嘩してるしね。

——それは正規軍がいないと成り立たないものですよね。海援隊から言わせたら逆かもしれないけど。でも、僕が言ったのは海援隊の3人に限らず、TAKAみちのくにしろ、マニアの間では非常に評価は高いですよね。それだから仕方ないのかもしれないけど、彼らの視線っていうのはプロレスファンに受けてナンボ、というところに向いてると思うんですよね。

サスケ そういうとこはありますね。だから、しょせん海援隊ってのはそんだけの器なんですよ！ 俺はみちプロ自身の知名度も上げたいし、ひいてはプロレス界全体のイメージも上げたいと。ところが**海援隊の連中は、そこまで考えてるかといったら、何も考えてない**ですからね。奴らはリングの上で勝っていい格好をしたい、それでプロレスファンにアピールしたい。**それだけですよ。**もっと狭い視野かもしれない。みちプロファンにだけアピールしていればいいと思ってるかもしれない。それがね、俺と彼らのレベルの差ですよ！ だからね、プロレス界だけにアピールしていたらダメなんですよ。俺が常々言ってるのはね。極端な話、こんな**村社会**に閉じこもってどうすんだ、というかね。

——社長は、東北にこだわってるんじゃなくて、実は全国を視界に入れてるんだぞと。

サスケ　いや、もう全世界を視野に入れてる。**いや全宇宙を！**　そして、プロレスマニアの人たちは、黙ってても付いてくるからいいんですよ。彼らはウチらの仲間なんですよ。仲間というか、身内ですよ。俺らがやんなきゃなんないのは、外に向かってもっと**プロレス無関心層を掘り起こし、**アピールしていかなきゃならない。そこですよ！

――いやあ、熱いじゃないですか、社長！

サスケ　（うつむいて）……ただ、いかんせん、熱いけど**金がない**っていうのが現状ですよ。**日銀の融資が欲しい**ですねえ。

――また日銀ですか。

サスケ　いま言えるのは、走り続けるしかないってことですよね！　あきらめたくはないしね。ただ、世の中どうにもならないこともあるってことですよ。だから今回の、特にメインバンクの対応なんか見てるとね、世の中には**必要とされてるもの、必要とされていないもの、**というのがあると思うんだよね。今回のメインバンクのウチらに対する仕打ちね。そういうものが、**みちプロの本当の敵**なんだよね。あとプロレス無関心層ね。やはり、そういう**巨大な敵**に負けるのかもしれない。……いまは極めて弱気な状況だよねえ。

――プロレスが日本に輸入されて30年以上、そのプロレス自体が「もういらないよ」っていわれてる時期かもしれないわけですからね。

サスケ　（うつむいて）……時期かもしれないねぇ。

――社長も、みちプロをまた再建するにしても何にしても、時代から「もういらないよ」って言われてるんだとしたら、いままで通りの手だてじゃ通用しないですよね。

サスケ　だから、新しいスター！　これを待つしかないよね。

――待つしかないんですか!?

サスケ　だって**スターっていうのは、星ですよね。**星は空からしか降ってこないですから、空からスターが降りてくるのを待つしかないですよ。俺やデルフィンを、もうひと回り超えるスターが降りてくるのを、いまは待つしかない。

――UFOを何十回と見てる社長でも、その星はまだ見えそうもないんですか？

サスケ　う〜ん……いや、**2つ見えるね。**実は2つ星が見えるんだ、漠然と。ただその星はそんなに大きくないんですよ。サスケ、デルフィンにちょっと追いつくぐらいかなと。

――それはみちプロ内の話ですか。

サスケ　いやいやいやいや、**まったく関係ないところから、みちプロに振ってきます。**ただそれは、あくまでも俺の直感ですからね。

――それは直感というより予感ですね。

サスケ　予感だね、予感予感。まあ本当にいまは**天命を待つだけ**ですからね。やることはやってます。あとは内需拡大だろうね。もう一回日本でガーッと盛り上がってね。そっから世界に羽ばたかないと。日本人全レスラーがね。TAKAみちのく一人が行ってちゃダメですよ。やはりね、世界を日本のプロレスで染めてかないとダメですよ！　**だから猪木さんのやってることは、俺は賛同してるんですよ。**その為に必要なのは内需を拡大しないとね！　日本を盛り上げないとダメですね。

――でも、猪木さんとか、松永会長に賛同してると、結局は選手から反発されますよ。

サスケ　反発する奴はね、ステージ低いよ！　**非常にケツの穴が小さいというかね。**反発してるから、業界が盛り上がんないんだよ。こんな不況の時だからこそね、やっぱり一丸となって、**バカみたいな夢にみんなで真剣に賭けようよ！**　俺は、ホントにね、札幌まではね、**目いっぱい走り続けますよ!!**

［11月26日、東京・全日空ホテルにて収録］

明日デビュー戦だそうですね。

中原　がんばります。

―もうエキシビジョン・マッチはやってるんですよね。「かわいい顔の奴はムカつくんだよ！」って叫んでましたけど。

中原　そうですね、ムカつく！

―どういう顔ならいいんですか？

中原　いや……自分（笑）。**ブスはいいですね。**ああいう顔（傍らにいる脇澤美穂を指して）は嫌ですね（笑）。

―脇澤選手はビデオ（『Ｏｒｅ』）にも出演してますもんね。中原さんも『Ｏｒｅ』のブス版やりませんか？

中原　なんでブス版なんですか！（怒）

―「ブスはいいですね」って言うから（笑）。いろんな人に話を聞くと、昔は相当悪かったらしいですね。

中原　悪くないですよ（笑）。

―だって、**少年院行くか女子プロレス入るかのどっちか**だったって聞きましたよ。

中原　少年院は……ギリギリ。リーチかかってるぐらい。

―何をしでかしたんですか？

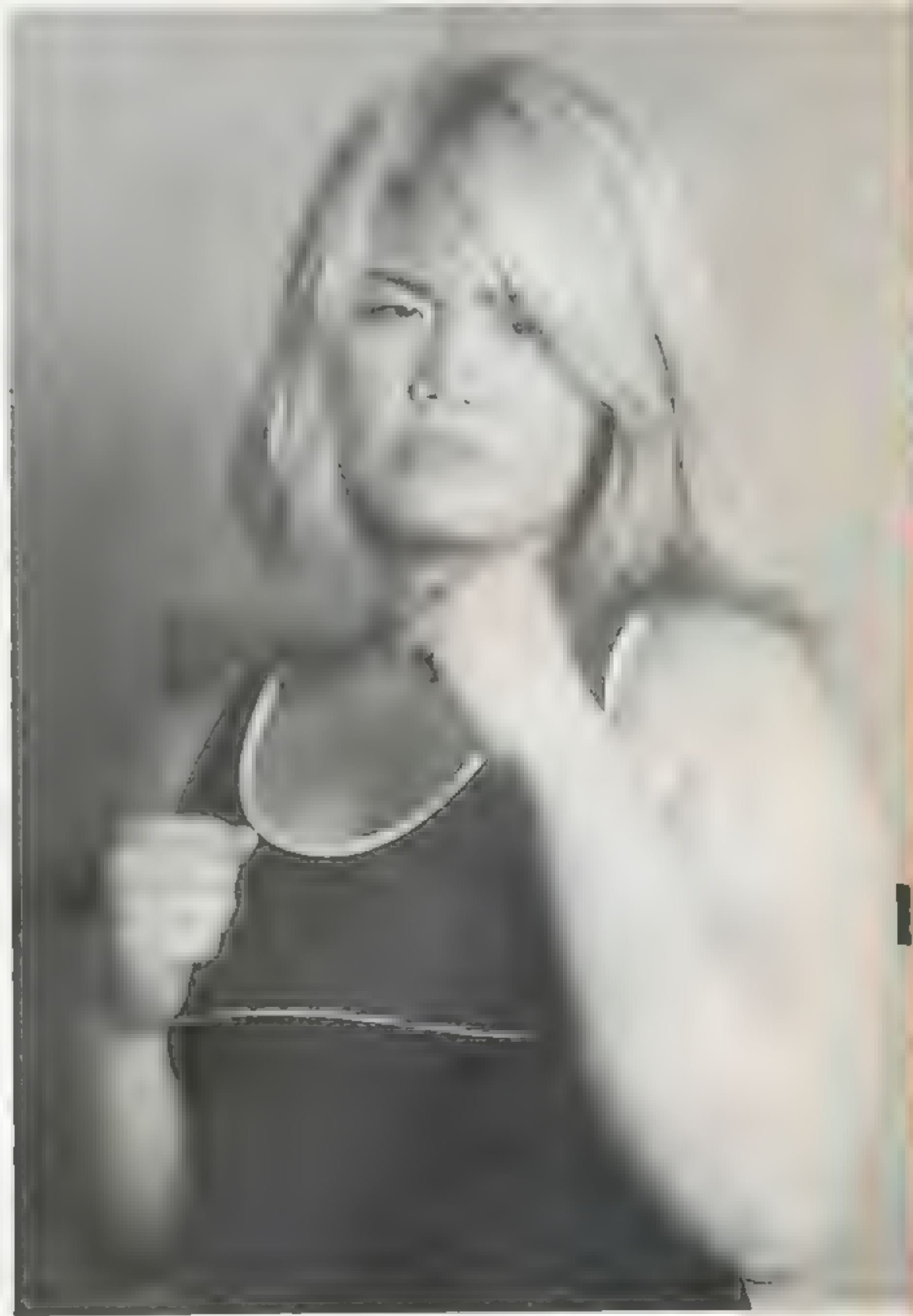
中原　**空き巣（笑）。**

―ガハハハ！　空き巣やったんですか！　凄げえ！

中原　空き巣なんて入る人いないですよね（笑）。

―他にはどんな悪いことをしてたんですか。

中原　**バイク盗んだりとか。みんな、やりますよねえ？**

―みんなかどうか知りませんけど（笑）。喧嘩もしょっちゅうでしたか？

凶器しか使わないプロレスをしたい！

選手の大量離脱によって若手の急速な成長が課題の全女。そんな中、悪の限りを尽くし、経歴を聞いただけで松永会長がオーディションを合格にしたという恐るべき新人がデビューした！

中原　喧嘩で捕まるのが、一番多かったですね。

―近所の中学をシメにいったりしてたんですか？

中原　はい（笑）。

―カツアゲしたり？

中原　カツアゲは、どうしてもお金がないときだけ。悪いことしても親が、「アンタはアンタで勝手にやりなさい」って。小学校1年の時から、ずっとほったらかしなんで、**こんなふうになるのもしょうがないと**思います。

―そうですか……今の状況は楽しいですか？

中原　別に楽しいわけじゃない。嫌なことも、たくさんありますし。「前に比べたら、楽な生活してるなぁ」とは思いますけど。

―どの辺が楽ですか？

中原　精神的に楽です。

―それで、入門してから20キロも太っちゃったんですか？

中原　ハハハ、そうじゃないと思います。**煙草やめたから**（笑）。

―ガハハハ！　「煙草やめると食いものがおいしい」って言いますからね。

中原　そうですよね！　口淋しくて、なんか食べちゃうんですよ。

―煙草デビューはいつ頃ですか？

中原　小学校3年生の終わりぐらい。5年生のときには、毎日吸ってましたね（笑）。**お酒も好きです**（笑）。

―そういえばロッシー小川さんの本に「中原は中学時代にすべての禁を経験」って書いてあったんですけど。

中原　みんな破ってるんじゃないです

良い子は絶対マネするな！

中原奈々（全女）インタビュー

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

祝デビュー！ 未来の全女を

か？(笑)

—知りませんよ(笑)。煙草もお酒も好きなんですか？

中原 煙草もお酒も好きです(笑)。

—で、男も好きだと？

中原 **はい(笑)。**でも、今は断ってるんで。でも、誰かが煙草吸ってるの見ると、イライラしてきちゃう。

—それで今、いくつなんですか。

中原 16歳になったばっかりです。中学卒業して入ったんで。ここにこなかったら、出席日数が全然足りないんで**中学1年生からやり直すか、ちゃんと面倒を見てくれる就職先か、さもなければ鑑別所に入れられる**って、卒業と同時に言われて。

—もの凄い選択肢ですね(笑)。

中原 どれも嫌だったんで、一番やりたいプロレスしかないと思って。

—昔からプロレスは見てましたか？

中原 はい。宇野さん、中野さんが好きでした。プロレスラーになりたかったのは小学1年からです。知り合いがプロレス好きで、プロレスに接する機会が多かったんでやりたいと思って。

—それでお金を稼ごうと思った？

中原 そうですね。自分の一番好きなことをやって、お金を貰えるんだったら**天職**かなと思いますね。

—天職でしょうね。同期の人はいかがですか？

中原 前の同期がみんな辞めて、今の同期はみんな出戻りなんですよ。

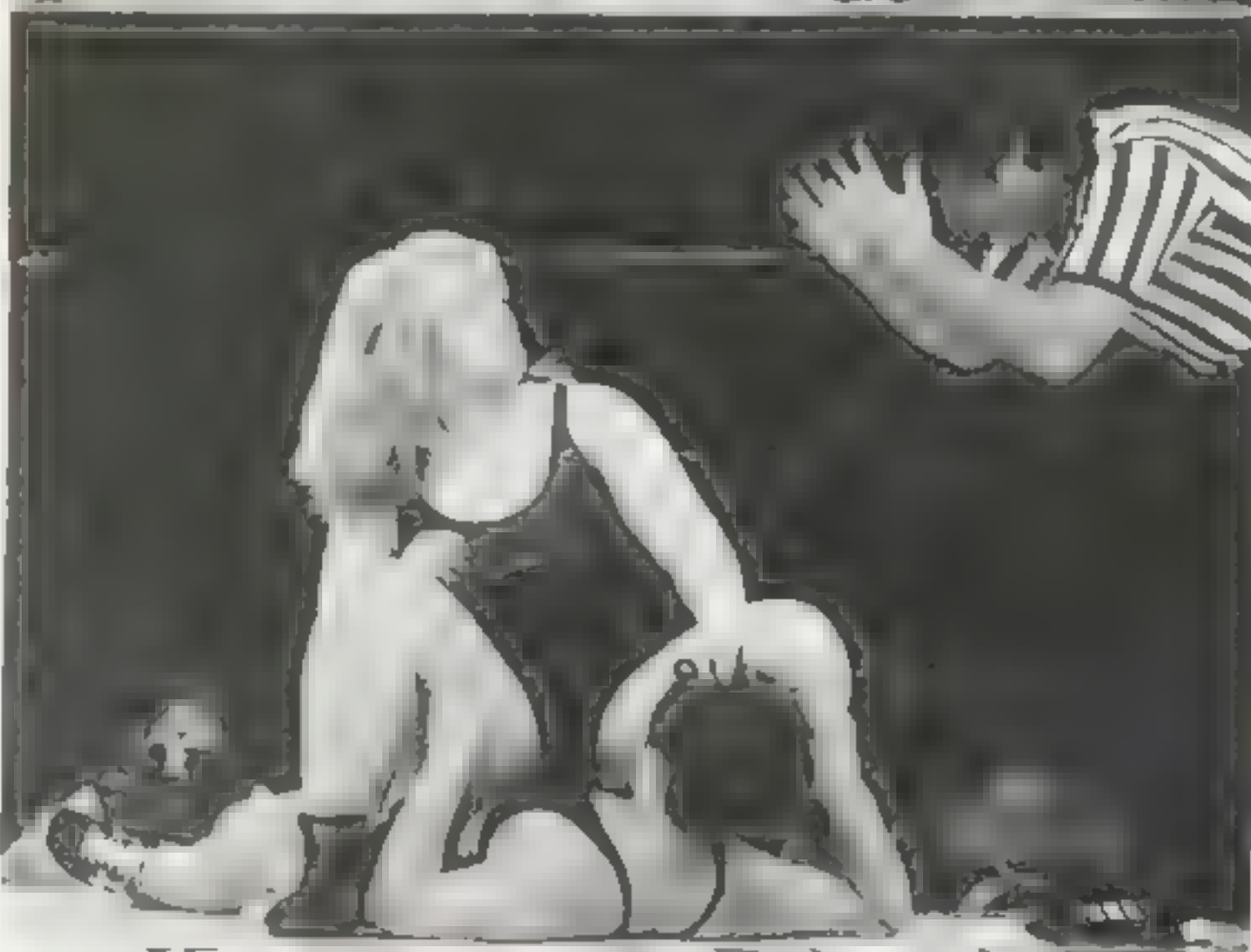
—今の同期の方がいいですか？

中原 前はもう、**毎日殺し合い**でしたから(笑)。毎日喧嘩。

—いいですね、物騒で(笑)。

中原 ムカつくヤツが一人いたんですよ、超デカイ子が。172センチ72キロで。

—原因は何ですか？

中原 「年が離れてて、あんたとは合わない」というくだらないこと(笑)。いつか**スパーリングで殺してやろう**と思ってたら、そのうち辞めていきました。辞めてうれしかった〜(笑)。

なぜかデビュー戦から1対2のハンディキャップマッチとなった。腕を骨折しながらも「ムカつく」納見と同期の豊田をラフ殺法で一蹴。従来の基本的なプロレスはまったく無視。大物の予感を存分に漂わせた試合だった。

—プロテストでは椅子で相手を殴ったと聞いたんですけど。

中原 **スパーリングで場外で椅子使って、**「今までに椅子を使った人がいないから」って異例だからって合格になって(笑)。憎かったんで、相手が大っ嫌いなそのでっかい同期だったんで、殺す気でやってやろうと。

—プロテストで殺そうと思いましたか(笑)。

中原 いつも普通のスパーリングだと、あっちが柔道初段ですんごい強くて。プロテストの日には「絶対負けない」って気合入れて。

—気合入れて椅子を使う(笑)。

中原 その同期が、会長に「椅子で殴られたら、椅子で殴り返すぐらいの気迫がなきゃだめなんだよ」って言われたら、「椅子使わなくても、中原には勝てます」とか言っちゃて、チキショウ！ いつかどっかで見かけたら、ブッ殺してやりたいです。

—是非、ブッ殺してください。これからはデビューして、先輩と当たっていかないといけない状況ですけど。

中原 倒せるように、頑張りたいです。

—最近は、ヒールが試合を組み立てられるようになってますよね。

中原 でも、**ただ凶器使いたいだけなんで。凶器しか使わないプロレスをやりたいです。**

—まあ、プロレスってやっちゃったもん勝ちの部分もありますからね。

中原 **やっちゃいますか**(笑)。

—やっちゃいましょう！(笑) ところで、今ムカついてることはありますか？

中原 山ほどあるんでわかんない！

—先輩から冷ややかな視線を浴びせかけられたとかは？

中原 いっぱいありましたよ。「凄い子がいる！」って、わざわざ他の先輩連れて見に来たりとかする人もいたし。夜、道場とかに呼び出されたこともあって。で、**その時たまたま、自分が遊びに行っちゃた**んですよ。(笑)

—寮を抜け出して、夜の街へ繰り出したんですか？(笑)

中原 **友達と飲みに行っちゃって**(笑)。それで明け方の5時ぐらいに帰ってきて怒られて、また悪いイメージがついて。(笑)

—よくクビにならないですね。

中原 結構、怒られましたよ。別に逃げたんじゃないですよ。ただ抜け出して遊びに行っただけなんで。でも、「**見せもんじゃねエよ！**」って言ってやりたかったですね。いつか、言える地位に立ったら言います。

—リングに上がれば、先輩も後輩もないですからね。頑張ってください。

中原 **いつかその人より強くなって、**言える時期が来たら、**見返してやろうと思ってます。**

【97年11月20日、全女道場にて収録】

前のページの中原インタビューはいかがだっただろうか？平成9年の日本には珍しい札付きの不良が、厳しい縦社会の全女の中で生き残っていけるのか？先輩や同期に中原の人となりを聞いてみた!

堀田祐美子

「3年後5年後には、すごい選手になってると思います。会ったときに、「堀田、元気か？」なんて言われちゃったりしてね（笑）。やりかねないですから。入ってきたときは腕立てもできない、走るのも出来ない、歩いているのか走っているのかもわからない状態で。でも、プロレスのセンスが、今は練習見てて一番じゃないかな。新人は手取り足取り教えたことしかできないんだけど、中原はそれに自分のオリジナルをミックスしちゃうみたいな。あれは大事に育てていきたいなと思います」

豊田真奈美

「印象は（笑）……いいんじゃないですか、体も大きいし。まだ派手なこととかは出来ないと思うけど、でも地で試合を引っ張っていけると思うんで。もともと悪かった子だから（笑）。私もデビュー戦は楽しみにしてるんですよ（笑）」

井上貴子

「あの子の場合はいきなり悪役からデビューするって感じなんで、ちょっと異質ですね。練習よりも、本番に強いというか。ああいうことをすること自体、今もう格好悪いとか恥ずかしいとかいう奴が多いじゃないですか。でも、堂々とやってるんで。いいんじゃないの（笑）」

伊藤薫

「(プロレス的に）大化けすると思いますよ。あんだけ身体が大きかったら、うらやましいですよね。まだまだ、背も伸びる可能性もあるし、そうじゃなくても自分よりデカイから（笑）。(凶器しか使わない試合がやりたいと言ってましたけど？）自分、正当派はなんで闘いますよ（笑）」

前川久美子

「最初からヒール志望で入ってくるのはすごいですよね。自分の身体をまだ使いこなせてないから、もっと基礎体力つけたりした方がいいんじゃないかなと思いますけど」

中西百重

「えっ！　中原!?　恐ろしい（笑）。怖いですよ。でも、掃除とかはキッチリしてるんですよ。部屋もキチンとしてるし。試合では、できれば当たりたくないです（笑）。反則ばっかりしやがってっていう気持ちが試合に出て、いい試合になるかなと思います」

藤井巳幸

「中原はちょっと馬鹿です、かなりキテますね（笑）。初めから金髪で、最初はファンの人かと思った（笑）。最初は話題の中心人物でした。自分は、ヒールも少しは……やっぱりやりたくないです（笑）」

豊田紀子

「すごいですよ！　あの人に乗っかかられただけで、もうダメです。（同期では目立ってるけど）もっと、目立ってもいいんじゃないですか。今はまだ追いつけないですけど、試合でも勝つぐらいにはなりたいですね。スパーリングではまだ勝てないです」

高橋麻由美

「自分は体が弱いんで、具合悪くなるとすぐ飛んできてくれたりするんで、面倒見はいいですよ。（アイドル顔は嫌いって言ってましたよ？）自分は男顔なんで（笑）」

オレはいつまでもクレイジーなプロフェッショナル・レスラーだぜ！

読む前にハンカチを用意してください

グレート・テキサンの涙の訴えを聞け！

テリー・ファンク

TERRY FUNK

INTERVIEW PART 2

Interview by Nobu Sakai

撮影&通訳／藤見道隆
photographs by Michitaka Fujimi

先輩&同期が語る 大型極悪新人・中原奈々!

前のページの中原インタビューはいかがだっただろうか？平成9年の日本には珍しい札付きの不良が、厳しい縦社会の全女の中で生き残っていけるのか？先輩や同期に中原の人となりを聞いてみた！

寂しくはないさ。ただ思い出があり過ぎる

——テリーさんを見ているといい意味でクレイジーなプロレスラーという感じですよね。そこがテリーさんの時代のプロレスラーの魅力ですよ。

テリー　ハ～ッハッハッハッハ、オレもそう思うよ。歳をとったクレイジー・オヤジだな。

——ハハハハハハ、さっき自分で若いって言ってたじゃないですか？（笑）

テリー　ノー……。（と呟いて突然うなだれる）

※前号のインタビュー途中で突然うなだれてしまったテリーさん。質問が悪かったのか？　ただならぬ雰囲気を思い浮かべながら続きを読んで頂ければ幸いです

——そんながっかりしないでください。

テリー　（さらにがっかりしながら）それは私がいちばん知ってる。ホントは自分だって若いと思いたいんだ……。

テリーさん見てると、十分若いですよ。ムーンサルト・プレスやったりしてるじゃないですか？

テリー　オレはすっかり歳を取ってしまったよ。だが、今でもミスターババのことをすごく尊敬しているんだ。

——なぜですか？

テリー　もし、ババがいなかったら、オレはここにいなかっただろう。彼がジャパンに来る機会を与えてくれたんだ。ミスターババの奥さんも尊敬しているよ

いずれは全日本のリングにカムバックして、馬場さんに感謝のあいさつをしたいと思いますか？

テリー　トゥー・オールドだよ。歳を取りすぎた

-セレモニー的にエキシビジョン・マッチをやる形でもダメですかね？

テリー　わからないよ……（と頭を抱えて寂しそう）。

——寂しそうですね。

テリー　そんなことはないさ……（遠くを見つめながら）思い出がたくさんありすぎる。

全日本プロレスに上がっていた頃は女性のファンも多かったですが、いい思い出はないですか？

テリー　思い出はたくさんあるが、もし昔に戻れることが出来ても昔には戻らないんだ。前に突き進むだけだ。私はあなたにとってテリー・ファンクだが、あなたは私にとって若いファンなんだ。時間が人を変えていってしまうから、昔のファンのことを気にしている暇はないんだ。みんなが同時に変わっていくから、たとえオレが兄貴とタッグを組んでブッチャー&シーク組と闘っても、たぶん昔のファンは数えるほどしか戻ってこない。だったら、ドンドン前に進んで新しいファンを作っていった方がいいだろ？

そういう意味では、昔の地位に甘んじることなく転がり続けるテリーさんの姿は、プロレスラーの鏡ですね。

テリー　イエス。ひとつだけ、これからやりたいことがあるんだ。もう一回だけドリーと組んで……日本で試合をしたいんだ……ザ・ファンクスでやりたい。

（涙目で言葉を絞り出すように）

是非、実現させてください！

テリー　ノロマになってるけどね。

——何を弱気になってるんですか。是非、実現させてください！　先日、アマリロでファンク一家の興行がありましたよね？　ドリーさんはロブ・ヴァン・ダムと試合したり、テリーさんはブレッド・ハートと試合したりしてますが、あいう興行を日本でやる気はないんですか？

テリー　そりゃいいことだ。もし、そういう望みが叶うんだったらやりたいな。

——是非、見たいですよ。

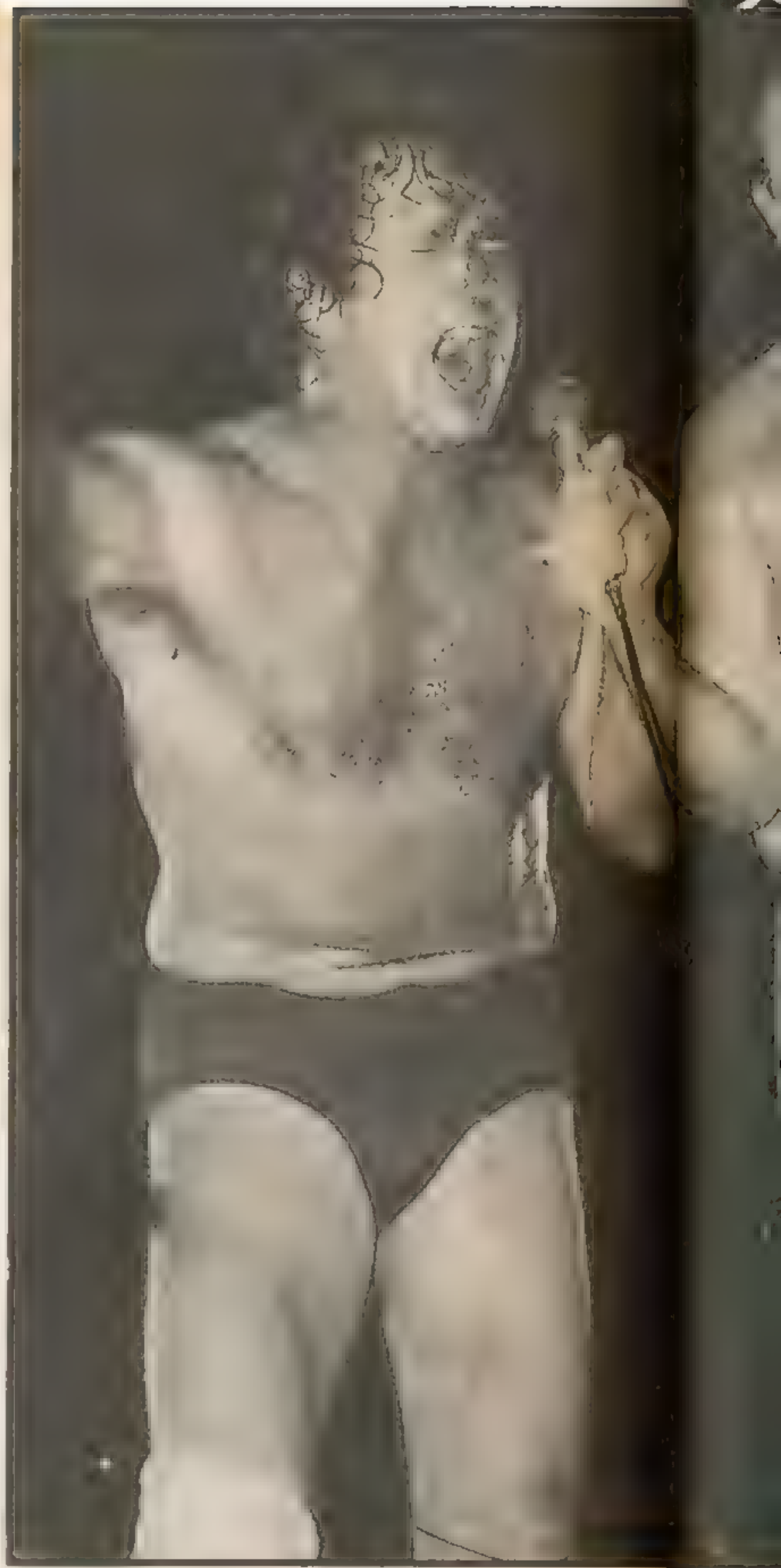
テリー　ロブ・ヴァン・ダム戦とかブレッド・ハート戦もいいが、ザ・ファンクスでやりたいんだ。それができたらもう、思い残すことはないさ。

そんな寂しいことを……。で、寂しいついでにもうひとつ寂しい話なんですが、最近テリーさんの周りで淋しいことがいくつか起こってますね。フリッツ・フォン・エリックやディック・マードックが死んでしまったことなんですが。

テリー　（小声で）たくさんの人が死ん

TEXAS BRONCO!

テリー・ファンク

TERRY FUNK

1983年8月31日蔵前国技館で一回目の引退試合を行ったテリーさん。一世風靡の大テリー・フィーバーが巻き起こった。プロレスが世間を大いに巻き込んでいた時代である

だよ、私の知り合いが大勢死んだよ。プロレスラーは若くして死んでしまうものなんだ。人生、長くはないんだよ

――太く短く生きてるんですねえ。

テリー そう見えるだけさ。いろんな理由があるんだよ。サーキットに出たり、トップロープから飛んだり、頭を打ち過ぎたり……。相撲取りもそうなんだろうけど、若いうちに引退して、運動しないで現役時代と同じ量を食べてしまって運動しないから早く死ぬことが多い。レスラーを辞めてから、ハートに穴が開いて、何をしていいのか分からないまま死んじゃうことも多い。

――テリーさんが一回引退したのに戻ってきたのは、ハートに穴が開いたからですか?

テリー 何かを失ったような気がしたから。プロレスとジャパンが恋しくなってしまったんだ。

――日本は好きですか?

テリー もちろんさ。

――どんなところが好きですか?

テリー 人生に成功した場所だ。ここに来てから25年になるが、ここに来たから成功したようなものだ。もし、アラスカから来た女に恋してしまったら、お前もアラスカに行くだろう?

――ハハハ、深いたとえですねえ。

テリー プロレスはオレの彼女なんだ。

――彼女を追って25年も日本に来続けてるんですね。

テリー でも、オレはマイ・ワイフのことをすごく愛しているぜ(笑)

――テリーさんには娘さんが2人いるんですよね? 日本での引退式のときにテンガロンハットを被ってましたね。

テリー とてもいい家族で、優しいワイフだよ。とても愛してる。娘は2人とも結婚しちまったが、ベリーベリーベリーハッピーに暮らしてるよ。しかも、相手はレスラーじゃない。オレにとってこんなにハッピーなことはないよ(笑)。

――何でですか?

テリー プロレスラーはバカ過ぎる! トゥー・バカ! プロレスラーの家族がいなくて良かった。

――日本語でバカって(笑)。

テリー 本気で言ってんだぜ(笑)。息子だったらレスラーになってもいいが、娘にはレスラーと結婚してほしくないな。

――レスラーの奥さんは苦労をするというのをテリーさんが身を持って知ってるからでしょうね。

テリー サーキットに行っちゃって帰ってこないだろ? それでマイ・ワイフも娘も苦労してるから、そんな思いはさせたくないんだ。

――テリーさんがレスラーになったのは、父親のドリー・ファンク・シニアの影響ですよね。

テリー イエス。オヤジは熱心な教育家だったんだ。「プロレスラーになれ!」とは言わなかったが、確実にオヤジには影響されてるな。

――うすうす「プロレスラーになってほしいな」というシニアの願望は感じてたんですか?

テリー オヤジはオレがプロレスラーであることに誇りを持っていたな。もし、オレが教師になったとしても、そのことに誇りを持っていたと思うよ。何かやりたいものがあって、それに一生懸命だったら、何になってもオヤジは気にしていなかったと思うがね。

――テリーさんのケンカっぱやいところや周りの人をハッピーにするのもシニアの影響ですか?

テリー (泣きそうになりながら)オヤジにそっくりさ。オヤジもクレイジーだったな。クレイジー・オトーサンだ! でも、ワンダフルな温かいハートを持ったオヤジだったよ。

――是非、生きてたらシニアにお会いしたかったですよ!

テリー (涙がキラリ)オレだって会いたいさ……。

――テリーさん、孫はいるんですか?

テリー もう、いつ孫ができてもいいように準備してるんだけどな。でも、「孫が欲しい」って言うと、どんどん出来な

先輩&同期が語る
大型極悪新人・中原奈々!

前のページの中原インタビューはいかがだっただろうか?平成9年の日本には珍しい札付きの不良が、厳しい縦社会の全女の中で生き残っていけるのか?先輩や同期に中原の人となりを聞いてみた!

日本であと一度だけ ザ・ファンクスの試合をしたい

くなっちゃうもんだろ? だから、言わないんだ(笑)、

――言わないけど欲しいと(笑)。もし、テリーさんに孫が出来たらレスラーにしたいですか?

テリー (遠くを見つめながら考え込む)孫がやりたければやらせるよ。もし、オレの目から見て確実に成功する要素があれば、是非やらせたい。

――その「レスラーとして確実に成功する要素」って何ですか?

テリー 普通のレスラーになりそうだったらやらせないよ。例えば、それはプロのテニスプレイヤーと同じで、アマチュアのテニスプレイヤーとして楽しんでテニスをやりたいんだったらいいんだが、プロとして成功しないんだったらやらせないさ。レスラーになるにしても金はかかるものだろ? ルーズベルト大統領の「名誉ある人間は、いかなる障害にぶつかっても何回も何回も、這いあがってくるものだ」という第二次世界大戦時代の言葉がある。ルーズベルト大統領が言わんとしてることは、100%力を出しきるということだ。それがオレの思うレスラーとして成功する要素だ。それが私にとって大切なことであり、誇りでもあるんだ。一流のレスラーになることとは、惜しみなく努力して一生懸命努力して、成功するビジョンを視野に入れていなければダメだ。身体の大きい小さいは関係ないんだ。

――では、最後の質問なんですが、日本のプロレスファンにメッセージがあったらお願いします、

テリー ノー! まだまだだ! 最後にはしないぜ(笑)。一回だけ……ザ・ファンクスで試合がしたいんだ。来年も再来年もジャパンに来るよ。(メチャメチャ寂しそうに)試合のときはいつも100%力を出しきることは約束できるよ、勝てるかどうかは約束できないけどね もう、時間がないんだ

――人生に対して焦りはありますか?

テリー ああ。

時間に追われてるという感じですか?

テリー ああ。ケガも多くなってきてる。年を取りたくない。オレは困難な山に挑戦したいんだ。年を取ったら、山を遠くから眺めてることしかできないが、オレは年を取ってもまだまだ山を登れるんだ! このまま、ずっとプロレスを続けられるかどうか、心配だよ

――いつまでもクレイジーなプロレスラーでいてほしいと思うんですが。

テリー ハッハッハッハッハッハッハ、ノープロブレムだ! オレはいつまでもクレイジーなプロフェッショナル・レスラーだぜ!

――ところで、もうテンガロン・ハットは被らないんですか?

テリー ノー! 時代が人を変えるのさ。

【97年9月27日、とある池袋のホテルにて収録】

今年9月11日、アマリロで行われた最後のテリー・ファンク自主興行 そのメインでブレッド・ハートとWWF王座を懸けて闘った。日米のインディーとメジャーを巻き込んだ一大興行であった(写真提供=東芝EMI 週刊プロレス)

TEXAS BRONCO!
テリー・ファンク
TERRY FUNK

特別企画

プロレスマスコミ観戦雑記

文 吉田豪

え／マツくん

これはプロレスマスコミの
端くれにひっそり位置する
筆者が高田対ヒクソン戦を
観戦して思ったことを
冷静に報告する、
まるで素人レベルの
作文のような
雑記帳である！

先輩＆同期が語る
大型極悪新人・中原奈々！

前のページの中原インタビューはいかがだっただろうか？平成9年の日本には珍しい札付きの不良が、厳しい縦社会の全女の中で生き残っていけるのか？先輩や同期に中原の人となりを聞いてみた！

高田vsヒクソン観察雑記

蝶野ではないが、高田が負けた理由は単純な話「ルールが悪い！」という、それだけのことである。

プロレスラーたるもの、たとえ異種格闘技戦であろうとも相手を自分の得意なルールに無理矢理にでも引きずり込まないでどうする。

かつて新弟子時代の佐山聡がマーク・コステロにキックルールで負けたときには、誰もそんなルールで仇を取ろうとは思わなかったはずである。なのに、どうしてグレイシーにはバーリ・トゥード流のルールでレスラーが挑戦しなければならないのか？

せめて、これまで猪木がさんざん苦しめられてきたことをヒクソンにもキッチリ味わってもらうため、「寝技は5秒以内」だの「グローブ着用」だのといった理不尽ルールぐらい突きつけてやるべきなのである。でしょ？

さて、それでは打倒ヒクソンのために最も重要なルールとは何なのか？

それはもちろん、プロレスラーにとって最も馴染みの深い（＝有利な）ルール、つまりスリーカウント・フォールの導入に他ならない。

夢はみるみる膨らんでいく。

スリーカウントの魔術師といえば我らが藤波辰爾しかいないのだから、対戦カードは当然「無我のドラゴン」。「無敗のヒクソン」対「無我のドラゴン」。負けのない男と自分のない男の一騎打ちだ。

そもそもヒクソンが「日本人より日

本人らしいサムライ」などと当然のようにマスコミで言われていること自体、自宅に「葵の間」を作るほどの武将好き男・ドラゴンにとってはどうにも許し難いことに違いない。

そのため自ら前髪をハサミで切りつつヒクソン戦を格闘技連盟のボス・猪木に直訴すると、「やれんのか、本当に!」と平手打ちされながらも最後の飛龍革命をブチ上げるのだ。

「ヒクソンなんかより、ウチの越中の方がずっとサムライじゃないか! なんてったってサムライ・シローだし。ウチの西村なんかなあ、ショーグン・ニシムーラなんだぞ!」

記者会見でドラゴンは、こんなドラゴンボンバーズ魂溢れる理解不能なことばかり吠えまくった。この時点では、完全にドラゴン・ペースである。

そして試合当日。

この日は藤波にとって二度目のワンマッチ興行である。

札幌中島体育センターのリングサイドには、長州率いる新日勢や天龍、鶴田のみならず、ドラゴンゆかりの人々がすっかり集結していた。

ボクシングのコーチ、ガッツ石松。ベニー・ユキーデ仕込みのキックを伝授してくれた盟友・木村健悟。腰を治してくれた心霊治療の先生。マッチョドラゴンの振り付けを担当してくれたジャズ空手の沢村先生。ドラゴンボンバーズの隠し玉・南海龍。そして、愛するかおり夫人……。

すっかり会場全体がウェットな空気に包まれていることも気にせず、ドラゴンはいつもと同じように雪崩式リングインで入場してくる。

レフェリー(キングダムからの抗議により、なぜか島田裕二からミスター高橋に変更)まで明らかに緊張しているような極限状況の中、ついに試合開始のゴングが鳴り響いた。

いつものように得意の関節蹴りとパンチを繰り出すヒクソンだったが、ドラゴンをなめてはいけない。ガッツと健悟による打撃特訓のおかげで、ヒクソン程度のチンケな打撃ぐらい簡単に見切れるようになっているのだから!

……あれ?

いつの間にやら目も当てられないほどボコボコにされてしまい、鼻骨は折れるわ(ドラゴンロケット失敗の古傷)目の上は切れるわ(前田にやられた古傷)で、ドラゴンは一気に血塗れ。

なんとか奇跡的にバックを奪いフルネルソンの態勢には入れたのだが、あの腰ではドラゴン・スープレックスが繰り出せるわけもない。まあ、要するにいつものパターンである。

さらにキックが全く見切れないため起死回生のドラゴンスクリューさえ使えず、全くいい所のないまま試合はあっさり終わるかと思われた。

……ところが!

藤波、電光石火の

そもそもヒクソンが一日本人より日

先輩＆同期が語る
大型極悪新人・中原奈々！

前のページの中原インタビューはいかがだっただろうか？平成9年の日本には珍しい札付きの不良が、厳しい縦社会の全女の中で生き残っていけるのか？先輩や同期に中原の人となりを聞いてみた！

タックルからマウントポジションへと移行しようとしていたヒクソンの一瞬の隙を逃すことなく得意のスモールパッケージ・ホールドで丸め込み、電光石火のカウントスリー！　ミスター高橋のカウントが無茶苦茶早かったような気もするが、そんなことはどうだっていい。スリー入ったのは事実なのだ。

　プロレスが、しかもＵＷＦではなく新日が、それも致命的な腰痛を経て復活した後も順調に迷走し続けたドラゴンがグレイシーに勝利したのだ！

　指を3本突き立てレフェリーに確認した後、長州に肩車されながらも両腕を挙げて心から喜ぶドラゴン。

　そして「俺は負けてない！」とばかりに憮然とした表情をしたままの黒いサムライ・ヒクソンに対し、ドラゴンはこう言い放つのであった。

「甘い！　甘いんだよ！　もしこれが戦国時代だったら、3秒間も押さえ込まれた時点でお前の命はないんだ！　やるんだったら俺を殺すまでやれ！」

　かつて橋本に言い放った発言とほぼ同じ自己流の武士道をなぜかブラジル人にまで押しつけ、すっかり悦に入るドラゴン。

　ところがいつものように猪木がリング上に出て来ると、いつものように空気は一変してしまう。

「元気ですかァ〜っ！　え〜、ヒクソン君もよりによってプロレス界でいちばん弱い奴に負けてしまったというかね。私自身、ブラジルでバーリ・トゥードの選手と闘ったり、マサイ族の戦士に挑戦されたり、インディアンに挑戦されたりしてきましたが、決して負けたことがねえんです！　だから私は今後もいつなんどき、誰の挑戦でも受ける、と。まあ、ヒクソン君もこれでプロレスに非常に興味が出てきたということで、しばらくは猪木軍団の一員として格闘技連盟の道場を一緒に建設していこうじゃないか、と。そういうわけで……、いきますかぁ〜っ！　1、2、3、ダァ〜ッ！」

　相変わらずの自己中心的すぎるマイクアピールで藤波もヒクソンも喰ってしまって、すっかり興行の主役と化す猪木。会場は猪木コール一色である。

　さらに、なぜかドン・フライまでヒクソンに喰ってかかっていき（当然、腰にすがって必死に押し止めるのは佐山の役目）、今後の伏線まで次々と張られ始める始末。

　いつの間にやら誰一人として自分に注目していないことに気付いた藤波は、「こんな会社、辞めてやる！」と泣き叫びながら雪の札幌に消えていくのであった。……って、なんだかどこかで聞いたような展開だが、まぁいい。

　やはり、どこの誰よりもノールールで何でもありなのは、我らがアントニオ猪木ということなのである。押忍！

必読連載第5回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは『記憶が伝える愛の唄』

「[illegible]」機長より重要なお知らせがございます。[illegible]様、至急ご着席のうえ、お聞き下さい」

シカゴ空港行きの飛行機の中、嫌な予感のする機内アナウンスが流れ、客席を無言のうちに緊張が走った。

「皆様、慌てずにお聞き下さい。当機の油圧機系に異常が生じました」

客席の静かなざわめきの中、アナウンスは続けられた。

「飛行に際して、深刻な事態に発展することはございませんが、念の為、空港に緊急着陸いたします。着陸の際の緊急脱出の方法をご説明いたします（略）搭乗員の指示に従って機ですに非常口に向かって下さい。なお、無事着陸して安全が確認された場合は、リメイン・シーテッド（座ったままでいい）と言いますので、そのままお座り下さい」

具体的な脱出方法の説明を聞きながら、仮に深刻な事態が生じたとしても、皆様、深刻な事態が生じました。ご覚悟下さい。ごめんなさい、とは言わねえだろうな、やっぱり本当は相当ヤバイんじゃないか等、無意識のうちに思考を巡らせながら不思議と気持ちは落ち着いていて、隣の人ととりとめのない世間話などしていた。

実際死ぬ時っていうのは意外にこんなものなのだろうか、などと本気で考えているうちに搭乗機は緊急着陸態勢に入り搭乗員の指示通り前の座席に両手をかけそこに額をつけて身体を丸めた。

飛行機のエンジン音がいやに耳に衝き機体の揺れと共に"その時"を待つよりほかなかった。

「リメイン・シーテッド」……着陸後、搭乗員のその言葉を聞くと同時に客席に歓声があがった。無事だったのだ。

窓の外をみると、何台もの救急車や消防車、レスキューの人々が待機していた。

一歩間違っていたらという恐怖と、無事の安心をあらためて感じ、隣の人と握手をして喜びを交わした。そしてその時、私はある出来事を予感した。

ラリーさんが死んでしまったのではないか……。

2日前、ラリー・マレンコ氏が危篤だという連絡が入った。ラリーさんは、私がプロレスラーになる前、フロリダ修業時代にホームステイさせてもらいレスリングを教えてもらった、アメリカにおける父と呼ぶべき人だ。そしてジョー・マレンコ、ディーン・マレンコの実父であり、カール・グレコの義父である人なのだ。

それ故、私は即座にチケットを取り、翌日、第二の故郷、フロリダ州タンパに向かった。ラリーさんにもう一度会いたかった。そしてどうしても伝えたい言葉があった。

「ダイジョウブ、ジンバイナイ」

初めて逢った時に、彼が私にかけてくれた言葉だ。彼はどんな時でもそう言って励ましてくれた。今度は私がラリーさんにその言葉をかけてあげるときが来たのだ。

"どうか間にあってくれ"……飛行機に乗っている間、心の中で何度もそう繰り返した。

シカゴ空港から国内線に乗り換え、タンパ空港に着くとニーナ（ゴッチさんの孫娘）が待っていた。

「HE PASSED AWAY.」

泣きはらした目で彼女はそう言った。

予感は的中してしまった。あの時の飛行機の非常事態はラリーさんが救ってくれたのか、それとも死の知らせだったのか……。

「Is that right.」

私はそう言って立ち尽くした。

ラリーさんは、いつも真っ直ぐ目を見て語りかけてくれた。ゆっくりと、わかりやすい英語で。私が単身渡米し、右も左もわからず途方に暮れている際、ゴッチさんの連絡を受けたラリーさんが突然ホテルを訪ねてきてくれた。

「ダイジョウブ、ジンバイナイ」

そう日本語で言ってから、「話はカール（ゴッチ）から聞いた。私の家に来ないか。ホテル暮らしじゃ金もかかるだろうし何かと不便だ。日本からの留学生も皆そうしているし」と、ゆっくりと私にもわかる英語で話した後、にっこりと笑った。

そうして私はマレンコ家で暮らすことになったのだ。

ある休日、出先で買ったTシャツをラリーさんにプレゼントした時、彼は事のほか喜んでくれ、代わりに自分の着ているTシャツをくれた。そして、「今日はこれを着たまま寝る」と言って、「黒いTシャツなんて暑いでしょうに。それにトイもそんな古いTシャツをもらって喜んで……」とあきれる奥さんを横目に「男同士の友情さ」と言わんばかりにウインクをして寝室に消えていった。その夜、私もそのTシャツを着たまま眠りに就いた。

ラリーさんはオンボロの車を愛用していた。左側のサイドミラーはないし、メーターは壊れていたり、よく故障しては頭を抱えている姿が懐かしく思い出される。ある時スコールにあってワイパーを

「ダイジョウブ、シンパイナイ」

使ってたところ、突然ワイパーが壊れて飛んでいってしまった。その時のラリーさんの驚いた顔がおかしくて私が爆笑したら、その姿が面白かったのか、ラリーさんも大笑いして、二人で暫く笑いが止まらなかった。

家に帰ってからも「ワイパーが壊れてすっ飛んでいってしまった時に、トーイが大笑いしてね」と本当に楽しそうにノーナ夫人に報告して話した時の笑顔は今も忘れられない。そういえば“トーイ”と言う名前はラリーさんが付けてくれたものだった。

[illegible]

た。そこには“シュート・ファイティング”に没頭するカール・グレコの姿があった。私がマレンコ家に滞在していた際、カールは一切レスリングに興味を示さなかった。幼い頃からの英才教育、トレーニング漬けの日々と、ショーマンスタイルのアメリカンプロレスに反発を抱いていた[illegible]藤原組の[illegible]イトスタイルを知り、また自分自身の年齢が当時フロリダに夢を探しにやって来た私の年齢と同じになったのを機に[illegible]トファイティングを始めたという。

「自分の未来を考えざるをえない年齢になったとき、ああ、トーイはこの年齢の時フロリダに独りで来てレスリングを始めたんだな。オレもやってみよう。そして藤原組のリングでトーイと闘おうと、そう思ったんだ」

カールは当時のことをそう語った。プロレスリングに目覚めた自分の息子を嬉しそうに見つめながら、ラリーさんは私に語りかけた。

「トーイ、いま藤原組はたいへんだけれど、ダイジョウブ、シンパイナイ。わたしはもう40年近くプロレスをやってくることができた。そう、プロレスは[illegible]『forever（永遠）』ですよね、ラリーさん」

「Yes、FOREVER」

[illegible]は、ラリーさんと会ったのはその時が最後になってしまった。

先日、道場の裏の公園のベンチでカール[illegible]

[illegible]スクールをやりたいと夢を語ってくれた。

「今、トーイはバトラーツという団体を引っ張り、アマチュアのジムも運営している。家庭も持って子供もいる。オレも[illegible]今度は二人で組んでタッグのリーグ戦だ。あの頃はオレもトーイも、そしてラリーさんも今のことなんて想像さえつかなかった。そうだろう？

ああ、未来なんてわからないものだ。それにしても、今の俺達の姿を是非ラリーさんに見せたかったな」

「Yes、でもきっと見てるさ、何処かで」

そう言ってカールは秋空を仰いだ。ふと、ラリーさんの声が聞こえた気がした。

「ダイジョウブ、シンパイナイ」

空に向かってそっとつぶやいてみた。

格闘探偵団バトラーツ　石川雄規

【前号までのあらすじ】
ディスコの用心棒だった万無比人（まんむひと）——。その内面に秘める烈しさと、天性の格闘技者としての素質に目を付けたプロレス雑誌の編集長・千堂は、無比人を強引にプロレス入りさせる——。セメントを含めた闘いにも連戦連勝する無比人は、昨今のプロレスラーが持っていない圧倒的な存在感を醸し出していく。はたして無比人は急速に冷え込んだプロレス界の救世主となれるのか——。

(18)

十一月九日。

この日、東京ドームは、五万四千もの大観衆を呑み込んで膨れ上がった。

K—1グランプリ'97決勝戦は予定通り七時を過ぎて開始され、いきなりサム・グレコvsフランシスコ・フィリオという人気カードを迎えた。

この一戦、大方の予想を裏切って、あっという間に決着がついた。フィリオの得意の右フックがグレコのテンプルを打ち抜いたのだ。KOタイム、一回十五秒はK—1史上最短記録とのことであったが、千堂には別にこれといって感慨もなかった。

二人が共に極真空手の出身なのは知っていたが、K—1のファンでもなければ、その人気沸騰振りを興味を持って見守ってきたわけでもない。空手、キックボクシングといった立ち技系格闘技にはまったく食指が動かないのである。

千堂は、リングサイドの三列目に無比人と隣り合って坐っており、

「強いねえ、フィリオ」

と恐れ入ったように言い、彼を見やると、

「まあね」

熱狂する周囲の客たちをよそに、その横顔はいつもの通り茫洋として捕らえどころがない感じだ。

「どうかね、例えば彼を対戦相手として視た場合」

「タックルで攻めて引っくり返す。グラウンドに持ち込めば、こっちのものさ」

「パンチか蹴りを合わせられたら?」

「心配ないって。いきなり突っ込むなんてことはしない、ちゃんとフェイントをかけるから」

事もなげに無比人は言った。

千堂も常々、同様の見方をしていた。プロレスが立ち技の格闘技と対戦したとして、なにより頼りになるのはタックルであろう、と。それでいて、あえて脅威をおぼえた振りをして見せたのは探りにほかならないが、

（ヘビー級の攻撃の破壊力のほどを検分して置きたい、ということではないとなると、狙いは一体）

戦慄のKOシーンを目の当たりにしても常と変わらず、益々真意を量りかねて首を捻らずにはおれなかった。

K—1を観戦したい、リングサイドのチケットをなんとか入手できないかと二日前になって急に無比人が言い出し、千堂は、びっくりするとともに慌てさせられた。チケットが発売後一時間でソールドアウトした、という記事をスポーツ紙で見ていたからだ。

念のために事務局の方に問い合わせると、当日売りを二千枚程度用意してはいるが外野席のみとのことで、已むを得ず伝手を求めて主催するテレビ局に泣きついた。どうせなら真澄も誘い三人でと思ったものの、二枚がやっとで、そのために何度頭を下げたことか。そこまでして右も左も有名人ばかりという好位置をキープしたにもかかわらず、無比人ときたら興がるどころか、なんとも無感動な面差しなのだ。

(K—1戦士らを歯牙にもかけていないようなのは頼もしい限りだが、それならなんだって——)

疑問は氷解しないまま、次の試合がはじまった。ジェロム・レ・バンナ対アーネスト・ホースト戦で、感情移入しかねる千堂としては無比人が静かなのを幸いに御義理のようにリング上へ視線をそそぎつつ、思いはおのずと十月十一日へと遡るようであった。

同じこの東京ドーム特設リングで、高田延彦とヒクソン・グレイシーの異種格闘技戦がその日行われ、そこにプロレスのファンは墓標を幻影として見せられたのだ。

平成プロレス王として最強伝説に彩られてきた高田も、ヒクソンにかかっては蛇に睨まれた蛙も同然で、五分と保たずに腕ひしぎ逆十字に斬って取られた。

千堂は招待を受けてVIPルームで観戦したが、自身も得意とするところの関節技で極められ屈辱に涙しながら高田がマットをタップした瞬間、大空を夕陽が茜に染めて沈むさまが脳裡をよぎった。

このときは真澄と一緒でソファに肩を並べていたのが、感極まったごとくにひしと頸に縋った。吐息が変に腥く感じられた。

このままではプロレス業界は冷え込むばかりだ、誰かがヒクソンの無敗記録にピリオドを打たないことには……。ぼろ雑巾のように打ちひしがれてリングを下りて行く高田の姿を目で追ううち、ふと無比人のことが胸にきた。千堂は彼も誘ったのだが、氷見子と出かける約束をしているとのことで同道はならなかった——。

K—1の熱闘のさなか無比人が席を立った——

唐突に無比人の起つ気配で、千堂は現実世界へ引き戻された。

「トイレかね」

答える代わりに無比人は、立ち上がったところでリングを隔てた向かいの席を顎の先で示した。彼の視線を目で追い、ほぼ正対する最前列にグレート・沖を認めて千堂は声にならぬ叫びを上げた。着席したばかりらしかった。

「坐ってて。起ってきちゃ駄目だよ、部長」

「きみ、彼になにか——」

「挨拶するだけさ」

言うと無比人は前をよぎり、通路へと離れて行った。リング上ではマイク・ベルナルドとピーター・アーツが激しい打ち合いを展開していた。

起つなと釘を刺されたことで、遅れ馳せながら千堂にも視えてくるものがあった。否、沖の姿を見出した途端に手品の種明かしをされたのにも似て理解できた、といえようか。

"ダイオキシン"グレート・沖の沖真也が横浜文化体育館のリングで無比人に目潰しスプレーを浴びせるのを見て、胸を高鳴らせた千堂だが、それというのも彼が示唆した作戦であったからだ。

沖のよく用いる反則技の一つに、油紙による目潰し攻撃がある。かつてアブドーラ・ザ・ブッチャーが売り物にしていたのを受け継いだもので、ヘッドロックに巻いた相手の顔に紙をごしごし擦りつけ、油が目に沁みて盲いた状態にさせ一方的に痛めつける。出場交渉のために都心のホテルのラウンジで会った折、

——油紙はもう古いんじゃないの。

千堂が言うと、三十を過ぎて間がない沖は端正な顔を曇らせた。ギリシャ彫刻を思わすなかなかの二枚目であり、女性ファンも多かった。

——古いから止めろってことかい。

千堂はかぶりを振って、

——工夫を凝らしてみちゃどうかな、

と。

——工夫ねえ。

——もっと効果的で手っ取り早いのが、

横顔はいつもの通り茫洋として捕らえど

と、狙いは一体)

最近じゃ色々とあるじゃないか。対痴漢用とか護身用とかで、スプレーが。
——目潰しスプレーか、なるほど。
沖は得心した表情を見せたが、束の間、
——しかし、いいのかねぇ。万のところのフロントが、こっちの肩を持ったりしちゃって。
と肩を寄せた。千堂は微笑って。
——なに、可愛い子には旅をさせろさ。フロントといっても形だけで、『四角いジャングル』側の立場としちゃ試合が盛り上がるに越したことはないんでね。
——よーし、折角のアイディアだし使わせてもらうとするか。
かくして反則技を認めた上でのセメントを、という沖との出場交渉はとにかく成立したのだった
なぜ無比人に弓引くような真似をしたのか、判然とせぬまま千堂が身を乗り出すうちにも、沖はスプレーを捨てるとカバーの下からナックルパンチを顔面に集中
堪りかねてか無比人の上体がのけぞり、尻から落ちた。と、すかさずストンピングが追い撃ちをかける。マットをごろごろ転げるさまに、悪寒に似たものが背筋を奔るのを千堂はおぼえた。ここまで追い込まれるのはデビュー以来初めてで、満場が騒然となった。
無比人は、場外へ逃れて窮地を脱しリングへ戻った。双眸は閉じられたままだ。沖が横合いから、舌嘗めずりしながら近づいた。忍び足なのは、相手が闇の世界に閉じ込められているのをアピールせんとする、つまりは余裕の表れか。両手を広げ、チョーク攻撃を仕掛けようとした。
次の瞬間、千堂は目を疑った。沖の方へ無比人が体を開くなり、瞑目した状態のうちに頚筋に正確にラリアットを叩き込んだのである。
横ざまに吹っ飛んだ〝ダイオキシン〟はリング下へ転落し、長々と伸びたままカウントアウトされた。千堂は、金縛りに遭ったように身じろぎもできずにいた。
目が見えないはずの無比人が沖の位置を把握し得たのは、マットの沈み具合を読んでいたから、と悟り知ったのは試合後、皆より一足先に関内駅から乗った列車に揺られているとき。

(19)

真澄と絹子が頭を逆にして、ベッドの上で裸身を絡め合っていた。
絹子が上で仰臥した真澄に覆いかぶさる格好で、股間に顔を埋め舌を使っている。真澄の方もこよなく無防備に広げら

づいた。忍び足なのは、相手が闇の世界
横ざまに吹っ飛んだ"ダイオキシン"は　車に揺られているとき。
る。真澄の方もこよなく無防備に広げら

れた絹子の下肢を掻い込み、その付け根の辺に同じく舌をそよがせているようなのだ。

俗にいうシックスティーナインで女二人が互いに刺激し合うのを、千堂は、傍らのカウチに身を投げ出して眺めつつ、手にしたブランデーグラスを時折口へ運ぶ。やはり全裸である。

順子のペントハウスの寝室。千堂が無比人とK－1の決勝戦を観戦して一カ月、街は師走の遽しさのなかにあった。

この夜、例によって真澄を伴い順子の寝込みを襲うと、三人して着ている物を脱ぎ捨てたところで、

——今日はひとつレースをやるぞ。

と、いきなり千堂は宣言したのだった。

二人をベッドへ追った後、

——レズ・プレーをして、先に相手をいかせた方だけを犯してつかわす、という趣向だ。敗者は指一本触れてもらえないわけだな。心してかかれ。

こうしてレースは開始され、すでに小一時間経っていた。真澄も順子も目の色を変え、秘術の限りを尽くし合った。多くの従業員を傅かせる遣り手の女実業家の威厳もどこへやら、そこにいるのは肉欲の虜囚と化した二匹の雌でしかなかった。

見物に回るうち、千堂の裡では欲望は先細りし、苦いものが込み上げてきた。新たな興奮が得られればとのことではじめたものの、逆効果でしかないようで、この遊びにも厭きがきている事実を改めて突きつけられた格好であった。

「なにを手間取ってるか！あと十五分、それで鳧がつかなければ時間切れでどっちも負けにするぞ！」

内面の空疎さに逆らうかのように千堂は高声を放った。意識の底に無比人が影を曳いていた。

東京ドームでコーナーを回って沖へと歩み寄るのを注視しながら、

（観戦を言い出した理由は、彼。沖がこのリングサイドに現れることをなにかで知り、それで——）

呑み込むように千堂は断じるとともに、その先までまざまざと見通すことができ、スプレー作戦を授けた身としてはとても平静ではいられなかった。

（あの植野を引退させることまでした内面の烈しさが、目潰しを浴びせた沖の行為を赦し難く、カウントアウトしただけ

5万4千の大観衆の前で"ダイオキシン"を制裁！

では飽き足りずに五万人が見ている前で改めて制裁する気だ）

果たして無比人は、沖の前に立つと口を極めて罵りだした。折しもアーツがベルナルドをKOに退け、第三試合が終了した直後でもあり、

——このインチキ野郎！

声が千堂にもはっきり聞き取れた。起って行き、止めに入ることも考えないではなかったが、もしそこでスプレーの件が無比人の知るところとなっては、と思うとふんぎりがつきかねた。

——玉なし！

とか、

——おかま野郎！

とか汚い言葉が機関銃のように飛び出し、さすがに沖も色をなして下ろしたばかりの腰を浮かせた。その顔へ、無比人の吐いた唾がまともにかかった。

周りの客たちが騒ぎだし、場内係がおっとり刀で駆け寄ったが、それにより先に沖が無比人に組み付いた。

無比人は待っていたように掻い込むなり、自ら仰のけに倒れ込んだ。背筋が弓なりに反りかえるとともに、沖を頭の先へ落としフォールしてのけたのであった。

——フロントスープレックス!?

誰かが叫んだ。

——ワン、ツウ、スリー！

ホールドしたまま、無比人がレフェリー兼ねてスリーカウントを入れた。

それから一ヶ月。ニュー東都プロレスは都合四度の自主興行を消化し、千堂が意地になって手強い相手とのカードを実現させてきたにもかかわらず、無比人は上付かずで間然するところがなかった。

上になっていた順子が不意に半身を起こし、向きを転じると真澄に添い寝する形を取った。頸の下に手を潜らせ、上体を引きつける一方で空いた方の手を股間へ。強烈な指バイブに真澄は抗ったが、

「駄目。わたしがご主人さまを頂くの。往生しなさいな、スミ」

耳許で意地悪く囁かれ、それまでの我慢が呼び水となったか呆っ気なく果てた。

夜更けて千堂は、高輪のマンションへ疲れきって戻ってきた。一人だった。

暁方に玄関のチャイムが鳴った。

〈以下次号〉

プロレス版　たまに行くならこんな店！

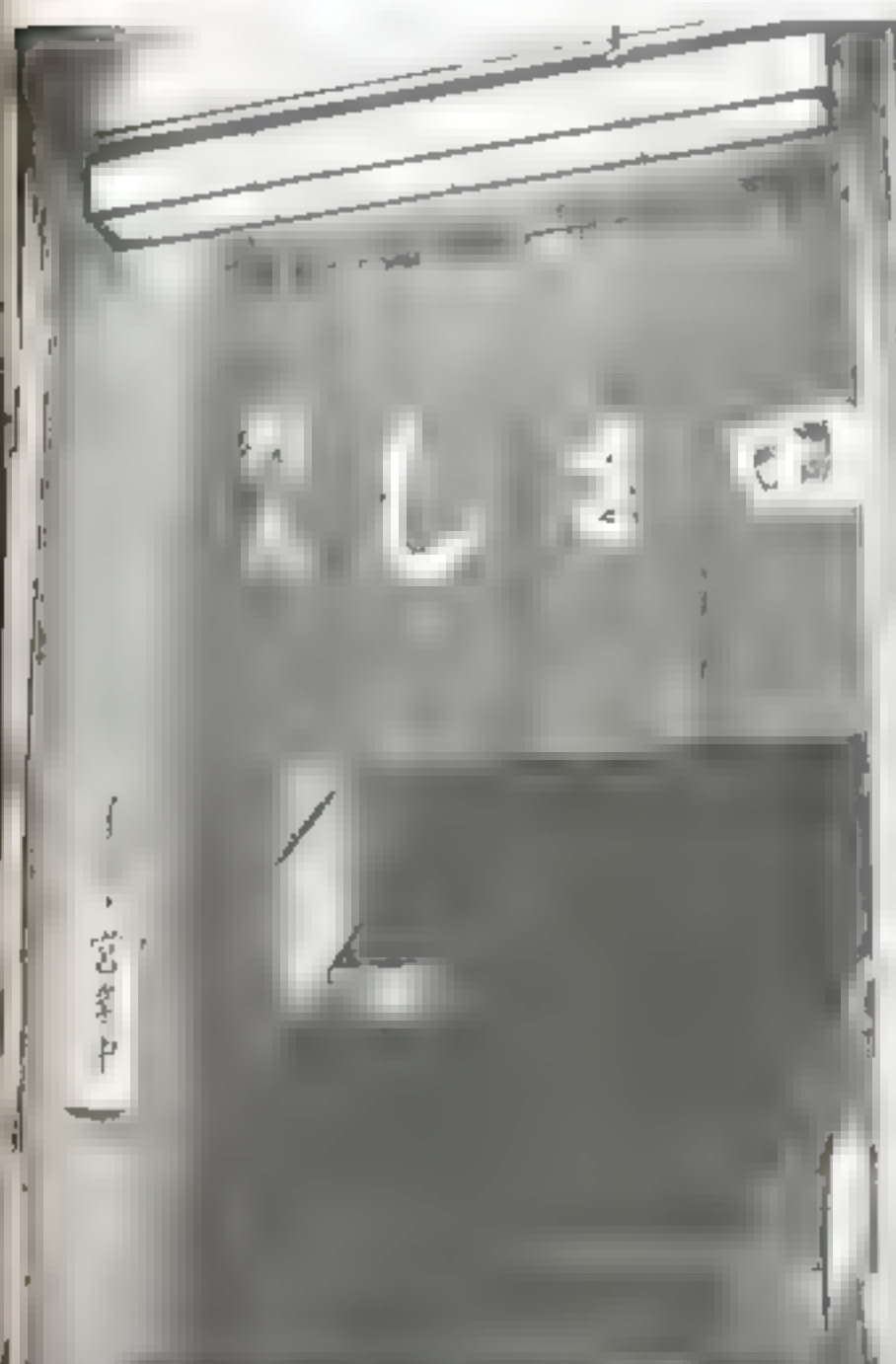
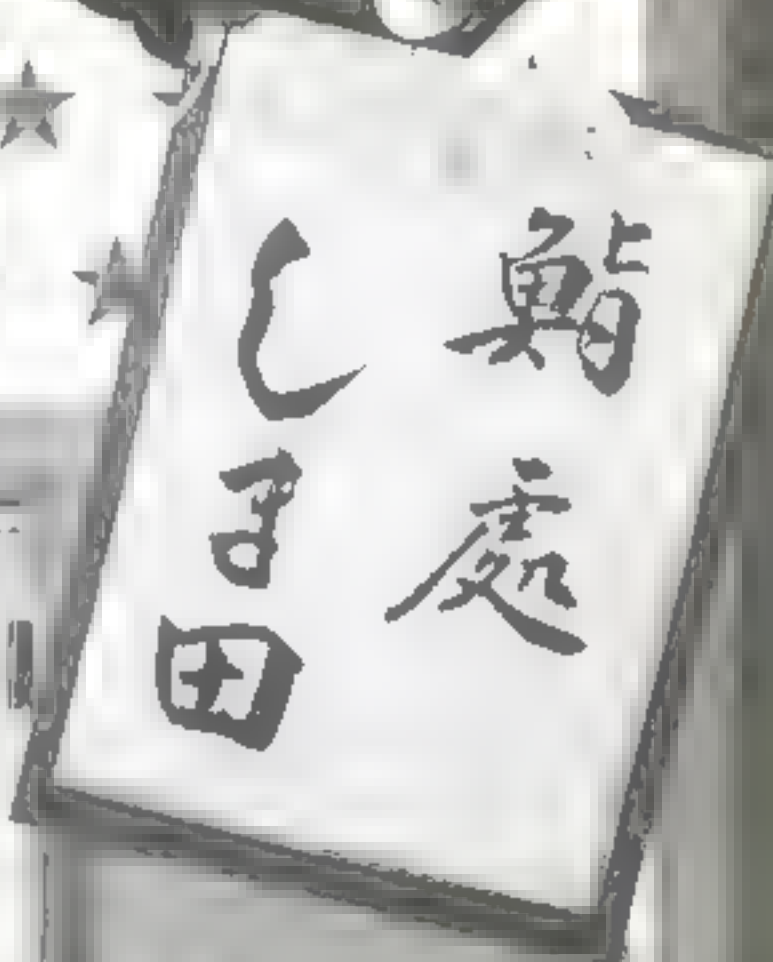
vol.3 鮨處しま田で寿司食いねえ！

トンカツやカレーの世界に、上下関係があるという話は聞いたことがない。しかし、寿司の世界にはプロレス同様厳しい上下関係が存在するという。そんな寿司の世界に足を踏み入れたプロレスラーがいる。誰あろうミスタープロレス・天龍源一郎である。リングの内でも外でも、若手の面倒見の良さを物語るエピソードに事欠かない大将のラジカルな心意気を味わいに鮨處しま田へ行ってみた。

構成＝坂井ノブ　撮影＝戸成ふつぞう

質実剛健という言葉がピッタリの看板。これが目印だ

非常に男前揃いの『鮨處しま田』の板前さんたち。男の凄みを漂わせたている面構えではないか……かといって、会話は結構フランク。女性にも優しいのだ。余談だが、女将さんと看板娘も美人である

のれんをくぐって2階へ。粋なライティングがシャレている

どっしり構えた入口。店は2階にあるので階段を昇る

とある週の『週刊ゴング』をパラパラめくっているとWARの広告に「寿司職人大募集」と大きな文字が躍っていた。WARと寿司。何とも職人募集……。目が点になったが、読み進むと詳細が判明した。以下はその引用である。「東京は世田谷・桜新町駅前に、この秋オープンした『鮨處しま田』。美味しい・安い・綺麗……をコンセプトに、開店以来順調な[illegible]出しをみせています。そこでWAR同様天龍イズムの浸み込んだ『鮨處しま田』でレボリューションを起こしてみようというお寿司職人さん、見習いさんを大募集致します……[illegible]男なら[illegible]ねばなるまい、というわけで早速、天龍源一郎経営の『鮨處しま田』に足を運んだ。

店は非常に[illegible]とした構えである。大相撲出身の大将ならではの[illegible]。階段を昇りさ2階へ。入口には花が飾ってある。各界の名士が名を連ねるその中に、ひとつ燦然と輝くのが「徳光和夫」の文字である。全日本プロレス中継を長年担当したトクさんが、天龍の門出に花を贈っているのだ。男である。さらにレジ・カウンターで[illegible]存在をアピールする[illegible]の花[illegible]「[illegible]大[illegible]」の名が[illegible]天龍革命当時は連日激しく[illegible]四[illegible]、横綱からの花である。花のひとつで様々な思いが伝わってくる。入口だけでこんなにジーンとさせてくれる寿司屋は、生まれて初めてだ。

店内は一見飾り気がなさそう[illegible]が、[illegible]所々に趣向を凝らしたじつに粋な作りである。特に龍のガラス細工などはその真骨頂であろう。さらにレ

レジには戦友・輪島大士からの花が飾ってある。プロレスファンとしては感慨深いものがある

これが男の友情のひとつの形である。プロレスファンにはお馴染みの徳光さんから花が贈られている

入口には客を迎えるように花が飾ってある。粋な心遣いである

「東京で一番デカイ」と店長が言い切る特大サザエが自慢だ。他にも鯨光など、珍しいネタが味わえるのだ

風雲昇り龍をあしらったガラス細工が、言葉を奪われるほど素晴らしい。下には「天龍」と刻まれているのだ。大将をイメージして作られたものである

プロレスと寿司には相通じる部分がある！

近くにあるサザエさん通りにちなんで、特大サザエを入荷したそうだ。シャレた心遣いも忘れないのだ

座敷のスペースもかなり広々としたもの。さらに反対側にも座敷があるのだ。落ち着いて寿司を味わいたい方にはピッタリだ

「安さ」にもこだわった結果が驚きの低価格に。「儲けは度外視」と店長は語る。この値段なら安心だ

非常に広々とした店内にはカウンターが2つもある。スッキリとした内装に大将の心意気を感じずにはいられない

内装の細かいところにも決して手を抜かない。まさに天龍イズムを具現化した寿司屋なのである

アクセス

天龍イズムが隅々まで浸みこんだ鮨處しま田

[住所] 東京都世田谷区桜新町2-10-1 田中ビル
[電話番号] 03-3428-9797
[営業時間] 平日11:30～14:00 17:00～23:00
土・日・祭日11:30～23:00
[最寄り駅] 東急新玉川線の桜新町駅 西口階段を昇ってすぐのファミリーマートの2階
[店長のコメント]「地元のお客さんからプロレスファンのお客さんまで、幅広くお待ちしてます」
※ズバリ言って、非常にお薦め！

スラーや著名人のサインなどは一切飾られていない。そこには「男は黙って味で勝負」というメッセージが隠されている。最近の日本には失われつつある精神であろう。店長の柴田さんは「特に上下関係や礼儀などで、プロレスと寿司の世界は相通じる部分がある」と語る。「鮨處しま田」には天龍イズムが確実に息づいているのだ。

と、そこに女将さんと共に店に入ってくる大きな人影が……。誰あろう「鮨處しま田」オーナーの大将・天龍源一郎その人である。大将が取材中に来店するとは聞いていなかったため、その時、私はうろたえた。それにしても、大将がいるだけで店の空気が変わる。背筋がピッと張るような心地よい緊張感だ。大将も店には頻繁に顔を出し、選手を連れて来ることも多いそうだ。

一瞬、うろたえた私だが名刺を渡し、挨拶をした。すると大将は名刺を見るなり「ダブルクロス？　この意味を知っているのか？」と聞く。さらにうろたえる私。すると大将は言い放った。「オ●●コって会社名につけてるようなもんだぞ」

強烈に男である。そして何よりも豪快にプロレスラーである。私はこれを大将の男気に溢れたジョークだったと解釈させてもらった。グーパンチを喰らったら、こんな気分になるのだろうか？　心臓をえぐるような、それでいて清々しい、カラッと激しいジョークである。

このように「鮨處しま田」は寿司だけではなく、天龍イズムまで味わえる気持ちのいいお寿司屋さんなのである。男なら行かねばなるまい。

ら」と言われたことありますか？

ダム

どうも、ノブです。え、何？　今後のことですか？
白紙です！　アルティメットに出るかって？
それも白紙です！　今日の夕飯どうするかって？
そんなことまで聞くんですか？　それも白紙です！
カタブツ君はどうかって？　それは白●です！

構成＝ちっちゃなノブ

今号のひとことキング

スペシャルインタビューはページ数も2枚ととても感動しました

（小平市　斎藤智男　60歳）
ハガキングダム最年長です！「スペシャルインタビュ」ってPUFFYっスか？　2枚で多いっスか？　感動したっスか？　シャッポを脱いでヅラまで取りたいぐらい恐れ入りました。

☆「お客さ～ん！　靴下を片方忘れてますよ～」
というわけで、なぜか前号のハガキは全体的にテンションが高いぜ！　ヒクソン・ショック&リングスvsパンクラス抗争が読者の琴線に触れてしまったようだぜ。走り出したら止まらない土曜の夜の天使たちの熱いハガキをお届けするぜ！

道場ちゃんこ券を希望します。来年、レスラーちゃんこ鍋屋を予定しています。是非、道場ちゃんこ券をお願いします

（東京都　小林誠　29歳）

☆ワ～ォ！　レスラーちゃんこ鍋屋をやるんですか？　ロマンチックですね。ちなみに店名は「大吉」だそうで、これまたロマ～ンチック！　熱いぜよ！

つまらなかったのは角掛留造インタビュー！。理由は、全女を見に行ったときに試合後の後片付けを手伝ったら、「バカ」とか「頭悪りぃ」などと角掛に言われたから

（福島市　樋口宗幸　18歳）

☆プロレス界随一の毒舌マシーン・キラー角掛のちょっといい話でした。ボクも角掛に「バカ」と言われた人を何人も知っています。片づけを手伝ってくれた人に対しての非常識なお言葉も角掛の言う「愛」なのでしょう、きっと。

ザ・グレート・サスケのお説教が面白かった。あんなにキレてる人だとは知りませんでした。めっちゃ面白かった！

（滋賀県　佐竹仁美　17歳）

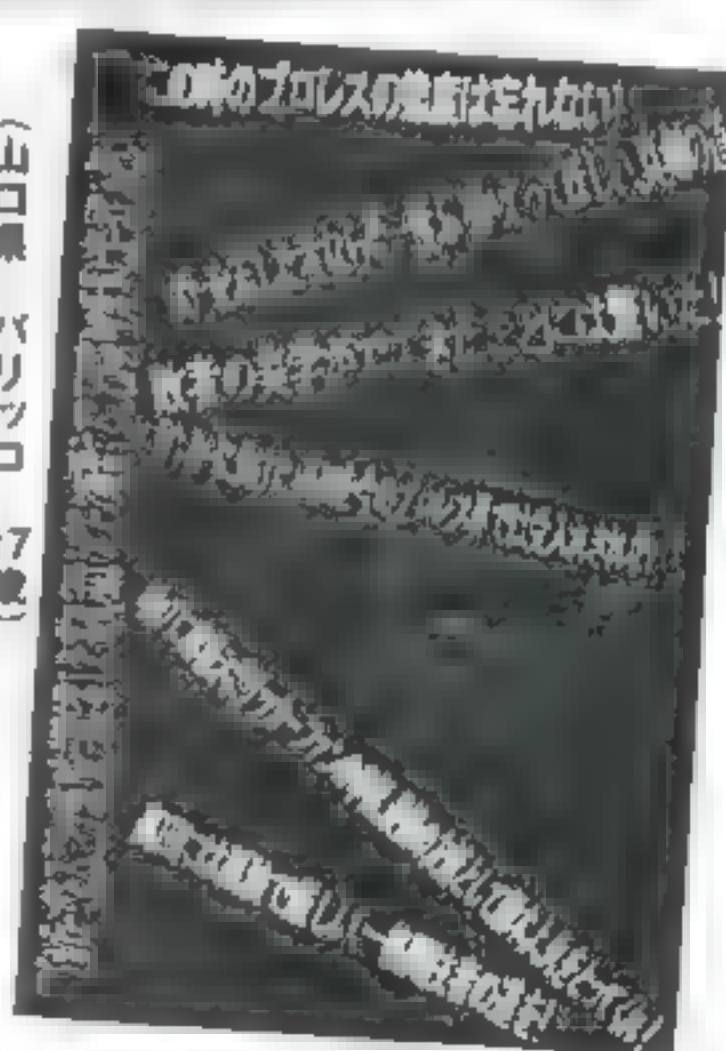
☆普段は自称バカ社長でもキレたら恐い、それがキラー・サスケなのです。「レスラーたるもの、普段の姿勢が非常に大事なのだ」ということを教えられます。

バカサスケのインタビューが頭に来た！　私の愛する金本（浩二）さんを「バカ」とは何だ！　頭割れてるバカ社長にそんなこと言われたくないわ。

（大阪府　うしえもん）

今月は暴走毒舌お絵かキングが誕生！　風刺の効いたクイズ方式を採用して、ハガキングダムに新風を呼び込んでくれました。どうでもいいんですがホーム&アウェイ方式も採用してみては？

今号のお絵かキング

まちがい探しクイズ
～グレイシー柔術編～
BAD BOY
100戦無敗
初代アルティメット王者
狂犬
若獅子
100戦無敗の弟
×答えは下にあります
今月の早口言葉
マニュアル柔術×3

（山口県　バリッコ　17歳）
ディープでシリアスなイラストも届いてます。これからはハガキングダムもホット&タフです！　どうでもいいんですが「野人」の絵、描ける？

（中略）ブチと同じぐらいムカつく。あのデカ頭！　アホ！

（釧路市　上田恵　27歳）

☆「ブチと同じ」って、いくらなんでもそりゃ失礼！　蹴り殺すぞぉ、コラァー

ラジカル6号は凄い質だった。それに編集長のこのコラムに、プロレスファンとしては本当に感動せずにはいられなかった　他のマスコミの「高田が負けて困るのは『紙プロ』だけだろう」というくだりでの、「紙プロ」イズムバクハツには、スカッとしました。ありがとう「紙プロ」そして山口日昇さん

（板橋区　金本雄二郎　20歳）

高田×ヒクソン戦特集は、本質の部分と虚飾の部分のバランスが実にプロレスしている雑誌だな、と。

（茨城県　ブンブンブン　25歳）

☆2通まとめて紹介しました。かなりの反響を呼んだ前号の高田×ヒクソン戦特集。ショックを受けた人、心の傷跡は癒えましたか？　でも、本誌ホンクラ編集長は「もうああいうコラム書きたくない。オレはアニメを作るんだ！」などと寝言を言っています。

蝶野正洋インタビューが面白かった。理由は

絶縁宣言でも遺恨は消せない記念！
激突！ リングスファンvsパンクラスファン 仁義なき闘い【場外乱闘編】

10・29パンクラス後楽園大会での「絶縁宣言」以後も、振り上げた拳の下ろし場所に困ったファンが、怒りにまかせてハガキを書いてきたので、ちょっぴり紹介しよう。「無意味な舌戦はファンの興味を失わせる」という昨今のプロレスマスコミの腑抜けた論調に異を唱えるべく、ハガキングダムはホット&タフなファンの声を掲載しちゃいます！

リングス派

■10・14前田会見は究極の正論！　何事も「他人事」で済ますパンクラスの選手たちの精神には愛想つきました

（江戸川区　佐藤耳男　19歳）

■パンクラスは週プロでも大きく取り上げられているが、試合は絶対につまらないと思う。そしてShowもつまらない。つまらない人間の集まりだと思う。船木や鈴木の使うギミックは10代の人間ならかっこいいと思うかもしれないが、20代以上の人間には頭の悪い人間の主張にしか思えないのではないか

（名古屋市　武上康夫　22歳）

パンクラス派

■こら！、前田ー！　テメーの宣伝にパンクラスがつきあってられるか！　鈴木がヘルニアで欠場中だと知ってて指名するんじゃねえ！　ヒクソンにやられてさっさと引退しろ！　ボケ!!

（武蔵野市　松井佳洋　20歳）

■長州と和解して前田がキライになった。なんで鈴木なんだよ！　計算が見える。今号は前田のグチ一色で気分悪い本になってるぜ!!　生き残るためにプロレス側にまわるな！

（山口県　オムツ　17歳）

一週間に2人から「ブッ殺してやる」と

ダジャ専　中川スペシャル！　『ダジャレズム専門学校』

すっかりハガキの来なくなったダジャ専に救世主が降臨！　プロレス＆格闘技雑誌の読者ページを股にかける男！　埼玉県の中川雅博(20歳)である。というわけで、今回は中川スペシャルと題してお届けします！　ちなみにダジャレは苦手だそうだが、非常にイケてます。また、次号もダジャレを送ってくるように！　ダジャ専では、これからも「21世紀のダジャレ」を模索していこうと思うので、いつ何時、誰のダジャレでも受けて立ちます！

デカイ、話が。「常識人？　それとも非常識人？」「ルールあるの？　ないの？」「タッグパートナーは武藤なの？　象なの？」nWoより蝶野自身がすごい

（千葉県　武田いづみ　17歳）

☆大反響の蝶野インタビュー！　そして、先日の東スポ紙上での「SGタッグは最強タッグに勝てない」宣言といい、いま発言の面白さはプロレス界でいちばん！　最近のケンドー・カ・シンの「オレは別にプロレス界に必要な人間じゃない」発言も破壊力抜群！　グーです！　むやみに体制に牙を剥くだけじゃないコクのある発言が時代の最先端です。どうでもいいんですが、ボクは筆ペンで書いてあるハガキは好きです。

？今号のなぞなぞキング？

私、前号の「高田vsヒクソン試合終了直後アナタがブチまけまSHOW！」に載った者なんですけれど、実際自分で書いたことと雑誌に載ったことの内容が全然変わっていて、まるで高田選手と六本木で遭遇したようなカンジなってしまっています……（ホントに遭遇したのはキモで、ちゃんとそういうふうに書いたんですけど）これだと、いかにも高田選手に「やる気あったのかい」と言ってるみたいで応援していた自分はとてもびっくりしました。（「やる気あったのかい」と言いたい相手はもちろんキモ）これからは、こういう間違いのないようにお願いします。

（世田谷区　赤平由希子　23歳）

紙のプロレス
WANTED!?
ヒクソンに勝てる人。

☆というわけで、問題のアンケートがこれです。どこにキモって書いてあるのだろう？　あぶり出しじゃないと読めないのかな？　ボクの推理によると、これは新手のなぞなぞである！　というわけで、答えが分かった方はハガキに答えを書いて送って下さい　正解した方には、粗品を進呈しちゃいます

モハメド・ノブの
「俺はかくも偉大で、俺自身でさえ感動する」募集

ハガキングダムでは蝶のように舞い蜂のように刺すハガキを大募集します。

- ●俺自身でさえ感動するご意見、ご[illegible]
- ●俺自身でさえ感動するイラスト
- ●俺自身でさえ感動するタレコミ情報
- ●俺自身でさえ感動するダジャレ
- ●俺自身でさえ感動する二代目
- ●俺自身でさえ感動するカウントアップ・グルーヴのテーマ

などを送って下さい。尚、合言葉の「このペリカン野郎！」を明記すること。宛先は

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス「ハガキングダム！ ボンバイエ！」係まで。

激突　RADICAL版美男＆美女ランキングが決定！　カウントアップ・グルーヴ

順位	名前	票数
1位	船木誠勝	17票
2位	高田延彦	10票
3位	武藤敬司	9票
4位	蝶野正洋	6票
4位	金本浩二	6票
6位	前田日明	5票
6位	TAKAみちのく	5票
6位	小野武志	5票
9位	鈴木みのる	4票
9位	ハヤブサ	4票
9位	近藤有己	4票

順位	名前	票数
1位	井上貴子	32票
2位	キューティー鈴木	15票
3位	府川由美	8票
4位	中山香里	6票
5位	本谷香名子	5票
6位	豊田真奈美	4票
6位	尾崎魔弓	4票
6位	白鳥智香子	4票
6位	福岡晶	4票
10位	ブル中野	3票

というわけで、右の表がRADICAL読者が公認した美男＆美女のランキングである。まあ、順当と言うべきか。特にコメントもないのだが、長州力が「ウチで一番マスクがいい」と断言した西村修に1票しか入らなかったことも併せて報告させていただく。ちなみにヒロ斎藤も1票を獲得しているが、1票にも一流から五流まであるというか……まあ、1票には変わりないんだけどね。結局、長州の美男観が、RADICAL読者的にはほとんど受け入れられなかったということである。ま、しゃーないな、と。

さて、次回のテーマは「ベスト・オブ・ハカマーは誰だ！」である。袴と言えば、平成維震軍のトレードマーク。新たに維震軍入りするレスラーには、袴着用が義務づけられている。つまり「ハカマー＝反体制側の人間」という定義が成り立つ。そんな中、衝撃の維震軍入りを果たし、ひっそりと赤い袴に足を通す超大物がいた－　誰あろう、藤波辰爾である。またこれが非常に絵になるから素晴らしい。現代という時代は、「唯一、猪木を裏切らなかった男」藤波辰爾に反逆の証である赤い袴が似合ってしまうご時世なのだ。時代の移ろいは恐ろしい。しかし、プロレス界は広い。まだ他にも袴の似合うレスラーがいるかもしれない。今の時代を象徴する赤い袴が最も似合うレスラー！、すなわちベスト・オブ・ハカマーを決定したいと思う。「コイツなら似合うでしょう」というレスラーがいれば、維震軍の選手だろうと、他団体の選手でも誰でもいい。今回も、前回同様読プレハガキの質問に組み込ませておいたので、赤い袴を履かせたいレスラーを一人だけ明記して頂きたい。解体説も囁かれる維震軍を救えるのはキミしかいない！

蝶野正洋

白かった。理由は

大反響の超ブーイング連載！

バカ日誌

図版で見る中村カタブツ君（34歳）の巻

「字が小さすぎて読めない」という意見に応えて、今回は図版で見る中村カタブツ君（34歳）をお届けっ！　さて、当の本人は前号での己の不甲斐なさから、今号企画会議を始めた途端に、「企画会議どころじゃないですよ！ボクの進退はどうすんですか？」とナメたことをほざきだし、またしても本誌編集長・山口バイオハザードにこってりお説教をくらいましたとさ。めでたしめでたし。男34歳……進退ぐらい自分で決めろ。

パンクラス冨宅選手も愛読！

『紙プロ』で働きたいんだったら働きゃいいんだよ！ 働きゃあ！

山一証券が潰れても(株)ダブルクロスは潰れません！

編集者募集!!

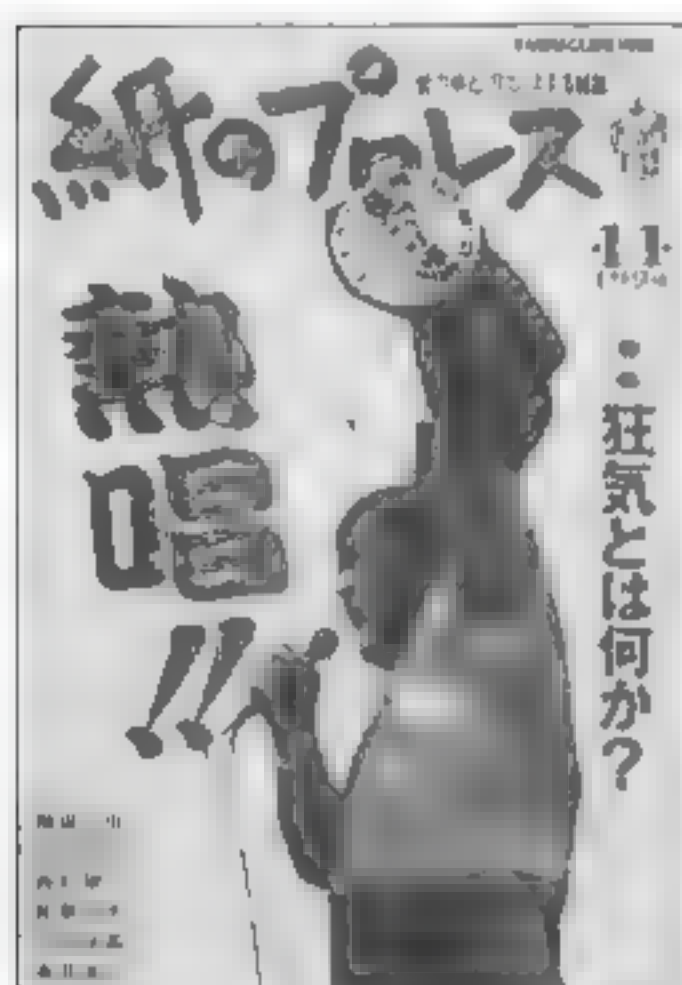
『紙プロ』をつくってる会社、(株) ダブルクロスでは、こんな不景気な時代に、
編集のできる編集者、または赤ん坊に戻ったつもりで働く編集未経験者を募集します!!
あなたもボクたちとクソデブ～な仕事をしてみませんか？
なあ？　どうすんの？　それでも黙ってられるの？　なあ？

資格：①面白い仕事をしたい編集経験者！ ②編集未経験でも死んだ気になってやってやるぜと思った人！

職種：「紙のプロレス」他、小社発行物の編集でしょ！
勤務地：東京都代々木でしょ！
初任給：出ますでしょ！　でも要相談でしょ（でも、仕事の面白さと辛さは保証付き）
勤務時間：仕事があれば随時でしょ！
年齢：34歳以下（仕事ができれば72歳でもいいでしょ！）
特典：入社して間髪入れずに、あなたのキャラクターに合ったホーリーネームを差し上げるでしょ！
（例：アメリカ君、メキシコ君、タコヤキ君、カタブツ君、ジュゴン、結核）。
採用方法：書類選考の上、小社オールスター・キャストで面接を行いま～す

履歴書（写真貼付を忘れずに！）と論文（「紙プロと私」400字×2枚）と自己PRグッズ等を同封の上、
平成10年1月16日（必着）までに送付してください。こちらから面接日を連絡します。
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　(株) ダブルクロス「じゃ、よろしくお願いします～係」
※詳しいお問い合せは　TEL　03-3403-5188　担当：坂井ノブ

本誌 Back Numberのお知らせ

第11号 常人を越えた
偉大なる精神に触れよ！
特集『狂気とは何か？』

狂気を隠し持つ凄玉6人ロングインタビュー
堀辺正史　タイガー・ジェット・シン　ガッツ石松　西川知美　佐野量子／糸井重里

◎特集「週刊プロレス」とは何か？完結編
初代「週プロ」編集長・**杉山頴男**独占手記
全女企画広報部長・**ロッシー小川**インタビュー
「週ゴン」編集長・**小佐野景浩**インタビュー

◎新連載！
「プロレス用語大辞林」**吉田豪**

第8号 驚愕！
新日との抗争勃発か!?
特集『さらば新日本プロレス』

◎新日本プロレスに決別宣言した禁断の㊙座談会
出席者・**ターザン山本／山口昇／柳沢忠之／斎藤雄一**

◎華麗なる初登場
ザ・グレート・サスケ
ロングインタビュー

◎闇の格闘家を語る
関根勤
ロングインタビュー

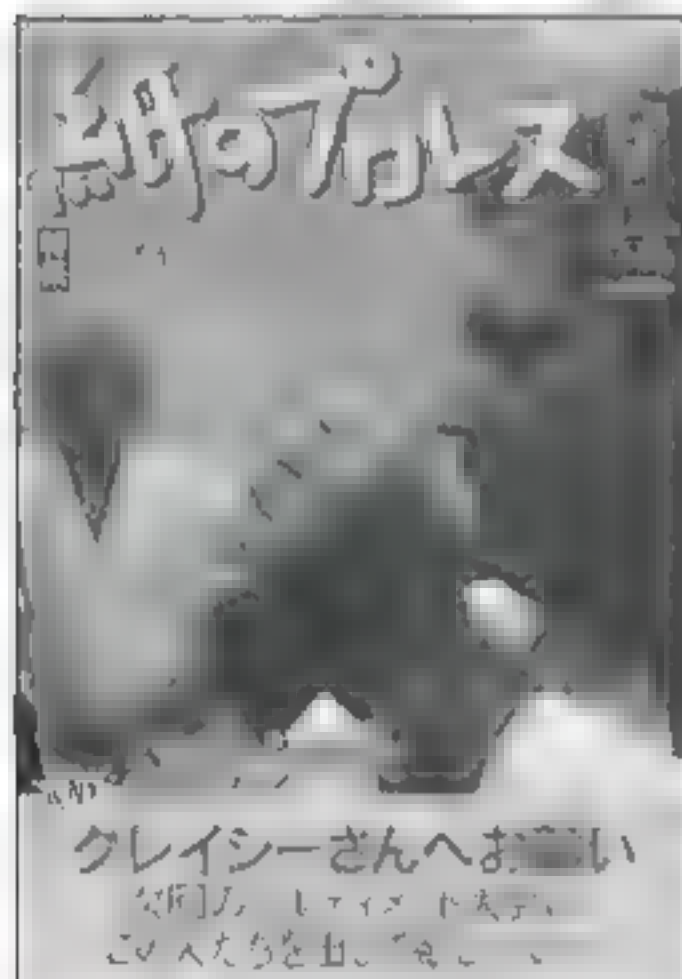
第5号 初期「紙プロ」の香り漂う
世謝出版時代の一冊！
特集『たたかいグランプリ』

◎怒り満載の6大コラム
山口昇／鈴木邦男　杉作J太郎／竹本幹男ほか

◎怒涛のロングインタビュー
馳浩

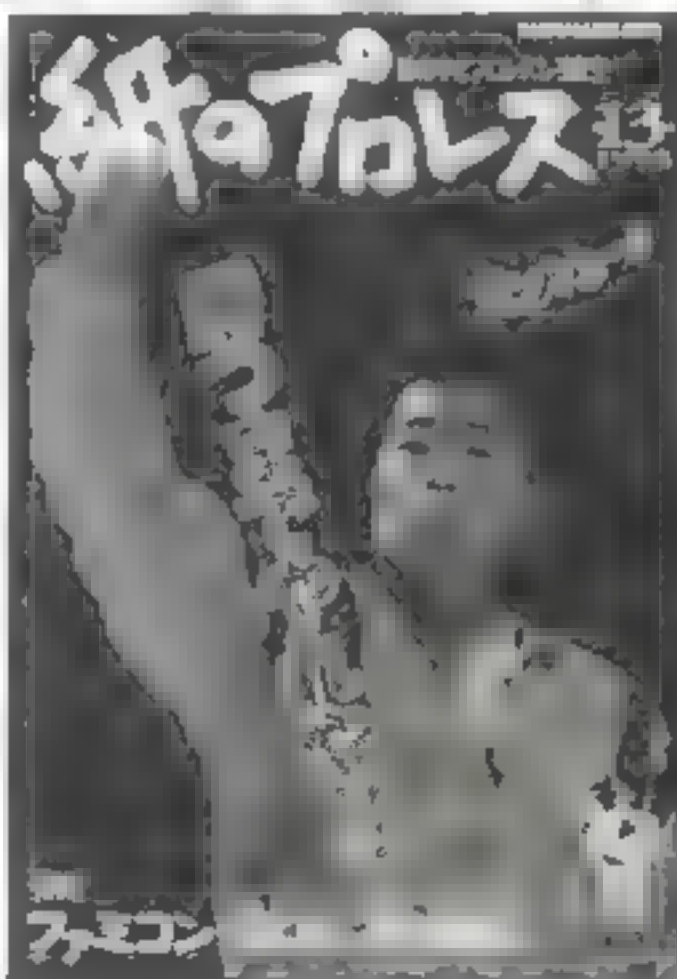
◎興奮の対談
デビル雅美VS氏神一番

◎昇天の特別寄稿！
再考察「なぜ馬場は馬場さんと呼ばれるのか」／**栃内良**

第14号 うそでしょ!?
目を疑う神秘的な人たち特集
特集『神秘とは何か？』

◎超豪華3大インタビュー
佐山サトル　鈴木みのる　大槻ケンヂ

◎**勝利確実!!**
アルティメットに出ていただきたいお二方
元プロボディーガード**清水伯鳳**インタビュー
大東流合気柔術六方会宗師・**岡本正剛**インタビュー

◎ガチンコ2大インタビュー
遠藤幸吉　高田文夫

第13号 安生、グレイシーに敗北！
これがすべての始まりだった!!
巻頭緊急特集『道場破りとは何か?』

◎頑固一徹！
2大ロングインタビュー
山本小鉄／上田馬之助

特集
「ファミコンプロレスの逆襲」

◎衝撃の5大インタビュー
前田日明／スペル・デルフィン／馳浩／斎藤文彦／須田剛一

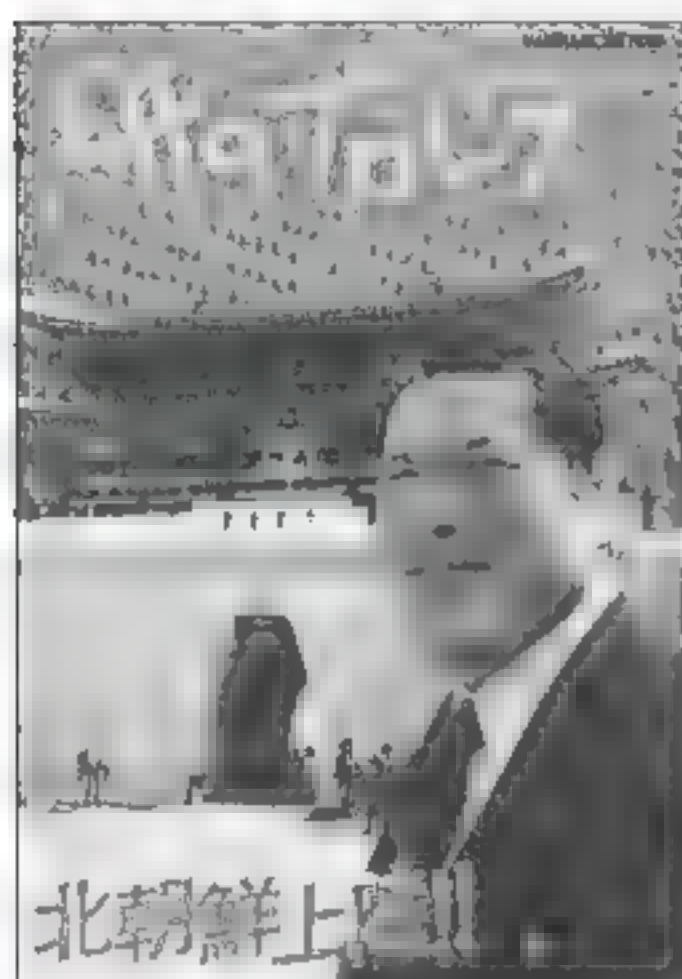
◎ビバ！アメプロ座談会
「平成のプロレスファンとは何か」

◎驚異の2大
セメントインタビュー
養老孟司／糸井重里

第12号 なにぃぃ！
前田日明女子便所事件勃発！
特集『色気とは何か？』

◎緊急座談会
「前田日明に愛をこめて」
谷川貞治／山口昇／柳沢忠之

◎色気が充満する男と女の9大インタビュー
猪木の語り部が前田の色気を初めて語った
作家・村松友視
虚飾紛々のゴージャスな色気の持ち主
蝶野正洋
ザ・グレート・サスケ／ターザン山本／アントニオ猪木ほか

第17号 前人未到の偉業！
北朝鮮で猪木ワールドが炸裂!!
特集『実況パワフル北朝鮮！』

◎偉大なるビッグ対談
アントニオ猪木VS永島勝司

◎友愛の3大インタビュー
ブル中野／橋本真也／村松友視

◎慈愛に満ちた巻末特集
「藤原組の逆襲」
緊急スクープ座談会
「ツボ原人とは何か」

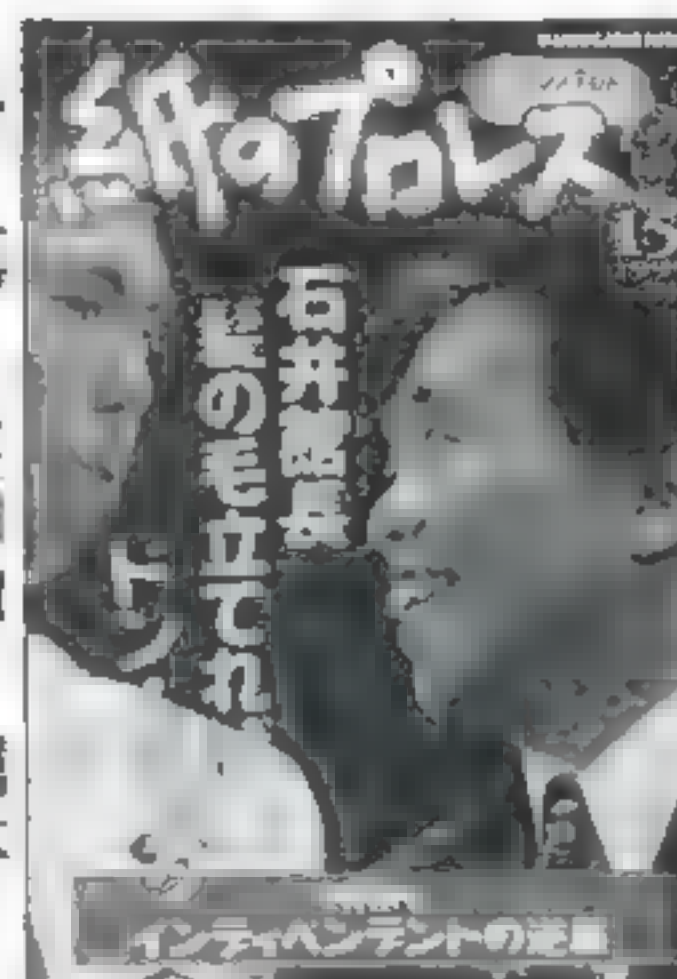
◎聡明なる新連載
「誤釣生活」**糸井重里**

第16号 祇園精舎の鐘の音
新日本全力取材強行!!
特集『新日本凸凹大学校』

◎怒涛の5大インタビュー
後藤達俊／マサ斎藤／キラー・カーン／橋本真也／田中秀和

◎興奮の巻末2大対談
糸井重里VS谷川貞治
ユセフ・トルコVS由利徹

◎感涙の
「青春の大発掘
アントングッズとは何か？」

第15号 インディー総力特集!!
まあ、触ったことねえですから
特集『インディペンデントの逆襲』

◎第一部
大量出血3大インタビュー
高野拳磁／ポイズン澤田／中牧昭二

◎第二部　あんた誰？
「山口昇試練の十人組手」
茂木正淑／神風／島田宏／ウルトラマンロビンほか

●巻末緊急特集
「K—1とは何か?」

●超ガチンコ
3大インタビュー
石井和義／谷川貞治／ターザン山本

第20号 プロレス的視点で格闘技を読む
特集『劇的格闘技』

◎格闘技のドラマ性に迫った4大インタビュー
角田信朗　真樹日佐夫　大槻ケンヂ　村松友視
◎昭和プロレスの生き残り3巨頭スペシャルインタビュー
ユセフ・トルコ　上田馬之助／遠藤幸吉
◎2大セメントインタビュー
松永光弘／神取忍
◎特別連載「極道一代・山口昇物語」
黒田信一
◎W井上毒舌人生相談
フリーダムフォース人生相談

第19号 本誌最大の危機！ ついに廃刊か!!
特集『さようなら紙のプロレス』

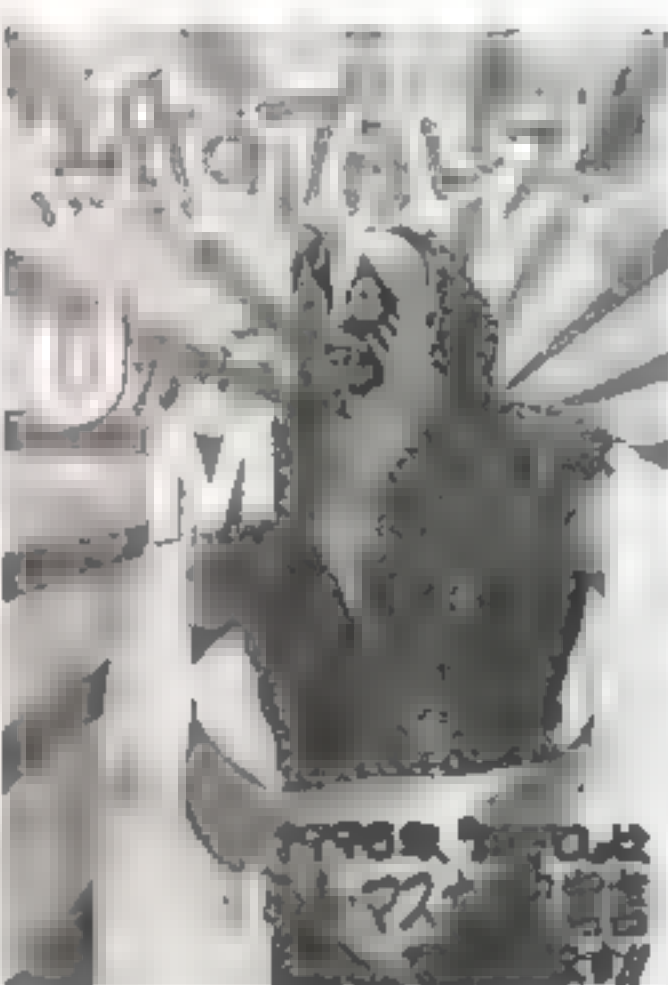
◎『紙プロ』を偲ぶ4大インタビュー
ターザン山本　ユセフ・トルコ　上田馬之助／糸井重里
◎涙のバズーカ対談
高野拳磁VS ザ・グレート・サスケ
◎鎮魂の「負けず嫌い対談」
出席者　石井和義／ターザン山本　平仲信明　谷川貞治
◎巻末ロングインタビュー
山崎一夫／ミスター・ポーゴ

第18号 マット界騒然!! 高田延彦引退宣言！ 緊急座談会・高田引退発言の読み方
『高田延彦さんへ愛をこめて』

出席者・花くまゆうさく、山口昇、柳沢忠之
◎特集『すてきな奥さん』武道家＆レスラーの妻5大インタビュー
大山倍達未亡人　大山智弥子
佐々木健介夫人　北斗晶
ライガー夫人　●●千景
石川雄規夫人　石川道枝
サスケ夫人　村川メリー

何か？ シリーズ
猪木とは何か？

2大緊急ロングインタビュー
アントニオ猪木／村松友視
◎告発仕掛人・仙波記者に迫る！
◎立川談志　メッセージ
◎新間寿記者会見誌上再現

第22号 見よ！ 戦火を駆け抜けたこの人生
特集『この人が喝っ！』

◎風雪に耐えた頑固な2大ロングインタビュー
太平洋戦争の撃墜王 坂井三郎（元特攻隊員）
元海女・田仲のよ
◎迎春！ 巻頭インタビュー
「北の国から96・冬眠」
ジョージ高野
◎新春！ ウルトラ対談
（格闘術使いVS解剖学者）
前田日明VS養老孟司
◎4人セメントインタビュー
高阪剛／セッド・ジニアス　小佐野景浩／熊久保英幸

第21号 いにしえの殺人技術にプロレスを見た！
特集『幻的格闘技』

◎古武術でプロレスする！ 武術の達人6大インタビュー
前田日明（格闘術使い） 岩井作夫（古武術・武備会） 甲野善紀（武術研究会松聲館） 世古典代（寛水流空手二代目会長） 井谷利之（野太刀自顕流師範） 櫻井文夫（合気道S・A代表師範）
◎唯我独尊！ 2大ガチンコインタビュー
石井和義／ガッツ石松
◎元気爆発！ 2大ロングインタビュー
ユセフ・トルコ／高田文夫

パンクラス公式読本

矛 —HOKO—

◎スペシャルゲスト・インタビュー
カール・ゴッチ／佐山聡
◎横浜道場所属全選手インタビュー
近藤有己　山田学　稲垣克臣　渋谷修身　伊藤崇文／長谷川悟史
◎今こそ源流を辿れ！ Uの思想、Uの幻想、UWFを解剖せよ
◎熱すぎる風！ 特別寄稿だ！
杉本喜公（元・「週刊ゴング」） 佐藤正行（「週刊プロレス」）
◎パンクラス・オフィシャルルール完全網羅＆ルール変遷史
◎この熱さを感じろ！ 超ロングインタビュー
鈴木みのる「熱き風」

盾 —TATE—

◎スペシャルゲスト・インタビュー
ジャイアント馬場
◎ターザン山本辞表提出1周年記念 パンクラス非公式座談会
◎東京道場所属全選手インタビュー
冨宅飛駈／高橋義生　柳澤龍志　國奥麒樹真、山宮恵一郎
◎特別寄稿！ 感動させてよ！ 出張版
宍倉清則（「週刊プロレス」）
◎厳選17人がパンクラスに一言！
◎この深さを感じろ！ 超ロングインタビュー
船木誠勝「HARD」

何か？ シリーズ
極真とは何か？

◎K—1参戦 一撃必殺インタビュー
フランシスコ・フィリョ
◎フィリョに極真魂を叩き込んだ師範インタビュー
磯部清次ブラジル支部長
◎極真魂溢れまくる16大インタビュー
黒澤浩樹／松井章圭／村上竜司／ウィリー・ウィリアムス／中村誠／大沢昇／大山茂他

バックナンバー常備の店

——書店——

山形　八文字屋エビスヤ店　神保町／書泉ブックマート、書泉グランデ　秋葉原／書泉ブックタワー　池袋／リブロ池袋店、芳林堂書店池袋店　六本木　青山ブックセンター　新宿　紀伊国屋新宿南店　大井町／博文堂大井町店　中野／タコシェ　吉祥寺／ブックスルーエ　町田　福家書店　浜松　イケヤ文楽館有楽店　名古屋／ヴィレッジ・バンガード、ヴィレッジ・バンガード2　豊田／ヴィレッジ・バンガード5　春日井／アイビー・ブックス　富山　精文館書店　大阪／駸々堂コミックランドアメリカ村　鹿児島／ひょうたん屋

——プロレスショップほか——

水道橋／プロレス・マニア館、チャンピオン　新宿　アイドール、ファイター　渋谷／レッスル渋谷店　池袋／レッスル池袋店、日本武道具　大山／大山アメリカン　東大和／オフィスTAKA　札幌／リングパレス　甲府／キャッチ　名古屋／アイドール　和歌山／ヘラクレス和歌山駅前店　大阪／アイドール、バディスラム、チャンピオン　金沢／プロレス屋

ザ・通信販売

○定価は『紙のプロレス』第5、8号は700円、第11号〜22号は780円となります。『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円となります。『矛—HOKO—』『盾—TATE—』は1260円となります。
○送料はすべて1冊＝310円、2冊＝340円、3冊〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります
＊なお1号〜4号6号7号9号10号は完売しました。残念でした。
＊また9号、10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干は売っているはずです。

〈申し込み方法〉
●現金書留　〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 （株）ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで
●郵便振替　00130-3-769154　（株）ダブルクロス

営業時間 AM11:00〜PM7:00 AM10:00〜PM6:00
年中無休

今年のプロレス総決算は、レッスルビデオで!!

恒例のレッスルフェアーがスタート! みなさんのご来店をお待ちしています

レッスル列伝'97"冬の章"

開催期間 12/13(土)〜1/15(木)

フェア記念大サービス特典

●ビデオ¥5,000以上お買い上げの方に、ビデオ割引チケット¥500券をプレゼント(1本に付き1枚)
●店頭もしくは通販で¥1,000以上商品をお買い上げの方に、抽選で下記ビークプレゼントを進呈!
※通販の場合 期間中、応募券を差し上げます その応募券を次回注文の際に同封された方に もれなくプレゼントあり

【プレゼント内容】

●超マニアック福袋	2名様
●お好みCD&グッズセット	10名様
●写真集セット	10名様
●非売品テレカ	20名様
●B級福袋	20名様
●レッスルオリジナルビデオ	20名様
●プロレスTシャツ	20名様
●サイン色紙・生写真・ポスター	たくさん

昭和38年ワールドリーグ戦力道山血風録

王者編&総集編 各¥3,360

久々に登場!力道山ビデオ 王者編は力道山vsカルホーン(2戦)vsコワルスキー(2戦)vsオコーナー 力道山&馬場vsオコーナー&コワルスキー 力道山&豊登vsコワルスキー&アトキンス 総集編は力道山vsコワルスキー 吉村vsオコーナー 豊登vsマレラ、vsタウンセント、馬場vsマレラ、カルホーンvsタウンセント、カルホーンvsタウンセント 力道山&東郷&馬場vsコワルスキー&エリス&キラーX 力道山&東郷&吉村vsコワルスキー&カルホーン&キラーXです

フラッシュバック オブ ガイアジャパン VOL.4

約140分¥8,000

総集編ビデオの4弾は'97年5/25〜9/20をまとめてます 見所は9/20の川崎大会 GAEA JAPAN史上一番大きな大会での4大シングル戦は注目 WCW世界女子クルーザー級戦田村vsシュガー、AAAWヘビー級戦・長与vsアジャはタイトルマッチというより、アジャの夢の闘い。セミの京子vs里村はプロレスの達人vsプロレス一生懸命。メインは日本でのデビュー戦となるZEROvsスーパーヒールデビル。それも、AAAW戦!他、ガイア改の試合や山田の入団、レイナ・フブキ登場 5vs5イリミネーションマッチ等見所満載!

PRIDE.1ヒクソン・グレイシーvs高田延彦

90分¥9,970

97年10/11東京ドーム プロレスvsグレイシーの最大の決戦 高田延彦vsヒクソン・グレイシー 練習風景 インタビューあり 超盛り上がりの闘いの全てがこの1本 他 アウンナントご脚を痛めながらも闘い続けた執念の黒星、本当の強さを確認させてくれた北尾 精神面技術面でも大きく成長した静舟会の村上 あのヘンゾ・グレイシーと互角以上に闘い観客を熱くさせた小路とメイン以外でも充実した内容 インタビューは16選手全員収録

ザ・グレート・ボーゴ復活! 血を吸うドリル

60分¥9,870

'97年7/23後楽園 作年末引退したミスター・ポーゴがより凶暴化しザ・グレート・ポーゴとして帰ってきた それも前代未聞の凶器電動ドリルを携えて!対するは小鹿ロッドマン。もうメチャクチャ メインは田尻&山川の大日本コンビが石川&田尻の新東京プロレスコンビと大日本タッグベルトを賭けて対決。他、ナガサキ&中牧&志賀vs冬木&邪道&外道 大日本女子マッチ小山vs藤村、岡野vsスンビート、谷口vs小林 原田vs本間を収録

'98プロレスカレンダー&NEWグッズ(送料込)

○新日本プロレス	¥1 800
リングス	¥3 400
パンクラス	¥1 000
FMW	¥2 000
JWP	¥3 400
井上貴子	¥2,400
●ヒクソンTシャツ	¥5 400
●ヒクソンキャップ	¥5 300
●プライド1ロゴTシャツ(白と黒)	¥3 400
●高田vsヒクソンTシャツ(白と黒)	¥3 400
●高田延彦NEW Tシャツ	¥2 900
●サイコ・シッドTシャツ	¥3 400
●リングス'97トーナメントTシャツA,B	¥2 900
●ZENロゴTシャツABCD	各¥3 400
●デビルマンNEW Tシャツ	¥3,500
●J FILE CAMP Tシャツ	¥2,900

ビデオ新作情報

12月中旬 デルフィン大復活	¥3 990
12月17日 WRESTLE FEST 50YEARS OF FUNK テリー・ファンク プレゼンツ	¥6 000
12月17日 LLPWライヴバトル'97 9/11北沢タウンホール	¥5 040
12月17日 K-1 GRAND PRIX'97 決勝戦 11/9東京ドーム	¥12 600
12月17日 アーネストホースト ザ・チャンプ・オブ・K-1GP'97	¥8 400
12月22日 サスケからダイオキシン 10/10両国	¥9 990
1月28日 FAINAL POWER HALL in FUKUOKA PART1&2	¥10,200
1月16日 97格闘技の祭典SPECIAL 10.12両国	¥9 990

キングダムvsグレイシー柔術(仮)

12月下旬発売予定 ¥9,870

97年12.14代々木第2競技場 ついにキングダムのリングでグレイシー柔術との一騎討ちが実現 UWFインターの時代から打倒グレイシーを打立て 今年ファイト1では高田がヒクソンに敗れてしまっている そして 今回のグレイシー柔術の選手は 日本のファンにも有名なヴァリッジ・イスマイウ!柔術でワールド・コンバット王者ヘンゾ・グレイシーを破り、'96年日本で行われたユニバーサル・バーリトゥードではテニス・キャファリノスを2分10秒チョークスリーパーで破り、同年U-JAPANではバトラーツ臼田を3分10秒同じくチョークスリーパーで破っている そして今年のUFC大会でのパンクラスの高橋との試合は超有名 対戦者は安生 パトスミを破り勢いにのる金原 立って良し 寝て良しのキングダムの切り札。金原としてはパンクラスの高橋以上の勝利を狙う。ダブルメインのもう一つは笑顔の実力者桜庭がタンク・アボット軍団の刺客ポール・ヘレラと対戦。危険な香がする試合です。

パトスミ来襲!キングダム北都2連戦(仮)

12月下旬発売予定 ¥9,870

97年11月15日函館市民体育館&19日札幌中島体育館 今回は何と2大会を1本にまとめた超御徳版 安生 佐野を猛追する金原、高山、桜庭そして山本。キングダムトップ狙い急速な実力アップが試合にも感じられる それに加え 狂犬パトリック・スミス メビウスの折原昌夫の参戦により 激闘が展開された 函館大会の注目カードは垣原vsパトスミ 安生vs桜庭 高山vs山本。垣原、パトスミ負けられない両者は好試合を展開 垣原は久々に自身納得した試合をインタビューで語る 札幌大会の注目カードはやはり金原vsパトスミ 12.14代々木でのヴァレッジ・イスマイウ戦が決定した金原はアルティメットへの闘いをこのパトスミ戦から始動 他にもキングダム挑戦を続ける折原は佐野と対決など今回もグー。

収録予定試合
函館大会…垣原vsパトスミ、安生vs桜庭 高山vs山本、佐野vs折原、金原vs松井、ビリーvs豊永
札幌大会…金原vsパトスミ、桜庭vs山本、佐野vs安生、垣原vsビリー、松井vs豊永

FMWオーバー・ザ・レジェンドKAWASAKI

150分¥9,990

'97年9/28川崎球場 ビッグマッチ9試合のメインは大仁田vs金村のノーロープ有刺鉄線金網電流地雷爆破超大型時限爆弾デスマッチ時間無制限一本勝負 また今大会のベストマッチ グラジエーターvs田中のインディペンデントワールド世界ヘビー級選手権。注目のベイダーvsシャムロックの以上3試合はノーカット収録 97年8/31後楽園の世界6人タッグ戦グラジ組vsハヤブサ組も収録。特別解説はハヤブサ 他 第八試合のハヤブサ組vs小橋組は収録されておりません。

リングス バトルジェネシス'97 Vol.2

¥6,930

97年10.14後楽園ホール 日本人vs外人の5試合 注目は成瀬 田村 坂田 大塚 田中 菊田の日本人の勝ち方 メインは因縁の対決、ピータースvs成瀬。田村vsシノシックは田村が冷たいまでの強さを感じさせるファイト テレィニィを全く寄せ付けない強さを見せつけた坂田。バトラーツの大塚は前回のドクターストップ負けの屈辱を晴らす 田中は世界王者のプロの意地を 菊田はトーナメントオブJの王者の意地のぶつかりあい。濃い内容です。

パンクラス ALIVE TOUR後楽園大会

12月下旬発売予定

90分¥6,930

'97年10/29後楽園ホール。12/20横浜大会vs船木キングオブパンクラスタイトルマッチを控えた王者近藤有己が成長著しいリオン・ダイクをいかに破るかがポイント。セミはランキング戦国奥vsカイ・メッツァー。打撃戦となったが体格の差が最後に出、離れ際のハイキックがズバリと決まる。ジョン・ローバーvs渋谷、高橋vs金、伊藤vs美濃輪、山宮vsテリグマン、長谷川vs窪田を収録

リビングレジェンド ファンクス伝説生誕50周年

12/17発売 ¥6,000

'97年9/11アマリロ。WWF、ECW、FMW、W☆ING、Jdが参加のテリー・ファンク主催興行 WWFヘビー級選手権ブレット・ハートvsテリーをメインイベントに ハヤブサ&人生&田中vsロハーノ&ハンター ス サブゥーvsマンカインド ドリー vsヴァンダム ダッドリーvsマホーニー、タズvsキャンディート、金村vsロードキルをノーカット収録 他 解説は斎藤文彦 実況は斉藤充です

新日本セレクション'97①②

12/22発売 各¥10,200

全試合完全ノーカット初ビデオ化。パート1は・2/9札幌 8冠のライガーvs大谷・8/31横浜 7冠の大谷vs金本・7/1八戸 長州&藤波vs佐藤&野上・7/6長駒内 長州&橋本vsムタ&蝶野、他。パート2は・9/20名古屋 佐々木&山崎vsムタ&天山・7/6札幌 小川vs山崎・6.5武道館・8/31横浜 橋本vs武藤 他を収録

力道山ベルト争奪!天龍vs藤原 初対決(仮)

12月下旬発売予定 ¥9,870

97年11/24横浜文化体育館 実現しそうでできなかった究極の男気対決 二人とも義理人情に生きる男の中の男 真っ向勝負で激突必至の対決 それも力道山のヘルトを賭けたトーナメントのしょっぱな1回戦 日本J1選手権者決定トーナメントの大一番だ!WARのもう一人の優勝候補荒谷は難敵黒い呪術師アフトーラ・ザ・ブッチャーと対戦 天龍との激闘を展開した荒谷の成長がこの試合で試され、J1での荒谷の活躍を占う大一番となる 他にもインターナショナル・ジュニアヘビー級タッグ王座決定リーグ戦最終戦安良岡&石井vs折原&江川を収録。安良岡vs折原の因縁の対決の勝者がこの王座を奪取するのでは?とにかく、今年の天龍&WARを締めくくる大会間違いなし

収録予定試合 天龍vs藤原 北原&嵐&菊地vs平井&望月&多留 荒谷vsブッチャー、安良岡&石井vs折原&江川、ランス&バトレンジャーvs福田&小坪、島田&井上vs中西&高橋、一宮vs大刀光

逆襲キングダム!アルティメット撃破

¥9,870

97年11/3後楽園ホール メインは現キングダムエース安生vs金原は 金原がヒクソンが高田を破った同じ技 マウントからの腕ひしぎで安生を下す 他 垣原がフェリックス・ミッチェルを秒殺3分26秒足首固めで撃破!桜庭はクレイグ・ダグラスをもっと速い1分26秒で撃破。山健はメビウスの折原に完勝 高山も佐野に初勝利 そしてキングダム生え抜きの豊永稔のデビュー戦と新しいキングダムを感じさせる大会です。

バス・ルッテンのスーパーテクニック①&2 ファス・バーリ・トゥード1&2

各¥5,800

バーリトゥードとファイトで最強を誇る2人のテクニックを公開!ルッテン スタンス フットワーク キック パンチ 基本テクニック 相手の攻撃に対するカウンター、反撃 テイクダウンなど)。2-アームロック、リストロック、エスケープ 様々な体勢での十字固め 腕がらみ 他の技からの移行、フックの外し方など)。ファス 1-全身を使った打撃(ヘッドバット、パンチ、エルボー、キック 膝蹴り)2-間合いのつめ方とテイクダウン(フットワーク、タックル、ホールディング)。ファスは全7巻ルッテンは全5巻です。

世界最強タッグ列伝'80〜'82

12/21発売 120分¥5,040

大ヒットの第1弾に続き充実の第2弾登場 今回は80年の馬場&鶴田vsファンクス '81年のファンクスvsブロディ&スヌーカ '82年のファンクスvsハンセン&ブロディを収録。見所はやはり今は亡きブロディの雄姿。ハンセンとのタッグ、ミラクルパワーチームの試合や'81年のスヌーカとのタッグの時、ハンセンが乱入、テリーをラリアットでKOし、ハンセン&ブロディを予感させるシーンは歴史的名場面 3試合ともノーカット

'97ジャイアントシリーズ最終戦

全日本プロレス旗揚げ25周年記念大会 1・2 各¥5,040

'97年10.21日本武道館と10.11福岡大会の2大会を2巻に分けて収録。一番の見所である三沢vs小橋の三冠戦はVOL.1に収録。TVでは完全に見れなかった32分55秒の全てが見れる VOL.1の10.11福岡の三沢vsウィリアムスの三冠戦はパワー&テクニックのNEWウィリアムスを三沢は24分21秒で撃破 VOL.2は川田vs高山のシングル戦。田上vsエースの2人のベストマッチも収録!

バーリ・トゥード・ジャパン'97

12月下旬発売予定 ¥6,930(予定価格)

'97年11/29NKホール。'94年&'95年ヒクソン、'96年ホイラーとスター選手を生み出したこの大会。そして'97年はエンセン井上!ST のヘビー級王者エンセンがフランク・シャムロックと激突。プロレスファン、格闘技ファン注目の大一番。他 佐藤ルミナvsジョン・ルイス、マーク・ケァーvsエド・デ・クライフ、川口健次vsヤン・ロムルダー、眞宇宙vsジョオン・ホーキ、桜井速人vsマセロ・アグア、中尾受太郎vsスティーブ・ネルソンを収録予定

船木誠勝の肉体改造法

60分¥3990

大ヒットした同名書籍のビデオ版、1年あまりを経て、さらに練り上げられ改良された最良された最新のメニューを船木自身が詳細に解説 最も大きな改良点として 肉体改造を3つの段階に分け その時期にしたがってトレーニングのやり方を変えている点が挙げられる その他のウエイトトレーニングの細かい動作から食事の取り方まであらゆる範囲に及んでいる。インタビューも豊富に収録

サスケからダイオキシン

12/22発売 137分¥9,900

97年10月10日両国大会。メインはサスケvsTAKA、デルフィン&星川&薬師寺vs東郷&テイオー&船木、白死vsジ・アンダーテイカー。つまり、トリプルメインイベント!特にサスケvsTAKAは遺恨の軌跡(5/18サスケWWF入り会見〜9/18衝撃映像!リムジン破壊事件他)を収録。他にもデルフィン復活までの軌跡(6/22殺潜り事件〜9/5壱岐での極秘特訓)を収録。LOVE LOVEサニーちゃんfromWWFや船木誠勝に会わっ!解説サスケ&篠崎

★年内発売予定と記載してあるビデオに関しては、発売が年明けになることもございますのでご了承下さい

☆レッスルアルバイト募集中!! ☆プロレス・格闘技が好きな、元気な女の子! 詳しくは渋谷店・安原までご連絡を待ってます!

★表示価格はすべて税込です 送料はビデオは1本につき¥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号 00180−8−65236 レッスル通販
通販部 TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306 TEL 03-3989-0056

★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください

★PRIDE.1大会&ヒクソン・グレイシー グッズ大量入荷!! 在庫確認など、お気軽にお問い合わせ下さい!!

● NOMONOMO column ● NOMONOMO column ● NOMONOMO

LOVE LOVE RIFUJIN-DAIOH

本来ならば、いつものように意味のない文章＆自慢（一部の読者に言わせると。悪かったねぇ、ぶぅ−）を載せるところなんですが、今回はちィと趣向を変えて、理不尽大王のこぼれネタを少々。

―冬木さん、こないだの高田VSヒクソンの試合ってご覧になりました?

冬木　ああ。

―高田選手が負けたことによって、某誌に「プロレスが負けた」だの「プロレスラーは弱い」だのって書かれてたんですが、それに関してはどう思いました?

冬木　いいだろ、別に。何千万円も貰えれば。あんないい商売ねえだろ。

―でも、たとえ何千万円貰ってたとしても、負けたら背負うリスクは大きいですよ。

冬木　大きくねえよ、ン千万貰えれば。ン千万稼ぐのは大変だよ。1試合ン千万稼げる試合なんかないよ。

―でも負けたら、次の興行にすべて跳ね返ってくるわけじゃないですか。

冬木　何も関係ないよ。あの人はフリーと同じだよ。だからフリーで稼いだって思えばすごいじゃねえか。あんなの退職金と一緒だよ。

―高田選手に対して「もう引退しろ!」ということなんでしょうか?

冬木　やめてもやめなくてもオレには関係ない。

―そりゃそうだ（笑）。じゃあ、もし、冬木さんに高田選手と同じ条件でヒクソン戦の話が来たら、冬木さんはやりますか?

冬木　やるよ。

―おおっ、やりますか!

冬木　5千万、1億だったらやるよ、そりゃ。

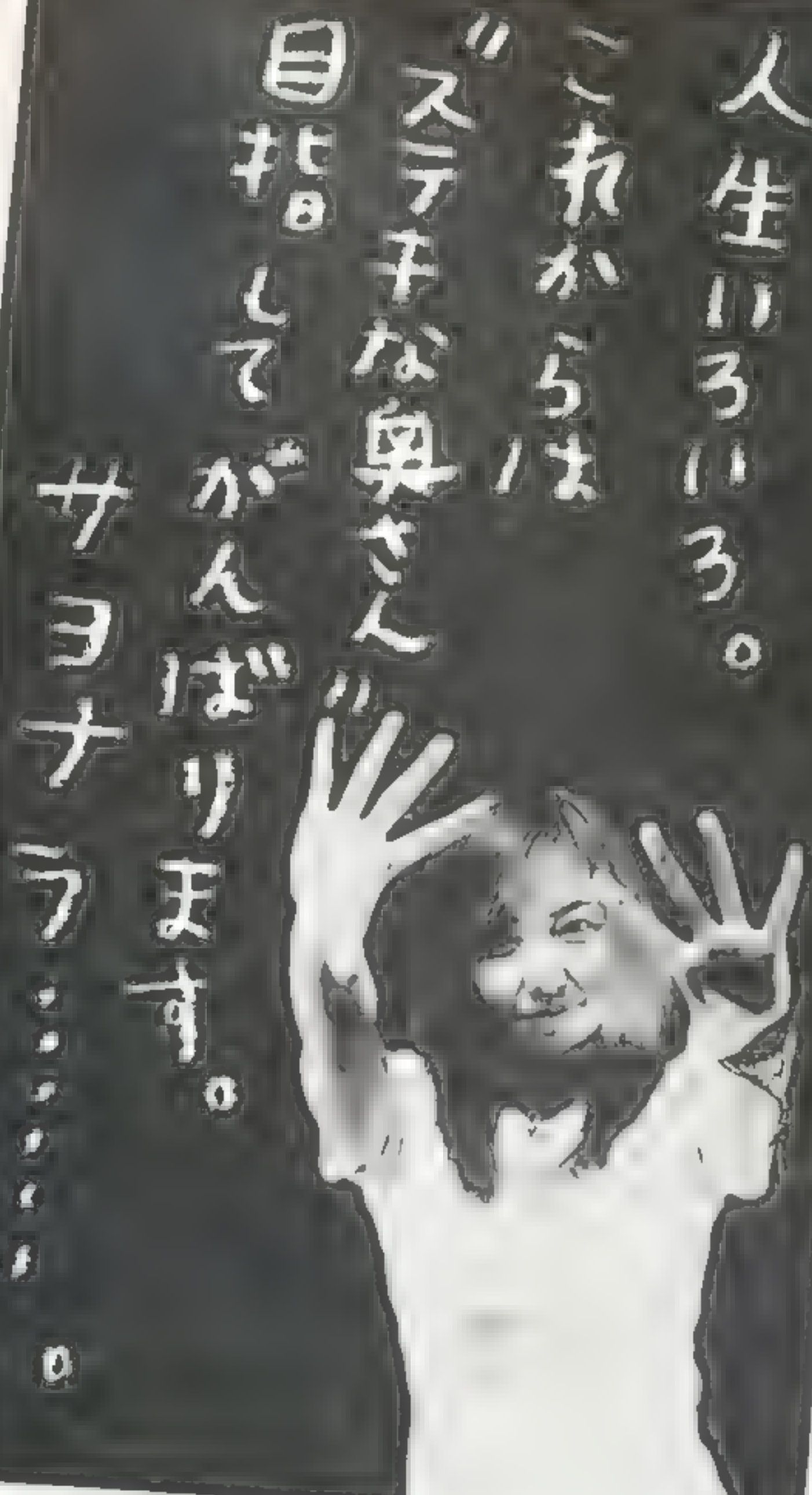
―ん～、まぁ理由は何にせよ「やる」という言葉が聞けて、何か嬉しいです。

冬木　何だよ、だって100%負けるわけじゃねえだろう。

―おおっ、負けるわけない!

冬木　あのルールでやれば負ける確立は高いよ。でも100%負けるわけじゃないよ。そんなのやってみなけりゃわかんないじゃん。

―おおっ～、じゃあ高田ノブ兄さんの仇は日明兄さんではなく、冬木パパにとってもらうということで。いやぁ、楽しみだなぁ。

（11月15日・浜松市体育館にて収録）

オロナミンCが大好きな理不尽大王。それにしても大きなお腹だなぁ。出産予定日は、いつですか?

LOVE LOVE DOKUSHA-NO-MINASAN

押忍!　突然ですが、今回をもちまして「ガールズはガールズ」は最終回となりますです。短い間でしたが、本当にどうもありがとうございました。

のものもはカタブツ君（34歳）に続いて、「紙プロ」からおさらばします。カタブツ君（34歳）は、男のプライドを捨てたわけですが、のものもは女のプライドを守ることにしました。けれども、仕事人としては、とても身勝手な行為です。本当にごめんなさい。

のものもを応援してくれてた方、のものものことが大嫌いだった方、のものもに対して全くの無関心だった方、いろんな方がいましたが、とにかく、今、このページを読んでくれているすべてのアミーゴへ!　いつまでもお元気で♥　永遠に（?）アディ押忍!

人生いろいろ。
これからは
"ステキな奥さん"
目指してがんばります。
サヨナラ……。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

「いや、ボクは怒ってないよ。ボクは別に何を書かれてもいいんだけどぉ、ただOさんがさあ……。いや、ボクはいいんだけどね……」などとキング・オブ・ボンクラシストの名を欲しいままにするＳｈｏｗとやらに影でゴチャゴチャ言われながらも全く気にせず己の道を突き進む、ハイブリッドな書評コーナー。

日佐夫クン人生劇場

PART2

これがプロレス。——四天王は語る——
（長谷川博一・編著／主婦の友社）

「普段ロックンロールについての文章を書くことが多い」という筆者が、なぜか全日の王道四天王に**「アルティメットのような闘い方は新人時代に練習でやってました？」**だの**「八百長ではないのだと、ここで断言してもいいですよね」**だの**「得意の関節技は何ですか？」**だのとロック魂で闘きまくる奇跡のようなインタビュー集。

高校時代に電話がようやく実家に導入されたほど貧乏だった小橋が、兄貴とカップヌードルを取り合ってフォークで刺された話なんて、涙なしには読めないはず。馬場さんの付き人時代、両手に荷物を持っていると**「お前にはスキがある」**と平手打ちされたという理不尽なエピソードも無茶苦茶泣けるっスよ。結局、小橋は単なるオレンジ色の爽やかボーイなんかではないのである。

その他、三沢のドネタ愛好ぶりや、川田のダジャレ愛好ぶり、超世代軍の暴走しまくる酒席話など実にいいネタ多数だが、やっぱり最もネタが宝庫なのはボクの大好きな田上であった。

「マウンテンバイクで野山を走り回る」という独自の呑気な練習法ゆえなのか、**「練習してないでしょ。身体を見ればわかるよ」**と山本小鉄どころか永源にまでイヤミを言われるアキラ(田上)。

酔っ払えばオウムのラーメン屋で駄々をこねてドリンクをサービスしてもらったり、警察絡みのバイオレンスを繰り広げたりするアキラ。

試合中は**「スラング続出」**で怒鳴りまくるが、女房には**「あなたのパンツなんか、あのカッコいい大森君（付き人）に洗わせるわけにいかないじゃない！」**と逆に怒鳴られてしまうアキラ。

「日活顔」でポーズを決める若き日のアキラ。

そんなアキラの、馬場のルックスと鶴田の性格を忠実に受け継いだサラブレッドぶりが、とにかく大爆発。誰もが惚れること確実なのだ。

さらに各誌のインタビューで呑気な発言を繰り返す理由を聞かれれば**「喋れないもん、俺」**とズバリ言い切り、試合後に呑気なコメントをすることについても**「疲れてんのにマイク向けるなっちゅうの」**とあっさり断罪。自分の職業を聞かれれば**「俺？　日雇い。その日暮らし」**と胸を張って答える「赤いパンツの呑気者」に心から乾杯だ。

世間で噂されながらも現実性は非常に薄い新日と全日の対抗戦なんてもうどうでもいいから、こうなったら試合前の舌戦だけでも確実に面白いことになるはずの相撲レスラー頂上対決・田上対安田戦だけでも実現させるしかないと、ボクは思う。それならたとえリングサイドが10万円であろうとも、ボクは絶対に自腹で買うね。

なお、ボクの心の師匠・門馬忠雄先生も巻末に寄稿している上、そこで三沢に**「楽しく激しい」**、川田に**「激しく激しく」**、小橋に**「明るく激しい」**、田上に**「激しく馬場さん」**という極めて呑気なキャッチフレーズを付けているだけでも買う価値のありすぎる一冊であろう。

アウトロー
（神山典士／情報センター出版局）

これまで小室哲哉や前田光世のノンフィクションを手掛けてきた筆者が、なぜか勢いに乗って藤原組長や日明兄さんの人生を大黒摩季やオザケンと同列に論じてしまった衝撃の一冊。

「新弟子当時、（藤原が）まず先輩から教わったのは、人前ではビールをがばがば呑むこと。美味いものをたらふく食べること。写真に撮られる時はすごんだ表情で、背伸びしてでも大きく見せること。そして外で喧嘩することになったら、絶対に負けないこと——」

そんな組長の**「プロレスなんてシッ、しょせんドサまわりなんだから」**というプロ意識溢れる発言までドモリ混じりでリアルに再現するのは非常に文句なしなんだが、旧ＵＷＦを**「これが、当たった。ファンは長い行列を作るようになった」**などと言い切り、さらにＲＩＮＧＳをこう表現するのはちょっといただけない。

「前田が作った団体でありながら、これまでに三回行われたチャンピオンを決めるトーナメントで前田の優勝は一度しかない。プロレス的に考えればそれは非常識だ。皮肉なことに前田は、負けることによって『強い者が勝つ』スタイルを証明したことになる」

そんなことを言い出したら最後、全日だって新日だってバトラーツだってみちプロだって、社長がめったに優勝しない「プロレス的に考えれば非常識」な団体になってしまうはず。

昔からＵＷＦ信者という人種には、まるで昔の新間寿チックに他団体を貶めることによってしかＵＷＦのイメージアップを謀ることのできない狂信的な輩も非常に多かったものなんだが、結局はこの作者も同様なのかもしれない。それでいまは前田光世の本を書くほど柔術にかぶれているんじゃないか、と。実際そうだとしたら、つくづく世知辛い世の中である、まったく。

まあ、それでも第二次ＵＷＦ分裂騒動を克明に追ってくれた功績だけでボクは許そう。

ちなみにフロントの不正を告発し、母親に家を買う予定で貯めた二千万円を選手達の給料袋に自ら詰めた前田に対し、分裂後に給料袋の中身を返してきたのはたった一人だけだったという。

それって、やっぱ山ちゃん（流智美曰く、人が良すぎたために分裂騒動のときも派閥の仲を取り持つべく一人で動き廻り、気が付くとUインターで冷や飯を喰わされていた男）なのか？

やっぱりプロレスが最強である

(流智美/ベースボールマガジン社)

高田が惨敗した後だからこそハートに染み渡ってくる、オールドレスラーたちの夢のようなガチンコ話ばかりが詰まった珠玉の名著。

「何を書くのも自由だが、そのレスラーの前に出て、堂々と見せられるもの以外は書いてはならん」「人の悪口を書いてメシを喰う人は、私はモノ書きと呼べないと思う」

そんな田鶴浜弘先生(故人)のプロフェッショナルな名言の引用も、これまで流智美が繰り広げ続けてきたUインター批判を思うとどうにも不思議な気がしてならないのだが、そんなこたあもうどうだっていいじゃねえか(猪木調)!

とにかく巻頭記事が**「流智美VS宮本厚二」**の一人二役対談で、しかもサングラスなんかでキャラクターを微妙に変えてたりするだけでもボクは全て許す。言うまでもないが内容もOKだ。

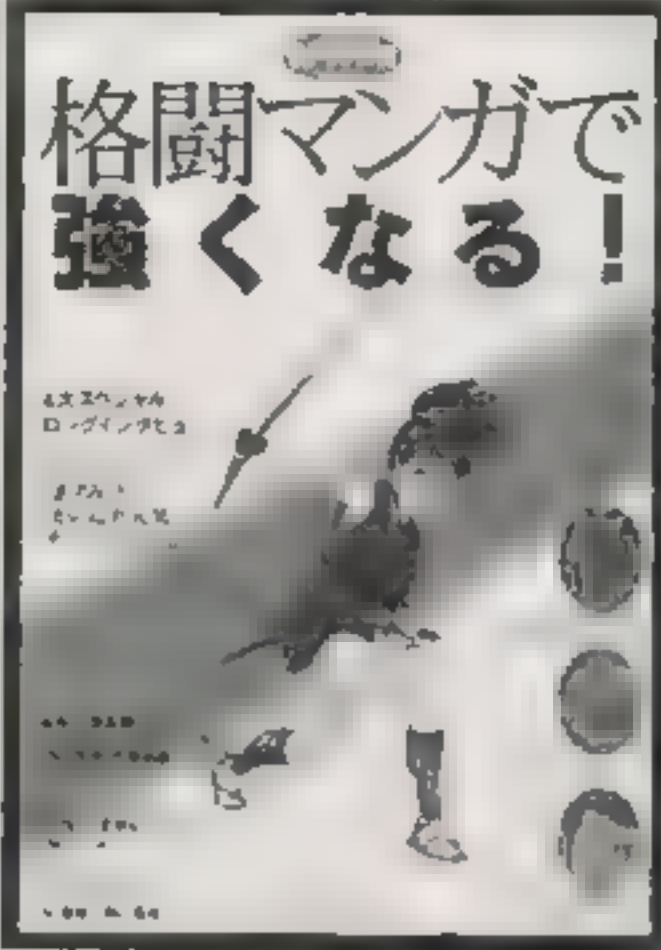
何が「やっぱり」なのかはよくわからないが、威勢の良さだけでついつい「最強なのかなあ……」と思い込まされてしまうから不思議なのである。

Lucha Mascarada

(都築響一責任編集/アスペクト)

往年のゴング別冊写真集『ミル・マスカラスその華麗なる世界』(最高!!)が高騰を続け、ルチャドールのマスクが渋谷や新宿界隈でデザイン的な見地だけで評価されつつある昨今、ついに小洒落た『マスク写真集』が出版されるまでに至った。

内容的にはドクトル・ルチャこと週刊ゴングの清水勉氏が原稿を3ページほど書いているだけで、あとはひたすらプロレスショップ「アメリカン」の高橋店長がコレクションした私物マスクの写真が並ぶ非常にお手軽な作りではあるが、こういうのはやったもん勝ちなのでしょうがない。

しかし、我らの竹内宏介先生が手掛けた数々のマスカラス特集本に比べれば、しょせんはプロレスへの愛を全く持たないデザイン業界の人種の片手間仕事。どうにもコクが皆無なのである。

格闘マンガで強くなる

(木村修・編/アスペクト)

相変わらずの乏しい漫画知識が光る、木村修の再新刊。どうして漫画を強くなるための道具にしようと考えるのか、そもそもそれ自体がボクにはどうにも不思議でならないのである。

フルコン別冊『格闘技マンガ最強伝説』とネタも図版も重複しまくる安直な作りも含めて軽く叩こうかとも思ったが、ボクが原案協力をした格闘技漫画『ファイティング・ムーン』を若林太郎氏が絶賛し、さらに未単行本化作品のベストワンとして紹介してくれてまでいるので、もう何も言わない。ボクは誉められさえすれば文句なんて全くないのである(まあ、この作品を語ってくれた有り難い対談でも、やっぱり木村修だけは的外れなことしか発言していないんだが)。

とりあえず、未単行本化作品のベストツーに選ばれていたプレ『1・2の三四郎』というべき読切漫画『格闘三兄弟』(小林まこと)が、実は「それゆけ岩清水」の第2巻に収録されていることをこの場で教えてさしあげることで、御礼に代えさせていただく次第である。

【完全無欠の】前田日明読本

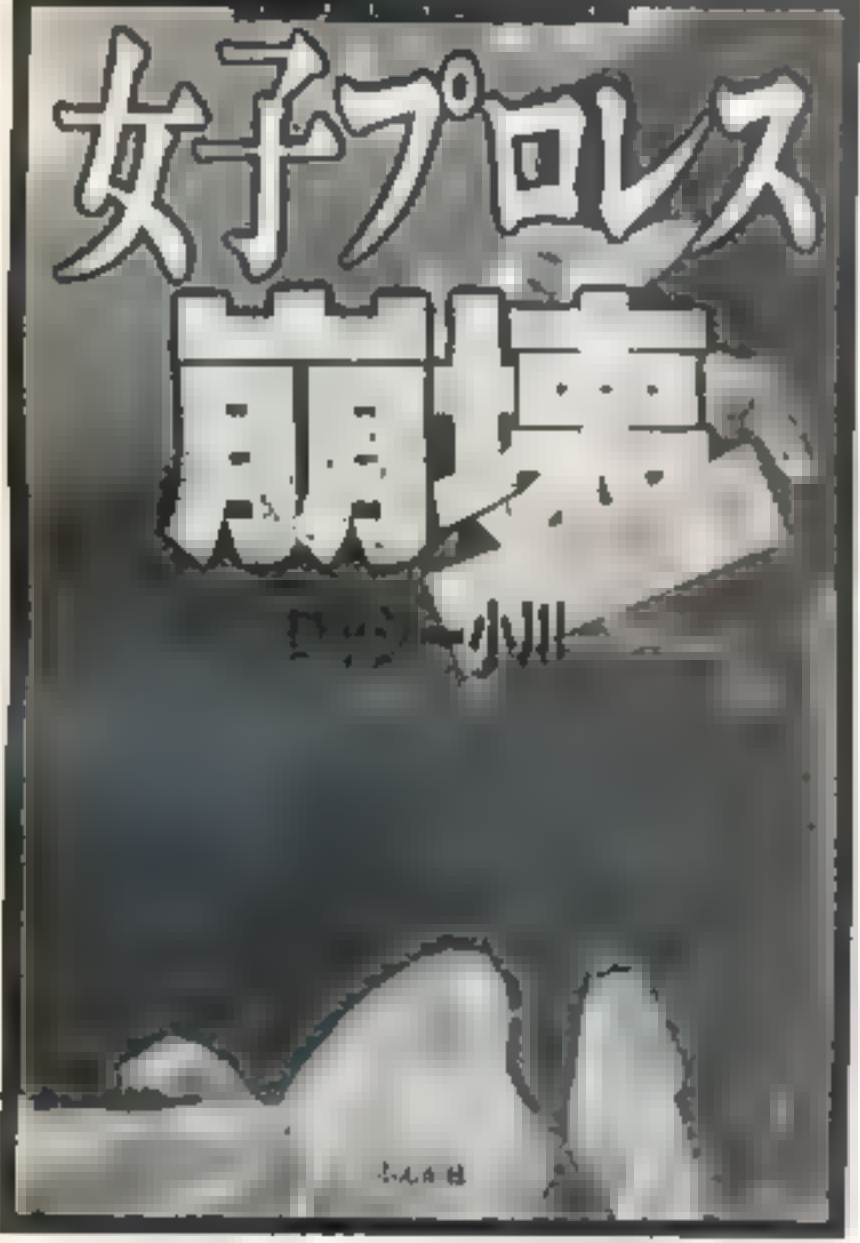
(日本スポーツ新聞社)

正直な話、完全無欠でも何でもないんだが、もはや日明兄さんを怒らせようとしているとしか思えない「いまの佐山に前田を語らせる」インタビューを強行しているだけでも素晴らしい一冊。

持ち前のサービス精神を過剰に発揮して、新日時代に**「弟のように思っていた」「素直ないい子」**という前田のバカ話を連発してくれるのだ。

たとえば酔っ払って包丁を投げて暴れ回る前田を荒川が柔道の帯で縛り付けると、すかさず佐山が子守歌代わりに**「もうすぐは~るですねえ」**とキャンディーズのレコードをかけたこと。

「道場にいた新弟子で死んだ奴の霊が、夜な夜なベンチプレスする」と前田を騙して、佐山自ら夜中の三時にベンチプレスをして脅したこと。

「昔、この辺で進駐軍の黒人兵士が殺されて、その幽霊が夜中アメリカ国家を歌う」と前田を騙してジョージ高野に軍服着させて枕元に立たせたことなど、とにかく佐山の魅力ばかりが嫌というほど伝わってくるのであった。……って、そんなの日明兄さん的には許されることなのか?

女子プロレス崩壊危機一髪

(ロッシー小川/ぶんか社)

全女在籍時から暴露ネタを書かせたら天下一品だったロッシーが、離婚&離脱によって加速度的に暴走開始。千種と二人で**「飛鳥を辞めさせてください!」**と会長に直訴したことから最近のことまで、くまなく暴露してくれる一冊だ。

なにしろ、京子が本誌前号で「絶対に話せません!」と言い切ったW井上分裂の理由らしきものまで堂々と公開しているから、とんでもない。

この話は、まずギャラの遅配に怒った堀田が選手の総意としてストライキを決行したことから始まったのだという。だが、その堀田がフロントと一切話し合わないため、村山大値が親切心からやむなく直訴。ところが首謀者の堀田が「村山にそそのかされた」と寝返ったのだ、とロッシーは暴露する。まるで日本プロレス時代の馬場みたいな展開であろう(あくまでもロッシーの主観による記述なので、堀田や松永兄弟の批判は多いが、離脱組は基本的に絶賛されている)。

続いて京子が日プロ時代の猪木のごとくクーデター計画を水面下で進めるが、日プロ時代の馬之助チックに「全女に残るメンバーの方が多そう…」という打算から何者かがフロントに計画をリーク。結局、京子が責任を取らされて辞めざるを得なくなったのだとロッシーは書いている。だからストロングスタイルを旗印に新日本女子プロレスを旗揚げしたというわけなのか。

これも京子が「最初、貴子は出る人間だと思ってたんですよ」「貴子さん! あなたがいちばん分かってるよね~?」「一生交わることも、試合することもないと思います」と発言していたことを思えば答えは小学生でもわかってしまいそうなものだが、実名で書かれていない以上、とりあえず真相はまだまだ永遠に闇の中なのである。

他にも、対談コーナーでの「長谷川咲恵の兄貴、足を切断」だの、全女スター選手のその後を伝えるコーナーでの「柳みゆきはアムウェイの会員」だのという衝撃情報が目白押し。

だが、個人的に最も衝撃的だったのは、表紙カバーを外すと中からロッシーとサニーちゃんの巨大なツーショットが飛び出してくるという、実に破壊的で危機一髪すぎる装丁なのであった。

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

今月の汁

鶴田なら……

1月の『プライド2』で、もしホイスVSマーク・クァーが実現しちゃったら（たぶんしないけど）、ズバリ言ってホイス負けそうな気がする。体力的にかなり差がある2人なのに、今や柔術までやりだしたクァー相手では、ホイスは分が悪いでしょう。でもこれで、ホイスがクァーに勝ったらホントに凄いと思う。

クァーなら、ホイスどころかヒクソンにも勝つ可能性があると思う。ただし、ヒクソンと今のアルティメット大会のルール（12分か15分一本勝負の判定ありルール）でやった場合と仮定したらだけど……。今のU大会のルールなら判定勝ち狙えると思います。無論、本来のバーリトゥードなら、時間かかるがヒクソン勝つと思います。

今のU大会のルールは、もはやグレイシー天国ではなくグレイシー地獄になっています。体がデカくて体力があり、なおかつ技術もあり、道衣ではなく裸の競技の人にとって天国のルールではないでしょうか。

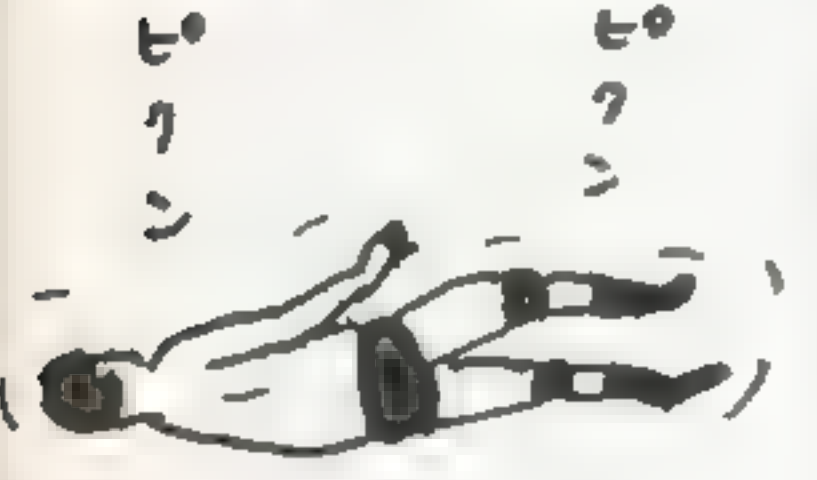
という事は、いまこそプロレスラーのチャンスではないのか？

1・体がデカい　2・体力がある　3・技術がある　4・裸の競技

この4つをプロレスラーはもってるはずじゃないですか。

ただ、問題は「3・技術がある」です。まったくなさそうな人（小島、天山タイプや全日系）もいるが、逆にバリバリの実力者達（藤田、小川、髙阪、桜庭など）もいるし、いちがいにプロレスラーは技術がない、あるとは言えないんですよね。これは、ボキャブラ芸人などダメだと言えないのと同じである（爆笑問題や松本ハウスなど実力者がいるため）。

しかし、たとえ技術がなくっても、体のデカさと体力があれば、今のU大会におけるいかにもバカっぽいアメリカンナイズな判定（技術うんぬんより、上からパンチ数発打ってれば優勢みたいな）で、勝てる可能性もあると思うんですよ。

アルティメット大会は、もう15〜16回ぐらいやってるのに、未だに日本人プロレスラーで出場したのは髙橋と北尾のみとは、昔から「なんでもありならプロレス最強」と言ってきたプロレスとして情けないんじゃないのですか（出場表明したのが、まったく相手にされず書類審査で落ちたようなターザン後藤はもっと情

加藤賢崇の

いい人見〜つけた♥

ファルーク

9・23FMW川崎球場での疑似アルティメットではベイダーに打ちのめされて血ヘドを吐いて無惨に倒れたウエイン・シャムロックでしたが、実はその3日くらい前、ファルークにヒドイ目にあわされてボロボロだったのだ。ぼくはTVで見ました。

『週プロ』で吉田七瀬さんも書いてましたが、ケーブルTVやパーフェクTV系で見れるスターTVという香港モノのチャンネルがあって、そこでWWF中継がアメリカの1週間遅れくらい、ほとんどリアルタイムで見れるのです。TAKAみちのくやパトリオットの健在ぶりも確認できる。全女中継でも見れなくなったミゼットも見れるし。ジム・ロスやジェリー・ローラーの原語のアナウンスそのまま生かしで、日本語字幕はたまに間違ってたり（マクマホンがマックマンとか）ヘンな翻訳だったりしますが、WCW中継のケロちゃんの投げやりな解説よりよっぽどイイですよ。

「タフとはどういう事かわかるか？　タフとは冬の寒い朝に兄弟で1枚の毛布を奪い合うことだ」コレが、ファルークの泣かせる言葉。

ファルークとは？　あの蝶野が2度目のG1に優勝してNWAチャンピオンになり、高田に「おれに挑戦したいならリスク代1000万円よこせ。そしたら厳流島でバトルロイヤルやってやる」とすごく変な因縁をつけていた時期に、ベア・キャットライト以来の黒人世界チャンプとしてWCWのベルトのベルトを巻いていた「黒い種馬」ロン・シモンズのことだ！

当時はベビーフェースでアメリカマットで蝶野と王者タッグを組んだり、新日の東京ドームでもトニー・ホーム相手に防衛戦やったり、日本にもなじみ深いハズなのに、なんか印象の薄い生真面目で面白味のない選手だったけど、ぼくはひそかに実力者じゃないか、と注目してました。

そしてWWFに移籍し、いくつもある軍団抗争の中のヒールの中核、ドミネーションのリーダーとなり、元ソウルテイカーのカマやサビオ・ベガなどを従え、ココで180度転換して生まれ変わった！　彼らは観客に向かって「お前らみんな黒人をバカにしてるな」と叫んだり、前述みたいな味のあるセリフまで、黒人は全部ビンボーでハングリーという、時代錯誤な被差別意識をモチーフに闘う姿は、イーストウッドとかの映画に出てくる黒人ギャングのボスのようで、実に頼もしい。たぶんバカ律儀な性格で、マクマホンのプランそのままキャラを演じてるうちに入り込んじゃった、って感じがイイんですよ。ベビーからヒールに転向してイキイキする人はたくさんいますが、特にハマってる。そしてインタコンチネンタル王座を巡るトーナメント1回戦で〈世界一アブナイ男〉シャムロックをツブシてしまったのです。

不愉快

"Show"大谷泰顕

たかがプロレス、されどプロレス——。

常にそういった気持ちを持ちつつ、日夜取材活動に励んでおります。最近はドラマ『不機嫌な果実』の石田ゆり子がお気に入り。月に一度、『ペントハウス』で取材するノリカッチ（藤原紀香）の出ている『ラブ・ジェネレーション』はどうも見逃してしまいます。サダハルンバ谷川氏（自称トレンディドラマ評論家）によれば、「それは君が日常じゃなくて、非日常の人間だからだよ」とのこと。ホントにそうなのでしょうか？

ところで突然ですが、自分のことを「変態」だと思ったことがありますか？

というのも私は、何の気なく放った一言が人を「不愉快」にさせてしまうことが多々あるようなのです。

しかも、それが普段からお世話になっている人や、思い入れの強い人だと、最悪の結果を招きます。途端に「そんな人だと思わなかった」的な態度を示されてしまうのです。まさに「友達をなくすぞ」の典型です。

つくづく自分の変態さ加減に愛想がつきます。

先日も取材中、前田日明問題を終結させたばかりの船木誠勝選手の前でその話を持ち出し、「またその話ですか……」と、ムッとされてしまいました。きっと試合前ということもあり、こちらが思っているよりも、ずっとナーバスになっていたのだと思うのですが、その場の空気を読めない自分にホトホト嫌気がさしてきます。

おそらく、その一言のみで相手を不愉快にさせたのではなく、普段から知らぬうちにボディブローを入れていたのではないか？　と自己分析したりもするのですが、どちらにしても表立ってから、ようやく事の重大さに気づくという、自分の鈍感さ。自分で言うのもおかしいけれど、とても活字の世界に生きているとは思えません。

究極を言えば、単なる「自分勝手」であり、「変態」でも「不愉快部門」所属なのでしょうが、「いまさらしょうがねえや」と開き直れるかと言えば、「また人を傷つけてしまった……」と、他のことに手がつけられなくなるほど、心底ショックを受けてしまう、意気地無しの自分。表面上は平静を装っているつもりでも、じつは「あぁ、これからどうやって生きて行こうか」と、半端でないほどのダメージが全身を襲い、心根の部分まで落ち込んでしまうのです。

きっと、自覚が足りないのだと思います。

「いい意味で、覚めて物事を見てみたらどうですか？　それと、普段よく話をする友人は誰ですか？　この業界は際限なく常識がなくなってきますから、気をつけた方がいいですよ」

それに関しては、船木選手からこうアドバイスまでいただきました。さすがにマット界の常識人集団の頂上を張る者の発言。肝に命じる所存です。とはいえ、本当に困ったものです。もしも何かいい解決策何かあるようでしたら、『紙のプロレス』編集部までご一報ください。

ところで、その『紙プロ』ですが、前号は全体的に「……」でした。ターザン山本氏のように「あれじゃあ『紙プロ』の命日だよ」とまでは言いませんが、確かに今年は何と言っても高田延彦vsヒクソン・グレイシーに尽きるとはいえ、私はいまでもあの日、深夜に訪れた『紙プロ』編集部の空気が忘れられません。私に負けて劣らず変態集団のはずなのに、「不愉快」というよりも「不可解」な感じがしました。

それでも、あんな山口昇氏の姿を体験してしまったら、『紙プロ』を読む気がしなくなって当然です。実際、まともに読みはじめたのは、ここ数日になってから。ただ、ああいった山口氏を垣間見てしまうと、いくらボロクソに言われても、また嫌いになれなくなってしまうから不思議です。

最後に『紙プロ』こそマット界の不愉快そのものの媒体ですが、前号の『書評の星座』において、私が原案を担当した『船木誠勝物語』に関して、私自身についてならばともかく（それでも「いい加減にしないと、キレますよ」by日明兄さん）、私を通してパンクラスを揶揄するのは「反則」だと思います。当然、パンクラスに限らず、特定の団体に対してのそういった記述も不愉快千万。『紙プロ』にとっても、マット界にとってもマイナスにしかなりません。ぜひとも今後は改めていただきたい。その前に、このページの構成者の「日佐夫くん」だけならまだしも、同一人物と思われる吉田豪ちゃんにも揶揄されると、「四方八方から」という印象を与えること自体が不愉快です（それが狙いなのかな？）。

それでは、これからレンタルビデオ屋さんで借りてきた『義務と演技』（全11話）を見ますんで、また今度。

しょう■埼玉県生まれ。パンクラス公式読本企画立案者。最近、単なる「世迷い人」ら「格闘技解剖家」も兼任。また肉体改造により、3カ月で12キロのウエイトダウンに成功。主に『スコラ』などで活躍中。

けない）。

12月に日本でやるんだし、ここらで誰かに出てほしいです。でも実力者系の人達では、当たり前すぎて、かえってつまらない。コテコテのプロレスラータイプに出てもらいたい。

たとえば、小島だ。普段リング上で騒々しいあのキャラが、オクタゴンの中でどうなるのか、想像しただけで面白い。うおー見てーぞ。

小橋も見たい。一体あの中で何ができるのか？　まったく思いつかないぞ。力づくのヘッドロックか？

川田も見たいぞ。キックは当たるのか？　あのいつ見ても不思議な関節技（ガバガバのヒザ十字など足関節系）は極まるのか？

いつも吠えている天山は？　海援隊は？　TAKAは？　橋本は？　健介は？　……もう面白すぎます。誰も勝てそうにないけど……。

そしてジャンボ鶴田だ。唯一例外で、鶴田ならある意味ヒクソンにも勝てる。

じりじりと間合いをとるヒクソンに対し、「オオー（小さめ）」とおどろいた顔を客席に向ける鶴田。ヒクソンのチョークスリーパーに対し、両手をナハナハと広げる鶴田。ヒクソンのチョークに絞め落とされる鶴田。その時!!　鶴田がいつものあのピクピクとしたケイレンをしたならば、これはある意味鶴田の勝ちである（もちろん記録上は負け）。

花くまゆうさく■浅草キッドのラジオ復活は嬉しい！　しかし、メインは殿……。猪木VS藤波はゴメンだ。猪木VS前田ならいいが、猪木VS前田ならいいが、キッドの独立系ラジオをみんな待っている！

もともと肝臓に疾患があるとか、パンクラス参戦時も「ボディが弱そう」と言われたシャムロックですが、その日はファルークのパワーボムをくらっていきなり動けなくなりました。その前に腹へのパンチとか入ってたような気もする。必死に起きあがろうとして、また亀の状態になって動かない。レフェリーも「あれー？」という表情、アナウンサーも「どうしたんでしょう」とただならぬ事態な雰囲気。「ファルークは先日フットボーラー時代の功績が認められて表彰を受けました」と関係ないイイ話を始めたり、ファルーク自身も攻めるのをやめ腰に手を当て困惑している表情に見えるが、ぼくはもう「アクシデントに見せかけたセメントを仕掛けたな！　にくいよ、この！」と大喜び。その後シャムロックは場外へエスケープして体勢を立て直し、ヨロヨロしながらリングにあがる。ファルークはロープに振られてフロント・スープレックスで投げられざま、すぐにフォールされ試合には負けましたが、シャムロックはこのときすでに口から血を吐いてグッタリしていた。

ホントにただの事故だったのか？　それとも嫉妬か恨みか試合前にトラブルでもあったのか？

そういうウレしい想像をさせてくれるレスラーが数少なくなった今、ファルークは貴重な人なんだなぁ。

加藤賢崇（かとうけんそう）■ゆかいなCD－ROMゲーム「がんばれ！　いぬちゃん・ロケンロール編」「がんばれ！　いぬちゃん・世界の旅」は、バンダイビジュアルからインストアナウ！

『RADICAL』は素敵な抗争を歓迎します！

プロレス界、今年の流行語大賞をご存じですか？　えっ、知らない？　これを読んでるあなただけにこっそり教えちゃいましょう。それはズバリ、「磁場狂ってるよぉ〜」です。女子プロレス界にとっては大きなターニング・ポイントとなった今年、RADICALは「活字女子プロレス」の確立を目指して立ち上がりました！　しかし！　ミイラ取りがミイラになるとは、まさにこのこと。磁場が狂った女子プロレス界に、磁場を狂わされました。路線を変えます。活字女子プロレス確立へ向けての大いなる第一歩です。だから、これは活字女子プロレスでも何でもありません。あしからず。

（坂井ノブ）

新団体とは何か？

女子プロレスの見方

まず、11月14日にアルシオンが記者会見を開き、アジャ・コングが「目指すはプロレス界の小室哲哉」とファイティング・プロデューサー

「磁場狂ってるよぉ〜」

これこそが今年のプロレス界の流行語大賞である。言われてみれば、今年の下半期のプロレス界は磁場が狂いっぱなしである。高田の惨敗、リングスvsパンクラス抗争、みちプロ経営危機、中村カタブツ君（34歳）の失踪……そして、女子プロレス界も磁場が狂った。全女の経営悪化による大量離脱が発生し、新たに2団体が誕生。両団体とも、本格的な旗揚げ戦は来年なので、具体的な実体が提示されていない以上、断片的な情報でしか推測出来ない。一般誌による愛のかけらもない女子プロバッシングで、女子プロレスへの蔑視は改めて確認できた。混迷を極めた女子プロレス界ではあるが、『紙のプロレスRADICAL」では、その両団体の情報をかき集めながら、本誌なりの女子プロレス他団体時代の見方を提示しようと思う。

先月、まず動いたのはロッシー小川である。HYPER VISUAL FIGHTING「ARSION（アルシオン）」を旗揚げした。パリジェンヌがクロワッサンを頬張りながら口ずさんでしまいそうな、オシャレなネーミングである。新人募集を見ると「明日のビジュアル・ファイターを育成する」そうだ。ビジュアル・ファイターとは何か？　かわいくて、強いのか？「パンクラシスト」みたいなものか？　謎は深まるばかりである。

磁場狂ってるよぉ〜それをいい方向へ向けろ！

「あえて女子プロレスとは名乗らないと思う」とロッシーは『別冊宝島プロレス読本』のインタビューで語っている。パンクラスは、その試合を「ハイブリッド・レスリング」と表現し、「秒殺」と「ハイブリッドボディー」という2つを打ち出したことで従来のプロレスとの差別化を図った。アルシオンの手法は、これを思い出させる。『週プロ』によれば、府川や玉田が現在は「某格闘技道場でマスコミ立ち入り禁止の極秘トレーニング中」で、おまけに「肉体改造中」なのだそうだ。旗揚げしたら、女子プロ界に新しい衝撃が走るかもしれない。今から非常に楽しみである。ベールに包まれたものは中を見たくて気になるものだ。さらに、どうでもいいことなのだが、アルシオンも難しい漢字をリングネームに使う「ハイブリッド改名法」を実践したようで、府川由美が府川唯未に、玉田りえが玉田凛映となった。「磁場狂ってるよぉ〜」と一瞬ぼやきたくなったが、何事もやりすぎるぐらいがちょうどいいとボクは思う。是非、このまま突っ走ってもらいたい。これで、ロッシーの『別宝』誌上の「自分たちがこれからやることの理想は全日本プロレスやパンクラス」という発言にも頷ける。ロッシーが「理想」と語る全日&パンクラスは外部との関わり合いは極力避けて、ひとつのコンセプトを掲げて、そのコンセプトに沿ったものたちの空間を作り出した。そのコンセプト作りをロッシーとアジャで行なうのだろう。現在はヘッド・ハンティング宣言をして、団体のカラーに沿ったレスラーを狙っている。引き抜き問題に関しても、女子プロ界の小室哲哉ことアジャ・コングは本誌のインタビューで「凄いことが出来ない団体はやめろ」と爆弾発言。実際にLLから大向と二上をヘッド・ハンティング（ヘッドか⁉）さらにJWPの福岡と久住へも引き抜き攻勢をかけたという噂が流れた。さすがにこれにはJWPが激怒。全女と手を結び、「JWP&全女スペシャル・プレゼンツ みんな仲良し!!」という、これまた「磁場狂ってるよぉ〜」なタイトルの交流戦開催を発表した。JWPの山本代表も日明兄さんよろしく「JWPのJの字も出して欲しくない！」と激怒したとか。ウチと全女は仲良しだけど、お前は仲間ハズレだよという痛烈なタイトルである。かわいいけど。パンクラスvsリングス抗争をそのまま女子プロ界に持ってきたような壮絶な抗争になりそうだ。アイドルレスラーを多数抱える元祖・ヴィジュアルプロレス団体のJWPだけに真っ向からぶつかり合うだろう。刺激を受けたJWPが何を提示するのか？

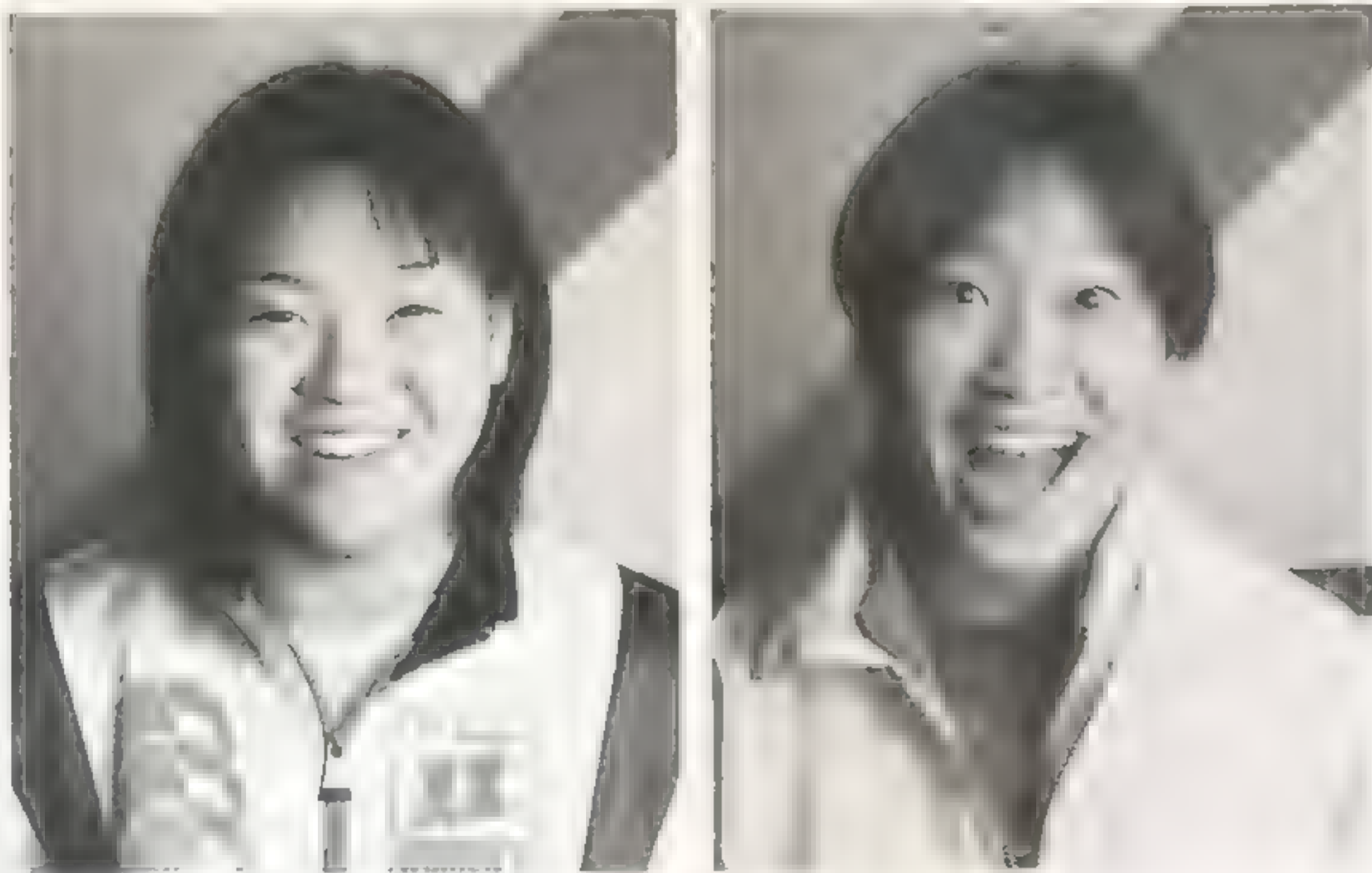
一方、京子派と言われていた『新日本女子プロレス』旗揚げ記者会見の際に配られたプレスリリースには、ご丁寧に「通称」まで書いてあった。〝新女〟ではなく、「NEO LADY'S」である。こちらは全女を離脱した京子、ラスカチョ、チャパリータ、椎名、元気、タニー、田村といったメンツである。

記者会見では、アルシオンと水面下で争奪戦が繰り広げられたというチャパリータASARIも発言。「京子さんについていくために全女を辞めました」と泣かせる発言。タニー・マウスが「プロレスが出来ずにバイトをして生活していた」と辛すぎる数カ月

ロッシーの著書『女子プロレス崩壊危機一髪』で退団理由が明らかになった京子。11月25日に「新日本女子プロレス」旗揚げ記者会見を開いた。新団体へは一選手としての参加だが、中核になるのは間違いない

間のことを語り出すと、京子もタニーも涙を流した。

そして団体のコンセプトは「BE HAPPY!」。幸せになろうよ、ということらしい。組織から飛び出し、「ホント、切符の買い方が分からなくて地下鉄にも乗れなかった」（京子談）というだけあって、世間の荒波に揉まれまくった経験を活かした、地に足のついたコンセプトである。上がるリングのないレスラーがバイトして生活していた状況だったのだから、ファンとしてはレスラーに幸せになってもらいたいところだ。そんな『ネオ・レディース』の旗揚げ戦はアルシオンよりも早く、1月9日後楽園ホールである。そのタイトルが何と！「First Kiss」である。もはや、女子プロレス界の磁場は狂い咲いた！ 団体が増えたとか、レスラーが移籍したとかいう、勢力分布ではなくて、発想が従来の女子プロレスとは異なってきた。もっと、言っちゃえば脳味噌が変質した！

だがしかし！ これで「磁場狂ってるよぉ〜」と嘆いていたのでは、時代に乗り遅れているのかもしれない。「男に負けちゃいけねぇ」というブル・イズムを受け継ぐ京子の視界には、当然男子プロレスが入っている。夢はでっかく「全日本プロレス」出場である。しかし、名前は「新日本プロレスさんみたいになりたかったから命名した」と語るだけあって、理想は「この団体がプロレス界のトップになって、一般の人にもプロレスを認めてもらうようになること」と志は高い。京子はフロントとしてではなく、一選手として参加するという。巡業は地方を中心に月10試合程度に抑え、道場での練習に力を注いでいくという。

大量離脱後の全女を引っ張るのは中西＆高橋だ。素晴らしいので必見！

以上、両団体の毛色の違いはこんな感じである。それぞれの決定的な違いは一体何なのか？

『アルシオン』は「ヴィジュアル・ファイティング」という方向性を打ち出し、他団体とは一線を画した。はじめにコンセプトありきである。アジャ・コングが「ファイティング・プロデューサー」として手腕を振るい、女子プロ仕掛人と言われたロッシー小川が社長である。「理想としてのパンクラス」というのも頷ける。ヘッド・ハンティングや大がかりなイメチェンなど、ある程度大きな冒険もするようだ。

男子の新日本にあやかってつけたという『新日本女子プロレス』は道場での練習に重きを置く名実ともにストロングスタイルである。京子は「アルシオンさんとも他の団体さんとも仲良くやっていく」方針らしいので、その分、安定しているとも言えよう。

★磁場狂ってるなりの総括！

混迷の女子プロレス界を本誌が総括する！ そう思ったのはいいんですが、まだどっちの新団体も見てねえんでなんにも言えませ〜ん。えっ？ お前の磁場が狂ってるって？ そのとぉ〜り！ 所詮、「紙プロ」が時流に乗ったタイムリーな総括をやるのが間違ってるのです。総括は出来ませんが、要するに弱肉強食か？ 共存共栄か？ ということです。アルシオンのヘッド・ハンティング宣言で潰し合いの時代に突入しました。女子プロレス界は、10団体（男女混成を含む）を超えてしまい、必然的に食い合う方向に向かうでしょう。どうせリング外で抗争をするんだったら、ぜひ、女子プロレス界が活性化するような揉め方をしてもらいたいです。そんな素敵な抗争だったら歓迎します。狂っちゃった磁場だからこそ、そこからいい方向に転がっていけばいいだけのことなんです。

リング外の抗争も それが女子プロレス界の活性化につながるのであればそれは素敵な抗争である！

プラムの事故

全女倒産

新団体旗揚げ

…今だからこそ問う

女子プロとは何か？

戦慄の2部構成

「世間の中の女子プロレス」
アジャ・コング

「アタシの女子プロレス」
ジャガー横田

プラムの死、全女の経営悪化&大量離脱、一般週刊誌による「援助交際女子レスラー」バッシング、そして新団体が相次いで旗揚げ……息つく暇もなく荒波に揉まれまくった今年の女子プロレス界。本誌も「女子プロは興味ない」「ムダなページは使うな」などといった読者からの声には一切耳を貸さず、何度か女子プロレスネタを取り上げてきた。そもそも女子プロレスは男子プロレスとは何が異なり、何が同じだというのか？「男子の下」という位置づけで見られがちだが、果たしてそれは正しいのか？　一体、女子プロレスの本質には何があるのか？　かつてない混迷を迎えた今だらこそ、本誌は改めて女子プロレスを掘り下げます！　また、今後も引き続き「女子プロレスとは何か？」特集を組む予定です！

世間はプロレスに振り回されている！

平成のインテリジェント・モンスター
世間の中の女子プロレスを語る

アジャ・コング（フリー アルシオン）インタビュー

interview
Yuri Sato

――アジャさん、今日は寝起きですか？　眠そうですね。

アジャ　早起きをして、、仕事して、バタバタと。芸能の仕事で打ち合わせが一本あったんで。

――大変ですね。もともと、芸能はやりたかったんですか？

アジャ　プロレスに入ってくる最初の目的として「有名になりたい」というのがありますから。やっぱりTVに出たりするのは喜ばしいことですよね。自分の子供の頃なんか、「こういうことを出来るのは特別な人だけなんだろうな」って思ったんで。自分じゃプロレスやる気なんか全然なかったですからね。

――あ、そうなんですか？

アジャ　痛いの嫌いなんで（笑）。

――それがどうしてプロレスに入ろうと思ったんですか？

アジャ　長与（千種）さんに憧れてですね。ダンプさんにやられてやられて、それでも血を流しても起きあがって、最終的には勝ったりして。見事にプロレスの勧善懲悪の世界にはまっちゃったって感じですけど。それを見て「人間、諦めなきゃどうにかなるのかな」って。自分を活かすにはこの世界かなって思って。

――活かす？

アジャ　ハーフだとかいうことで、いろいろコンプレックスもあったわけで。だから、「自分は表に出ちゃいけないんだ」って思ってましたから。

――そこまで思ってたんですか。

アジャ　でも、そういう長与さんの姿を見てたら、逆に表に出て、自分を見

下してきたようなヤツらを見返してやろうって。後は有名になって、ブラウン管の中から、自分を見下してた人間に「ザマアミロ！」って絶対言ってやろうと思って。

——気持ちいいでしょうね。

アジャ　羨望の眼差しで見られるワケじゃないですか？　「どうだ、見たか！　ザマアミロ！」って、絶対言ってやるんだと思って。それには凄いと思われる人にならなきゃって思って。

——コンプレックスがバネになった部分って大きいですか？

アジャ　それはやっぱりありますね。

　力道山先生もそういう巨大なコンプレックスを抱えてたんですよね。コンプレックスは、ある程度以上の大きな存在になるためのエネルギーなんでしょうね。

アジャ　いつか世間にザマアミロって言ってやりたい人たちの方が強いのかなと思いますよね。

——背負ってるものも違うわけですからね。そういうバネがあったからこそ、今のアジャ・コングなんですね。昔はベビーフェイスってキレイで痩せてて華麗なプロレスをしてましたよね。一方、ヒールには一目でそれと分かる人たちが入ってたりして。見た目でも背負ってるものの違いがはっきり分かりましたよね。

アジャ　役割分担じゃないけど、見た目でそういうふうにさせられてね。でもね、今考えるとダンプ松本とかああいう人たちはすごい人だったなと思いますよ。あんだけ人を嫌な気分にさせるのは、今で言ったらシャーク土屋ですよね。だから期待を裏切らない人たちですよ。

——真面目な悪役ですよね。

アジャ　うん（笑）。私の人間との付き合い方の判断基準は信頼できるかできないかなんです。そういう部分では、土屋も信頼できますよね。そういう期待を背負って、毎度毎度嫌なことしてくれますから（笑）。期待を裏切らない悪役ですよね。そこもひとつのレスラーの凄さですよ。

——信頼を守るっていうことですね。

アジャ　レスラーの凄さって、ある意味信頼を守ることにもあるのかなって。プロスポーツってみんなそうじゃないですか？　イチローも「打率トップで打点王を取るだろう」という期待に応えて、タイトルを取ってくれたりすると人気にも繋がってくるんだと思いますよ。期待をかける方は勝手に期待をかけてるんですけど、それを守ってくれると「やっぱり凄いよな」って、なるじゃないですか。

——アジャさんは信頼のポイントはどこに置いてますか？

アジャ　自分のやりたいことしかやらないよっていう、わがままさ。

——やりたくないことを強いてくる相手はいませんでしたか？

アジャ　う〜ん、いたけど……リング上で自分を押し通してしまったら、自分の勝ちですから。

——自分を押し通そうとして、負けたことはないですか？

アジャ　ないですね。意地でも勝ちますから、何があっても。「リング上でやったもん勝ちだよ」とか思っちゃいますからね。お客がそれで認めちゃったらそれでありですからね。「私を止めたかったら体を張って止めて下さいよ」って。そこで体を張って止めようとしたのがブル中野じゃないですか？

結局、プロレスは大衆のものなんでしょうね

を見てたら、逆に表に出て、自分を見

——リングの上で主張をしあってたわけですね。出る杭は、リング外で打たれることが多かったんですか？

アジャ　そうですね……中野さんだけですよね、リングの上で押さえつけてきたのは。

——お客を納得させてという部分も含めてですね。話題は変わるんですけど、世間の中の女子プロレスについて考えてみたいと思います。ここ最近、週刊誌などでは女子プロバッシングが凄いじゃないですか？

アジャ　でも、実際にこうなり始めたのは8月にプラム選手のことがあって……それまでは女子プロレスなんて誰も見向きもしなかったじゃないですか？　それが事故ひとつでこうも変わっちゃうのは……面白い世界だなと思いますよ。女子プロレスに誰も見向きもしないという状況だったら、あそこまでの大騒ぎにはならなかっただろうし。何だかんだ言いながら「みなさん女子プロに興味あるんじゃないの？」って感じです。プロレス自体が、「スポーツなのか？　格闘技なのか？」って聞かれたら、「プロレスはプロレスだよ」って言うしかないですからね。プロレスっていう分類ですよ。それこそ街頭テレビの時代に力道山の試合を群がってみんなが見てて、プロレス自体は日本の国民に受け皿が出来てるはずなんですけどね。「好きなものは好

き」でいいじゃん。
　好きなのにこういう取り上げられ方しかされないのは、なんか悲しいですね。

アジャ　おじさんたちは女子高生見るのと同じ感覚なんでしょうね。

――若い水着のお姉ちゃんが飛んだり跳ねたりっていう（笑）。こういう形で出てくる世間の蔑視はどうですか？

アジャ　それはずっとついて回ってきたものだし、「プロレスはこうなんですよ」って説明しても、いきなり相撲とか野球みたいな扱いにはならないだろうなって思いますよ。表舞台には十分出てると思うんですよ。ただ、地位を確立していくのは各団体のやる作業であって。プロレス全部をひっくるめて「こういう地位なんだ」っていうところに持っていくのは、一生かかってもムリだと思いますよ。各団体が自分たちでどれだけ差別化を計っていくのかなっていう部分だし。プロレスっていうことを考えると、プロレスは良くも悪くも庶民に愛される。

――ほおっ！

アジャ　すごい好きなんだけど、好きだからこそメチャメチャなことを言ってみたりして。愛情の裏返しですよ、世の中の人は。

――大衆から愛されるプロレス！

アジャ　うん。結局、大衆のものなんでしょうね。大衆の一番の娯楽なんでしょう、きっと。

――アジャさんとしては「プロレスを通じて終生大衆に尽くす」って感じですか？

アジャ　大衆に尽くしてるふりをしながら、最終的には自分が尽くされてる（笑）。尽くしてるふりして、「お前ら最終的には私に振り回されてたんだ！ザマアミロ！」って（笑）。

――そこでもザマアミロですか（笑）。

アジャ　週刊誌がこういうことを書くっていうのは、いかにプロレスに振り回されてるかってことですよね。そういうことをネタにすれば雑誌は売れる。結局、世の中の人はみんな知りたがってる。素直になろうよって（笑）。素直じゃない人たちが数多くいるからプロレスって面白いのかなとも思いますけど。見る方も、やる方も素直じゃプロレスって出来ないですよね。

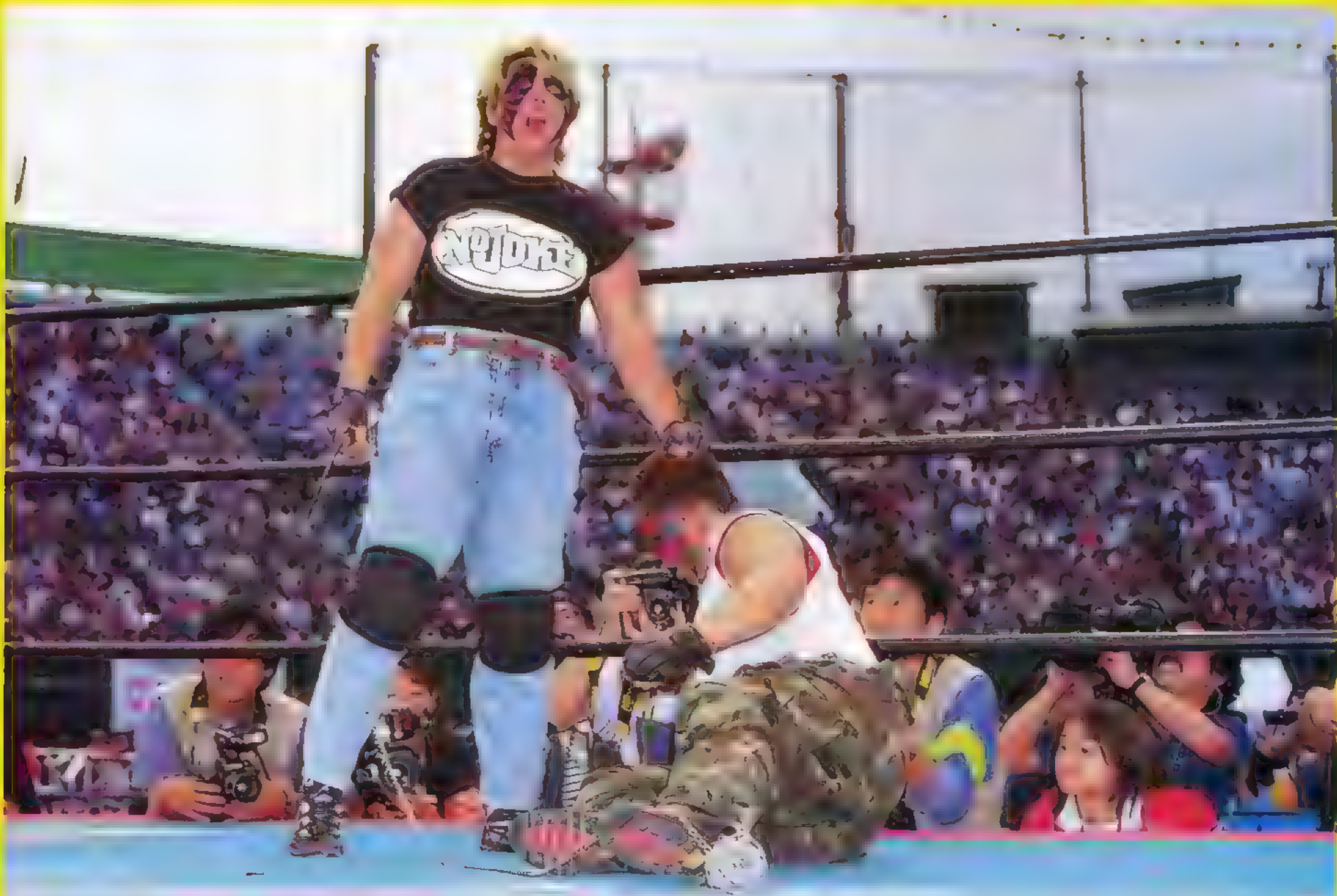
――素直にやっちゃったらプロレスはつまらないですよ。

アジャ　素直にやるのは野球とかサッカーにまかしときゃいいんですよ。みんながヒネくれたものの見方をするところで、プロレスっていうものがあれば、そこがプロレスのポジションじゃないかと思いますよ。

――いや～、女子プロレスでそこまで考えてる人は珍しいですよね。

（上）ブルと抗争を続けたアジャ　当時はかなりトンパチだった。盲腸手術からの復帰第一戦で、金網てっぺんからのボディプレスを失敗して手術跡が開いてしまい大出血。他にもフジＴＶアナウンサーの肋をヘシ折ったり、会場のイスを半分以上なぎ倒したりとイカレた暴れっぷりだった（下）フリーになってからは、シャーク土屋と抗争中。この抗争ではアジャがベビー・フェイスになってしまうから面白い

す」って感じですか？

女子プロとは何か？

見る方も、やる方も素直じゃ プロレスは出来ません

アジャ　考えなくても別にいられますけどね。考える方が変といえば変なのかもしれないけど（笑）。でも、そういう位置づけにありながらも、いざっていうときになったら「プロレスって凄げえな！」って言われれば、それで満足ですから。

――プロレスラーの凄さを伝えるのが、アジャ・コングのプロレスですか。

アジャ　うん。

――では、アジャ・コングにとって女子プロレスとは何ですか？

アジャ　女子プロレスは良くも悪くも一生付いて回るものかな。一生、尽くし尽くされて、夫婦みたいなもんですよね（笑）。

　ハハハ。

アジャ　でも、最近「レスラーって凄えな」って言われることって少ないと思うんですよ。特に女子プロレスラーは。今回の団体でも、どんな部分でもいいから、「こいつ凄げえな」って言われることをしてみなって。後は多くを望まないからって。レスラーは凄くなきゃいけないんだよって。

――ホントそうですね。それで、先日のアルシオン設立記者会見では『引き抜き宣言』をブチ上げたそうですね。

アジャ　はい。

――長い目で見れば、それが女子プロレス界の活性化につながるとは思うんですが。そこまで考えてました？

アジャ　考えてないです。自分のところが良けりゃいいと思ってるんで（笑）。「活性化するならすれば？」って感じです。出来ないところは消えてったらいいんじゃないの？

――消しますか。

アジャ　自分のところで凄げえこと出来ないヤツは「いいよ、辞めな」って感じ。

――凄いですね（笑）。

アジャ　プロレスラーっていう名前だけに寄り掛かって、楽してるヤツらはみんな「サヨナラ」しなさいって感じですよね。

――そこまで他団体に言い切りますか？

アジャ　他団体からの憎まれ役ですから。もう大ヒールですから。陰でコソコソ文句を言って、あっちとくっついたりこっちとくっついたりして。その時点でキミたちの負けだよって感じ。でも、最終的に何を見せて、誰が一番凄いかを見せるだけですから。選手に関しては、各個人が自分のやりたいことを極めてくれればいいです。例えば、関節技を極めたい人は極めてくれればいいし、ルチャ極めたい人は極めてくれればいいし、デスマッチ極めたい人は極めてくれていいし。ただし、「私は関節技は出来るけどルチャには付き合いません」っていうのはなしね。

かなりプロレスについて考えているアジャ。新団体アルシオンでは、ファイティング・プロデューサーとして手腕を振るう。レスラーとしてはフリーの立場で参加する。

――お互いを認め合うんですね？

アジャ　そう。「関節技の人とルチャの人が当たったときにも、キッチリしたレベルの試合は見せてください。この人と当たったらいい試合が出来るけど、あの人とはダメっていうのはレスラーとしてしちゃいけないことなんだから」って。そのためにはルチャを極める人も関節技は最低限きっちりやってもらわなきゃならないし。でも、自分の活かせるいちばんの部分を好きなだけ伸ばしてってくださいっていう団体なんで。

――えらい実験的な団体ですね。

アジャ　だから、記者会見翌日は新聞ごとに「女子版リングス」って書いてあったり、「女子版パンクラス」って書いてあったり、「女子版みちプロ」って書いてあるところがあって（笑）。

――ハハハ、何が何だか（笑）。

アジャ　確かにそうなんです。だから、そういうのが全部入ってるもの。

――それは馬場さんのプロレス観に近いですね。「すべてを含んだものがプロレスなんだ」っていう。

アジャ　そうかもしんないです。どれもプロレスですから。どっちもプロレスなんだからいちばんいいものを見せてねって。選手はキツイと思いますけどね。だから居心地はいいけどキツイと思いますよ。今みたいな話をして、「どうですか？」って選手に言うしかないんで。「おもしろおかしく生きるにはどっちがいいのかは自分で考えてね」って感じですね。ウチの団体のコンセプトとしては「みんなで働いて、みんなで儲けよう」っていうことですから。

――昔の建設会社の親方みたいですね。その気っぷの良さは。

アジャ　だから、団体にお金がいっぱい入るようになっても、会社でどうにかするっていう発想じゃなくて、みんなで分けようって。

――全女での教訓が生きてるんですね？

アジャ　うん。「働いたら働いた分だけお金がもらえるよ。でも、プロなんだから当然だよね」って。

　なるほど。今日はどうもありがとうございました。新団体、頑張って下さい。

【97年11月18日、東京・都ホテルにて収録】

「強い」とか「怖い」っていう
イメージだけでいいと思ってた
孤高の女帝が語る
「アタシの女子プロレス」
ジャガー横田
(Jd')
インタビュー
聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／浜田孝一
photographs by Koichi Hamada

女子プロレスで大事な三拍子は「スピード」「華麗さ」「テクニック」

——そもそもプロレスを始めたきっかけって強さへの憧れからですか？

ジャガー　全然ないですね。ただ、非凡に生きたいとは思ってましたから。

——非凡に！「他人がやらないことを敢えてやる！」みたいな？

ジャガー　そうですね。ただ、それがプロレスじゃなくても良かったのかもしれないですけど、たまたま見つけてしまったのがプロレスだったってことだと思いますよ。

——その非凡好きなところが女子初の髪切りマッチなんかにつながっていくんですかね？

ジャガー　あれは、会社からそういう話があったから、「あ〜、面白いですね」って。

——面白いですか！（笑）

ジャガー　人が出来ないようなことを経験するのは、チャンスであり刺激でありますし。

——髪切りマッチなんか初めてやったときはみんな驚くじゃないですか。他人を驚かすことで自分の快感になっていくんですか？

ジャガー　髪切りマッチに関しては、レスラーですから。レスラーしかこんな経験しないじゃないですか!?　女性であまり坊主にしないですよね。

——山田邦子ぐらいですかね。

ジャガー　あの人も芸能人ですから。一般人じゃないですからね。頑張った証が坊主であれば、それはそれで良かったと思ったんで。

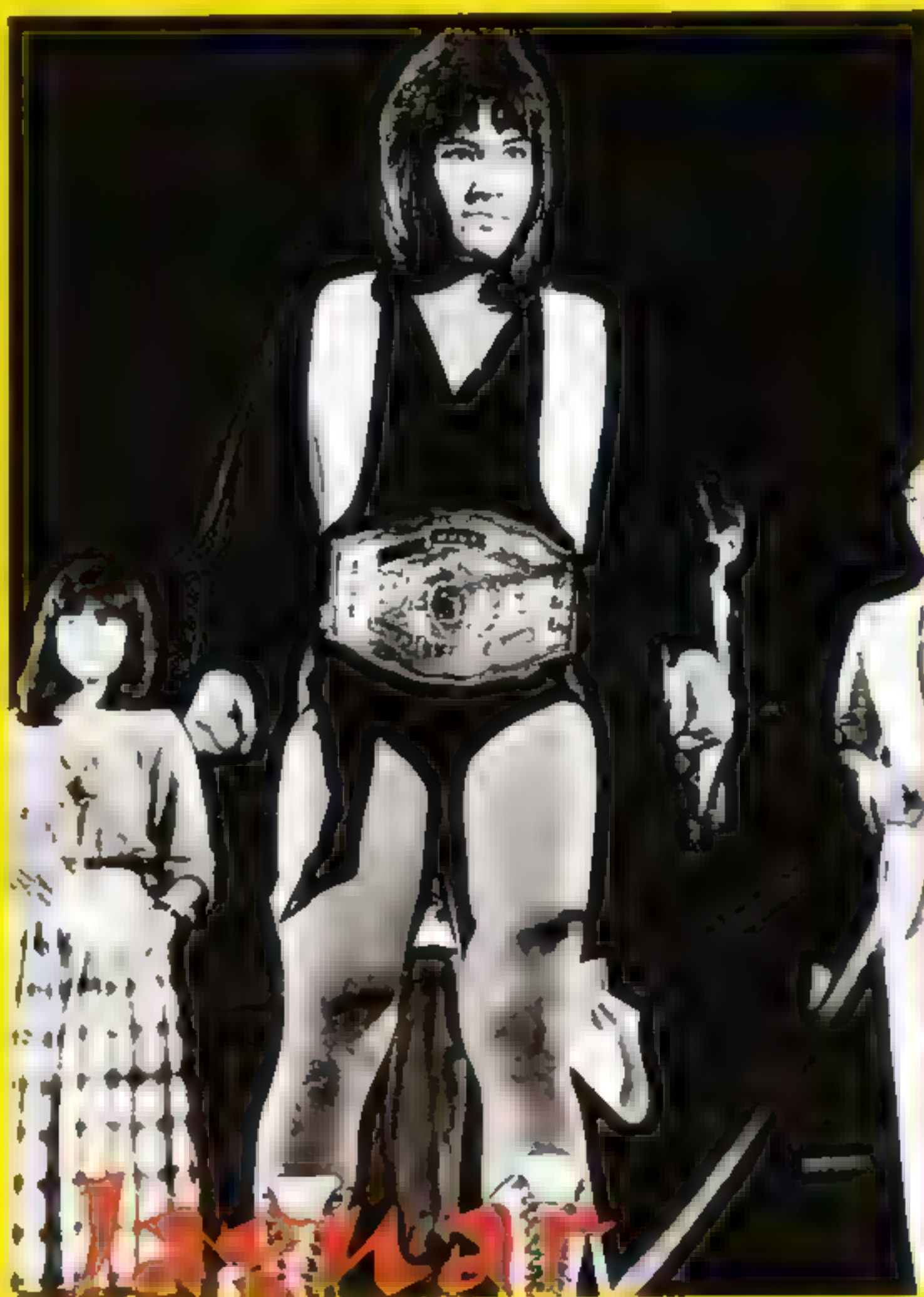
——それはそれで良かった！

ジャガー　負けるとベルトと髪を共に失うことになりましたから。悲しいと思うよりも、こういう意義がある試合をさせてもらった喜びの方があったんでね。自分なりに、負けてもベルトを取り返すと思ってましたから。

——ジャガーさん、女子プロレスラーは強くなければならないと思いますか？

ジャガー　三拍子じゃないですか？

——え？　何ですか、三拍子って？

ジャガー　女子の場合は「スピード」「華麗さ」「テクニック」っていう三拍子があったんですよ。男子にないものって「華麗さ」じゃないですか。でも、今は「パワー」が女子でも出てきてますけど。昔は「スピード」「華麗さ」「テクニック」の三拍子揃ってればいいレスラーになれるんじゃないかっていう時代だったんですね。

WWWAシングル王座に長く君臨したジャガー。ハワイ旅行に行った時も、両親を部屋から出してトレーニングをしたという伝説はあまりに有名

——他の選手が、どんなことしてるとか、どんなトレーニングしてるかっていうのは興味ないですか？

ジャガー　あんまり興味を抱かないですね。「アタシはアタシ」っていう考え方なんで。

——そこがジャガーさんの独自さの原因ですかね？

ジャガー　わからないけど。今は雑誌で情報を流してるから、必要なことかもしれないんですけど……そういうことって「アタシにとって必要ない」って思っちゃったものですから。

——必要ない（笑）。じゃあ、逆に必要なものってなんですか？

ジャガー　ハングリー精神ですね。そういうものがないと試合に出てくるだろうなって。「潰してやるぞー」っていう強い気持ちを持った時代があったものですから……。

——実際、やってました？

ジャガー　やってましたよ！　だから、負けなかったんじゃないですか！　出る杭は打つじゃないですけど、後輩には絶対抜かれまいと思ってやってきたわけですから。それが自分を守ってきた証じゃないですか？　今は、立場の違いもあるんでしょうけど「この子に抜かれたらどうしよう」って、そんなこと思わないですからね。

——J'dは新人が多いですからね。

ジャガー　だから、負けたことが抜かれたことになるのかっていうと、別問題になってきてますから。そういう部分でかき立てられるものが少ない。ベルトを巻いたことで、いろんな意味でかき立てられたことはありますよ。

——ハングリー精神って、強さへの憧れって意味でのハングリー精神ですか？　それともお金が欲しいとか、いい服着たいとか、強くなりたいとか、いろんな要素でのハングリー精神ですか？

ジャガー　いろんな意味だと思いますけど。お金に対する欲は昔からなかったですけど、繋がっていくじゃないですか？「これだけ給料を取りたい」と思ったら、実力と共にそうなっていった時代はありますから。タイトル戦持てば、タイトル戦が多くなるわけですから、そうなれば自然に付いてくることじゃないですか？　だから、気持ちの中のハングリーがいちばん必要だと思

いますよ。
——気持ちの中のハングリー？
ジャガー 何て言うのかな……アタシってプロレスのことに関しては負けず嫌いだったと思うんですよ。だから、今はそういう気持ちってどこまであるのか考えたときに、アタシが3試合目だったら4、5試合目よりはいい試合してやろうとかね。
——ああ、食ってやろうと。
ジャガー それだけはいまだにあります。1試合目に出てもいちばんインパクトのある試合をしようと。
——なるほど。最近、アルティメット大会というものが出てきてるんですけど、ご覧になってますか？ 最近は女子でも盛んですけど。
ジャガー 何回か見てます。プロレスとは違いますけど、あれなりの部分がありますからね。バリバリの時代だったら挑戦してたかもしれないですね。
——バリバリの時代に見たかったですね！ ジャガーさんのバーリ・トゥードは。ボクなんかが見てると、これジャガーさんが出たら勝てるんじゃないのかって思っちゃうし。
ジャガー 出て、勝っちゃってホントに強いイメージがつくと疲れちゃいますからね。ず～っと、強いイメージのままで、それを崩さないために頑張ってきちゃったんでね。
——そこは気を使ってましたか？
ジャガー 使ってましたよ！ 普段から。
——例えば？
ジャガー 笑わない！

10・22後楽園ホールでは、ライオネス飛鳥を破り、TWF王座を奪取した 観客の期待をいい意味で裏切るので、ジャガーの試合は見逃せない

——ガハハハハ！ 普段から笑わなかったんですか。
ジャガー 会場に行ったら余分な口を聞かないとか。
ブス～っとしてたんですか？
ジャガー 「強い」とか「怖い」っていうイメージだけでいいと思ってましたから。近寄りがたいとか話しかけにくいというものをずっと持ってましたから。
——うわ～。じゃあ、街を歩いてたとしても。
ジャガー そういうのは自然に出ちゃってたんじゃないですか。
——じゃあ、常にプロレスラーとして生きてたんですね。
ジャガー プロレスラーを背負ってるっていうのはありましたね。三禁があったから、飲屋街には行かなかったです。ウーロン茶とか飲んでも「何だ、お酒飲んでるじゃん！」って言われるのが、すごくイヤだったんで。
——でも、俗っぽい状況の中にいたらジャガー横田の魅力って出てこなかったんじゃないですか？
ジャガー そうかもしれないですね。興味も抱かなかったですから。だから、ジャガー横田が出来たんだと思いますけど。でも、ある程度の歳になると、それを否定したくなるわけですよ。「人間なんだよ」って。復帰してから、人間らしさを出した上で、プロでありたいみたいな部分があるから。
——背負ってるプロレスラーという重荷をちょっと軽くしたんですね。
ジャガー もし、弱く見えても弱さの中に何を出して行こうとかね。いまだに弱いっていうイメージはないかもしれないですけど。
絶対ないです（笑）。
ジャガー でも、今はいつやられてもおかしくない体しか持ってないから、逆にやられたときは「やられてかわいそう」って思われたいです。
——そうなんですか！（笑）
ジャガー 昔は絶対思われなかったんですよ。前の現役中は、やられても「いつかやり返すから全然平気」って思われたんですよ。プロとしては「やってるときは強く。やられてるときにはかわいそう」じゃないと見てる人が面白くないじゃないですか？ やられてるのに平気そうにしてたら、面白くないですよね？
—それはそれで、ありですけどね。
ジャガー まあ、アタシの体では否定することになるわけじゃないですか？ 現に痛いものですから。でも、プロレスは奥が深いですからね。最高のものってないじゃないですか？ そのためにいつまでもやれると思うんですけど。頂点に向かってね。納得しちゃったら終わるときですから。
——じゃあ、ジャガーさんが目指す形ってどんな感じですか？
ジャガー 毎回毎回自分の試合が、「今日の試合の中でいちばんよかったぞ」って言われ続けることじゃないですか？ それを目標に、試合・試合・試合やるってことが大切じゃないですか？
——例えば、緩慢な空気の中でもリングに上がって、観客の首根っこを掴まえて自分の方に目を向けさせるという作業がジャガー横田のプロレスである

八百長があるなら、アタシがジャッキー佐藤に勝てるわけがない

ということですか？

ジャガー 自然に引き寄せるものだと思いますからね。

——相手とプロレスしてても、常に観客と闘ってるという意識ですか？

ジャガー 相手であり、客であり、ですね。「飽きさせないプロレス」ですね。

——ジャガーさんはいろいろ一般誌の取材も受けてこられてましたけど、「八百長なんですか？」って質問は多かったんじゃないかと思うんですが、そんな時はどうしてたんですか？

ジャガー 「八百長じゃないです」って。ただ、「ルールに基づいて、受けるところから始まってますから」とは言います。

——何でこんなことを聞くかと言うとですね、ウチの雑誌で世間にはびこる「プロレス八百長論議」に牙を剥こうということで、プロレスファンじゃない人にアンケートしたんですよ。そしたら、半数以上が「プロレスは八百長だ」って回答しているんですよ。

ジャガー あまり、見ない人に限って言うわけですから。それで、八百長って言ったって、「あなた、この世界に入ったことあるの？」っていう話になるでしょ？ 現にアタシはWWWAのベルトをジャッキー佐藤さんから取ったわけですけど。もし、八百長があるならば、アタシがビューティー・ペアのジャッキー佐藤に勝てるわけがないわけですし。ルールに基づいた試合の中で、勝負を挑んで、勝ったら金星のように、アタシは取れたわけですから。その現実はアタシ自身が知ってることだから、言えるわけです。少なくともアタシ自身はね。

——当事者の言葉ですものね。こういう論調って、ある種プロレスへの蔑視だと思うんですけど、そういう見方に対して牙を剥くことはしませんか？

ジャガー 人気の表れなんじゃないですか？ だって、賛否両論、人気のある人も大嫌いな人も極端にいるわけですよね。松田聖子にしてもそうですし。そういう部分で、反響がないよりあったほうがいいんじゃないですか？（八百長って）言うのは簡単ですよね。

「目から闘っていた」というジャガー。「[illegible]が笑っていても、目が笑ってない」と言われることもあるそうだ。しかし、それもプロレスラーだからこそでなのあ[illegible]

そうじゃなきゃ好き好んでケガしてまで、やってないですから。

そんなジャガー横田のプライドって何ですか？「これがなくなったらジャガー横田じゃない」っていうものはありますか？

ジャガー スピードがなくなったらアタシじゃないんじゃないですかね？ でも、自分で自分を早いとは思ってないですから、別に。スピードっていうのは技と技の間隔が短いことが「スピード」って言うんですよ。

——そうなんですか？

ジャガー ダブルアームやってからフォールにいったり、フォールを返されてからパッとコブラツイストに入るスピード、そのスピードなんですよ！ それがノタノタしてると遅いんです。

——そこがジャガーさんにとってのプライドなんですか？

ジャガー プライドじゃなくて、みんなが早くなること。

じゃあ、ジャガーさんだけのプライドって何ですか？

ジャガー 何だろう？

事務局長の信包さん プロレスに関しては、絶対に妥協しないですからケンカになりますよ。

例えば？

信包さん さっき言ってた「プロレスって八百長でしょ」みたいなことを、すっごく怒りますよ。怒らせようと思って、わざと言うんですよ。本気で言ってるわけじゃないですよ。

ジャガー 「じゃあアンタ、早くリングに上がんな！」とか言っちゃうんですよ。

そういうところをボクらは見たいんですよ！ 女子プロレスラーも怒ってほしいですよ。

信包さん ボクはよく蹴られますよ。

ジャガー 信包さんはぶっ飛ばしたくなるタイプなんですよ。口が悪くて、ムカつくんですよ！ 年下のくせして！（笑）

——やっぱり、プロレスをバカにされると荒れるわけですね。

ジャガー プロレスを知らない人が何を言っても仕方ないと思います。知ってるヤツが影で言うのと、レスラーじゃないのに知ったかぶるヤツは嫌いです。

——「ああしろ、こうしろ」というのは違うよと。

ジャガー その部分はやったことのない人間が言っても、言うことは聞けないじゃないですか？ 経験者が語ることしか言うことを聞かないということです。

【97年11月7日、赤坂のアマンドにて収録】

世界で一番ニクイ奴！
理不尽大王こと
冬木将軍到来

今日はプロレスの話はなしにしようと……、まぁ私相手にプロレスを語ってもねぇ（笑）。

冬木　プロレス知らないの？

――えっ？　ええ（笑）。

冬木　ホントは何屋さんなの？

「これは冬木スペシャルだ！　ストレッチプラムとは角度が違うんだ」……さすが理不尽音頭を踊る……あ、踊ってはいませんでした。歌ってる人は言うことが違う！

ええっ!?　それはちょっと言えないんですけど（笑）。いえいえ、プロレスの知識浅いんで……。まだド新人なんですよ（ウソをつくのものも）。

冬木　じゃあオレが初インタビューなの？

――はい（またウソをつくのものも）。なので多々失礼があるかもしれませんが、そこのとこよろしくお願いします。で、私が抱いている冬木さんのイメージって、新日本に参戦してた頃で……。

冬木　新日本なんか行ってないよ。

――え、出てたじゃないですかぁ。

冬木　ちょこっとだけだよ。

――その頃ですよ。私の冬木さんのイメージが固まったのは。すごい嫌われ者役で（笑）。

冬木　きったねぇなぁ（笑）。アンタが嫌いなだけだろ、別に嫌われ者役だったわけじゃねぇよ。

――私ホントに嫌いでしたよ（笑）。

冬木　おい、ホントかよ。なんだよ、オマエ！

――いやぁ、あそこまで心底嫌われる人ってすごいですよねぇ、ホンットに。会場一致で大・大・大ブーイングだったじゃないですかぁ。

冬木　覚えてないもん。

――今まで見たヒールの中で、あの頃の冬木さんがナンバー1ですよ。あそこまで嫌われてる人はいないですよ。

冬木　だから何なんだよ。

（無視して）でも今はちょっと変わりましたね。もしかしていい人？って思うような所も少しあったりして、何か違うなぁ、私の冬木幻想が崩れていくなぁって思ったんですよ。でも今日お会いしてみてちょっと安心しました。

冬木　何で？

――え、怖い人なんで……。

冬木　オイ、怖い！

――ええ、怖いです。

冬木　怖くないっしょ、全然怖くないよ。

特にヒールの方なんて、リング上はめちゃめちゃ怖くても普段は優しいって方が多いじゃないですか。

冬木　オレは優しいよ。2人っきりになったらもっと優しいよ（笑）。

――えへへへ、へへへ～。

冬木　それは困るって？

――（話を強引に変える）前に邪道・外道選手を取材させてもらったことがあって、その時に冬木さんとはギャグセンスが同じだって言ってましたよ。

冬木　同じなわけねーだろ。あいつらがセンスあるわけねえじゃねえか。つまんないことばっかり言ってるだけだよ。普通の人が恥ずかしいことを平気で言うだけだよ。

――そんな人達の上にいるのが冬木さんじゃないですか。

冬木　仕事一緒にしてるだけだよ、あいつらと私生活まで一緒じゃねえよ。

――でも普段から仲がいいって聞いてますよ。

冬木　ひと言も口聞かねーよ。

――あらぁ～、どうしてですか？　外道選手なんてCWCで活躍したりと、結構いい働きしてんじゃないですか。

冬木　……（無言）。

――CWC？　あれ、WCWだ（笑）。

冬木　関係ねえだろ、オレには。

――でもギャラは冬木軍に入るわけですよね？　もちろん冬木さんが何%か抜いて……。非常においしいじゃないですか（笑）。

冬木　そんなことしねえよ。

――冬木軍って会社なんですか？

冬木　そうだよ。

――じゃあ冬木さん自ら営業とかやられる場合もあるんですか？

冬木　あるよ、人いないもん。

――一応、社長なんですよね？

冬木　そうだよ。“一応”って何だよ。

お金持ちなんですか？

冬木　なんでだよ（笑）。

――だってこないだ1千万円見せびらかしてたじゃないですか（笑）。

オレのことが嫌い？ それよりアンタ誰なんだ!!（怒）

冬木弘道

冬木弘道

オレのこと、「日本のプロレス界で一番いい人だ」って、みんな言ってるよ。

冬木 そういうこと言うなよ。金の話はするな！　金はない！　1円もないんだ！

——1円もないぃ？　だって1千万円あったじゃ……。

冬木 あれはテリー・ファンクの金！　オレの金じゃねーんだよ。

——でも負けたら大仁田さんに取られちゃうんですよね。大変ですねぇ。ホントの所、大仁田さんのことは、どう思ってんですか？

冬木 どう思ってるって？

——ホントは一緒に試合するのも嫌なくらい大嫌いとか？

冬木 そんなことねーよ、別に。話題になればなんだってやるよ。

——そういうとこが〝小ずるい理不尽大王〟って言われる所以なんでしょね。

冬木 誰が？　誰が言ってんだよ、そんなこと！

——みんな言ってますよ。

冬木 ウソつけぇ。アンタが言ってるだけだろ。誰一人、そんなこと言ってねえよ、初めて聞いたよ、今。

——ええ、たぶん私しか言ってないんですけど（笑）。でもずる賢いイメージありますよ、冬木さんって。

冬木 ずる賢くなんかないよ、ホントのこと言ってるだけだよ。〝小ずるい理不尽大王〟か、初めて聞いたよ。どっかで使おう（笑）。でも全部オマエの勝手なイメージだよな。よっぽどオレのことが嫌いってことだな。今日も来るの、嫌で嫌でしょうがなかったんだろ？

——いや、そ、そんなこたぁないですよ。楽しみでたまらなかったです。

冬木 ウソだぁ（笑）。

——いや、これホント！　で、話は変わりますが、今回J'dと一緒に巡業されたわけですが、冬木さんって何かと女子プロと縁が深いですよね？

冬木 ええっ、まぁ言われてみればそうだなぁ。深い意味は何にもないよ。

——女子と巡業行く方が楽しいのかなって思ってたんですが……。

冬木 何にも関係ねえよ。

——試合終わった後、飲みに行ったりとかしないんですか？　ギャルと飲む酒はうまい！　とか着って（笑）。

冬木 ……試合終わって、リング片付けて帰るの毎日11時、12時頃て、次の日の出発が7時とかそんな時間なんだぞ。遊んでる暇なんかねえだろ！

——はぁ〜、顔に似合わず地味な巡業なんですねぇ。しかもリングの撤収作業までやられてるなんて驚きです！

冬木 リング片づけはJ'dの女がやるよ、J'dのリングだから。オレは手伝うだけ。

——それにしてもイメージ違いますねぇ。試合終わったら誰よりも早くサッサと帰る人だと思ってました（笑）。

冬木 何バカなこと言ってんだ、そんなことできるわけないだろう。

——らしくない発言ですねぇ（笑）。しかしなんでまた冬木軍初巡業の地が北海道なんですか？

冬木 それ喋ったらそれだけで1時間経っちゃうから言わない。

——北海道が好きなんですか？

冬木 嫌いだよ。オレ、寒いとこ嫌いだもん。

——浜松（インタビュー場所）は暖かいですねぇ。

冬木 暖かいって言ったらハワイだよ。

——そう！　ハワイですよ。でもハワイで試合やっても誰も来ませんよ（笑）。

冬木 バカ、ハワイには遊びに行くんだよ。

——ああ、遊びに行くんですかぁ。そういえば以前、冬木軍でハワイに遊びに行ってましたよね。普通は合宿とかやるんじゃないんですか？

冬木 いいんだよ、ハワイは遊びに行く所なんだから。

——そういう所、冬木さんらしいですよね。ファン目から見たら「練習しないで遊んでばっかで、そのくせ何エバってんだよ！」と、ますます嫌な奴度アップって感じで（笑）。

冬木 何言ってんだよ、随分オレを悪い奴に仕立てあげてるなぁ。

——冬木軍をちゃんとした団体にするつもりはないんですか？

冬木 オレは最初っから団体なんか作る気なかったんだよ。小っちゃい団体なんてあってもなくても一緒だからな。たまたま会社でやる方が都合が良かっただけで、そしたら団体って言われるようになっただけなんだから。オレはこの会社が無くなろうが潰れようがどうだっていいわけ。もっと大きいものができればそれでいいわけ。それに向かってこちょこちょと小さい仕事とかもやってるんだよ。

——ゆくゆくはどういうポジションになりたいんですか？

冬木 別に社長じゃなくてもいいんだよ。ただオレは引退してもプロレス界に関わっていたいだけ。相撲で言う引退＝廃業じゃなくて、引退したいだけ。

——えっ、引退したいんですか？

よ。楽しみでたまらなかったです。

なことできるわけないだろう。

い奴に仕立ててあげてるなぁ。

――えっ、引退したいんですか？

冬木　そりゃあできたら引退したいよ（笑）。できねえからやってんじゃねえか。そりゃ40歳までに引退したいよ。

――身体キツイんですか？

冬木　そんなんじゃなくてな、やっぱ40歳過ぎてんのに人前で裸さらすのはよくないよ。

――そんなぁ、40過ぎても現役の人、いっぱいいるじゃないですかぁ。

冬木　オレから言わせると、ああいうのは見苦しいよ。

――グラン浜田さんとかなんか、まだまだすっごいいじゃないですか。

冬木　あ〜ん？　小人だもん、しょうがないよ。

――じゃあかつての師匠、馬場さんは？

冬木　……。

――ノーコメントで逃げますか（笑）。

冬木　言いようないだろ、あそこまでいったら。何を言うんだ、アンタ。じゃあアレ見て『格好いい♥』とか思うのか？（笑）

――うわぁ、激辛なコメントですねぇ（笑）。では、かつての師匠パート2、天龍さんは？　天龍さんはもう50歳過ぎてますよね？

冬木　ぬぅ〜？　すごいな（苦笑）。天龍さん、まだ47歳だよ。めちゃくちゃだな、アンタ（笑）。

――あはははぁ、天龍さんって、まだ40代なんですかぁ。

冬木　スゴイな、おまえは（笑）。おまえ、親指長いな〜。

――ええっ、突然何ですか!?

冬木　オレは短いんだよ。

――冬木さん、手ェ小っちゃいですねえ。私の方が大きいですよ。

冬木　そんなワケねえだろ（笑）。親指の長さとアソコの長さは比例するらしいよ。

――ええっ!?　じゃあ冬木さん、短いってことは……。

冬木　短いの嫌いかっ！

――って言うか、セクハラするとこも、やっぱりイメージ通りですねぇ。でも今日は私の抱いてる〝冬木イメージ〟が壊れなくて良かったですよ。

冬木　だからアンタだけだって、そう思ってんのは！「日本のプロレス界で一番いい人ですよ」って、みんな言ってるよ。

――まぁ、冬木さんみたいなキャラは、実はいい人でなくちゃいけないんですけど……。

冬木　いい人だろ？　でも嫌いなんだよなぁ（笑）。

――いい人じゃヒールは務まりませんからね（笑）。でも、嫌いじゃない……、と思いますよ（笑）。

冬木　じゃあ好きなのか？

――ええ、嫌い嫌いも好きなうちって言いますから（笑）。

冬木　さっきから勝手なことばっかり言いやがって。何なんだよ、このインタビューは！　いい加減にしねえと、このテーブルひっくり返すぞ！

【97年11月15日・浜松市体育館にて収録】

■東芝EMIから、ついに冬木軍のビデオ「理不尽ロード」が出たぁ！　旗揚げ戦から8月まで、冬木軍の試合がてんこ盛り！　要必見です!!　価格：9990円（税込）

EMPEROR'S URBAN NIGHT

海援隊★DX

MEN'Sテイオー、帝王学を語る

ケイエイ

のものも
by Nomonomo
撮影／斉
photographs by Yuri Saito
写真／
政文
by Masafumi Endo

──今、一番リアルな話題といえば、やはりみちプロの経営危機問題になるわけですが。

テイオー　おお、いきなり確信に迫っちゃうんですか（笑）。

──ええ（笑）。でも、正直言ってというか、ホントつい最近まで「これはみちプロの陰謀だ、大がかりなギャグだ」と思ってたんですけど、どうやら大マジみたいですねぇ（笑）。

テイオー　そうですね。そうですねぇって何か他人事みたいですけど。何か他人事っぽいんですよね。だって、サスケが一番最初に記者会見したじゃないですか、アレも知らなかったんですよ。だから夜、記者の方から電話をもらって「お宅の社長がこんなこと言ってたけど、本当ですか？」って聞かれっちゃったんだけど、こっちは記者会見やったことも知らないから（笑）。

──寝耳に水だったわけですね（笑）。

テイオー　そう（笑）。でもウチらはレスラーであって、役員でもなんでもないから経営的なことは何にも知らされてないわけですよ。言われてたのはギャラのことだけ。「もうちょい待ってくれ」とかそういうことだけだったから、逆にその記者の人に「もうちょっと詳しく教えて下さい」って聞いてたくらいで（笑）。

──ナハハハハハ、そりゃ気になりますもんね。

テイオー　でもね、どこまで本当かどうかわかりませんけど、「赤字の原因は海援隊の台頭」みたいなことを第一にあげてたじゃないですか。あれはちょっとカチンと来ましたね（笑）。

ああいう言い方するんだったら海援隊はみちプロから抜けるよ

──海援隊のせいでお客さんが減ったということなんですか？

テイオー　そういうことですよね、でも違うと思うんですけどねぇ。だって今年の夏なんて12人で興行やってたんですよ。最終戦の仙台なんて10人ですよ。全5試合、シングル……UWFじゃないんだから（笑）。それでなくてもウチは6人タッグで売ってる団体なのにね。それで12人で興行やんなくちゃいけなくなって、誰がいるのかと思ったら、サスケはいない、デルフィンはいない、人生もいないでしょ。それでウチらだけでやらされて。それでも少ない人数でも頑張ってやりましたよ、みんなね。でも頑張った奴らに向かって、あんな事言ってね、じゃあアンタらだけでやればって感じですよ。

──それは解せないですよね。

テイオー　ええ、だからそれこそ東郷さんと話すのは、ああいう言い方するんだったら、じゃあウチら海援隊はゴソッと抜けるよと。それこそサスケ&デルフィンでやってみればって。まぁ1カ月くらいは、お客さんも入るかもしれないけど、それを1年、2年続けてごらんなさいって。実際、ここ1、2年間、ずーっとみんないないでしょ。サスケは頭蓋骨折ってからしょっちゅう休むし、デルフィンはいなくなっちゃうし、人生は他団体行っちゃうし、タイガーもケガして、浜田もケガしてって、そしたら残ってる奴ほとんどいないよ（笑）。

──しかも3人戻ってきて、ドカーン

と客足が伸びたわけでもないし……。

テイオー　そうですよ、3人が戻ってきて、今までの2倍客が入ったっていうならまだしもね、そうじゃないんだから。

―東郷さんも「この夏は海援隊なくしてはみちプロは語れないよ」って言ってましたしね。

テイオー　この夏というより、ここ2年は海援隊だと僕は思ってますから。話題を出してるのも、常にウチらからの発信であってね。それを正当に評価しないウチの会社のスタイル、そういうのはちょっと飽き飽きしている所はありますよね。ホントに如何に会社に

MEN'S TEIO

海援隊スタイルはみちプロが大事だからこそ打ち出したのに

嫌われているかっていうことをつくづく感じますね。

―海援隊って、都合よく使われちゃってる感はありますよね（笑）。

テイオー　そうなんですよ。

―でもそう思っていながらも、外へ出て行こうとはせず、みちのくにとどまっている海援隊って、個人的には非常に好感持てますけどね。

テイオー　気が弱いんですよ。

―ナハハハハ、そんなキャラじゃないって（笑）。

テイオー　そろそろ出ていくかもしれませんよ（笑）。今なんか会社の対応も悪いし、ギャラも遅れているしね。じゃあ何で残ってるかと言えば、ウチらもみちのくなんですよね。別にみちのくプロレスが嫌いなわけじゃないですからね。そりゃ正規軍と抗争はしてますよ。でもそれはレスリングスタイルやポリシーの違いで言い合ってるだけであってね。だって「吉本興業みたいなプロレスがしたいんだ!」って言う人がそこにいて、ウチらは「それは違うんじゃない」って言ってれば、それは揉めますよね。ただそれだけの話ですから。デルフィンにしたら、やっぱりみちのくプロレスを愛しているからこそ、そういうスタイルがいいと思ってるんだろうし、ウチらもみちのくプロレスが大事だからこそ、それじゃ飽きられるからって海援隊スタイルを打ち出したわけだし。

―どっちもみちのくを愛しているからこその抗争なんですね。

テイオー　そう。今は経営危機だからこの案はできないんですけど、景気がいい頃から僕がずーっと言ってるのは、どんどん新弟子をとってね、どんどんレスラーにしていけばね、例えばサスケとデルフィンが楽しいプロレスやって、セミでウチらが激しい試合やるって言ってもできるじゃないですか。ウチらとデルフィンが絡まなきゃいいんですもん。

―そうですよね。選手層が厚ければ、それも可能ですよね。

テイオー　いちファンとして言わせて頂くと、興行として一番完成度が高いのは、やっぱり全日本さんだと思うんですよ。まぁ、僕が全日本ファンだっていうのもあるかもしれないんですけど（笑）。永源さんと荒川さんの試合みたいにね、何試合かのうちの1試合はお笑い系の試合があった方がいいけど、

それがメインでいいかっていったら、

テイオー　ぶっちゃけた話をしますと　でね（笑）。

テイオー　それはね、全女の残った人

それがメインでいいかっていったら、やっぱり最後はビシッとした試合を見せてもらいたいと思うし。だからそういう興行形態をみちのくもできるのが一番いいと思うんですよ。

――私もお笑い系の試合はあった方がいいとは思いますよ。ただし全部が全部そうじゃ嫌ですね、やっぱ。

テイオー　そうでしょ、お笑い系をやりたい人だけがやればいいんですよ。サスケだって今さらやりたくないと思うし、浪花だって嫌々やってるんだと思いますよ。デルフィンがお笑い系やるのは否定しませんよ。ただそのために、みんなが嫌々それをやるのは間違ってますよ。

――う～ん、その通りですよね。

テイオー　だからそれこそ先行投資をして……、何がリストラだ！　バカ社長（笑）。ね、先行投資をしてね、そういう部分を作ればいいじゃないですか。

――実におっしゃる通りです。ちょうどこの号が出る時分は、経営危機を乗り切る大事なシリーズ中なんですよね。

テイオー　そうですね。実際はね、全女さんの負債額、10億とか聞いてますけど、それに比べますとウチはそんなに多くはないと聞いてます。だからそういう意味では楽観視できるんで、今回のシリーズで挽回するしかないと思いますけど。

――経営危機に陥った原因は何だと思います？

テイオー　ぶっちゃけた話をしますとね、儲かった時期はいつなのか？

――2年目じゃないですか。

テイオー　2年目っていうのは、僕は当時から言ってたんですけど、ブームですよね。みちプロブームの年だから、その年を参考にしてもしょうがないんじゃないかなって言ってたんですよ。

――おお～、実にその通りですね。

テイオー　旗揚げした年なんか100人くらいしか入らなかったですよ。それが新日本のJカップ効果で、500人入るようになった。で、翌年は落ちて300、200人になりました。それをどちらに取るかですよね。ブームに比べて客足が落ちたと見るか、1年目に比べて100人アップしたと見るか。僕はどっちかというと、後者の見方なんですよね。

――んな～るほど。こうやって聞いてると、サスケ社長よりテイオーさんの方が経営者に向いてるような気がしますね（笑）。

テイオー　一応、大卒ですから（笑）。しかも経営工学科っていう、工学部なんですけど、経営学あるとこにいたんでね（笑）。

――どうりで（笑）。

テイオー　ええ、まぁ、そういうことで、会社は余計な所に金をかけ過ぎたんじゃないかなと思うんですよね。例えばリムジンを買ったりとか、あれは解せないですよね。僕は1回も乗ったことないっていう、そういう妬みもあるんですけど（笑）。だからTAKAがあのリムジンを壊した時は嬉しかったですよ。ただ嬉しかったけど、金がない時に壊してどうすんだっていう。

――どっちみち修理代は会社持ちでしょうからね。

テイオー　盗んで売った方が良かったね（笑）。

――じゃあ最後に、話がまた戻っちゃうんですが、同じ経営危機、給料の遅配を言われてる全女は半分以上の選手が出てしまったわけじゃないですか。同じ状況下にいて、海援隊がみちプロを出ないっていうのは、先程言ったようにみちプロを愛しているからだと……。

テイオー　いや、それはわかんないですよ。

――あれ。あれっ!?

テイオー　それはね、全女の残った人が偉いとか出ていった人が悪いとかっていう意味じゃなくて、レスラーだって人間ですから、生活がかかってくるし、しかもレスラーは通常の仕事よりも身体を酷使するわけですよ。そういう仕事を半年間やって一銭も貰えなかった。で、その間会社から「悪いね」っていう言葉すらなく、顎で使うようなことされたらね。って全女がどうだったかは知りませんよ。でもそういうことだったら出て行ってもしょうがないと思うし、プロですから。アマチュアで試合やることで満足するんだったらお金貰えなくてもいいと思うんですよ。だけど、それだけ価値のあるものをやってるっていう自負があるプロであるのなら、お金のもらえる所に行くのが必然的なことだと思うし。

――ごもっともです。

テイオー　だからウチで言うと、タイムリミットは12月ですね。12月過ぎてもギャラが出なかったらウチら（海援隊）だけじゃなく、考えるレスラーも出てくると思いますよ。ただウチらも客が入るように頑張るしかないと。ウチらは悲しいかなレスラーだから、いい試合するしかないんですよね。だから今度の全国シリーズで、少しでもいい試合をして、お客さんに喜んでもらえるように頑張るしかないですよね。僕らだってみちプロ潰れて欲しくないですから。

――クゥ～ッ、最後まで、実に的を得たインタビューでした（笑）。

【97年11月14日新宿区アマリロにて収録】

ヨネ　クフッ、何か照れますね。あ、そうだ。実はこれ私の『紙プロ』ラストインタビューなんですよぉ。
ヨネ　あら、そうなんですか。僕もちゃんとしたインタビューは初めてなんで、最初と最後で、何か運命的なモノを感じますね。社長風に言うと（笑）。
石川　なに？
ヨネ　いえ。まさかそちらにいらっしゃると思わなかったんで（笑）。
ボンジョビ島田　もう、早くやって！
――あい。やっぱりまずは先日改名された、そのモハメド・ヨネというリングネームについてなんですけど……。この名前はかなり衝撃的でした。
ヨネ　そうですよねぇ。ふざけてるって言われるかもしれませんが、別にふざけてつけたわけじゃないんですよ。モハメド・アリにあやかる部分と、こういう名前だと名前ばっかり注目されちゃうわけじゃないですか。それを自分に対して頑張れ、みたいな。
――んんん？　何言ってるか全然わかんないよ（笑）。
ヨネ　わかんないっスよねぇ（笑）。まぁ自分を変えたいっていうのが一番だったんですよ。
――ホントに自分で決めたんですか？
ヨネ　そうです。で、どうせ変えるんだったらインパクトのある名前にしたいなって思って。今まで本名でやってきたけど、ファンから覚えられてないんスよ。顔と名前が一致しないみたいで。アレクだったら〝スキンヘッドでアレクサンダー大塚〟、インパクトあるし覚えやすいじゃないですか。最初はアレクも「アレクサンダー大塚ぁ？」って言われてたんですよ。けど、今はもう実力もついてきて名前だけで判断されなくなるわけじゃないですか。僕も今は「モハメドぉ？」って言われてても、実力がついてくれば名前なんか関係なくなると思うし。

最初はキワモノでも実力がついてくれば関係ない！

――他にどんな名前が候補にあがってたんですか？
ヨネ　クフフ、カロチン米山とか（笑）。
――ナハハハハハ、カロチン！（笑）
ヨネ　あとローリングサンダー米山ですよね。でもコレはあまりにもアレクサンダーとかぶるんでやめました。あとヨネ・トラボルタ。
――ナハハハ、それはふざけすぎだ。
ヨネ　まぁ何にせよ、最初はやっぱりキワモノと思われちゃうかもしれませんがね、でもどんなことにせよ注目されるのが一番だと思うんで。
――とりあえずは目立ったもん勝ちですからね。で、待ちに待った復帰戦を先日11・5、後楽園ホールで行ったわけですが。長かったねぇ、8カ月。
ヨネ　いや、11カ月です。
――まぁ約1年だ。長かったねぇ
ヨネ　もう語るも涙って感じで。
――そりゃ辛くないわけないもんね。でも普段そういう部分を出さないキャラじゃないですか。実は陰で泣いてたりしてたとか？
ヨネ　結構泣くんですけどね（笑）。そういう部分はあんまり見せたくないなって思いますからね。暗～く落ち込んでたりしたら周りの人も嫌じゃないですか。心配されるのも嫌だったんで、会場でも務めて明るく振る舞うようにしてました。
――でも逆に明る過ぎて「ホントは何ともないんじゃねーか」って思われたりして（笑）。
ヨネ　それはありますよね～（笑）。
――ま、それもキャラクターだからしょうがないのかね（笑）。でもケガしてからリング上がるの怖くなったりしませんか？
ヨネ　それはないですよ。これは本当です、別に強がってるわけじゃなくて。
――いつ死んでもいいやと？
ヨネ　そうですね。
――意外とかっこいいこと言いますね（笑）。えっと、じゃあ初インタビューなんで、みんなまだヨネさんのこと知らないと思うので……。
ヨネ　初めまして、モハメド・ヨネと申します。
――って、そういうことじゃなくって（笑）。そもそもなぜ、藤原組の門を叩

前日に参戦を知らされた割には、成瀬と激戦を繰り広げたモハ。リングスの会場で「モハメド・ヨネ～」のコールが聞けるなんて！

Mohammed YONE

藤原組で、組長の元で学べなきゃ
レスラーになる意味はないと思っていた

いたか？

ヨネ　よく島田さんに言われるのは「近いから来たんだろう」って。

——自宅は埼玉県でしたっけ？

ヨネ　そうです、藤原組の道場（当時・足立区）から、そんなに遠くなかったんで、最初は通ってたんですよ、原付で。

——通いぃ　凄玉の練習生ですねぇ。

ヨネ　そうスねぇ。でも結局一度泊まったらズルズルと、いつのまにか道場の番人みたいなね。

——ほぉー。で、そもそもなぜ藤原組に？　というかレスラーに？

ヨネ　小さい頃からずーっと見てて「すごいいな、かっこいいな」って思ってて。

——誰に憧れてたんですか？

ヨネ　僕はロード・ウォーリアーズが好きだったんですよ。

——ウハハハ、何かイメージ違うなぁ。

ヨネ　そうスか（笑）。メチャクチャ強かったじゃないですか。で、高校卒業するくらいにはずっとUWF、組長のビデオばっかり見てて。このまま普通の人生は送りたくないなぁ、何かやりたいなって思ってて。

——で、やるなら藤原組だと、心に決めてたわけですか？

ヨネ　藤原組しか考えてなかったんで。藤原組で、組長の元で学べなきゃやりたくないって思うほどでして。

——入門テストはあったんですか？

ヨネ　前の日に電話かけたらちょうど石川さんが出て。「明日セミナーがあるから終わるくらいに来たら」って言われて。

石川　そしたらパンタロン履いたすごい格好の男が来て。

島田　すごいパンタロンで、道場の中、バイクでブゥ〜ンって回って。

ヨネ　回ってないスよ〜。高校生の時にも道場1回行ってるんですよ。身長は今とそんなに変わらないんスけど、とにかくヒョロヒョロで。「太ってからもう1回来い」って言われて。それで太って高校卒業して関節技セミナーの時に行って、組長、セミナー終わって近くの喫茶店でごはん食べてたんですよ。そこに挨拶しに行ったんですけど、僕が挨拶しに行く前に挨拶しに来た奴がいたらしいんですよ。そいつは僕よりごつかったらしいですけど「ダメだ

——自宅は埼玉県でしたっけ？
ヨネ　そうです、藤原組の道場（当

——通いぃ　凄玉の練習生ですねぇ。
ヨネ　そうスねぇ。でも結局一度泊ま

に？　というかレスラーに？
ヨネ　小さい頃からずーっと見てて

がいたらしいんですよ。そいつは僕よりごつかったらしいですけど「ダメだよ」って言われたらしいんですよ。

え!?　何で？

ヨネ　その時はちょうどごはん食べる前でイライラしてたんでしょうね。僕はタイミングよくて、ちょうどごはん食べ終わってお腹いっぱいになった時だったから「あ、ホント？　じゃあ明日から来れば」って言われまして。

——運いいですねぇ（笑）。

ヨネ　それでその日みなさんに挨拶していくっていうんで、緊張しながら挨拶したら掃除手伝っていくことになって。で、そん時パンタロンだったんで、それじゃまずいなって思って、ちょっと折ってパンタロンじゃないように見せてたんですけど。

——ナハハハ、折ってもパンタロンはパンタロンだけどね（笑）。

ヨネ　「すごいパンタロンの奴が来たよー」って言われてましたからね。

——伝説の男だったんですね（笑）。でもヨネさんは環境に馴染むのが早そうだからねぇ。

ヨネ　クフフ、僕は1週間ではじけちゃいましたからねぇ。

で、一応、一応ってわけじゃないですけど、組長に憧れてこの世界に入ってきて、組長がいないバトラーツに入る。これは、組長好きのヨネさんとしてはかなり悩む決断だったんじゃないですか？

ヨネ　ええ。だから即決はしてないんですよ。で、考えたものの、まだレスラーとして何もやってないんでこのまま辞めるわけにはいかないなと。

最終目標は団体を超越したレスラー　プロレス界にモハメドあり！

バトラーツにかけてみようと。確かにバトラーツは未知なだけにいろんな可能性がありますもんね。旗揚げ2年目の今でもそうじゃないですか。そして、時期世代を背負う一人がヨネ！　アナタなわけですよ。そんなヨネちんにお聞きします。ゆくゆくはどうありたいと思うんですか？

ヨネ　ゆくゆくは……やっぱり組長みたいになりたいですね。そうなると、行き着くところは組長ですね。今の組長じゃなくて、僕らが見ていた当時の組長。

欠場中、アレクにドンドン差を付けられていくのは、めちゃめちゃ心細かったんじゃありませんか？

ヨネ　逆にそれが励みになりましたよ。アレクのこと聞かれるのも全然嫌だと思ったことないですし。それが僕の性格なんでしょうけど。だから僕ももっともっと頑張って早く復帰してって、常にいい方に考えてこれたんで。

——アレクとは周りがライバルに仕立て上げただけで、本人はそんな風には思ってなかったんだ？

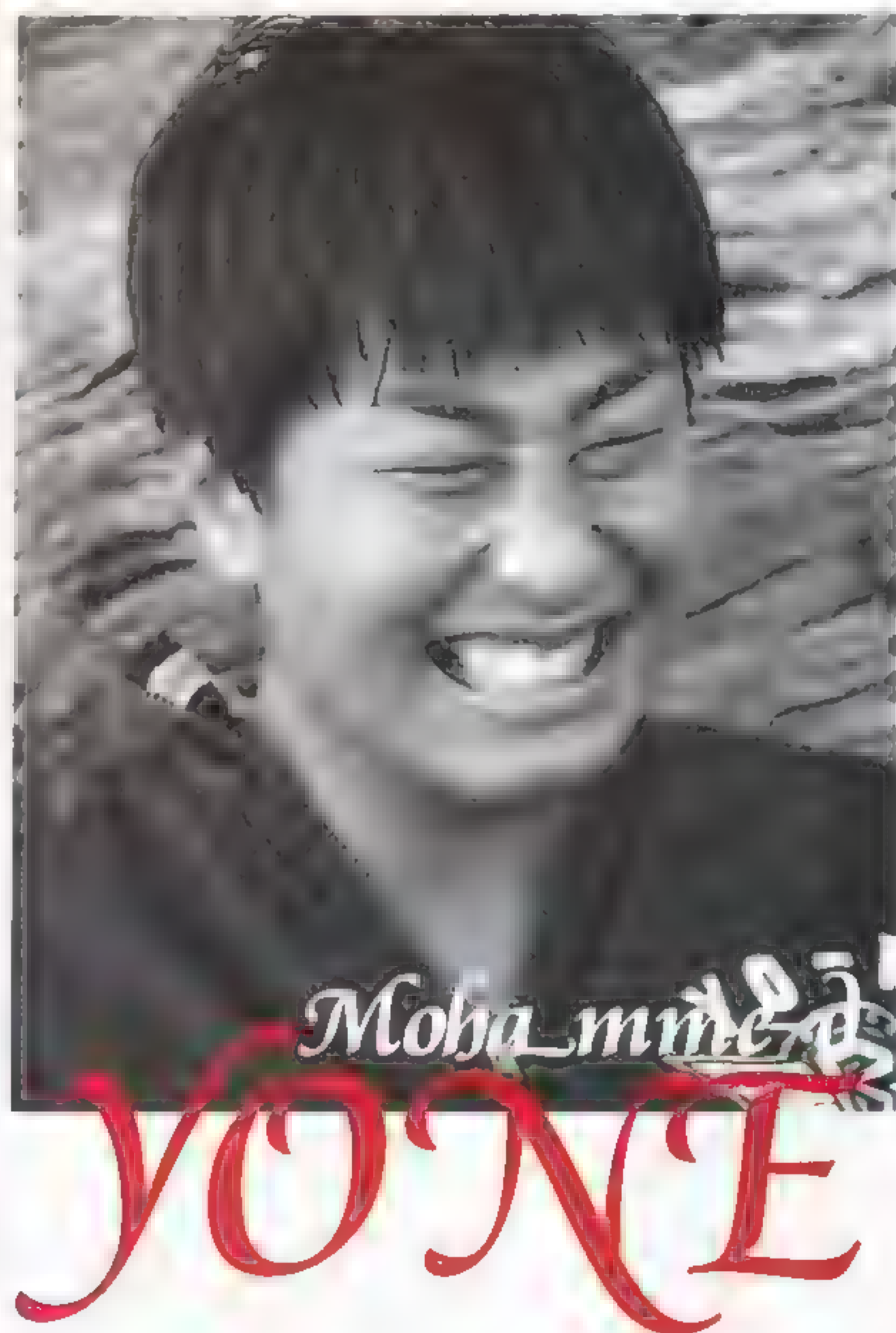
ヨネ　いや、ライバルですよ。ライバルでもあり、プライベートでも良き友でもあり、僕としては目標でもあり。

——とりあえず身近な目標はアレク。

ヨネ　そうですね。高い目標は、以前ある人とある所で「この2人のシングルでメインを張りたいねぇ」って言ってたんですけど、もしその人が今でもその気持ちでいてくれたら……。

——今はまだ名前を出すべきでない人なんですか？

ヨネ　その人がどう思ってるかわからないんで。

Mohammed YONE

——では、最終的には？

ヨネ　団体を超越したレスラーになりたいですね。バトラーツのヨネじゃなくて、プロレス界にモハメドありと。

——えっ、一生、モハメド・ヨネでいくんですか？

ヨネ　ダメですかぁ？（笑）

……では、最後に復帰を心待ちにしていたファンの皆さんに一言。

ヨネ　休んでる間もずーっと励ましのお手紙を書いてくれた方、すごい励みになったんで、この場を借りてありがとうと言いたいですね。あと、後楽園ホールで「お帰り」って垂れ幕を作ってくれた方、あれはすごい嬉しかったんですよ。その方にもこの場を借りてありがとうと言いたいですね。……ありがとう、そしてさようならと。

——ナハハハハ、何で、さようならなんだ（笑）。

ヨネ　いやいや（笑）、ホントにあれは嬉しくて、いろいろ聞いて回ったんですけど、誰がやってくれたのか結局わからなくて。キチンとお礼が言いたかったんですよ、ホントに。

う～ん、感動的ですね。

ヨネ　感動的ですよ、官能的じゃないですよ。ちょっと違うだけでエライことになっちゃうんで、それだけは気を付けて下さい。

——ナハハハハ、結局そんなオチかい（笑）。

【97年11月19日・バトバトちゃんこ道場にて収録】

表紙記念 タムタムスペシャル!!

サイン入り

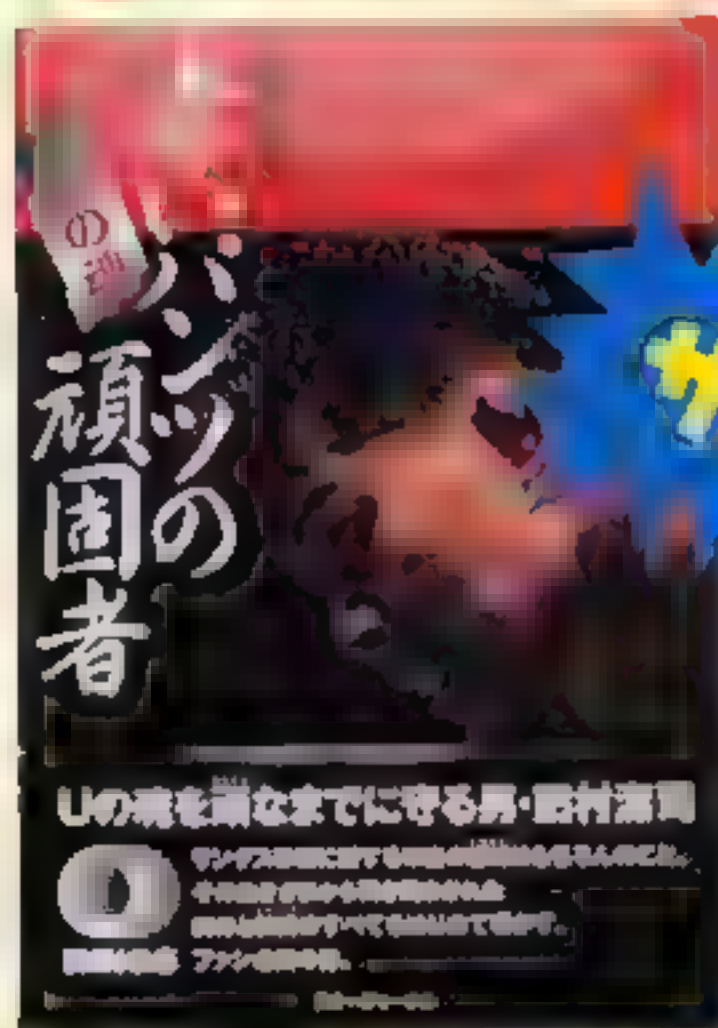
●U-FILE CAMP Tシャツ（2名）

ジムでしか買えない（つまり会場売りはしてないってことだよ）貴重なTシャツ。胸部分にもロゴがあり、腹のあたりにタムタムのサインが！　〈田村選手提供〉

サイン入り

●RINGS メガバトルトーナメント1997 大会パンフレット（5名）

かっちょいいと大評判のRINGSパンフ タムタムのサイン入りだよ。これまた貴重だね　〈RINGS提供〉

●田村潔司の単行本が出た～『赤いパンツの頑固者』（3名）

サイン入り

田村潔司、ニックネームはタムタム……でも今日からは赤いパンツの頑固者！（もしくはバカボン！←日明兄さんとの対談を読めばわかるよ）　〈RINGS提供〉

プレゼント

…ド・スーパースター…などもあるよ！

ヤッタネ!!

もうすぐ新春記念 1.2.3ダーッ!! カレンダーッスペシャル!!

●FMW（3名）

ハヤブサ、弾丸小僧こと田中、中山の3人のカレンダーッ。ホントにこの3人だけダーッ。それはある意味すごいんダーッ。　〈FMW提供〉

●みちのくプロレス（3名）

経費節減！今年は月めくりじゃないんダーッ正規軍だけなんダーッでもかっこいいんダーッ　〈みちプロ提供〉

サイン入り

●格闘探偵団バトラーツ（5名）

ふざけた団体なのに、カレンダーはかっこいいんダーッ。なんかするいんダーッ。ちなみに、その時たまたまいた、石川社長、大ちゃん、小野ちん、アレク、モハのサインが入ってるんダーッ。お得なんダーッ。　〈バトラーツ提供〉

●RINGS（3名）

べらシブ（べらぼーに渋いの略）だった去年とはうって変わって、今年はべらサワ（べらぼーに爽やかの略……になってないけど）なんダーッ。あんまり爽やかが似合わない人達だと思うんダーッ。なーんて言ったら怒られちゃうダーッ。　〈RINGS提供〉

●新日本プロレス（3名）

長州力、引退まであと23日ダーッ（12月11日現在）んがっ、もう1カ月きってるんダーッ。それにしても引退試合のカードは、ちぃと不満ダーッ　〈新日本プロレス提供〉

●パンクラス（3名）

んがが？98年のパンクラスのカレンダーは、なんとフロッピーサイズダーッ。さすがハイブリッド団体、カレンダーもハイブリッドダーッ　〈パンクラス提供〉

のものも結婚&カタブツ君離婚記念
ガツ〜ンとここらで、フィギュアスペシャル!!

●あしたのジョー メタルフィギュア（各2名）

矢吹ジョーが今度はメタルになって登場だぜ。次ははぐれメタルジョーのおでましか？　ん〜、んなワケないっ！　ちなみにコレ、高さ12センチで、けっこう重いです。1月中旬発売予定でーす。
〈メディコム・トイ提供〉

対象年齢15歳以上（15歳以下の人は応募しちゃイヤン）

●UNDERTAKER トーキングフィギュア（2名）

全高35センチとかなり存在感があるアンダーテイカー・トーキングフィギュア。そうです、そうです、ソースです！　トーキングっちゅうだけあって、このアンダーテイカーは喋るんでがす。お喋りなアンダーテイカーってのも、なんだなぁ。
〈ツクダホビー提供〉

●A Nightmare ON ELM STREET フレディ・クルーガーフィギュア（2名）

めちゃかっこいい、絶賛発売中のフレディのフィギュア。30センチと高身長。でけえだけに、よりリアルって感じ。間接可動OK、帽子も装着自由自在。
〈メディコム・トイ提供〉

対象年齢10歳以上

メディコム・トイ提供のフィギュアの問い合わせ先は、1／6計画03-5489-3495

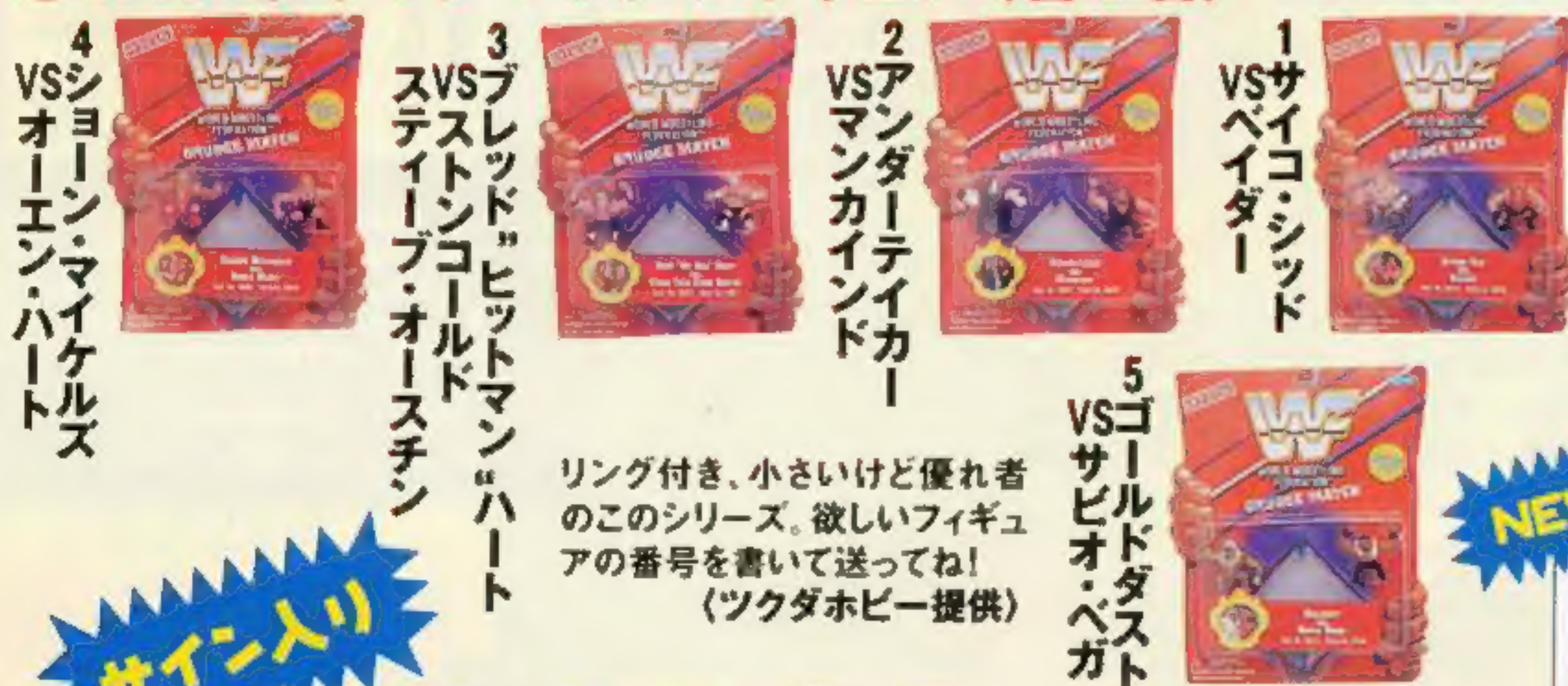
●長州力、ザ・グレート・ムタ、蝶野正洋フィギュア（各2名）

8月に発売、今でも人気の長州フィギュア、そして新たに鬼ブレイク（大ブレイクのこと）のnWoから、ムタと蝶野フィギュアが加わり、少しづつ充実してきた新日フィギュアシリーズ。破壊王バージョンも出ないかなぁ。

●WWFフィギュア アソート（各2名）

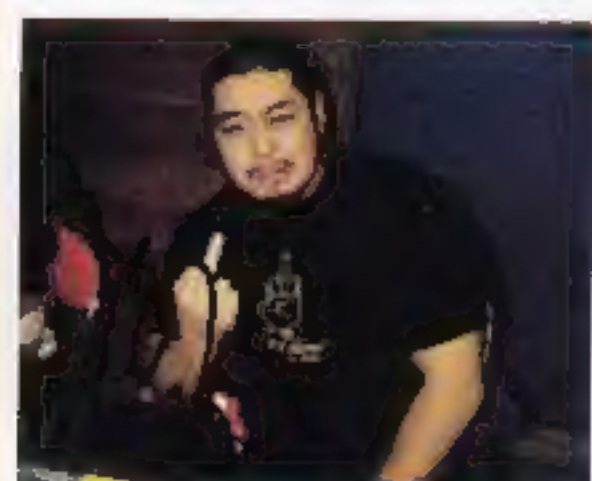
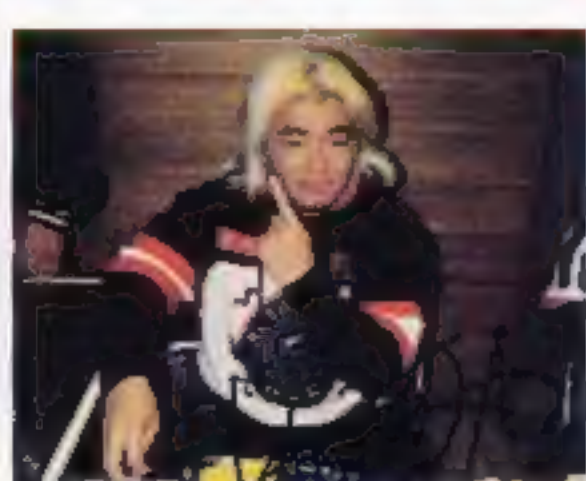
お馴染みのWWFフィギュア。今回は中でも一番の売れ線、アンダーテイカーとサイコ・シッドをプレゼント。フォー・ユー♥
〈ツクダホビー提供〉

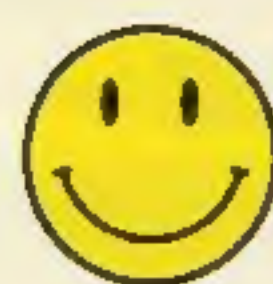
●WWFグラッジマッチフィギュア（各1名）

1 サイコ・シッド VSベイダー
2 アンダーテイカー VSマンカインド
3 ブレッド"ヒットマン"ハート VSストンコールド スティーブ・オースチン
4 ショーン・マイケルズ VSオーエン・ハート
5 ゴールドダスト VSサビオ・ベガ

リング付き、小さいけど優れ者のこのシリーズ。欲しいフィギュアの番号を書いて送ってね！
〈ツクダホビー提供〉

サイン入り

♪ディディディディディディディディ海援隊♪スペシャル

●海援隊★DXポラロイド（各1名）〈海援隊提供〉

ディック東郷、海援隊♪

MEN'Sテイオー、海援隊♪

船木勝一、海援隊♪

さらば、カタブツ君記念
バンバンビガロ スペ

●新作サクサクトレーナー（各1名）

RADICAL5号で大反響だった人気Tシャツがトレーナーになったよ！　ぶっちぎりのセンスは相変わらずです。やっぱりマサ斎藤よね〜（松坂慶子風）。運悪く当たらず、それでもトレーナーが欲しい〜いという人はお店へGO!
（問・03-3460-1145）
〈バンバンビガロ提供〉

ひと足早い

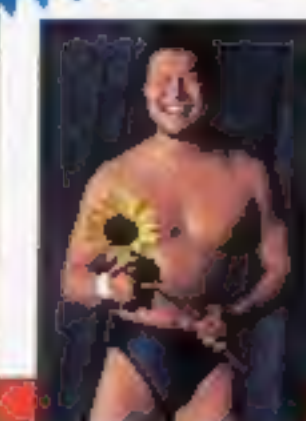
クリスマス

他にクリスマス
クリスマス
クリスマス

ラス
ド・
ぶ
大山

モハメド・ヨネ記念
バトラーツスペシャル!!

NEWパンフ付き

●98年1月20日 後楽園ホールチケット（5組20名）

性懲りもなく、また後楽園大会を開催しやがるバトラーツ。毎回評判上々なだけに、今回も期待ができるぞぉ〜。
〈バトラーツ提供〉

元太の匂い付き!?

●芳賀元太Tシャツ（3名）

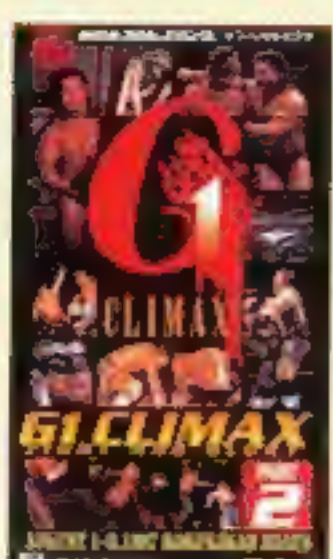
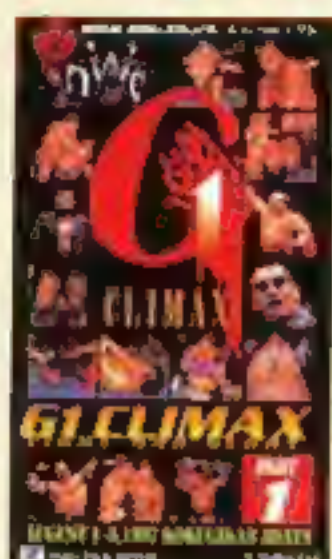
放浪自由人
芳賀元太

数々の伝説を残し消えた、バトラーツ初代営業、芳賀元太（はがげんた）。おそらく欲しい人なんかいやしないと思うけど、念のため。応募がなかったら、山口編集長、のものも、ノブの手に渡ります。
〈パンチ田原氏より提供〉

毎度毎度すいません記念
ビデオ買ってよ(©カステラ)スペシャル!

●オーバー・ザ・レジェンドKAWASAKI(2名)

9月28日に聖地・川崎球場で行われたFMWの神髄をアナタに！ 控室のインタビューも収録してるんだってぇ、ヤッタネ！（東芝EMI提供）

●'97G1CLIMAX PART1&PART2(2名)

今年のG1トーナメント全試合を完全ノーカット、モザイク一切なしで大放出！ ドン・フライVS藤田の異種格闘技戦も収録されてるよ、ヤッタネ！（東芝EMI提供）

●'97格闘CLIMAX ~'97.9.23日本武道館~(2名)

ついこないだやったと思ったら、もうビデオができちゃったんだ。さすがキメイチ、やること早いね！（東芝EMI提供）

●冬木軍ロード~理不尽編~(3名)

これを見れば冬木軍のすべてがわかる！ 旗揚げから8・5の札幌まで完全、徹底、一挙収録！ ポンポコ大将の理不尽ぶりをとくとご覧アレ！（東芝EMI提供）

●nWoタイフーン(3名)

相変わらず人気衰えずのnWoが、大活躍しております「nWoタイフーン」シリーズを収録。（ヴァリス提供）

●エアフォースウォーズJ(3名)

ライガー、サムライ、カ・シン、大谷、金本、高岩のジュニア8人衆が熱いファイトを展開！ これからはカ・シンに注目です！（ヴァリス提供）

『蝶野正洋スペシャル』記念
●かっちょいい蝶野のポスター(10名)

ビデオ発売記念に作られた、シルバーでかっちょいい蝶野選手のポスターを。そういえば昔、教授こと坂本龍一のシルバーでかっちょいいポスターを持ってました。渋い男はシルバーってことだね。（ヴァリス提供）

さらば、長州力記念
●長州力本『さらば長州力』(5名)

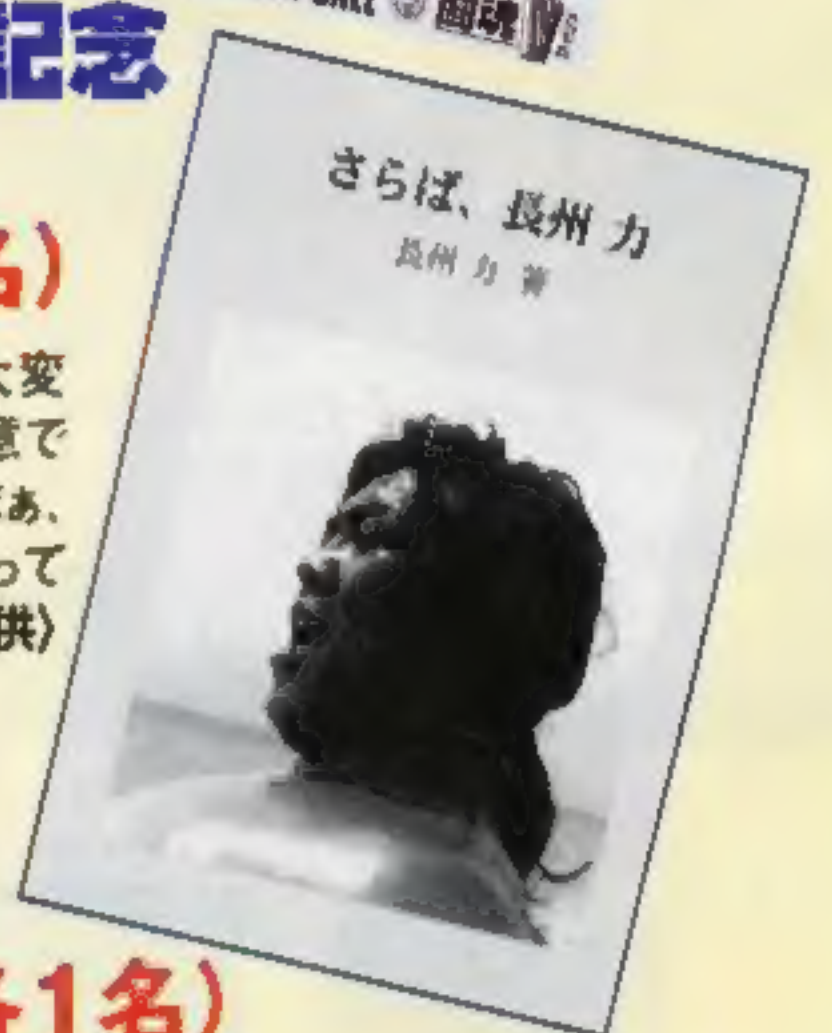
前号「書評の星座」で紹介したことを大変喜んで下さったらしく、NCYさんのご厚意でドンガラガッショ〜ンと5名にプレゼント。まぁ、喜んでくれる人もいれば、怒る人もいるってことで。 〈NCY提供〉

25周年記念 プチ(プチではない) 全日のCDスペシャル

●三冠選手権・テーマ集(1名)

鶴田、ハンセン、三沢、ウイリアムス、川田、田上、小橋、この人達に共通してる事はさぁて何だ？ このメンバーのテーマ曲にプラスして三冠王者のテーマを2曲収録。豪華だっ!!

●新王道時代(1名)

秋山、大森、多聞、エース、オブライトなど、時期世代を背負う若者達のテーマ曲を収録。元気がもりもり出ちゃうよ！ なぜか馳ぴょんのテーマ曲も収録。

さらば、ののもも記念
●カラフルスパッツ(各1名)

カラフルなシマスポーツ製スパッツ（ヒザ上）を提供してくれたオフィスTAKAさんは年末に試合用マスク、ビデオ、単行本など、全商品の半額セールを行うそうです。これは行かなきゃ損だわん。
問い合わせ042-566-5407
〈オフスTAKA提供〉

さらば、シャコタン記念

●マジックマン、マジックセット(1名)

インチキ世界一のマジックマンの、これまたものすっげえインチキ臭いマジックセット。コレ、みちプロの売店で千円で売ってるのを、わざわざののももが買ってきたんです。ホント、インチキだねぇ。
〈ののもも提供〉

●パンクラスキャップ(1名)

冬用キャップを1名に。キャップなのに温かそうだねぇ。
〈パンクラス提供〉

●高山善廣サインボール(1名)

キングダムの後楽園ホール大会で、ノブがゲットした高山選手のサインボールを1名に。サインなしボールが欲しい人は、応募してこないでねぇ。 〈ノブ提供〉

応募方法

50
151-00
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「紙プロ」編集部
「磁場狂ってるよ」係まで

応募券

1.住所
2.氏名
3.年齢
4.希望商品
5.面白かった記事&理由
6.つまらなかった記事&理由
7.好きなプロレス団体
8.好きなレスラー
9.嫌いな団体orレスラー
10.あなたが選ぶ赤袴が似合うレスラー
11.やってほしい企画

住所、氏名、年齢、ご希望の商品、面白かった記事&理由、つまらなかった記事&理由、好きなプロレス団体、好きなレスラー、嫌いな団体orレスラー、あなたが選ぶ赤袴が似合うレスラー、やってほしい企画を明記し、応募券を貼付して上記宛てに送ってください。
締切は1月20日（当日消印有効）
※応募券のないものは無効となります

紙のプロレス RADICAL
No.7
1998年1月10日発行
定価:本体648円+税

発売元:株式会社ワニマガジン社
〒160 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03−3357−2911(販売・営業)
発行元:株式会社ダブルクロス
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03−3403−5188(編集・制作)

編集兼発行人:山口昇
編集スタッフ:野本ののもも真貴子／坂井ノブ／吉田豪／八木賢太郎(ひと足早いお正月休みのため非番)／坂本何だっけ?
デザイン:ツースリー(出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、古川ふるーる)
カメラマン:斉藤ユーリ／浜田孝一
お勘定:林ヘックション一枝
失踪:中村カタブツ君(34歳)
フィニッシュ:ツー・スリー
印刷:図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは(株)ダブルクロスにね♥

紙のプロレス RADICAL
No.8は
2月中旬
発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

CD-ROM for Windows 3.1 & 95／Macintosh

97年12月。「アユ」解禁

デジタルフィッシングの頂点・・・「ウキウキ釣り天国」最新作

ウキウキ釣り天国4 川物語™

魚を釣り、山菜を採り、アウトドアクッキングを楽しみながら源流をめざす。
美しい季節に彩られた自然との出会い。素朴な人々との出会い。快適なテントでの暮らし。
すべてが懐かしく、そして新しい。忠実に、繊細に、そして感動的に自然を描く。
河口から源流までの川釣りシミュレーションにアウトドアライフの楽しみをプラスした
シリーズ第4作――『川物語』

Mac版：TERM-5845
Win版：TERW-5846
各¥5,800（税別）

近日発売

無敵の釣りシミュレーション「ウキウキ釣り天国」シリーズ　好評発売中　各¥5,800（税別）

1 ウキウキ釣り天国 幻の天狗池

自然と謎にみちた天狗池。
そこで語りつがれる伝説とは？

【Win版】TERW-5816
【Mac版】TERM-5801

2 ウキウキ釣り天国 波止の五目釣り

釣り場は人形島の波止だ。
メジナ、クロダイ、ハマチ・・・に挑め！

【Win版】TERW-5811
【Mac版】TERM-5810

3 ウキウキ釣り天国 人魚島のボート釣り

夢のフィッシング・アイランド
人魚島で幻の巨大魚を狙え。

【Win版】TERW-5824
【Mac版】TERM-5823

TEICHIKU RECORDS

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK(64)
1998 No.7
反骨の剣を研げ!!
平成10年1月10日発行 編集発行人／山口昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体648円＋税

9784898295755

ISBN4-89829-575-4
C9476 ¥648E

1929476006486

雑誌 69861-64

印刷：図書印刷株式会社